

Annual Report 2016

年 報 2016年(平成28年)度



JA 広島総合病院
JA. HIROSHIMA General Hospital

Annual Report 2016

年 報 2016年(平成28年)度

Contents

巻頭言 ——— 病院長の言葉	4
----------------------	---

トピックス

最新鋭のデジタル胸部レントゲン検診車の贈呈式	6
256 列 Revolution CT 導入	7
オータムデイキャンプ in もみの木森林公園	8
市民公開講座	10
第 7 回 オープンホスピタル開催	12
第 26 回 院内バレーボール大会開催	13
第 6 回 広島西部高校生外科セミナー開催	13

病院の概要

病院概況	16
JA 広島総合病院のあゆみ	17

活動報告

呼吸器内科	20
循環器内科	22
腎臓内科	23
糖尿病代謝内科・糖尿病センター	25
消化器内科	26
小児科	28
外科	29
乳腺外科	30
整形外科	31
脳神経外科	32
呼吸器外科	35
心臓血管外科	36
皮膚科	37
泌尿器科	38
産婦人科	39
眼科	40
耳鼻咽喉科	41
放射線治療科	42
画像診断部	43
麻酔科	44
歯科口腔外科	46
救急・集中治療科	47
緩和ケア科	49
健康管理センター	50
形成外科	52
病理診断科・病理研究検査科	53
研修研修科	54
看護科	55
外来	56
外来治療センター	57
地域救命救急センター	58
ICU・西 3 階病棟	59
西 4 階病棟	60
西 5 階病棟	61
西 6 階病棟	62
西 7 階病棟	63
西 8 階病棟	64
東 3 階病棟	65
東 4 階病棟	66

東 5 階病棟	67
東 6 階病棟	68
東 7 階病棟	69
東 8 階病棟	70
手術室	71
居宅介護支援事務所	72
訪問看護ステーション	73
薬剤部	74
臨床研究検査科	75
中央放射線科	76
臨床工学科	77
リハビリテーション科	79
栄養科	80
地域医療連携室	81
総合医療相談室	82
感染防止対策室	83
医療安全管理室	84
緩和ケアチーム	85
心臓リハビリテーションチーム	86
「膵がん・胆道がん教室」運営チーム	87
栄養サポートチーム (NST)	88
RST	89
災害対策ワーキングチーム	90
教育研修課	91
施設資材課	92
診療情報管理科	93
各種委員会	94

実績

著書・論文	106
書籍・雑誌編集	108
学会発表	109
学会での座長	121
研究会講演・発表	122
研究会座長	132
地域活動	137
雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演	142
合同カンファレンス	144

クラブ活動

華道部	146
野球部	147
テニス部	148
伯友会（ゴルフ同好会）	149
サッカー部	150
フットサル部	151
バスケットボール部	152

資料

統計資料	154
------------	-----

巻 頭 言

2016 年は「JA 広島厚生連累計損 18 億円」の中国新聞報道で始まりました。記事には「このまま経営再建が長引けば広島総合病院の建て替え構想など、地域の医療に響く恐れがある」と記載されていました。おおきなお世話です。その後、旧府中総合病院の市民病院移管に伴う職員給与負担が終了、なによりも広島総合病院のがんばりで厚生連の業績は急速に回復しました。

病院イントラネットにアップロードしている院長から職員へのメッセージ（深夜特急ジョニー・ノート）で 2016 年度をふり返ると、この中国新聞の記事は杞憂に終わったことが証明されています。

1. 地域救命救急センター：年間 3,500 ～ 3,700 台の救急車搬入。県立広島病院、広島市民病院に次いで第 3 位、診療圏は廿日市市、大竹市、佐伯区、岩国方面。
2. 糖尿病センター：多職種によるチーム医療の充実、医師増員を実現。当院の糖尿病地域連携パスは国からも注目されています。
3. 低侵襲手術の導入：胸部動脈瘤ステント、脳血管内治療、産婦人科腹腔鏡手術など。
4. 手術症例数ランキング：広島県ランキングでは、腹腔鏡下胆嚢摘出術（1 位）、大腸悪性腫瘍手術（4 位）、鼠径ヘルニア手術（4 位）、前立腺手術（2 位）、膀胱悪性腫瘍手術（3 位）、下肢血管再建術（1 位）、気胸手術（3 位）、肺悪性手術（6 位）、乳腺悪性腫瘍手術（6 位）、全国ランキングでは、脊椎骨粗鬆症手術（全国 1 位）、腰部脊柱管狭窄症手術（全国 4 位）、下肢血管再建術（12 位）、とうとう日本一が達成されたのです。

2016 年度年報には、トピックスとして、新人看護師 63 名が参加した研修会最終日のイベント「デークャンプ・カレーをみんなで作って食べる」が特集されています。病棟対抗カレー作り大会で、1 位が東 8 病棟の「腎臓にやさしいドライカレー」、2 位は東 7 病棟「ワーファリンいらないよカレー」、3 位が ICU「ピリ辛すじカレー」の結果でした。カレーとワーファリンの間にどのような関係があるのかよくわかりませんが、院長も試食すべきでした。

人はどん底を経験して初めて遺伝子にスイッチが入ります。苦しさかどん底までいって、足がやっと底につき、しみながら耐えたときにスイッチが入るのです。広島総合病院は、2016 年度にスイッチが入りました。2017 年度は、志高くして「美しい山」に上るときです。「自分が登るべき山」を見つけ、周囲の仲間に「一緒に登ろう！」と訴え続ける必要があるのです。

2016 年度年報は、辻山修司・年報編集委員長をはじめ 9 名の委員の力作です。病院の各セクションにおける 2016 年度 1 年間の貴重な記録が含まれていることはいうまでもありませんが、登場するスタッフたちの生彩と彼らが成長する過程で放つ一筋の光を感じていただければ幸いです。

2018 年 3 月

広島県厚生農業協同組合連合会

広島総合病院

病院長 藤本 吉範



最新鋭のデジタル胸部レントゲン検診車の贈呈式

2017年2月23日（木）、デジタル胸部レントゲン車の贈呈式が行われました。

この検診車は、JA 共済連広島県本部が地域貢献活動の一環として JA 広島厚生連に寄贈したもので、JA 広島総合病院に配備されました。

【贈呈式の様子】



（写真左側から）JA 共済連広島 普及部大下部長、広島県本部中村本部長、JA 広島厚生連 岡田理事長、藤本病院長、碓井健康管理センター長



（写真左側から）久保健康管理課長、山口放射線科長、碓井健康管理センター長、藤本病院長

【中間検収のため福岡へ訪問 2017年1月24日】



【近隣の神社で交通安全祈願 2017年3月29日】



【検診車の車内】



【新・胸部レントゲン検診車稼働 2017年4月～】

このたびは、念願のデジタル胸部レントゲン車を配備いただき、心から感謝申し上げます。JA 共済連、JA 広島厚生連をはじめ、多くの事業者様、そして藤本病院長、放射線科、施設資材課等関連部署の皆様、本当にありがとうございました。

オフホワイトの検診車両に緑色の JA マークのロゴ。いつ見ても親しみやすく、ご尽力下さった皆様の真心を感じます。

これからも、組合員および地域住民の方が健やかに過ごせるように安心、安全な健康管理事業に取り組んで参ります。

（健康管理課 久保）



256 列 Revolution CT 導入

放射線科では 16 列 CT (2002 年)、64 列 CT (2005 年) および救命救急センターの 64 列 CT (2011 年) で業務を行ってきましたが、16 列 CT の老朽化に伴う更新で 2016 年 10 月に GE 社製 256 列 Revolution CT が導入されました (図 1)。導入から 2017 年 8 月末時点で 7853 件 (715 件/月) の撮影件数となっています。



図 1 256 列 Revolution CT

まず、Revolution CT は、最速 0.28 秒/回転の高速回転が可能で、静音性に優れています。そのため、息止めが困難な患者さんや小児の撮影に有効になっています。

次に、新しい画像再構成法が搭載されています。従来の CT 装置ではノイズが目立ち画質が劣化するような低線量撮影においても、ノイズを大幅に低減した高品質画像を得ることができ、被ばく低減が要求される小児、若年者、肺ドック検診などに有用になっています。

また、放射線感受性の高い臓器、水晶体、乳房などの特定領域への被ばくを低減する機能 (ODM: Organ Dose Modulation) が搭載されています (図 2)。画像クオリティーを落とすことなく被ばくを極力抑え、放射線量を自動で調整する機能です。

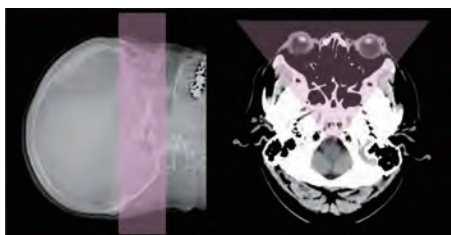


図 2 眼の水晶体へ ODM (ピンク色) を設定した場合には、最大で約 30% の被ばく低減が可能となる。

さらに、1 回転あたりの撮影範囲が、従来の 64 列 CT が最大 40mm であったのに対して 4 倍である最大 160mm に拡大しました。これにより撮影時間が大幅に短縮され、頭部撮影で 1 秒、胸部から骨盤部撮影であれば 4 秒程度で撮影できます (図 3)。

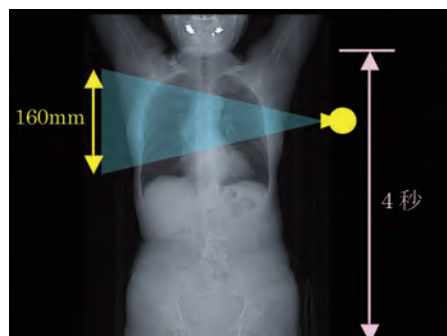


図 3 160mm の coverage により高速撮影が可能となった。

心臓 CT 撮影においては、従来の 64 列 CT は心臓全体を 4 回転 (7 秒) で撮影していましたが、Revolution CT では、心臓全体を 1 回転 (0.3 秒) で撮影することが可能となりました。これにより心拍変動による血管のズレが解消され、つなぎ目のない鮮明な画像を得ることが出来るようになりました。また、新たに搭載された、冠動脈の動きをベクトル解析してモーションアーチファクトがない静止画像を得る機能 (SSF: Snap Shot Freeze) と、高速 1 心拍 160mm 撮影を組み合わせることで、高心拍症例や不整脈症例への対応力が高まり診断能が向上しました (図 4)。Revolution CT における心臓 CT 撮影の被ばくは、64 列 CT と比較して半分以下の値になっています。



図 4 Revolution CT で撮影された心臓 CT 画像
血管のズレがなく冠動脈ステント内も鮮明に観察できる。

オータムデイキャンプ in もみの木森林公園

今年度入職の看護師を対象にした研修を実施しました。

【目 的】

- ①新人看護師が、夜勤見習いを経て独り立ちする秋期に共同で取り組める研修。
- ②同期入会者の意識を高め相談や連絡ができる仲間づくりの強化を図る。
- ③野外活動を通じてリフレッシュを図る。

【場 所】

もみの木森林公園（廿日市市吉和）

廿日市市北部にある春夏秋冬1年を通じて高原と森林を楽しめる公園。病院から車で約60分の地である。



【研修の実際】

2016年11月1日（火）快晴ではあったものの前日よりぐっと冷え込んだ朝、今年度入職した看護師63名、「病棟対抗カレー作り」のため、もみの木森林公園に向かいました。バスから降り立つと、山々の紅葉に目を奪われ、吐く息の白さを忘れるほどみんな見とれていました。

しかし予定していたスケジュールを強行するためすぐさまラジオ体操を行い、カレー作りに入る前の準備運動を行いました。体操が終わると、各病棟に分かれてカレー作りがやっとスタートしました。各病棟カレーのコンセプトを決めて食材を購入し、当日は火起こし担当、食材を切る担当等を決めて取り組みました。



調理開始から約1時間経つ頃には、どこからも美味しそうなカレーの匂いが立ちはじめ完成していきました。

看護部長をはじめ看護部教育担当科長たちで厳正な審査を行いましたので、結果を下記のカレーの写真とともに発表します。



1位：東8階病棟
「腎臓に優しいドライカレー」



2位：東7階病棟
「ワーファリンいらないよカレー」



3位: ICU
「ピリ辛牛すじカレー」

最後に全員で紅葉をバックに集合写真を撮りました。

初の野外研修ではありましたが、みんな楽しんで参加しており、同期の絆を深めることができたと感じを述べていました。今後も継続していきたいと考えています。



市民公開講座

第13回市民公開講座

日時：2016年6月18日（土曜日）13:00～15:30

場所：はつかいち文化ホールさくらびあ大ホール

テーマ：心臓は地域でみる時代へ

～廿日市は、安しんぞう～

要旨：高齢社会をむかえ、心臓病は今後も増加すると考えられます。地域で行われている心臓関連の事業、活動を伝え、地域で充実した心臓病の予防・安心した心臓病の治療を市民の皆様にご覧いただくことを目的として開催しました。

演題：1. 不摂生は災いのもと～気をつけよう心臓病～
2. 心臓いきいき推進事業について
3. クイズ！ハートショック！

参加者：387名

【第13回市民公開講座風景】



第14回市民公開講座

日 時：2017年1月29日（日曜日）13:00～15:30

場 所：はつかいち文化ホールさくらびあ大ホール

テーマ：目からウロコの知って得する話

要 旨：身近に潜んでいる「病気」の話をテーマに開催しました。「これって病気だったの？」と知っていただき、病気を見逃したり、受診を後回しにしたりしたことで、手遅れにしない、病気の早期対応の啓蒙を目的として開催しました。

演 題：1. 眼瞼下垂症について知ろう！

～あなたの眉毛は上がっていませんか？～

JA 広島総合病院形成外科部長

長谷川 美紗

2. その痛み、おくちが原因かも？！

JA 広島総合病院歯科口腔外科主任部長

原田 直、大井 尚志

3. 皮膚のできもの

～あなたは大丈夫でしょうか？～

JA 広島総合病院皮膚科主任部長

森川 博文

参加者：463名

【第14回市民公開講座風景】



第14回 JA広島総合病院・廿日市市
市民公開講座

日時 平成29年1月29日(日) 13:00～15:30(開場12:00) 会場 はつかいち文化ホール さくらびあ大ホール [定員1,000名]

目からウロコ、知って得する話 入場無料 事前申込不要

私たちの身近に潜んでいる「病気」の話です。「これって、病気だったの？」と初めて気づく人もいます。病気を見逃したり、受診を後回しにしないために市民公開講座を開催します。

プログラム

- 1 眼瞼下垂症について知ろう！
～あなたの眉毛は上がっていませんか？～
形成外科部長 長谷川 美紗
- 2 その痛み、おくちが原因かも？！
歯科口腔外科主任部長 原田 直、大井 尚志
- 3 皮膚のできもの
～あなたは大丈夫でしょうか？～
皮膚科主任部長 森川 博文
- 4 質疑応答

主催 JA広島総合病院・廿日市市
お問合せ JA広島総合病院 地域医療連携室
Tel. 0829-36-3111
http://www.hirocityo.jp/

後援 大竹市・佐伯地区医師会・大竹市医師会・JA佐伯中央

「ウラ面」のFAX送信票をご利用下さい。詳細は「ウラ面」のFAX送信票をご覧ください。



第7回 オープンホスピタル開催

2016年11月23日（火・勤労感謝の日）にオープンホスピタルを開催し、大勢の地域住民にご来場いただきました。

オープニングセレモニーに続いて行われた「カ・パ・フラ・オ・アヌエヌエ」によるフラダンスショーで、会場は華やかな雰囲気になりました。



その後、地御前町内会の皆様のご協力で餅つき大会が行われました。来場者につきたてのお餅がふるまわれ、長蛇の列ができ大盛況でした。

イベントブースでは医師や薬剤師による医療相談コーナー、健診コーナー、内視鏡シミュレーション、AED体験コーナー、骨密度測定、血管年齢測定、JA佐伯中央の農産物販売が行われ、好評を博していました。



この他にもバルーンアート、おもちゃすくい、輪投げ、アンパンマン撮影会と盛り沢山のイベントを用意し、小さな子ども連れのご家族にも楽しんでいただきました。

また、今回初の試みとして、藤本 勝・胆道内科主任部長による公開講座「すい臓ってなあに？」～すい臓の病気にならないための生活の工夫～を開催し、集まった参加者は熱心に耳を傾けていらっしゃいました。



オープンホスピタルにあわせて、病院の各部署の日々の取り組みを地域住民の方に広く知っていただこうと、病院1階フロアにそれぞれが工夫を凝らして作成したポスターを展示しました。来場者には、優秀な作品を選考する投票にご協力いただき、地域住民の方々と院内の選考メンバーでの投票による厳正な審査を行ない、最優秀賞、優秀賞を決定しました。

【最優秀賞】

部 署	作 品 名
臨床研究検査科	ようこそ検査室ワールドへ Part6 〜からだを巡る真赤激〜

【優秀賞】

部 門	部 署	作 品 名
医局部門	小児科	小児科あるある探検隊！
看護部門	内視鏡センター	内視鏡センターヘイッテ Q!! 飲んじゃった！どうしよう!? 消化管異物編
コメディカル部門	栄養科	食物繊維でちょう健康♪
チーム活動部門	災害対策ワーキングチーム	減災への道 Part IV ーミッション完了！ DMAT & 災害対策ワーキングチームー
住民投票部門	内視鏡センター	内視鏡センターヘイッテ Q!! 飲んじゃった！どうしよう!? 消化管異物編

第26回 院内バレーボール大会開催

2016年6月11日（土）、日本赤十字広島看護大学体育館において、第26回院内バレーボール大会が開催されました。

当日は、部署ごとに結成された17チーム（選手と応援合わせて約400人）が参加して、熱戦が繰り広げられました。各チームはお揃いのユニフォームを着用し、心を一つにして優勝を目指しました。

頑張る選手を全力でサポートする応援団、団結力が高まるイベントとして年々参加者も増加しており、大変盛り上がりました。

各チームの成績は、

Aリーグ

優 勝；西5階

準優勝；手術室

Bリーグ

優 勝；東6階

準優勝；外来



第6回 広島西部高校生外科セミナー開催

2016年8月25日（木）、第6回外科セミナーが開催されました。外科の魅力を知り、関心・理解を深めてもらうために毎年開催しているもので、今年度で6回目の開催です。

当日は、県内の高校生23名が参加しました。各自手術着に着替え、グループに分かれて実際の手術で使用する器具を使った模擬手術体験や実習キットを使用した縫合・糸結び体験をしました。内視鏡外科トレーニング用エンドトレーナーでの鉗子操作体験では、画面を見ながらの鉗子操作に苦労する場面も見られましたが、楽しみながら実習を体験することができました。

参加者からは、「医者になりたい気持ちが強くなった」、「医療においてチームワークの大切さを学んだ」等の意見があり、今年度も大盛況のうちに幕を閉じました。



■ Annual Report 2016 2016年(平成28年)度 年 報 ■

病 院 の 概 要

病院概況

病院基本理念

私たちは人間愛に基づいた医療を実践し地域社会に貢献します

基本方針

- 1 地域の医療機関と密接に連携した医療を提供します
- 2 医療の安全性を高め安心できるチーム医療を提供します
- 3 最新の知識と技術を習得し質の高い医療を提供します
- 4 説明と同意に基づき人権を尊重した医療を提供します

病院名	広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院
所在地	〒738-8503 広島県廿日市市地御前1丁目3番3号 TEL (0829)36-3111 FAX (0829)36-5573
開設年月日	1947年12月23日
許可病床数	561床（一般）
開設者	広島県厚生農業協同組合連合会 代表理事 岡田仁志
病院長	藤本吉範

土地・建物の状況	区分	敷地面積	建物延面積
	病院	12,825.33㎡	32,123.09㎡
	住宅地	3,967.47㎡	3,632.41㎡
	計	16,792.8 ㎡	34,815.15㎡
診療科目 (計37科)	内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、化学療法内科、神経内科、精神科・心療内科、小児科、小児アレルギー科、外科、消化管外科、肝・胆・膵外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓・血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、麻酔科、救急科、腹部救急科、脳血管救急科、心臓血管救急科、放射線科、放射線治療科、放射線診断科、歯科口腔外科、形成外科		

西棟		階	東棟	
内(呼消)・放射線治療科	55床	8	内(内分泌・腎・透析)	44床
内(消化器)・画像診断部	55床	7	内(呼・整・呼吸器外科・脳)	43床
外・(泌)	54床	6	泌・外・皮・精・心療内科	51床
整形外科	55床	5	脳外・歯科口腔外科	52床
産婦・外科系(小)・ドック	46床	4	小・耳・眼	43床
地域救命救急センター	19床	3	内(循環器)・心外・麻酔	44床
計	284床			277床
計561床				

指定等	<ul style="list-style-type: none"> ・病院群輪番制病院 ・災害拠点病院 ・脳死臓器提供病院 ・救急指定病院（救急告示番号第374号） ・臨床研修指定病院 ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・DPC対象病院 ・地域救命救急センター ・へき地医療拠点病院
併設事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーション ・居宅介護支援事業所

施設基準	<div>■基本診療料</div> <div><ul style="list-style-type: none">・一般病棟入院基本料（7対1）・総合入院体制加算2・臨床研修病院入院診療加算・救急医療管理加算・超急性期脳卒中加算・妊産婦緊急搬送入院加算・診療録管理体制加算2・医師事務作業補助体制加算2(15対1)・急性期看護補助体制加算(50対1)・療養環境加算・重傷者等療養環境特別加算・がん診療連携拠点病院加算・栄養サポートチーム加算・医療安全対策加算1・感染防止対策加算1・患者サポート体制充実加算・ハイリスク妊娠管理加算・ハイリスク分娩管理加算・退院調整加算・救急搬送患者地域連携紹介加算・救急搬送患者地域連携受入加算・呼吸ケアチーム加算・病棟薬剤業務実施加算・データ提出加算2・救命救急入院料1・ハイケアユニット入院医療管理料1・小児入院医療管理料4・短期滞在手術基本料2</div> <div>■特掲診療料</div> <div><ul style="list-style-type: none">・糖尿病合併症管理料・がん性疼痛緩和指導管理料・がん患者指導管理料1・がん患者指導管理料2・がん患者指導管理料3・糖尿病透析予防指導管理料・外来リハビリテーション診療料・外来放射線照射診療料・ニコチン依存症管理料・開放型病院共同指導料（Ⅰ）・地域連携診療計画管理料・がん治療連携計画策定料・がん治療連携管理料・肝炎インターフェロン治療計画料・薬剤管理指導料・医療機器安全管理料1・医療機器安全管理料2・歯科治療総合医療管理料・HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）</div>	<div><ul style="list-style-type: none">・検体検査管理料（Ⅳ）・時間内歩行試験・ヘッドアップティルト試験・小児食物アレルギー負荷検査・内服点滴誘発試験・画像診断管理加算1・CT 撮影及び MRI 撮影・冠動脈 CT 撮影加算・心臓 MRI 撮影加算・抗悪性腫瘍剤処方管理加算・外来化学療法加算1・無菌製剤処理料・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）・脳血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）・運動器リハビリテーション（Ⅰ）・呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）・がん患者リハビリテーション料・エタノールの局所注入（甲状腺）・透析液水質確保加算1・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術・乳がんセンチネルリンパ節加算・経皮的冠動脈形成術・経皮的冠動脈ステント留置術・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術・大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）・経皮的冠動脈遮断術・ダメージコントロール手術・腹腔鏡下肝切除術・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術・体外衝撃波胆石破砕術・体外衝撃波尿管結石破砕術・体外衝撃波碎石破砕術・膀胱水圧拡張術・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6（歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む）に掲げる手術・輸血管理料Ⅱ・人口肛門・人口膀胱造設術前処置加算・麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）・放射線治療専任加算・外来放射線治療加算・高エネルギー放射線治療・1回線量増加加算・強度変調放射線治療（IMRT）・直線加速器による定位放射線治療・病理診断管理加算1・口腔病理診断管理加算1</div>
認定	日本医療機能評価機構（区分4 Ver.6.0） DMAT 指定医療機関（災害派遣医療チーム）	

平成27年4月1日現在

JA 広島総合病院のあゆみ

昭和21年6月佐伯郡内の町村長および町村農業会長の代表の方々が県農業会を訪れ、廿日市方面の緊急対策として原子爆弾による負傷者に対する医療施設を設置するよう強い働きかけがあった。そのため佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定する。

昭和22年12月23日、4診療科、スタッフ総員20名、60床の病床を有する農業会佐伯病院として開設された。その後、昭和37年と40年に相次いで増床と診療体制の充実を図り、昭和41年には総合病院の認可を受け、名称も佐伯総合病院と改称された。

爾来、同地域は広島市のベッドタウンとして開発が進み、診療圏人口の増加に伴って施設の狭隘化を来したため、昭和54年には大幅な増改築が行われ、これを機会に名称も現在の広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院と改められた。その後更なる人口増加に伴う医療需要の増大により地域の中核的病院の性格を持つに至り、昭和55年には二次救急病院の指定を受け、また昭和59年および平成元年には増築増床工事が実施され430床となる。

更に平成9年5月には、施設の狭隘化と老朽化に対する対策として新棟建設と既存棟の改築工事が開始され、平成10年10月末に新棟完成、平成12年2月には全工事が完了し、同年4月より578床となる。その後透析用ベッドへの転用により平成15年に570床、外来化学療法用ベッドに転用により平成20年に561床となる。

広島西二次保健医療圏の三次救急患者への速やかな高度医療の提供と、広島都市圏域全体の救急医療体制の充実強化のため、平成22年8月から平成23年2月にかけて救急棟新築工事が行われ、平成23年4月には「地域救命救急センター」19床を開設した。

昭和21年	8月	佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定
昭和22年	12月	診療科目(内科・外科・耳鼻科・歯科)、病床数60床、職員20名で広島県農業会佐伯病院として発足
昭和23年	4月	婦人科開設
昭和23年	6月	眼科新設
昭和24年	12月	結核病棟開設(一般49床、結核11床)
昭和25年	5月	外来診療室拡張のため(一般44床、結核11床)計55床に変更
昭和26年	3月	一般病床25床、結核病床25床計50床に変更
昭和29年	6月	一般病床37床、結核病床42床計79床に変更
昭和31年	7月	小児科新設
昭和37年	1月	病棟増築(一般130床、結核20床)
昭和37年	6月	皮膚泌尿器科新設
昭和37年	7月	整形外科新設
昭和40年	2月	病棟増築(一般160床、結核20床)
昭和41年	2月	総合病院の認可を受け、佐伯総合病院となる
昭和49年	9月	結核病床20床一般病床へ転用、16床増床し196床に変更
昭和54年	1月	脳神経外科新設、皮膚泌尿器科が分離独立し皮膚科・泌尿器科となる
昭和54年	4月	現在の広島県厚生農業協同組合連合会広島総合病院に名称変更
昭和55年	2月	第二次救急医療指定病院となる
昭和59年	7月	病棟増築100床(一般370床)
昭和60年	4月	麻酔科新設
昭和60年	9月	放射線科(治療部門)新設
昭和60年	10月	放射線治療棟完成
昭和63年	4月	心臓血管外科新設
昭和63年	7月	放射線科(診断部門)開設
平成元年	4月	精神科・心療内科新設
平成元年	4月	大竹市栗谷診療所の委託運営開始
平成元年	6月	病棟増築60床(430床)
平成2年	8月	形成外科新設
平成2年	11月	MRI棟完成
平成4年	3月	院内保育園開園
平成6年	5月	訪問看護ステーション開設
平成9年	2月	災害拠点病院指定
平成9年	9月	オーダーリングシステム稼働
平成10年	9月	広電・JA広島病院前駅開業式
平成10年	10月	新館西病棟落成
平成11年	4月	病棟増床59床(489床)
平成11年	11月	居宅介護支援事業所開設
平成12年	4月	病棟増床89床(578床)
平成12年	6月	開放型病床(20床)届出
平成13年	10月	呼吸器外科新設
平成15年	2月	一般病床8床を透析用ベッドに転用(570床)
平成15年	10月	臨床研修指定病院指定
平成16年	8月	地域医療支援病院
平成18年	8月	地域がん診療連携拠点病院指定
平成18年	8月	電子カルテシステム稼働
平成20年	4月	一般病床9床を外来化学療法用ベッドに転用(561床)
平成21年	4月	DPC対象病院
平成22年	4月	センター制度の導入(救急センター、循環器・呼吸器疾患センター、一般外科治療センター、健康管理センター、急性期リハビリテーションセンター)
		神経内科新設
平成23年	4月	地域救命救急センター開設(19床)
平成23年	9月	へき地医療拠点病院
平成25年	2月	糖尿病センター
平成25年	4月	脊椎脊髄センター
平成25年	10月	内視鏡センター

呼吸器内科

■ スタッフ

主任部長：近 藤 丈 博 (1998 年卒)

日本呼吸器学会専門医

日本内科学会認定医

部 長：古 玉 純 子 (2005 年卒)

日本呼吸器学会専門医

日本内科学会認定医

医 員：棚 橋 弘 貴 (2013 年卒)

医 員：濱 田 亜理沙 (2014 年卒)

■ 診療科紹介

【診療科紹介】

肺がん代表される悪性腫瘍の診療だけでなく、多様な呼吸器疾患に伴う急性、慢性の呼吸不全や生理学的な呼吸機能障害、能力障害、社会的ハンディキャップに対する広い意味での医療的な支援形成を目指しています。今後は急性期にとどまらず、慢性期の治療とケア、リハビリテーション、在宅呼吸ケアなどと広がる有機的な支援体制が一層必要となってきました。「包括ケア」というキーワードは、このような状況から必然性を持って浮上してきました。この10年余りでICU、一般病棟、在宅での人工呼吸が大きく変遷しつつあります。1990年代半ばから非侵襲陽圧換気療法（NPPV）の導入が始まり、現在では慢性呼吸不全急性増悪時の人工呼吸の第一選択がNPPVとなり、スタッフの習熟とともに、一般呼吸器病棟でも当たり前のよう導入されるようになりました。そのような状況を背景として今後、急性期から慢性期にかけて「包括的呼吸ケア」という概念は今後一層の重要性を増してくるものと考えます。当科ではこのような時代の要請に合わせて、医師だけでなく病棟スタッフの教育・指導を行っています。

当科では以下のように呼吸器疾患の加療にあたっています。

【肺がん】

肺がんの治療法はここ数年でめざましい進歩を上げています。イレッサを始めとする分子標的薬剤は、

耐性遺伝子を標的とした第3世代のEGFR-TKI（タグリッソ）の時代を迎え、また、ALK阻害薬もアレセンサを始めめざましい生存期間延長をもたらしています。さらに2016年から臨床現場で使用可能となった免疫チェックポイント阻害薬（オプジーボ、キイトルーダ）は医療経済的な問題をはらんでいるものの、従来EGFR-TKIやALK阻害薬の恩恵にあずかることのなかった扁平上皮癌の患者さんを中心に大きな利益をもたらすこととなりました。当院呼吸器内科ではこれらの新規薬剤を積極的に導入し、全国的に見ても高い水準の肺癌治療が行える体制を整えています。また当院では初診から治療まで呼吸器外科・放射線治療部と連携し最速で2週間程で診断後治療に入れます。市内の大病院では治療まで一ヶ月前後かかるにもかかわらず、まだまだこの地域の患者さん達は市内の病院へ目を向けていると思われます。当院も市内と変わらないレベルの治療を行うことができることを知っていただき、もっと当院で肺がんの方々の診療ができればと思います。

さらに、当院では局所麻酔下胸腔鏡などの最新の診断・治療技術を積極的に導入しています。



局所麻酔下胸腔鏡による実際の処置中の写真

【感染症】

当科で扱うのは主に肺炎です。高齢化の影響で誤

嚥性肺炎なども多く、繰り返される傾向にあり最近
は治療に難渋する傾向があります。また肺結核を早期
診断し、外来加療を行ったり結核病棟のある病院
への紹介も行っています。さらに、最近増加してい
る非結核性抗酸菌症の加療も行っています。

【気管支喘息】

吸入ステロイドの普及に従い、10年前と比べ喘息
死は半数以下となっていますがまだまだ普及してい
ないように思います。大学などと連携し、この地域
の喘息患者さんに良い治療があることを知ってもら
うことが大事だと思っています。

【COPD（慢性閉塞性肺疾患）：肺気腫、慢性気管支炎など】

マスクミを通じての啓発運動により、ここ数年で
だんだんこの疾患名も知られてきました。日本人の
場合は喫煙が原因です。当院では早期診断し、吸入
薬などによる加療や必要に応じて在宅酸素療法の導
入を行っています。

【びまん性肺疾患】

特発性間質性肺炎などです。早期診断し、薬物が
効くタイプを鑑別するのが大事ですが当科では気管
支鏡や画像診断で早期発見に努めています。

【睡眠時無呼吸症候群】

外来または入院でPSG検査を行い耳鼻咽喉科とも
連携しつつ、CPAP等の導入を行っています。最近
はされる開業医の先生方も徐々に増えて来られたの
で逆紹介も行いたいと思っています。

その他にも様々な分野の呼吸器の疾患がありますが、
当科は広島大学病院呼吸器内科や市中の病院の
呼吸器科と連携をはかり、最新の知見を吸収しつつ
広島県西部地区の医療に貢献できればと思っています。

循環器内科

■ スタッフ

心臓血管内治療科主任部長

辻 山 修 司

主任部長 前 田 幸 治

主任部長（心臓カテーテル室担当）

莊 川 知 己

主任部長（心不全地域連携担当）

久留島 秀 治

医 員 赤 澤 良 太

医 員 池 内 佳 裕

■ 診療科紹介

2016年4月現在、総勢6名の科です（日本循環器学会専門医3名・日本心血管インターベンション治療学会指導医1名）。また日本循環器学会認定循環器および心血管インターベンション学会研修施設です。

対象となる主な疾患は、心筋梗塞・狭心症などの冠動脈疾患、心不全、高血圧、高脂血症、不整脈などの循環器疾患の診断と治療を行っています。

バイパス術、弁置換術など外科的治療が必要な場合は心臓血管外科医との合同カンファレンスで治療方針を検討しています。また開業医の先生方との病診連携に重点を置き、年2回の病診連携の会や開業医の先生向けの講演会を開催し、その連携を深めています。

心臓いきいき推進事業の中核病院のひとつとしての活動も始まりました。

また地域に貢献出来るよう急性期循環器疾患に対して夜間も待機体制をとり、地域救急救命センターの循環器領域を担っています。

■ 診療実績

2015、2016年度の当科の実績を表に示します。2016年度は、心臓カテーテル検査（診断を含）540例を施行し、そのうち経皮的冠動脈カテーテルインターベンション（PCI）症例189例で、緊急症例は97件でした。またPCI時には狭窄部の形態・プラーク性状分析、適切なステント留置のため血管内超音

波（IVUS）をほぼ全症例で使用しています。

高度の冠動脈石灰化病変に対して Rotablator も施行しています。大動脈内バルーンパンピング（IABP）、経皮的心肺補助装置（PCPS）も重症例には施行しています。

末梢血管の閉塞性動脈硬化症に関しても心臓血管外科と協力して、血管内治療を積極的に行っています。

	2016年度	2015年度
年間延べ入院患者数	845	814
急性心筋梗塞	82	83
【生理学的検査】		
運動負荷試験	144	94
ホルター心電図	378	366
経胸壁心エコー	5227	4988
経食道心エコー	18	21
【心臓カテーテル検査】		
心臓カテーテル検査総数	540	520
緊急カテーテル治療（PCI）	92	113
待機的 PCI	97	91
【末梢血管カテーテル治療】		
経皮的末梢血管形成術（PTA）	23	18
経皮的腎動脈形成術（PTR）	1	1
【不整脈関連】		
電気生理学的検査	12	9
ペースメーカー植込み	21	25
【非侵襲的冠動脈検査】		
心臓核医学検査	478	482
冠動脈 CT	509	582
【心臓リハビリ】		
急性心筋梗塞 心不全	422	493

また非侵襲的検査も多数実施しています。64列心臓 CT 検査（カテーテル検査数に匹敵する 509 例）、心臓核医学検査（478 例）を施行し、カテーテル検査の補助診断として活用しています。また 5000 件を超える心臓超音波検査や 18 例の経食道心エコー検査、ホルター心電図の検査も 378 例施行しています。

また心臓いきいき推進事業の柱としての心臓リハビリも積極的に進め、新規に 422 例の実績でした。

■ 将来展望

心臓いきいき推進事業の中核病院のひとつとしての役割および、循環器領域の救急患者にも対応。今後は不整脈に対してのアブレーション治療も視野に入れています。

腎臓内科

■スタッフ

主任部長：荒川 哲次（1998年広島大学卒業）

日本内科学会総合内科専門医

日本腎臓学会腎臓専門医・指導医

日本透析医学会透析専門医・指導医

医 員：大谷 真帆子（2012年香川大学卒業）

日本内科学会内科認定医

医 員：中山 慎也（2012年大分大学卒業）

日本内科学会内科認定医

医 員：森本 啓介（2014年広島大学卒業）

■診療科紹介

2016年4月より県立広島病院から大谷医師が新たに着任し、前任の荒川医師、中山医師、また当院にて初期研修を修了後、2016年4月より新たに着任した森本医師と合わせ現在4人体制で診療を行っています。

各医療機関の先生方から多くの患者さんを紹介して頂いており、外来および入院患者数は県内有数です。また、当院は日本腎臓学会研修施設および日本透析医学会教育関連施設に認定されています。

現在、日本には約32万人の透析患者さんがおり、これは国民450人に1人に相当します。近年の高齢化社会を反映しての糖尿病性腎症と高血圧性腎硬化症の増加に伴い、現在も年1万人弱程度の割合で透析患者数は増加しており、今後もさらに増加することが予想されています。

また、慢性的に腎機能が低下している透析予備軍を「慢性腎臓病」と呼び、現在、日本には約1300万人の慢性腎臓病患者がいると推定されています。これは、成人の約8人に1人にあたる数ですが、こちらも透析患者と同様に急激に増加傾向にあります。「慢性腎臓病」はこれだけ頻度の高い国民病であるにもかかわらず、患者さんの大部分は何の症状もないまま、徐々に腎機能が低下していき、末期腎不全へと進行していきます。また、慢性腎臓病は透

析予備軍であるだけでなく、心・血管疾患の発症と生命予後に強く影響を与えていることが多くの研究で明らかにされており、透析回避および心血管疾患の予防の観点から、慢性腎臓病をいかに治療していくかが現在大きな問題となっています。

当科では、原発性糸球体・尿細管間質性疾患、高血圧、糖尿病、膠原病、血液疾患などに伴う全身性腎疾患、急性腎障害、高血圧、電解質異常など、あらゆる腎臓病に対し幅広く診療に当たっています。腎炎に対しては腎生検を中心とした診断とその診断結果の基づいた集学的な治療を、また腎不全に対しては食事・薬物療法などによる保存的加療および透析療法を実施しています。



写真1 当科での腎生検

透析療法に関しては積極的に腹膜透析（PD）導入を推進しているのが当院の特徴であり、また、血液透析（HD）、各種疾患に対するアフェレシス療法も積極的に行っています。



写真2 血液透析室

■診療実績

2016 年度実績

腎生検数	32 例
血液透析患者数	(延べ) 5680 件
腹膜透析患者数	24 名

■教育・研修活動

当科では、研究会および学会への参加、発表などを積極的に行っています。また、若手に対するセミナーなどへの積極的な参加を奨励しています。

■トピックス

常染色体優性多発性嚢胞腎（ADPKD）について：

常染色体優性多発性嚢胞腎（ADPKD）とは腎臓に多発性嚢胞を形成する遺伝性疾患であり、最も頻度の高い遺伝性腎疾患です。両方の腎臓にできた多発性の嚢胞が徐々に大きくなり、進行性に腎機能が低下する疾患であり、約 50% の人が腎不全に至ります。わが国の患者数は約 35,000 人と推定されており、わが国の透析患者における導入原疾患割合の 3% 程を占めています。今までは有効な治療法は存在しませんでした。2014 年 3 月 26 日より、常染色体優性遺伝型多発性嚢胞腎に対して、経口薬剤であるサムスカ錠（トルバプタン）が処方できるようになりました。この薬剤は、日本を含む世界規模の治験により、腎臓の嚢胞が大きくなるのを抑制することが証明されています。これにより、腎機能の低下や、血尿・嚢胞感染などを抑制できる可能性があります。この薬剤を服用していただくためには、病気や治療に対して十分な知識を持つ専門医師のもとで、詳しい説明や検査を受けた患者さんが対象となります。当科では、この新しい治療薬を安全に服用していただけるように、スタッフ一同で態勢を整えています。また、治療の相談だけでなく、多発性嚢胞腎についての遺伝相談等も受け付けています。

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

■スタッフ

主任部長 石 田 和 史 (1986 年卒、1988 年～)
 部 長 三 玉 康 幸 (2007 年卒、2015 年 10 月～)
 部 長 木ノ原 周 平 (2007 年卒、2013 年 4 月～2017 年 3 月)
 医 員 古 森 祐 美 (2014 年卒、2016 年 4 月～)
 日本糖尿病療養指導士：19 名

■診療状況

糖尿病 外来受診患者実数 計 3036 名 (平均年齢 68.0 歳、平均罹病期間 21.2 年、平均通院期間 11.3 年、インスリン治療者の割合 33.8%)

(1 型糖尿病 6%、2 型糖尿病 92%、その他 2%)

糖尿病入院患者 204 名

※ 2008 年 8 月に開始した広島県西部地区糖尿病連携パス紹介患者総数 419 名 (うち 172 名が継続通院中、全通院患者の約 5% を占める)

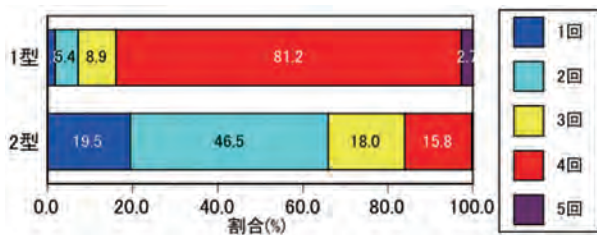


図1 インスリン注射回数の内訳 (1型には緩徐進行型も含む)

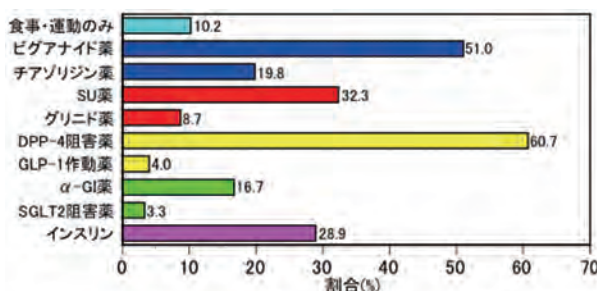


図2 2型糖尿病における治療内容の内訳 (重複あり)

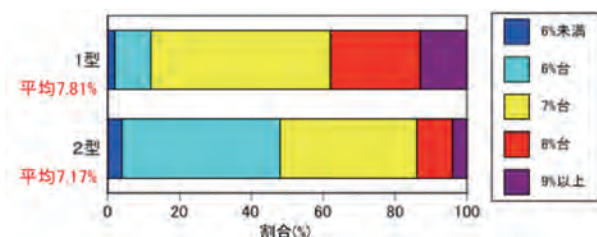


図3 年間平均HbA1cの内訳

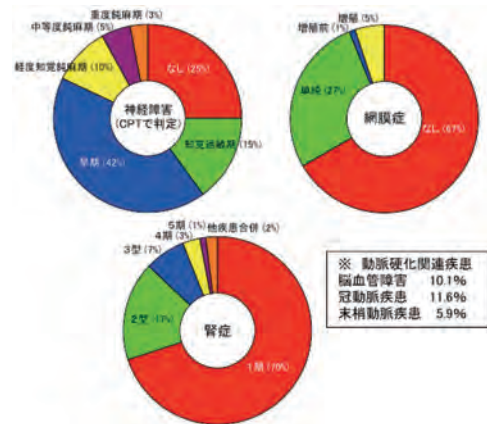


図4 定期通院患者の合併症の状況

甲状腺疾患 556 名 (バセドウ病、慢性甲状腺炎のみ)

※甲状腺腫瘍病変は他科で取り扱い

下垂体機能低下症および副腎機能低下症 若干名

■研究活動

研究テーマ

- 1) 電流知覚閾値検査 (CPT) を用いた糖尿病神経障害の評価・長期成績 (治療戦略を視野に入れた病期分類確立とその応用)



図5 ニューロメーター® (CPT測定装置)

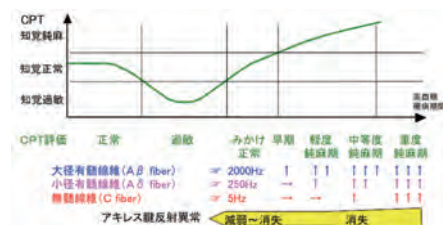


図6 CPTの推移から想定される糖尿病抹消神経障害の自然経過

- 2) 患者 QOL 向上を重視したテーラーメイド治療法確立の試み (各種インスリン製剤・経口血糖降下薬の相違の探求を介して)
- 3) 体組成分析 (インピーダンス法) の経時的観察を用いた臨床研究
- 4) ビッグアナイド薬投与症例における血漿乳酸値の変動に関する研究 (特に造影剤使用時の変化について)
- 5) CGM を用いた薬剤効果の比較研究

消化器内科

■スタッフ

副院長、消化器内科主任部長、内視鏡センター長

徳毛 宏 則 (Hironori Tokumo) 1980 年卒
認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
消化器内視鏡学会専門医・指導医

内視鏡科主任部長、緩和ケア科主任部長

小松 弘 尚 (Hironao Komatsu) 1985 年卒
認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
消化器内視鏡学会専門医・指導医

肝臓内科主任部長、消化器内科部長

相坂 康 之 (Yasuyuki Aisaka) 1990 年卒
認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
肝臓学会専門医・指導医

肝臓内科主任部長（代謝領域担当）、消化器内科部長

兵庫 秀 幸 (Hideyuki Hyogo) 1992 年卒
総合内科専門医、消化器病学会専門医・指導医
肝臓学会専門医

膵・胆道内科主任部長、消化器内科部長

藤本 佳 史 (Yoshifumi Fujimoto) 1993 年卒
認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
胆道学会認定指導医

食道・胃腸内科主任部長、消化器内科部長

古土井 明 (Akira Furudoi) 1993 年卒
総合内科専門医、消化器病学会専門医・指導医
消化器内視鏡学会専門医

消化器内科部長

野中 裕 広 (Michihiro Nonaka) 1997 年卒
総合内科専門医、消化器病学会専門医・指導医
消化器内視鏡学会専門医、肝臓学会専門医
がん治療学会専門医

医 員 末 廣 洋 介 (Yousuke Suehiro) 2013 年卒
認定内科医

医 員 隅 岡 昭 彦 (Akihiko Sumioka) 2014 年卒

医 員 村 田 愛 (Ai Murata) 2014 年卒

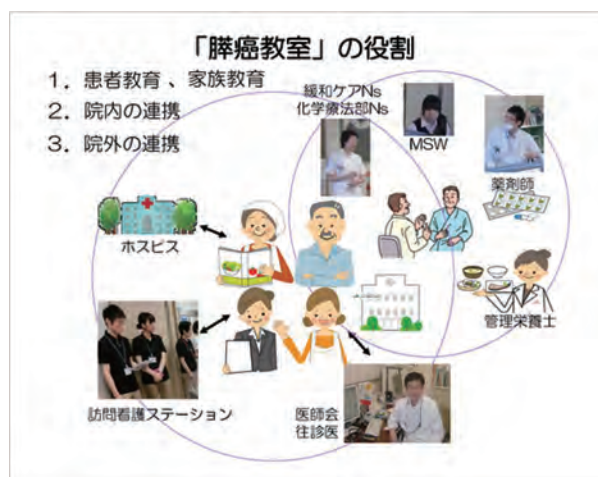
■診療科紹介とトピックス

診療スタッフは総勢 10 名となっています。消化器といっても多数の臓器があり、担当する疾患は多

岐にわたります。各臓器領域の専門指導医がスタッフ間で連携を取りながら診療にあたっており、すべての消化器疾患に適切に対応することができる体制となっています。

当科は近隣の病院やクリニックとの連携に力を入れており、様々な勉強会研究会共同活動を行っています。主な活動をあげると、RIGD Net（固い絆：地域相互消化器医師ネットワーク）、広島肝臓疾患フォーラム、広島西部地域食道胃腸疾患研究会、膵癌胆道癌教室、広島胃瘻と経腸栄養療法研究会（広島ページェント）、などです。これらの情報は末尾の JA 広島総合病院消化器内科フェイスブックから確認できます。

当科では「膵臓がん胆道がん教室」という、患者さんやご家族を対象とした患者支援事業を行っています。当院医師や地域の先生方のみならず多職種専門職とともに毎月 2 回全 4 回のシリーズで様々な催しを行っています。



今年度の大きなトピックは、「第 6 回膵がん教室ワークショップ 2016 in 広島」を 2016 年 12 月に開催したことです。全国各地からここ広島の地に膵がん患者支援活動に関心のある医療関係者（医師、看護師、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士など）が集まり、日頃の診療支援の成果や課題などを話し合いました。このワークショップは全国レベルの会合です。今回は藤本佳史が責任者として企画から運営まで担当し、過去最多の来場者



を集め成功に終わりました。翌日には膵臓がん撲滅チャリティイベント「パープルストライド広島2016～ウォーク&膵臓がん公開講座」が開催されました。

肝臓領域では肝臓疾患の専門指導医である相坂康之により最新の抗ウイルス薬を用いた治療が行われています。C型肝炎の治療は、2011年に、抗ウイルス内服薬とインターフェロン注射、リバビリン内服薬の3剤の併用療法が認可され、2014年には、内服薬だけでウイルスの排除ができる抗ウイルス薬が登場しました。さらに最近では、12週間という短い期間の治療で済む抗ウイルス薬が登場して、治療の選択肢が広がりました。現在まで当院では多数の患者様がこれらの治療を受け、治療効果は9割以上の高率であり、C型慢性肝疾患は治る病気であると言える状況になっています。

肝臓領域でのもう一つの大きな話題は非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）や非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）です。いわゆるお酒を飲まない人に起こる脂肪肝のことで、この領域のリーダーである兵庫秀幸と野中裕広がNASH専門外来を開設し診療しています。さらに全国多施設での共同研究を進めるとともに、糖尿病治療薬によるNASH改善の多

施設共同の臨床研究なども進めています。

消化器内科のさまざまな検査処置を行う場である内視鏡センターでは、充実した内容の診療をしています。経鼻内視鏡など人に優しい内視鏡機器、安楽な内視鏡検査処置を目的として二酸化炭素送気による検査や鎮静麻酔下での内視鏡処置なども行っています。

食道や胃腸といった消化管の分野では、早期癌等に対して内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）という侵襲の少ない革新的な方法のプロフェッショナルである古土井明が活躍しています。また、胃瘻に関しては全国的に先進的な取り組みを行っている施設として知られています。

■ 研究活動

当科は、実地臨床の中で積極的に臨床研究を行い本誌別記のごとく多数の学会発表や論文での報告を行っています。

■ 検査実績

消化器内科・内視鏡センター検査処置件数（2016年度）	
上部消化管内視鏡検査（含小腸内視鏡）	4843
上部消化管内視鏡処置（含EUS）	367
十二指腸内視鏡検査処置（ERCP等）	342
小計	5552
下部消化管内視鏡検査	1504
下部消化管内視鏡処置治療	964
小計	2468
全消化管検査処置合計	8020
腹部超音波検査（含造影US）	4909
腹部超音波下処置	164
超音波関連検査処置合計	5073
その他（造影等）	123
消化器内科検査処置合計	13216



フェイスブック <https://www.facebook.com/GH.JAHGH>

小児科

■ スタッフ

主任部長 岡 島 宏 易 (1980 年卒)
資格 日本小児科学会専門医・指導医
日本アレルギー学会専門医・指導医

部 長 辻 徹 郎 (1993 年卒)
資格 日本小児科学会専門医・指導医
日本アレルギー学会専門医

部 長 吉 野 修 司 (2003 年卒)
資格 日本小児科学会専門医・指導医

部 長 青木 真奈美 (2005 年卒)
資格 日本小児科学会専門医

嘱託医師 中 島 千恵子 (1970 年卒)
資格 日本小児科学会専門医・指導医

嘱託医師 小 野 早 織 (2009 年卒)
資格 日本小児科学会専門医

■ 診療科紹介

2016 年も 2015 年から引き続き常勤医師 4 名、嘱託医師 2 名の計 6 名で外来、病棟診療を行っています。常勤医師 4 名（岡島、辻、吉野、青木）はそれぞれアレルギー領域を専門としており、一般小児科診療に加え、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーに対する専門的診療が可能となっています。嘱託医師 2 名（中島、小野）は小児神経領域を専門としています。

気管支喘息診療に関しては、県内でもトップクラスの肺機能検査実施件数を誇り、呼気 NO 濃度測定や気道過敏性検査なども積極的に実施しています。2016 年度からは新しく導入した呼吸抵抗測定装置（MostGraph-01）を用い、これまで肺機能の客観的な評価が困難であった低年齢層での肺機能検査件数も増えつつあります。

アトピー性皮膚炎診療に関しては、生後早期からの保湿剤を用いたスキンケアの導入による発症予防を積極的に心がけています。皮膚炎発症後の治療においても、アレルギーマーチ進行を抑制する観点から、ステロイド外用剤を用いた積極的な寛解維持療法により、新たな抗原感作を防ぐことや食物アレルギーの合併対策を行っています。

食物アレルギー診療に関しては、経口負荷試験による正確な原因食物の診断及び必要最低限の除去を試みつつ、近年は早期の寛解獲得を目的として経口免疫療法を実施する症例数も増えつつあります。

その他、当科の広島西部医療圏における役割といたしましては、近隣開業医からの入院紹介患者の受け入れは勿論のこと、こどもの総合診療医としてアレルギー領域に偏らない診療を心がけています（小児内分泌、小児神経等）。また、必要に応じて各領域の専門医が所属する県内各医療機関との速やかな連携も心がけています。

24 時間体制の時間外診療に関しましてはマンパワーの問題から現在は行ってはおりませんが、救急搬送される重症患者に関しては、当院救急部とも連携のうえ可能な範囲内で診療を行います。

■ 診療実績

食物アレルギー経口負荷試験

2009 年	46 件	2010 年	51 件
2011 年	50 件	2012 年	77 件
2013 年	267 件	2014 年	322 件
2015 年	480 件	2016 年	461 件

肺機能検査

2016 年 147 件

呼吸抵抗測定

2016 年 79 件

気道可逆性検査

2016 年 170 件

気道過敏性検査

2016 年 11 件

脳波検査

2011 年	528 件	2012 年	540 件
2013 年	545 件	2014 年	492 件
2015 年	485 件	2016 年	492 件

成長ホルモン分泌刺激試験

2011 年	35 件	2012 年	27 件
2013 年	34 件	2014 年	29 件
2015 年	32 件	2016 年	52 件

外科

■スタッフ

診療部長、一般外科治療センター長

中 光 篤 志 (1982 年卒)
日本消化器外科学会認定医、広島大学臨床教授

化学療法室 室長

今 村 祐 司 (1983 年卒)
日本外科学会外科専門医
日本消化器外科学会消化器外科専門医

肝・胆・膵外科主任部長

佐々木 秀 (1991 年卒)
日本消化器外科学会消化器外科専門医
日本肝胆膵外科学会高度技能指導医

消化管外科主任部長

香 山 茂 平 (1993 年卒)
日本消化器外科学会消化器外科専門医
日本内視鏡外科学会技術認定医 (大腸)

腹部救急治療科主任部長

田 崎 達 也 (1997 年卒)
日本消化器外科学会消化器外科専門医
日本内視鏡外科学会技術認定医 (ヘルニア)

消化管外科主任部長代理

杉 山 陽 一 (1997 年卒)
日本消化器外科学会消化器外科専門医
日本内視鏡外科学会技術認定医 (胃)

消化管外科部長

中 村 浩 之 (2000 年卒)
日本外科学会外科専門医
日本消化器外科学会消化器外科専門医

消化管外科部長

上 神 慎之介 (2001 年卒)
日本消化器外科学会消化器外科専門医
日本大腸肛門病学会専門医

医 員 馬 場 健 太 (2012 年卒)

医 員 亀 田 靖 子 (2012 年卒)

医 員 田 妻 昌 (2013 年卒)

医 員 新 原 健 介 (2014 年卒)

■診療科紹介

臓器別チームに分かれて、ガイドラインに基づいた専門性の高い診療を行っています。

胃、大腸、ヘルニア領域では、県下で数少ない内視鏡外科学会技術認定医資格を要したスタッフが、肝胆膵領域では、高度技能指導医資格を要したスタッフが手術、指導にあたり、安全な手術と周術期管理をこころがけています。高度進行癌に対しては、消化器内科・放射線科などとカンファレンスを行い、化学療法、放射線治療を含めた集学的治療を行っています。

■診療実績

主な手術件数は以下のとおりです。

・上部消化管外科

食道癌手術 2 例、食道裂孔ヘルニア 2 例、胃・十二指腸良性疾患 12 例、胃悪性腫瘍手術 72 例 (うち腹腔鏡 42 例)、胃空腸バイパス術 12 例、審査腹腔鏡 8 例

・下部消化管外科

大腸癌手術 159 例 (腹腔鏡 109 例)、直腸良性疾患 20 例、人工肛門造設 18 例、虫垂切除 76 例 (腹腔鏡 67 例)、腸閉塞手術 36 例

・肝胆膵外科

肝切除 33 例 (腹腔鏡 7 例)、膵頭十二指腸切除 20 例、膵体尾部切除 6 例 (腹腔鏡 3 例)、膵中央切除 1 例、胆石・総胆管結石手術 126 例 (腹腔鏡 112 例)

・ヘルニア外科

鼠径部ヘルニア 181 例 (腹腔鏡 164 例)、腹壁ヘルニア 21 例 (腹腔鏡 9 例)、閉鎖孔ヘルニア 4 例

・甲状腺外科

甲状腺良性腫瘍 9 例、悪性腫瘍 19 例、副甲状腺腫瘍 1 例

■研究活動

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本外科感染症学会の修練・認定施設です。

全国学会、広島臨床腫瘍外科研究グループなどが主催する臨床試験に登録、参加しています。

日本環境感染学会および厚生労働省による手術部位感染サーベイランスに参加しています。

将来の外科医を発掘すべく、毎年 4 月には、入職したばかりの初期研修医を対象とした縫合・結紮講習 (写真)、夏には高校生を対象とした外科セミナーを行っています。



乳腺外科

■ スタッフ

主任部長 川 渕 義 治 (1994 年卒)

取得資格：日本外科学会専門医

日本乳癌学会専門医

部 長 板 垣 友 子 (2002 年卒)

取得資格：日本外科学会専門医

日本乳癌学会認定医

■ 診療科紹介

2015 年から引き続き 2016 年も上記 2 名体制で診療を行いました。これまで通り、外来診療は 2 つの診察室にて行い、少しでも待ち時間が短縮できるように留意しています。年間 600 名近くの初診患者さんに来院いただき、患者さんの外来での動線短縮を目的に、外来診察室にて臨床検査科・中央放射線科技師による乳腺エコー業務を行っています。

手術においては、年々件数の増加を見ます。内訳といたしましては、乳房温存手術が 36.5%と大きく変動してきています。これは、乳房再建手術が増加してきていることや高齢者の割合が増加してきていることの影響を考えています。外来化学療法も外来化学療法室に対応いただきながらエビデンスにのっとった副作用対策を進めています。手術・放射線治療・化学療法・内分泌療法・分子標的治療を用いて、その方その方に応じた適切な治療方針を設定し、カンファレンスを中心に他職種との連携により、患者さんのニーズに合う診療を行っています。

近年、腋窩リンパ節郭清の適応については検討が進み、本年度は原発性乳癌手術のうちリンパ節郭清率は当院では 23%まで低下してきています。腋窩リンパ節郭清後の患者さんのうち、2～3 割の割合で見られるリンパ浮腫に対する診療を充実させるため、院内体制作りを進めています。HBOC（遺伝性乳癌卵巣癌症候群）に対するスクリーニングも日々の臨床の中でルーチンワークとして開始しています。

今後も、院外の地域連携・院内のチームのサポートをいただきながら、広島県西部の乳腺疾患をお持ち

ちの患者さん・ご家族の“happy”の向上を目指した取り組みを継続してまいります。

■ 診療実績

<手術>

乳腺悪性腫瘍手術

胸筋温存乳房切除術	77
皮膚温存乳房切除術	0
乳頭温存乳房切除術	3
乳房部分切除術	46
腫瘍摘出術	0

小計 (件) 126

腋窩リンパ節郭清 21

センチネルリンパ節生検

→腋窩リンパ節郭清 7

センチネルリンパ節生検 85

乳房再建

エキスパンダー 2

インプラント 6

腹直筋皮弁 4

乳腺再発手術

小計 (件) 6

乳腺良性手術

小計 (件) 22

その他

小計 (件) 15

合計 (件) 169

<外来化学療法>

術前化学療法 7

術後化学療法 52

進行再発化学療法 52

合計 (名) 111

整形外科

■スタッフ

病院長 藤 本 吉 範 (2002 年 4 月～)
 主任部長 鈴 木 修 身 (2013 年 4 月～)
 部 長 山 田 清 貴 (2009 年 4 月～)
 部 長 橋 本 貴 士 (2011 年 4 月～)
 部 長 中 前 稔 生 (2012 年 4 月～)
 部 長 平 松 武 (2015 年 4 月～)
 医 員 土 川 雄 司 (2015 年 4 月～)

以下の如く各スタッフが専門領域を担当しています。

脊椎・脊髄疾患：藤本、山田、中前、平松

手外科・微小外科・リウマチ外科：鈴木

関節外科：橋本

外傷：鈴木、橋本、平松、土川

■診療科紹介

整形外科は昨年度と同じメンバーで、藤本病院長以下 7 名が常勤として勤務しています。また広島大学整形外科より 3 名の非常勤医師の派遣を受け、近年の手術件数のさらなる増加に対応しています。当科は広島県西部地区の基幹病院として地域の病院、医院の先生方と密接に連携を取りながら診療を進めています。2016 年度の初診患者数は 2817 名で、引き続き多くの患者さんを紹介して頂いています。また地域医療支援病院紹介率は 107.0% で、当院で手術した患者さんは再び地域の先生にご加療いただいています。

2016 年度の手術件数は 1648 例で、毎年継続して増加しています。そのうち頸椎手術が 122 例、腰椎手術が 620 例と脊椎・脊髄疾患の手術が多いのが当院整形外科の特徴です。広島県内のみならず、中・四国地方、関西、関東からも藤本病院長のもとに紹介されて来られる患者さんも多くおられます。

また当科では経皮的椎体形成術を、先進医療として中四国厚生局から認可された唯一の施設として積極的に行ってきました。2011 年からは経皮的後弯矯正術として保険診療が可能となり、継続して多く行っています。2016 年度の後弯矯正手術例は 158 例です。さらに腰椎椎間板ヘルニアの治療では、当院では顕微鏡視下ヘルニア摘出術を基本術式として

いますが、新しい手術方法である経皮的内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術も行っており、2016 年度までに 52 例と症例数が増えてきています。

2013 年に病院内に開設された脊椎・脊髄センター（センター長：山田清貴、副センター長：中前稔生）は、脊椎・脊髄疾患の治療を、医師とコメディカルが密接な連携を取りながらチームとしてより集学的に行うことを目標としています。脊髄損傷や化膿性脊椎炎など重篤な障害の治療も、積極的に行っています。

主任部長の鈴木は手外科、リウマチ外科の診療を行うとともに、微小外科の領域でも診療しており、外傷では切断指再接着や複合組織欠損に対する遊離組織移植術を行っています。また地域の先生方から骨壊死の患者さんを紹介して頂き、血管柄付き骨移植を行うことも増えています。

また整形外科診療の大きな柱のひとつである人工関節置換術については、橋本部長が中心となり股関節・膝関節の治療を積極的に行っています。地域の先生方から患者さんをご紹介いただくことも多く、手術症例数は年々増加しています。

骨折や靱帯損傷など整形外科の基本的な外傷は、2011 年に当院に開設された地域救命救急センターの医師と互いに協力しつつ、多くの患者さんの治療にあたっています。当院には多数の救急搬送がありますが、救命救急医による全身状態のチェックを受けた上で、整形外科的外傷に対して、質の高い治療を行うよう心がけています。また大腿骨頸部骨折の手術と後療法については、アマノリハビリテーション病院、廿日市記念病院、大野浦病院と当院で地域連携診療を行っており、年 4 回の連絡会議を行い、円滑に治療が進むように努めています。

手術症例数が多いのが当科の特徴です。しかし一方で学会や研究会での活動も大切と考え積極的に行っており、国際学会にも演題が採用され発表の機会が増えています。当科の治療成績は良好なものと思われそうですが、学会・研究会で発表し、評価を受けながら常にこれを向上させる姿勢を持続けて行きたいと考えています。

脳神経外科

■ スタッフ

主任部長

急性期リハビリテーション主任部長

黒 木 一 彦 1991 年広島大学卒
日本脳神経外科専門医、日本救急医学会専門医
日本脳卒中学会認定医

副 部 長

阿美古 将 2003 年愛媛大学卒
日本脳神経外科専門医、
日本脳神経血管内治療学会認定専門医、
日本脳卒中学会認定医

医 員 山 田 直 人 2010 年 広島大学卒

医 員 落 合 淳一郎 2012 年 信州大学卒

上記のスタッフで地域市民の脳を 24 時間体制で守っています。

■ 診療科紹介

脳梗塞、一過性の虚血発作、脳血管狭窄、脳出血、くも膜下出血、脳動静脈奇形、脳腫瘍、頭部外傷、髄膜炎、原因不明の意識障害、顔面けいれんや三叉神経痛、水頭症など多岐にわたって診療、治療をおこなっています。2016 年は 781 人の入院がありました。手術数も年々増加傾向にあり、2016 年は合計 338 例；脳動脈瘤手術 37（clipping 26 例）例、頸動脈ステント留置術（CAS）24 例、脳腫瘍摘出術 30 例、血行再建術 13 例、頸動脈血栓内膜剥離術（CEA）12 例、動静脈奇形（AVM）摘出術 3 例、開頭血腫除去術 37 例、慢性硬膜下血腫 59 例でした。

代表的な疾患である脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍における最近の治療について簡単に説明したいと思います。

【脳梗塞】大きく分けて脳塞栓症と脳血栓症に分類できます。脳塞栓症は心房細動などが原因となり、心臓などで形成された血栓が太い脳血管を閉塞する疾患です。致死的になることが多く、予防が極めて重要と考えています。最近の抗凝固薬は副作用の出血率が低く、他の薬との併用や食事に制限が不要なく、内服しやすくなっています。また、発症 4 時間

30 分以内では遺伝子組み換え組織型プラスミノゲン・アクティベータ（tPA）の投与、発症 8 時間以内で、条件を満たす疾患であればカテーテルによる血栓除去も可能となっています。脳梗塞は時間との闘いになります。救急部の医師と連携し迅速に対応しています。tPA は時間経過だけでなく、出血既往や手術既往、血圧や血糖、血小板数など禁忌項目も多く、適応を判断しつつ、内頸動脈や中大脳動脈閉塞症例では同時にカテーテルによる血栓除去治療の準備を行います。そのため発症早期の脳梗塞患者が搬送されると最低 3 人の脳神経外科医が速やかに集合し、治療に取り組んでいます。このため 4 人の医師が 24 時間常に待機状態を強いられる過酷な勤務状況ですが、幸い皆仕事に興味な人たちなので前向きに取り組んでいます。

また一過性脳虚血発作などで発症する頸部内頸動脈狭窄病変が増加傾向にあります。血管内壁にアテロームといわれる粥腫が塞栓源となったり、血流低下が症状の原因となります。頸部を切開し、アテロームを切除する頸動脈内膜剥離術（CEA）という治療やカテーテル治療による血管拡張術（CAS）を行っています。血栓の状態や病変の位置などで治療方法の適応を判断しています。また中大脳動脈狭窄も一過性脳虚血発作の原因として多くみられる疾患です。この病態に対しては浅側頭動脈を頭蓋内血管と吻合する浅側頭動脈 - 中大脳動脈吻合術が予防治療として有効です。

【脳出血】高血圧管理に対する関心が高まり、開頭手術を要する脳出血の頻度は少なくなっています。出血量が多い場合には救命目的の開頭手術、中等量であれば機能改善を目的とした定位血腫除去を行っています。最近の症例は小出血が多く、点滴・降圧剤投与による保存的加療を行う症例が多くをしめています。小出血であっても錐体路に障害が及ぶと後遺症は必発です。予防的治療、生活習慣の是正がなにより重要だと考えています。

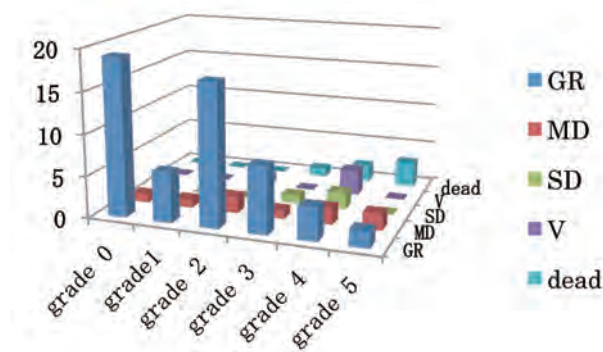
【くも膜下出血】脳動脈瘤が破裂をおこすことで生じる疾患で、発症時の重症度によって軽度の頭痛から突然死までその症状には差がみられます。治療の目的は再出血予防であり、開頭クリッピング術と血管内コイル塞栓術があります。重症度、年齢、合併症、動脈瘤の部位・大きさ・形状



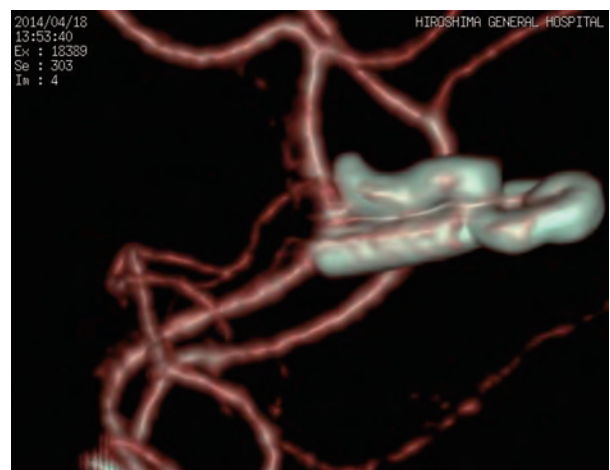
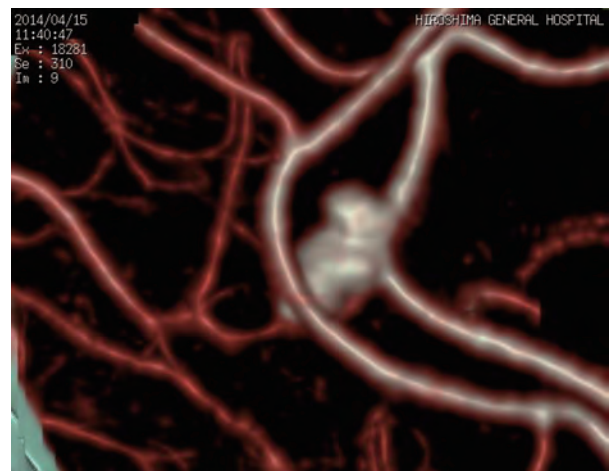
ステントアシストコイルの模式図

により治療法を選択します。椎骨脳底動脈瘤や前床突起近傍動脈瘤はコイル塞栓術のよい適応です。以前は wide neck な動脈瘤はコイル塞栓術が困難でしたが、最近はステントアシストコイルという新たな方法を用いることにより、治療の幅が広がっています。

開頭クリッピング術は症例の蓄積のある確立された治療法です。いびつな形状の瘤や wide neck、血腫を伴うくも膜下出血は開頭クリッピング術が適応となります。一般的に入院時重症度の高い症例や高齢者は予後も不良となる傾向が強いのですが、当科での治療成績は非常に良好であると自負しており、積極的に手術をお勧めしています。



(grade0；無症状、gradeVは昏睡状態です。) 開頭クリッピング術治療成績



遠位前大脳動脈瘤破裂
脳動脈瘤クリッピング前後の3D-CT画像

【脳腫瘍】脳腫瘍の発生率は1年間に10万人あたり10人くらいといわれ、そのほとんどが原因不明です。種類も細別すると100種類くらいありますが、70%は髄膜腫、神経膠腫、下垂体腫瘍です。脳腫瘍の多くは手術が必要と判断されますが、その目的には①腫瘍の種類を確認するため（生検）、②腫瘍の体積を減らし、放射線治療や化学療法を併用して治療する、③全摘出で治癒を目指す、と大別することができます。腫瘍の部位、ひろがりや神経機能を総合評価し、治療方針を個々に検討します。脳内に発生する神経膠腫は grade I-IV までありますが、浸潤性に発育するため治癒が困難であり、特に grade IV においては30年以上にわたり治療成績が目立った改善がみられない難治腫瘍であり、今後の更なる研究が待たれるところです。

これまで当科では年齢を考慮し、手術治療を選択

してきましたが高齢者が以前より体力的に向上していること、手術技術、麻酔技術、術後管理が進歩していることから高齢者でも手術をためらう必要性は

乏しいと感じています。

実際手術成績も他施設と比較し遜色はないと自負しています。



呼吸器外科

■スタッフ

主任部長 渡 正 伸 (1986 卒)
日本呼吸器外科学会評議員、同専門医、
日本外科学会指導医、胸部 CT 検診認定医

医 員 熊 田 高 志 (2010 卒)、日本外科学会専門医

医 員 井 上 聡 (2011 卒)

■診療科紹介

2001 年 10 月に開設され、15 年が経過しました。近年増加の一途である肺癌は日本人の癌死亡の 1 位となっています。今日、外科分野では内視鏡を用いる内視鏡手術が主流となっています。大きく開胸して行う場合と比較し、低侵襲化が進んでいます。故に、より専門性の高い技術が要求され、呼吸器外科専門医による専門的な診療が行われています。

最近の年間手術症例は 130-150 例、そのうち肺癌根治術は 50 - 70 例行っています。手術侵襲を最小限とするために胸腔鏡を多用しています。

また肺疾患（COPD など）や低栄養、低体力、高齢の肺癌患者さんなど、手術のハイリスク患者では栄養科、リハビリテーション科と連携し術前から患者さんに関わり、肺疾患治療、栄養改善、体力改善などを行い耐術能力が向上した状態で手術を行うチーム医療を 2009 年より、いち早く導入して良好な成績をあげています。以前、他の病院で根治手術困難と諦められた症例に上記の術前管理を応用して無事根治術を行った経験があります。

また肺癌をより早期で発見するために胸部 CT 検診も 2002 年より人間ドックのオプションとして行っています。胸部 CT 検診の有用性は 2011 年の米国の報告（NLST）で証明され、県内でも実施する施設が増えてきました。しかし被曝線量を考慮し低線量 CT で行う必要があり注意が必要です。

■診療実績

2016 年度までの手術件数を図 1 に示します。術前のチーム医療を行うようになり、術後合併症は激減しています。また 2012 年 7 月より開始した術前

肺機能外来（図 2）による潜在 COPD 患者の診断治療については、国内外の数多くの学会で発表してきました。COPD は今後日本人の死亡原因として上位にランクされるようになる疾患です。そのために健康日本 21（第 2 弾）でも COPD の認知度の向上とその早期発見を目標としています。我々は術前肺機能外来という新規のシステムにより当院の外科系の全診療科の手術患者に対して、術前肺機能検査から潜在 COPD 患者の発見とより良い周術期管理が期待できる新たな取り組みを提供しています。そして当院で術前診断された COPD 患者さんは退院時にかかりつけ医に逆紹介し、COPD の継続治療をお願いする病診連携を行っています（図 2）。

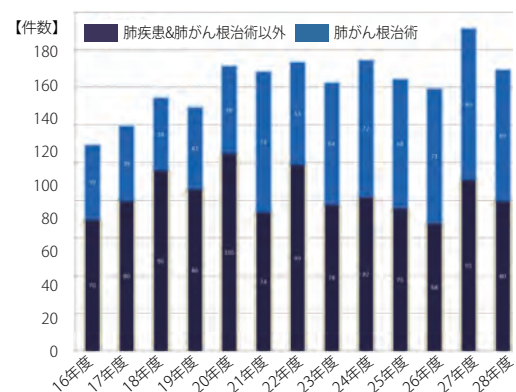


図 1 肺癌根治術件数とその他の手術件数の推移

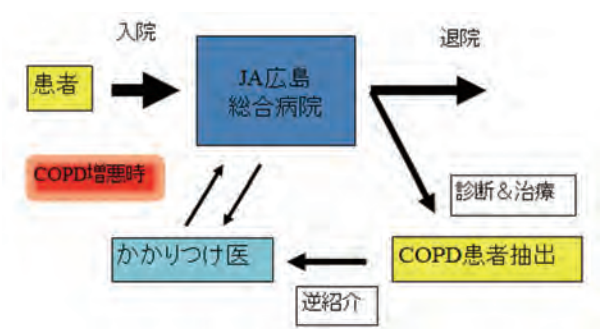


図 2 COPD 病診連携

■研究活動

ハイリスク肺癌手術における工夫
術前から開始する総合的周術期管理
術前肺機能検査による COPD スクリーニング

心臓血管外科

■ スタッフ

主任部長 濱 本 正 樹 (1995 年卒)
心臓血管外科専門医、修練指導医、外科学会専門医、指導医

主任部長 (血管外科担当)

小 林 平 (1999 年卒)
心臓血管外科専門医、脈管専門医

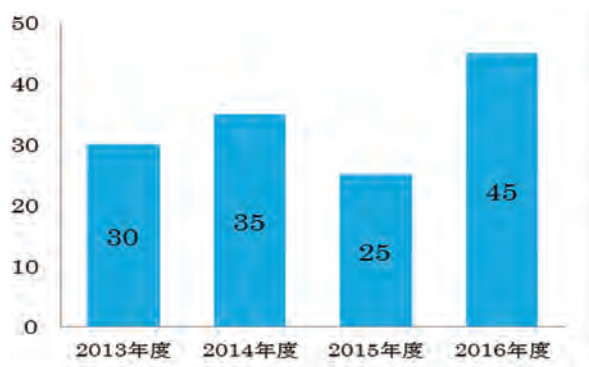
部 長 小 澤 優 道 (2001 年卒)
胸部ステントグラフト指導医、腹部ステントグラフト指導医

医 員 吉 村 幸 祐 (2011 年卒)

■ 診療科紹介

心臓弁膜症

- ・ 2013 年度から 2016 年度の弁膜症手術数は下図のように推移しています。



- ・ 4 年間の僧帽弁手術は 73 例 (男性 42 例、透析患者は 7 例 (9.6%))。平均年齢 70.7 歳。疾患は、変性 (閉鎖不全症) 52 例、感染性心内膜炎 9 例、虚血性 5 例、変性 (狭窄症) 5 例、生体弁劣化 2 例でした。手術は、僧帽弁形成術 47 例 (64%)、置換術 26 例で、形成術完遂率は 90% でした。同時手術は、三尖弁手術 55 例 (75%)、冠動脈バイパス術 12 例 (16%)、メイズ手術 21 例 (29%) でした。手術死亡 (手術後 30 日以内) は 2 例 (2.7%)、病院死亡 1 例 (1.4%)、脳梗塞の合併 1 例 (1.4%) でした。自宅退院率 94% で、形成術後の逆流増悪で遠隔期に再手術を必要とした症例はありませんでした。
- ・ 4 年間の大動脈弁手術は 48 例 (男性 27 例、透析患者 8 例 (16.7%)) でした。平均年齢は 74.6 歳。変性による大動脈弁狭窄症 39 例、大動脈弁閉鎖不全症 7 例、感染性心内膜炎 1 例、生体弁劣化 1 例でした。手術は、大動脈弁置換術 46 例 (96%)、形

成術 2 例と、置換術が主に施行されています。同時手術は、三尖弁手術 11 例 (23%)、冠動脈バイパス術 7 例 (15%)、メイズ手術 7 例 (15%)、大動脈人工血管置換術 3 例 (6%) でした。手術死亡 (手術後 30 日以内) なし、病院死亡なし、脳梗塞の合併 1 例 (2%)、自宅退院率 98% でした。

大動脈疾患

大動脈疾患は“瘤”と“解離”に大別され、“瘤”は大きさや形状、“解離”は発生部位により治療の必要性が検討されます。低侵襲のステントグラフト治療が大動脈疾患の確立した治療法となり、これまで唯一の治療法であった人工血管置換術では治療困難なハイリスク症例に対しても治療の道が拓かれました。さらに、2つの治療を組み合わせるハイブリッド治療や、これまで保存的治療が基本だった B 型解離に対する積極的治療介入、など今なお大動脈疾患の治療戦略は変化しています。人工血管置換術とステントグラフト治療にはそれぞれ長所と短所があり、それらに精通し適切に選択することで治療成績は向上しています。当院における 2016 年の大動脈手術症例は 46 例 (人工血管置換術: 21 例、ステントグラフト治療: 25 例) であり、手術死亡率は待期手術 6.5% (2 例 / 31 例)、緊急手術 13.3% (2 例 / 15 例) でした。

末梢動脈疾患

重症下肢虚血は今まで難治性と言われ、下肢切断に陥る場合が多い疾患でした。当院では 2009 年より弁切開刀を使用したバイパスで、下腿、足部を中心に血行再建を施行しています。この分野では日本有数の施設であり、8 割以上の症例で下肢を救うことができるようになっていきます。2016 年は 145 例に血行再建術を施行、うち重症下肢虚血に対する下腿へのバイパスは 57 例に施行しました。



開心術治療風景

皮膚科

■スタッフ

主任部長 森 川 博 文 1993 年卒業
資格；皮膚科専門医
専門；皮膚科一般

医 員 小 林 紘 子 2010 年卒業
専門；皮膚科一般

医 員 沼 田 智 史 2013 年卒業
専門；皮膚科一般

非常勤医師 吉 屋 直 美
資格；皮膚科専門医 2001 年卒業
専門；皮膚科一般

■診療科紹介

4 月に新たに小林医師、沼田医師が赴任しました。皮膚科の医師は男性 2 名、女性 2 名になりました。吉屋医師は、週 3 回ほど非常勤として勤務してくれています。そのほか、スタッフは看護師が 3 名、医療事務が 2 名、医療秘書が 1 名です。合計 10 名で診療にあたっています。

診療内容としては、外来診療においては湿疹・皮膚炎群や白癬などのポピュラーなものから、難治性の皮膚疾患、薬疹に対する診療、各種皮膚の腫瘍性疾患に対し、手術なども行っています。また、入院が必要な各種皮膚疾患の患者さんに対して、必要性に応じて随時対応をしていきます。一方、寝たきりの患者さんに生じた褥瘡に対しても、外来での加療や各病棟への往診など対応を行っています。

外来担当医表

		月	火	水	木	金
外来診療前		朝の病棟カンファレンスおよび病棟処置				
午前	1 診	森川	森川	森川	森川	森川
	2 診	小林	小林	小林	小林	小林
	3 診	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田
	4 診	吉屋		吉屋		吉屋
午後		手術室手術	小手術	小手術	小手術	手術室手術
		病棟処置および他科の患者さんの往診				
	15:30				午後外来	

■診療実績

2016 年度の入院患者さんの内訳を下記に記します。

病 名	人 数
角化症	2
壊死性筋膜炎	4
濃皮症	57
血管種	1
紅斑	2
湿疹	3
薬疹	10
水疱症・膿疱症	7
帯状疱疹	30
脱毛症	3
熱傷	6
皮下軟部腫瘍	4
皮膚悪性腫瘍	39
皮膚良性腫瘍	18
褥瘡	12

泌尿器科

■ スタッフ

病院長代行、医療福祉支援センター長、医療秘書室長

小深田 義 勝 (1979 年卒)

日本泌尿器科学会専門医 指導医

日本がん治療認定医機構暫定教育医

主任部長 丸 山 聡 (1988 年卒)

日本泌尿器科学会専門医 指導医

日本泌尿器科学会・

日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医

部 長 増 本 弘 史 (2001 年卒)

日本泌尿器科学会専門医 指導医

日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医 員 宮 本 俊 輔 (2012 年卒)

■ 診療科紹介

当科は、多くの手術を従来の開腹手術から腹腔鏡手術に移行し、治療成績の向上とともに、より低侵襲な治療を目指しています。2016 年 4 月より増本弘史が赴任し、腹腔鏡技術認定医が 2 人体制となり、より質の高い腹腔鏡手術が実践できるようになりました。現在は、泌尿器癌手術はほぼ全例内視鏡手術（腹腔鏡手術および経尿道的手術）で行っています。

腎癌に対しては、腎機能温存のために、可能な限り腹腔鏡下腎摘除術ではなく、腹腔鏡下腎部分切除を施行するようにしています。かなり難易度の高い手術ですが、積極的に行っています。

膀胱癌に対しては、2016 年 7 月より、新たに腹腔鏡下膀胱全摘除術を導入しました。従来の開腹での膀胱全摘除術と比較して、手術時間が短縮し、出血量も著明に減少しており、高齢の患者様に対しても適用範囲が広がりました。

前立腺癌の手術は、全例、腹腔鏡下前立腺全摘除術を行っています。術後の早期尿禁制を図るために、適用症例に対しては可能な限り神経温存を意図した手術を行っています。

■ 診療実績

手術統計（前立腺：71 件）

TUR-P 28

腹腔鏡下前立腺全摘除術 43

手術統計（腎尿管副腎：47 件）

腹腔鏡下腎摘除術 18

腹腔鏡下腎尿管摘除術 10

腹腔鏡下腎部分切除術 5

腹腔鏡下副腎摘除術 5

腎摘出術 6

腎尿管摘出術 2

腎部分切除術 1

手術統計（膀胱：194 件）

TUR-BT 185

腹腔鏡下膀胱全摘除術 5

膀胱内血塊除去術 3

腹腔鏡下尿膜管摘出術 1

手術統計（結石：129 件）

TUL 3

TUL（レーザー使用）22

PNL 3

膀胱結石摘出術（高位切開）2

ESWL 99

手術統計（陰茎・陰囊：24 件）

精巣摘出術 8

陰囊水腫手術 7

包茎手術 9



産婦人科

■スタッフ

- 主任部長 中 西 慶 喜 (1984 年卒)
日本産科婦人科学会指導医
女性ヘルスケア暫定指導医
- 部 長 大 下 孝 史 (1994 年卒)
日本産科婦人科学会専門医
日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医
- 部 長 高 本 晴 子 (1996 年卒)
日本産科婦人科学会指導医
母体保護法指定医師
- 部 長 中 前 里香子 (1998 年卒)
日本産科婦人科学会専門医
- 部 長 佐々木 美 砂 (2005 年卒)
日本産科婦人科学会専門医
母体保護法指定医師
- 部 長 数 佐 淑 恵 (2007 年卒)
日本産科婦人科学会専門医
- 医 員 仙 波 恵 樹 (2014 年卒)
日本産科婦人科学会専攻医

■診療科紹介

2016 年 3 月末で藤本悦子医師と上田明子医師が退職し、4 月から数佐淑恵医師が赴任しました。仙波恵樹医師は当院での初期研修を終え、引き続き産婦人科専攻医として後期研修を開始しました。10 月には高本晴子医師が赴任し、10 月末で大下孝史医師が開業（五日市駅前、さくらウィメンズクリニック）のため退職しました。2016 年 4 月の時点では佐々木医師が育休中で 5 名態勢でしたが、2017 年 2 月には育休明けで復帰し 6 名態勢に戻りました。

診療内容は平日午前中に外来診療を行い、月・水・金曜日の午後に手術をしています。火曜日と木曜日の午後には子宮鏡や子宮卵管造影などの検査を行っています。広島西圏域（廿日市市・大竹市）では 2016 年度は年間 1352 件の分娩があり、そのうち当院では 531 件を担当しました。当院はセミオープンシステムを導入しており、大竹市ではシルククリニックとレディースクリニックとよしま医院、廿日市市では青葉レディースクリニックとかとうレディース

スクリニック、広島市佐伯区ではさくらウィメンズクリニックに妊婦健診ができるかかりつけ医として健診をお願いしています。休日・夜間等の緊急時にかかりつけ医に連絡が取れないときは最終的に当院が受け入れ病院となるシステムを広島県西部地域保健対策協議会で 2012 年に構築しました。

年間の母体搬送を約 90 件程度受け入れており、県内でも有数の母体搬送受け入れ病院となっています。但し当院には NICU がなく 35 週未満での早産が予想される場合には他院に搬送をしています。悪性腫瘍に関しては、当院は日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設であることから悪性腫瘍の患者さんが多く、手術・化学療法・放射線治療等で集学的治療を行っています。また良性疾患に対しては積極的に腹腔鏡下手術を取り入れており、骨盤臓器脱には手術療法を積極的に行っています。

■診療実績

分娩数	512 件 (2015 年度 579 件)
手術数	482 件 (2015 年度 561 件)
悪性腫瘍	子宮頸癌 10 例
	子宮体癌 23 例
	卵巣癌 15 例
	その他 6 例

■研究活動

JGOG（日本婦人科悪性腫瘍研究機構）の臨床治験にも多くの症例を登録しています。

2012 年 1 月から広島大学病院産科婦人科との共同研究として「子宮内膜症術後再発抑制に対するディナゲストと GnRH 製剤の有効性と安全性に関するランダム化並行群間比較試験」を行っています。

眼科

■ スタッフ

主任部長 二 井 宏 紀 (1986 年卒)

資格 眼科専門医

専門 緑内障、白内障

部 長 末岡 (井上) 千絵 (2007 年卒)

資格 眼科専門医

専門 眼科一般

■ 診療科紹介

眼科スタッフは医師は昨年同様、当院が 18 年目の私 (二井) と 5 年目の末岡 (旧姓井上) 千絵先生です。他は、看護師 (うち OMA の有資格者 1 名) が 2 名、視能訓練士が 3 名で、他に事務 1 名 (OMA の有資格者)、医師事務作業補助者 1 名 (OMA の有資格者) の計 9 名と、変化ありません。

■ 診療実績

午前は外来診療、手術は週 3 回午後から行っており、概ね一日 5 例行っており、毎年微増傾向です。

2016 年度手術件数は、白内障手術 426 例、緑内障手術 63 例、緑内障手術後 (線維柱帯切除術後) の濾過胞再建術が 37 例、その他 15 例、計 541 例です。他に、糖尿病網膜症・加齢黄斑変性症・網膜静脈閉塞症に対するマキユエイドテノン嚢下注射とルセンティス・アイリーア硝子体注射を合わせ 130 例に施行しています (注射後感染の可能性を少しでも減らすため手術室で行っています)。緑内障手術の内訳は、線維柱帯切開術が 18 例、線維柱帯切除術が 27 例、白内障手術併用線維柱帯切開術が 12 例、白内障手術併用線維柱帯切除術が 2 例、白内障手術併用隅角癒着解離術が 3 例、虹彩切除術が 1 例、線維柱帯切除術後の濾過胞再建術が 37 例と増加傾向です。最近調べたところ当院で緑内障点眼を 3 剤以上投薬している緑内障患者さんが 53% もおり、緑内障点眼を減少させ QOL の向上を目指し 2016 年末から合併症の少ない極小切開緑内障手術 (低侵襲緑内障手術) であるマイクロフック線維柱帯切開術 (眼内法) を積極的に行っています (2017 年の 1 ~ 6 月で 40 例)。白内障手術は、全国でもトップレベル

である極小切開白内障手術 (切開幅 2.2mm) を行っています。幸い 2016 年度も白内障手術・緑内障手術ともに最も忌むべき合併症である術後感染や駆逐性出血は経験しておりません。

■ 研究活動

手術症例の多い緑内障・白内障をメインに学会報告・論文発表を行っています。また、緑内障治療薬に関し広島大学眼科との多施設共同研究も行っており、2016 年の臨床眼科学会で末岡が発表しました。また、緑内障新薬の治験も行っています。



耳鼻咽喉科

■ スタッフ

主任部長 高 本 宗 男 (1992 年 広島大学卒)

日本耳鼻咽喉科学会専門医

気管食道科学会専門医 めまい相談医

部 長 長 陽 子 (2005 年 浜松医科大学卒)

日本耳鼻咽喉科学会専門医

副 部 長 津 村 薫 (2009 年 兵庫医科大学卒)

日本耳鼻咽喉科学会専門医

2016 年 8 月から広島大学病院耳鼻咽喉科へ移動

医 師 弓 井 康 平 (2014 年 杏林大学卒)

広島大学病院耳鼻咽喉科より 2016 年 8 月から着任

■ 診療科紹介

2016 年の 8 月に津村 薫医師が広島大学病院へ移動となり、代わりに大学病院から弓井康平医師が着任しました。ひきつづき、耳鼻咽喉科医師の 3 人体制にて耳鼻咽喉科全般の診療にあたっています。

■ 診療実績

現在当科の診療体制は午前中の一般外来と火曜日・木曜日の午後に手術、月曜日の午後は甲状腺疾患の外来、水曜日・金曜日の午後は局所麻酔下の外来小手術や嚥下機能検査などを行っています。

2015 年の 8 月から耳鼻咽喉科外来内に超音波検査（エコー検査）機器を配置していただき、一般外来診察中にすぐに検査を行うことが可能であり、2014 年度には年間 416 件であった甲状腺を中心とした頸部のエコー検査が 2015 年度には年間 671 件、2016 年度には年間 851 件まで増加しています。また、2017 年 1 月からは超音波検査機械が新機種を導入され、さらに微細な病変の観察も可能になりました。（図 1）



図 1 甲状腺超音波検査

手術治療は耳鼻咽喉科一般で行われている扁桃・アデノイド手術や内視鏡下鼻内鼻副鼻腔手術、直達喉頭鏡下の声帯手術（ラリンゴマイクロ手術）のほか、唾液腺・甲状腺手術を中心に行っています。手術件数は 2015 年度の途中に耳鼻咽喉科専門医である津村医師から専門医研修中である弓井医師への交代がありましたが、2016 年度も 224 件と年間 200 件以上を維持しています。

また、当院のリハビリ科言語療法士（ST）と連携して、主に入院中の患者さんを中心に嚥下機能評価検査を担当し、内視鏡下での検査と透視造影にて経口摂取による栄養確保の可否の判定なども行っています。（図 2）



図 2 内視鏡下嚥下機能検査

放射線治療科

■ スタッフ

主任部長 伊 東 淳 (1995 年卒)
医学博士、
日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会認定治療専門医、
日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医

医 員 廣 川 淳 一 (2010 年卒)

■ 診療状況

診療放射線技師は 3 名体制で、海老谷京子（科長・放射線治療品質管理士）、中村哲之（放射線治療専門技師）、砂田研二が常勤で担当しています。他にローテーションが 1 名です。

看護師は河野佐代子（がん放射線療法看護認定看護師）、受付は奥田志帆です。

以上 8 名で診療に当たっています。

■ 診療実績

1) 脳・脊髄	2
2) 頭頸部	17
3) 食道	20
4) 肺・気管・縦隔	39
4) のうち肺	37
5) 乳腺	66
6) 肝・胆・膵	11
7) 胃・小腸・大腸	12
8) 婦人科	5
9) 泌尿器系	56
9) のうち前立腺	46
10) 造血器・リンパ系	2
11) 皮膚・骨軟部	6
12) 良性疾患	2

2016 年度の新患数は 238 人（昨年度 217 人）、のべ治療患者数は 276 人（昨年度 235 人）です。新患の原発巣別内訳は上記の如くです。

高精度放射線治療としては、前立腺癌の IMRT を 22 人（昨年度 12 人）に、定位照射（脳）を 1 人（昨年度 0 人）に施行しています。体幹部低位照射は 0 人（昨年度 1 人）でした。

■ トピックス

2015 年 1 月 に、SIEMENS 社 製 CT SOMATOM Definition AS OPEN が治療計画専用 CT として導入されました。大口径であり定位照射などの撮影ができること、また管球容量が高いため広い範囲の scan

が一度に行え、全脳・全脊髄照射などが容易にできるようになっています。

【診療科紹介・当科の特徴】

放射線治療は手術、抗がん剤とならぶ、癌治療の 3 本柱です。

メスを入れずに癌を治療する、したがって体にやさしい治療であることが放射線治療の特徴です。また、臓器を残す（温存する）ため、機能・形態が温存可能というメリットがあります。

また、（治癒をめざした）根治照射から、（症状軽減のための）緩和照射まで、その役割は多岐にわたります。

全身のあらゆる疾患が対象になるので、
水曜日；cancer board（消化器内科・外科・画像診断部・当科）

水曜日；呼吸器カンファレンス（呼吸器内科・呼吸器外科・画像診断部・当科）

水曜日；乳腺カンファレンス（乳腺外科・画像診断部・当科）

木曜日；緩和ケアカンファレンス（消化器内科・麻酔科・外科・呼吸器内科・精神科・栄養科・リハビリ・薬剤部・地域連携・当科）

と院内でもカンファレンスが多いのも当科の特徴です。

他には

① IMRT、体幹部定位照射といった高精度放射線治療をおこなっている一般病院。

② 化学放射線療法では抗癌剤の効果を最大限に活かすよう時間調整している。

③ 毎回 EPID で写真を撮り、より正確な照射を行うよう取り組んでいる。

④ 病棟を持ち、とくに化学放射線療法の患者・緩和照射の患者の主治医となっている。

などが、当科の特徴といえるかと思います。

また、がん拠点病院の要件ともなる、（医療従事者向を対象とした）放射線治療講習会を年 1 回開催しています。

今後も、がん拠点病院における放射線治療部門として、広島県西部の癌治療に貢献していきたいと考えています。

画像診断部

■スタッフ

主任部長 西 原 礼 介 (1994 年卒)
放射線診断専門医

部 長 岡 崎 肇 (1993 年卒)
放射線診断専門医

部 長 土 田 恭 幸 (2000 年卒)
放射線診断専門医

医 員 廣 延 綾 子 (2010 年卒)

医 員 石 崎 宏 美 (2010 年卒)

■診療科紹介

- CT、MRI、核医学等各種検査の画像診断や、造影検査（胃透視、注腸）の読影をしています。
- IVR は、肝細胞癌に対する TACE、膀胱癌動注のためのリザーバ留置、救急での外傷、動脈出血に対する塞栓術などを行っています。
- 肝切除前に残肝を肥大させる目的で、消化器内科・外科と協力して経皮経肝門脈塞栓術（PTPE）を施行しています。
- Nonvascular IVR として、CT を利用した生検（CT ガイド下生検）や膿瘍ドレナージ（CT ガイド下ドレナージ）を行っています。
- 健康管理センターの依頼で、脳ドックを行っています。脳ドック受診者のうち、本年度から希望者に毎日結果説明を行っています。また、検診バスの胃透視の読影を行っています。本年度からは検診マンモグラフィーの読影を開始しました。
- 開業医の先生から CT、MRI や骨塩定量、マンモグラフィーなどの検査依頼を受け、その検査や画像診断を行っています。
- 救急外来などからの時間外の読影依頼を在宅で行えるようなシステムが構築されています。
- 造影剤副作用発生時の対応のシミュレーションを放射線技師や看護師と施行しました。
- 呼吸器内科・呼吸器外科・放射線治療科の三科カンファレンスへの参加、乳腺カンファレンスへの参加、救命救急センターと画像カンファレンスを

毎週行っています。

- GE 社製 256 列 Revolution CT を導入し、精度の高い検査が可能となりました。

■診療実績

2016 年度 放射線診断業務

CT	21398
MRI	7571
消化管造影	2066
核医学	1103
血管造影	569
IVR	1011



写真 1) 256 列 Revolution CT とともに

麻酔科

■ スタッフ

副院長 麻酔科主任部長

中 尾 正 和 (山口大学 1979 卒)
臨床研修プログラム責任者、臨床研修指導医、医学博士、
麻酔科学会麻酔指導医、広島大学医学部臨床教授、
ICLS インストラクター、JPTEC CMD、
査読者；Journal of Anesthesia、日本臨床麻酔学会雑誌、
麻酔と蘇生
(2002 / 4 -)

地域救命救急センター長

吉 田 研 一 (広島大学 1984 卒)
救急・集中治療部門責任者、医学博士、臨床研修指導医
(1997 / 4 -)

救急麻酔科主任部長

古 賀 知 道 (広島大学 1995 年卒)
麻酔科学会麻酔指導医、臨床研修指導医
(2015 / 7 -)

本 多 亮 子 (愛媛大学 1998 卒)
麻酔科学会麻酔指導医、米国心臓学会認定 ACLS インストラクター、
集中治療医学会認定医、臨床研修指導医 (2011 / 4 -)

村 上 俊 介 (広島大学 1998 卒)
麻酔科学会認定医 (2016 / 4 -)

副 部 長 梅 田 絢 子 (愛媛大学 2007 卒)
麻酔科学会専門医 (2013 年度取得) (2012 / 4 -)

副 部 長 河 本 佐 誉 子 (広島大学 2008 卒)
麻酔科学会認定医 (2015 / 4 -)

医 員 片 岡 宏 子 (広島大学 2009 卒)
麻酔科後期研修、麻酔科学会専門医 (2016 年度取得)
(2012 / 9-2017 / 3)

医 員 佐々木 幹 子 (川崎医科大学 2009 卒)
麻酔科後期研修中、麻酔科学会認定医 (2015 / 7 -)

石 井 裕 明
広島大学歯学部歯科麻酔科より医科麻酔研修
(2016 / 4-2017 / 3)



2016 / 11 撮影

■ 診療実績

▶ 2016 年度の総手術件数は 5858 例で、うち麻酔科管理は 4072 例で、中央部門として大きな役割を果たしています。

	全症例 (%)	麻酔科管理 (%)
総 数	5858	4072
予 定	3968 (67.7)	2858 (70.2)
追 加	1074 (18.3)	608 (14.9)
当 日 緊 急	816 (13.9)	606 (14.9)

▶ 予定手術（前週水曜日正午の計画締め切り）以降に申し込まれた追加手術、当日申し込みの緊急手術と計画後手術が比較的多いのが特徴です。とくに、各科管理では追加手術 18%、緊急手術が 14% で、追加手術が多く、計画性の問題も憂慮されます。

▶ 麻酔管理の診療科別内訳は外科 893、整形外科 1296、泌尿器科 366、産婦人科 452、耳鼻科 243、心臓血管外科 190、呼吸器外科 167、口腔外科 74、脳外科 166、皮膚科 30、形成外科 43、眼科 12 などで新生児を除く多岐にわたっています。

▶ ペインクリニック；平日午前のみですが、外来で痛みをもつ患者の治療を担っています。

▶ 救急・集中治療（地域救命救急センター、ICU のセクション参照）

■ 機 器

▶ 麻酔ワークステーション；ドレーゲル社全身麻酔器 Fabius GS をベースに、フィリップス社インテリビューモニターを統合し、安全で信頼性の高いシステムを構築しています。セボフルラン専用気化器はすでに全室に配備されていましたが、2014 年度にデスフルラン専用気化器も全手術室に配備完了しました。麻酔ガスモニターが更新され、コンパクトで高精度なモジュール型になりました。

▶ 自動麻酔記録システム；paperChart を神戸海星病院の越川正嗣 Dr と共同開発したもので、静脈麻酔薬を投与するポンプもオンライン接続して活用しています。

- ▶ 高次脳波モニター BIS の全室配備；患者さんの術中覚醒防止と麻酔薬の調整に有用な BIS モデル A2000Xp を全手術室に配備し全身麻酔患者さんに利用しています。当院のように手術室が 9 室あるような大きめの一般病院では全国で数番目と早期から導入されています。実際の麻酔の品質管理にも役立てています。
- ▶ 筋弛緩モニタリング TOFwatch Sx monitor を全手術室に配置し、PC への取り込み客観的な筋弛緩レベルを記録・確認しています。
- ▶ エコーガイド下の末梢神経ブロックも積極的に取り入れています。

■ 基本活動

- ▶ 麻酔科学会認定指導病院 (No 421)
 - ・ 初期研修医の医師としての基本的手技を含めた基礎教育
 - 1 年次必須ローテーション 10 名 8wks
 - 2 年次選択ローテーション 2 名 4wks
 - ・ 後期研修医 (麻酔科) の養成指導
 - ・ ガイドラインによる歯科医師の医科麻酔研修 (12 ヶ月 1 名、6 ヶ月 1 名)
 - ・ 広島大学医学部生に対する学外教育
 - ・ 救急救命士の就業前研修、就業後研修、気管挿管などの実習病院
 - ・ 女性麻酔科医師復帰支援機構の協力病院
 - ・ 看護学校での非常勤講師
- など、多くの役割を果たしています

■ 研究活動

- ▶ GlideScope、AirwayScope、McGRATH®MAC などのビデオ喉頭鏡による安全で速やかな気管挿管に関する研究
- ▶ ビデオ喉頭鏡を利用した、気管挿管技術習得の品質管理
- ▶ 気管挿管時の歯牙損傷予防に関する歯科口腔外科協力による歯牙プロテクタ作成とそのアウトカム研究

- ▶ 麻酔記録システム paperChart のビッグデータからの SpO2 低下症例、血圧低下症例の調査

■ その他活動内容

- ▶ 救急蘇生の講習会 日本救急医学会認定 ICLS 認定コース 開催
- ▶ 外傷のプレホスピタルケア JPTEC 認定コース 開催 CMD (中尾)

歯科口腔外科

■スタッフ

主任部長 原 田 直 (1986 年卒)
口腔外科学会専門医、口腔外科学会指導医、
癌治療認定機構暫定教育医、臨床歯科医研修指導医、
歯学博士

医 員 大 井 尚 志 (2013 年卒)
二 神 聡 (2015 年卒)

■診療科紹介

口腔外科を専門として診療をしています。一般開業医では、困難な口腔・顎・下顔面の疾患の診療、入院処置、手術を中心とした専門的治療を行っています。

主な疾患は、がんや良性腫瘍、粘膜疾患、骨折、顎関節症、歯が原因の感染症などがあります。

もう一つの特色として、周術期口腔管理を行っています。口腔は大きな感染源であり、医科での全身麻酔下での手術、化学療法、放射線治療に伴う口腔合併症は、食事量の低下、粘膜炎、誤嚥性肺炎を誘発し、術後感染など予後の低下や生活のレベル低下、入院日数の延長につながります。このようなトラブルを防止・軽減するため、医科と連携し、口腔管理・口腔保清を行っています。

■診療科内容

当科で扱っている主な疾患

- 1：顎顔面の外傷・骨折等
- 2：悪性腫瘍（舌がん、歯肉がん、唾液腺がん、肉腫等）
- 3：良性腫瘍（顎、歯肉、舌、軟組織、唾液腺等）
- 4：歯性感染症（蜂窩織炎、膿瘍、薬剤性顎骨壊死、上顎洞炎等）
- 5：顎関節症（顎関節脱臼等）
- 6：口腔粘膜疾患（白板症、扁平苔癬、ヘルペス、口内炎等）
- 7：神経疾患（三叉神経痛、顔面神経麻痺等）
- 8：周術期口腔管理（医科での手術・放射線治療・化学療法中の口腔管理）
- 9：その他：（味覚異常・舌痛症、歯科金属アレルギー）

■診療実績

【口腔外科】

主な手術件数は以下のとおりです。

・全身麻酔下

悪性腫瘍手術：9 件 骨折：3 件 良性腫瘍：36 件 唾液腺疾患：2 件 歯性感染症：4 件 薬剤性腐骨除去：4 件 プレート摘出 3 件 埋伏抜歯術：15 件

薬剤性腐骨に関しては、（デノスマブ、ビスホスホネート等）投与中の歯科治療（抜歯等）のガイドラインでは、顎骨壊死の起こる可能性は、10000 人に 1 人と言われていますが、当科では、全身麻酔が必要な広範囲の腐骨例は 2015 年度：4 件あり、外来局所麻酔下での腐骨除去を合わせると、10000 人に 1 人のデータには疑問が残ります。

また BP 関連製剤投与中での顎口腔外科手術の施行について賛否両論ですが、顎骨壊死の原因の 8 割近くに抜歯操作が加わっていることも事実です。

・外来小手術

骨内埋伏・水平埋伏抜歯や小病変の摘出など約 400 例

【周術期口腔衛生管理】

周術期の口腔管理ののべ人数は以下のとおりです。

2014 年度：1031 名、2015 年度：2009 名 2016 年度：2451 名と年々増加しています。

歯科介入することで、在院日数の減少や抗生剤の使用の低下につながっています。

■学生指導

広島高等歯科衛生士学校、広島デンタルアカデミー専門学校、IGL 医療福祉専門学校の 3 校の実習受け入れを行っており、次世代の歯科衛生士の教育を行っています。

■研究活動

日本口腔外科学会認定研修施設です。口腔外科学会など全国学会が主催する顎・口腔疾患、口腔外科疾患調査の実施や口腔がん登録などに参加しています。

今後も西部地区の医療機関からの紹介患者様の受け入れ、当院各診療科の治療成績の向上、治療時のリスクの除外など医科診療科との連携を図る医療を行っています。

救急・集中治療科

■スタッフ

地域救命救急センター長

主任部長 吉田 研一 (1984 年卒業)

医学博士

日本救急医学会専門医

臨床教授 (広島大学 救急医学)

集中治療・救急医療

部長 櫻谷 正明 (2007 年卒業)

日本救急医学会専門医

集中治療・救急医療

医員 河村 夏生 (2010 年卒業)

日本救急医学会専門医

集中治療・救急医療

医員 筒井 徹 (2013 年卒業)

集中治療・救急医療

■診療科紹介

2016 年度、当科は、総勢 4 名で救急・集中治療の診療行為を施行しました。また当院は日本救急医学会認定救急専門医研修施設でもあり、新専門医制度においても専門医研修施設となるよう申請をおこない、その認可を得ました。

救急・集中治療科は、「内科系、外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し強力かつ集中的に緊急治療・看護を行うことにより、その効果を期待する」部門です。

このたび、2011 年 4 月から地域救命救急センターとして、組織変更し、より患者さんへもわかりやすい救急体制が認可されました。地域に愛され信頼される急性期病院として、さらに設備と体制の整備をすすめていく計画です。御支援をよろしくお願いします。

■診療実績

2016 年度

年間救急搬送患者数 3591 台

年間救急来院患者数 5684 人

2016 年度の年間重篤患者数を表 2 に示す。

表 救急・集中治療科実績 (厚生労働省報告)

(人)

番号	疾病名	患者数	退院・転院	死亡
1	病院外心停止	152	3	149
2	重症急性冠症候群	93	76	17
3	重症大動脈疾患	28	21	7
4	重症脳血管疾患	111	72	39
5	重症外傷	77	73	4
6	重症熱傷	3	2	1
7	重症急性中毒	32	32	0
8	重症消化管出血	68	65	3
9	重症敗血症	36	22	14
10	重症体温異常	8	7	1
11	特殊感染症	2	2	0
12	重症呼吸不全	62	38	22
13	重症急性心不全	72	63	9
14	重症出血性ショック	10	4	6
15	重症意識障害	22	20	2
16	重篤な肝不全	6	1	5
17	重篤な急性腎不全	12	11	1
18	その他の重症病態	7	4	3
合計		801	516	283

※上記のなかには敗血症、横紋筋融解症、各種ショックなど含まれない疾患もあります。

■診療科紹介

①重症感染症 (敗血症) 患者の救命率の向上

重症感染症 (敗血症) は、細菌によって引き起こされた全身性炎症反応症候群 (SIRS) です。細菌感染症の全身に波及したもので非常に重篤な状態であり、無治療ではショック、DIC、多臓器不全などから早晩死に至ります。もともとの体力低下を背景としていることが多く、治療成績も決して良好ではありません。当院でもその死亡率は高く、28-38% (2008-2015 年) の患者さんが亡くなられています。

Surviving Sepsis Campaign Guideline 2012 では循環管理だけでなく感染対策、続発する臓器不全や周辺病態に対しての集中治療が示されています。当院では特に初期蘇生の循環管理について early goal-directed therapy (EDGT) を積極的に推し進めています。

なお EDGT を行う場合は大量輸液によって肺の酸素化が障害される場合があり、人工呼吸器管理となることがあります。当院では高頻度振動換気法を導入し、その治療成績を検討しています。

②低温療法の導入

脳低温療法とは、脳が障害を受けた際に脳の障害がそれ以上進行することを防止するため、体温を低く保つ治療法です。通常、脳が重大な障害を受けた際には脳組織に浮腫が起こるほか、カテコールアミンやフリーラジカルなどが放出され、進行的に組織が破壊されていきます。救急の脳障害においては、この進行的な脳組織の破壊を抑制することで救命率・機能予後の向上が見込まれ、またそれを抑制する事が重要な課題となっています。

蘇生ガイドライン 2010（ACLS 2010）でも脳低温療法が新たに加えられたことを契機に、当院でも水冷式ブランケットを用いて患者の体温を 34℃程度に下げること、代謝機能を低下させて、脳内での有害な反応の進行速度を抑え、蘇生後脳症の治療成績の向上に努めています。

③オートプシー・イメージングの検討

オートプシー・イメージング（Autopsy imaging、Ai）とは、狭義では死亡時画像診断のことです。コンピュータ断層撮影（CT）や核磁気共鳴画像法（MRI）などによって撮影された死後画像により、死体にどのような器質的病変を生じているのかを診断することによって、死亡時の病態把握、死因の究明を目的とします。

当院では 2007 年よりオートプシー・イメージングを導入し画像診断部の支援のもとに、Ai 認定施設（クラス A）となっています。救急搬送された患者のうち、340 例近くの Ai 施行にて、約 4 割の患者の死亡原因の診断・推定に役立ちました。

救急搬送される症例には、自宅での服毒自殺や幼児虐待などの外因死の可能性がある症例が含まれます。体表の情報からこれらを判断するには限界があり、Ai を取り入れることにより正確な判断が可能になる可能性があります。外因死などが疑われる場合には、所轄の警察署へ検視依頼を行っています。

緩和ケア科

■スタッフ

主任部長 小松 弘 尚 (1985 年広島大学卒)
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医・指導医

■診療科紹介

緩和ケア科は 2007 年に発足した緩和ケアチームを母体として 2010 年に創設されました。2012 年 7 月に緩和ケア病床を西 8 階病棟の一角へ 5 床開床し、緩和ケア科を主科としての専門的緩和ケアを提供しています。現在は院内のプライマリー科から病床依頼があれば緩和ケア科へ転科しチームで方向性を共有し専門的な緩和治療の実践を行っています。

地域に対して、県から依頼された地域在宅緩和ケア推進事業の取り組みを行いました。中でも、がん患者が不安なく療養場所の調整が行われる事を目標とした両方向で利用できる緩和ケア地域連携パスを作成し、患者の緩和ケア提供体制を整えました。パスの使用件数は、2016 年度 16 件でした。今後は、地域医療者へ啓発し、利用数の増加も課題です。

緩和ケア科では患者の意思決定支援に対する取り組みとして、アドバンス・ケア・プランニング（後述）の実施・啓発と、2013 年 8 月から終末期医療におけるリビングウィル文書を導入しています。結果、文書の作成数は 30 件／年と増加しています。これらを用いて、治療の選択、療養場所の選択、終末期医療について患者の希望を中心としたケアの実践をしています。

【アドバンス・ケア・プランニング】

将来の不測の事態（不慮の事故・不治の病）に備えて、あらかじめ意志表示や準備・覚悟をしておく過程（プロセス）を言います。健常人であっても必要な過程ですが、がん終末期の方には喫緊の必須事項と考えて、十分な説明と御理解をいただけるように対応しています。このアドバンス・ケア・プランニングが実践されなければ、本人の望まない医療・療養となってしまう可能性があり、非常に重要な事項です。

■診療実績

(ア) 緩和ケア外来：2／週 水・木曜日午後診：原則として罹患がんの主科との併診により緩和ケアを提供しています。



(イ) 緩和ケア病床（西 8 階 5 床）：緩和ケア科を主科・プライマリー科医師を副主治医として診療しています。



■各部門の主な活動紹介

【薬剤調整】

個々の患者が使用する薬剤につき過不足ないように主治医と連携し調節し、症状緩和の必要な患者に対して患者・家族の理解が得られるよう薬剤指導します。

【がん患者リハビリテーション】

外来では加算の算定が出来ない背景もあり、主には入院患者が対象です。がんを抱える患者の日常生活動作に対応します。

【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者に合う食事の工夫を患者・家族へ指導します。

【がん患者管理指導加算】

がん患者管理指導加算はシステムを整え運用中です。がん患者管理指導加算 1 では各科主治医（緩和ケアに関わる医師に対する研修会を終了している）と認定看護師等が協力して患者の病状説明、その後の意思決定支援にあたります。がん患者のスクリーニングの運用を軌道に乗せて、そこから要望の出た患者へはがん患者管理指導加算 2 も利用して対応しました。2016 年度緩和ケア科では、がん患者管理指導加算 1 の算定件数が 34 件。2 が 32 件でした。

健康管理センター

■スタッフ

診療部長・センター長／主任部長／臨床研究検査科部長

碓井 裕史 (1977 年卒業)

日本人間ドック学会認定医・産業医・臨床検査管理医

課長 (保健師) 久保 知子

主任 (保健師) 増本 順子

保健師 5 名

事務 6 名

業務委託 (受付・予約) 5 名

(車両業務) 1 名

臨時職員 (医師 5 名、看護師 6 名、助手 2 名、

臨床検査技師 2 名)

【取得資格】

人間ドックアドバイザー 5 名、禁煙専門保健師 1 名、健康運動指導士 1 名、転倒予防指導士 1 名、心理相談員 1 名

【所属学会】

日本人間ドック学会、日本癌学会、日本人類遺伝学会、日本農村医学会、日本乳癌検診学会、日本禁煙学会、日本転倒予防学会

【各種所属委員】

健康はつかいち 21 推進協議会

【担当事務局】

広島県農村医学研究所、広島県農村医学研究会
日本農村医学会

■概要

当センターでは、厚生連の基本理念に基づき、JA グループ・行政・医師会との連携によって広島県西部地域の JA 組合員、住民の健康管理活動の推進に努めています。病院併設型の機能を活かし、診療部門、臨床研究検査科、中央放射線科など優れたスタッフの協力により精度の高い健診活動に取り組んでいます。

■主な活動内容

1. 施設内健診は、当院独自の人間ドックに加え、廿日市市、広島市、大竹市、各健康保険組合等の委託ドック、各種がん検診他、10 月第 3 日曜日に JMS マンモグラフィサンデー (6 回目) を行いました。また、アミノインデックスがんリスクスクリーニング (AICS) 検査を新しく開始し、次年度に向けて本格的に取り組む予定です。
2. 巡回健診は JA グループ、廿日市市、佐伯地区医

師会等の委託健診を中心に実施しています。

3. 地域の健康教育活動

JA フェスティバル (JA 佐伯中央主催)、院内オープンホスピタル、廿日市あいプラザ健康まつり等でミニ健診、健康相談を実施、その他 JA 組合員健康教室や JA 広報誌の執筆活動も行っています。

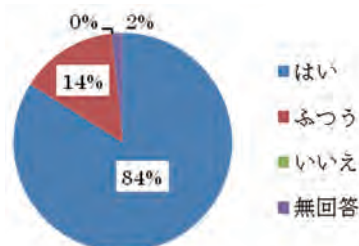
■トピックス

～受診者満足度調査チームの取り組み～

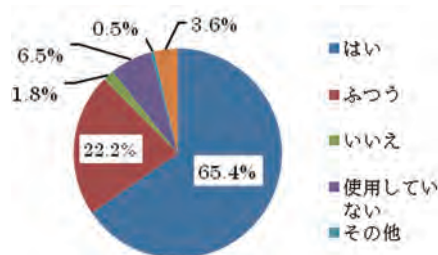
今年度は、健診を利用される方が安心・安全な健診を受けていただくため案内図 (当センター独自で作成したもの)、案内方法についてのアンケート調査を行いました。その結果、多くの方にわかりやすいと回答をいただきました。病院併設型のため各検査は診療科や検査部門で受診するなどご不便をおかけすることがありますが、待ち時間の減少や不安の軽減、安全の確保のためにも受診者にわかりやすい説明を心掛けて参りたいと思います。今回の結果をもとに伝え方の工夫や次年度の案内図の更新など改善活動にも取り組みました。

- ・実施期間： 2016 年 10 月 1 日～ 11 月 30 日
- ・対象：施設内人間ドック受診者 607 名
(うち受診歴 初回 89 名、2 回以上 519 名)
- ・アンケート回収率：97.2%
- ・アンケート結果 (一部抜粋)

Q1 当センターの職員は次にどうすれば良いかわかりやすく説明しましたか？



Q2 外来案内図 (健診専用) はわかりやすかったですか？



■ 2016 年度活動実績

○施設内健診

	実施日数（日）	受診者数（人）
入院ドック	18	18
外来ドック	232	2,668
協会けんぽ健診	189	1,271
原爆（一般・がん・2世）	268	324
脳ドック	185	308
肺ドック	110	142
膝ドック	35	41
個別子宮がん検診	76	85
個別乳がん検診	63	169
個別大腸がん検診	16	20
健康診断（一般・簡易）	139	378
健康診断（当院職員）*1	17	1,702
個別特定健診	30	53
骨密度	109	145
その他	27	213
計	1,514	7,537

○巡回健診

	実施日数（日）	受診者数（人）
生活習慣病予防健診	22	619
肝炎検診	4	24
胃がん検診	18	400
職員健診	57	3,729
大腸がん検診	4	363
特定・後期高齢者健診	4	407
その他	8	934
計	117	6,476

○保健指導

	実施日数（日）	受診者数（人）
特定保健指導	124	(初回) 39 (のべ) 162
施設内保健指導	232	2,869
健康教育	8	392
事後指導	7	97

■ 2016 年度がん検診部位別精密検査受診状況

○施設内検診

		受診者数（人）	要精検者数(人)	要精検率（%）	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	がん発見数(人)	がん発見率(%)
胃部	バリウム	1,256	38	3.0	25	65.8	0	0.00
	カメラ	2,109	232	11.0	213	91.8	4	0.19
胸部	レントゲン	4,782	225	4.7	189	84.0	3	0.06
	CT	142	8	5.6	8	100.0	1	0.70
大腸（便潜血反応）		3,826	179	4.7	105	58.7	5	0.13
乳部		1,205	87	7.2	83	95.4	5	0.41
子宮頸部		1,026	78	7.6	60	76.9	0	0.00
前立腺（PSA）		645	35	5.4	21	60.0	4	0.62

○巡回検診

	受診者数（人）	要精検者数(人)	要精検率（%）	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	がん発見数(人)	がん発見率(%)
胃部間接レントゲン	400	6	1.5	2	33.3	0	0.00
胸部間接レントゲン	4,580	26	0.6	10	38.5	0	0.00
大腸（便潜血反応）	1,642	83	5.1	31	37.3	1	0.06
前立腺（PSA）	377	8	2.1	0	0.0	0	0.00

形成外科

■ スタッフ

部長 長谷川 美 紗 (2003 年広島大学卒業)
資格 日本形成外科学会専門医、医学博士
専門 形成外科一般

■ 診療科紹介

身体に生じた組織の異常や変形、欠損、または整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、患者さんの生活の質の向上に貢献する、外科系の専門領域です。特定の臓器や部位が治療対象な訳ではありませんので、対象症例は多岐にわたります。

当科で特に力を入れているのは、加齢性眼瞼下垂症で、除皺術、上眼瞼挙筋前転術、筋膜移植術、すべての術式に対応しています。拡大鏡を用い侵襲の少ない治療を提供しています。

眼瞼周囲の疾患以外にも、腫瘍切除後の再建や外傷に伴う組織欠損、先天性疾患、難治性潰瘍など幅広く診療しています。

■ 診療実績

初診患者数	302 例
手術症例数	計 202 件
内訳 全身麻酔	67 件
腰麻・伝達麻酔	20 件
局所麻酔	115 件

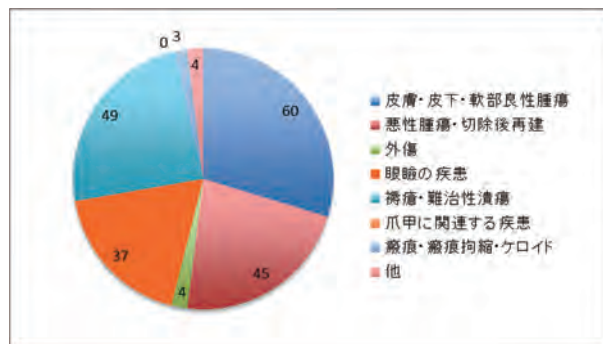


図1 2016年 形成外科手術内訳

■ トピックス

・形成外科教育関連施設として認定

広島県内における形成外科の認定・教育関連施設

はまだ少なく、認定施設は広島大学病院、広島市民病院、呉医療センター、福山市民病院の4施設、教育関連施設は、宮本形成外科、県立広島病院の2施設のみです。この度、これらの教育関連施設に参入することができました。今年度は手術件数も増加し、重症下肢虚血・糖尿病性壊疽、乳房再建など、他科との協力で行っている診療に加え、眼瞼下垂症手術、皮膚・皮下・軟部良性腫瘍も増加し、本当に充実した一年間でした。引き続き、持ち前のフットワークの軽さで、各病棟を駆け回ろうとおもいますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

・重症下肢虚血・糖尿病患者の大切断減少

当科では心臓血管外科とともに、重症下肢虚血・糖尿病患者の患肢救済に力を注いでいます。2012年に形成外科を開設いただいて5年間の経過でしたが、当院における大切断症例が減少し、趾のみ切断などの小切断にとどめられる様になりました。大切断に至らないようにするには、適切な時期に壊死組織を除去し、外用剤を変更しながら創部の状態を整え、断端形成や植皮術にて仕上げます。しかし、何よりも重要なのは、中枢側に感染を波及させないようにすることであり、患者さんに早く異常事態に気づき、医療機関に相談していただく必要があります。これらのことは当院だけでは成し得ず、患者さんへの啓蒙や、関連施設との連携をより進めていなくてはならず、今後も引き続き気を引き締めて診療にあたる所存です。

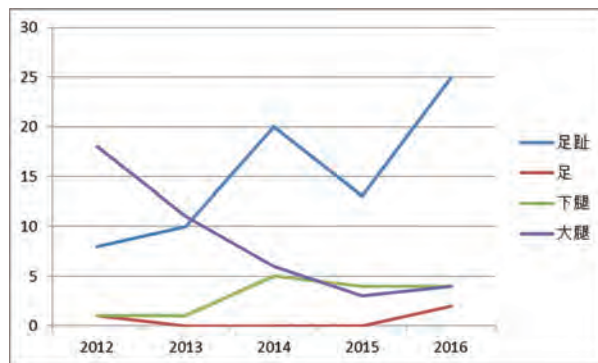


図2 重症下肢虚血・糖尿病性壊疽に対する切断レベル

病理診断科・病理研究検査科

■ スタッフ

主任部長	台 丸 裕
科 長	水 野 誠 士
臨床検査技師	6 名
事務	1 名

■ 取得資格

病理専門医	1 名
細胞診専門医	1 名
病理解剖資格	1 名
細胞検査士	4 名
国際細胞検査士	2 名
二級甲類臨床病理技術士	4 名
	(病理学 4)
診療情報管理士	1 名
認定病理検査技師	2 名
特化物四アルキル鉛等作業主任者	2 名

■ 所属学会

日本病理学会
日本臨床細胞学会
日本臨床衛生検査技師会

■ 業務内容

病理組織検査・細胞診検査・病理解剖

検査件数 (2016 年度)

組織検査	6093 件	(2015 年度 6021 件)
術中迅速検査	366 件	(// 408 件)
細胞診検査	6829 件	(// 7572 件)
術中迅速細胞診	106 件	(// 110 件)
病理解剖	3 件	(// 3 件)

■ トピックス

〈標本倉庫のお引越し〉

やすらぎ室の奥、解剖室前にあった病理の標本倉庫が、旧イオン内に引っ越しました。患者さんの組織を埋め込んだブロックとスライドガラスの標本は永久保存しているため、年々数が増えていき保管場所の確保が大変です。倉庫が少し離れた場所に移動

したため、過去の検体の追加検査や、標本貸し出しにお時間いただくこともありますが、ご理解をお願いします。

〈カセットプリンター導入〉

今まで、包埋カセットへの標本情報の記入は鉛筆での手書きで行っていましたが、誤記入や手書き文字の判読困難、文字が薄れて消える事がしばしば起こりました。カセットに直接印字することで、文字がクリアで分かりやすくなり、消える事もなくインシデント対策に有用です。また、今後、病理システムやスライドプリンターと連動させバーコード運用にする事で、今まで以上に標本作成時におけるミスが減少するものと思われます。



カセットプリンター
Tissue-Tek オートライト ネクスト

臨床研修科

■ スタッフ

＜2年目初期臨床研修医＞

内田 由紀、岡本 大輝、岡本 直通、小畠 啓史、
京田 尚子、佐藤 優季、田中 芳樹、難波 剛史、
平井 裕也、宮本 亮、安田 珠里

＜1年目初期臨床研修医＞

石橋 一樹、小西 宏奈、高橋 佑輔、竹原 悠大、
竹野 典子、田中 三千彦、田中 友理佳、
野村 晃生、松本 丈雄、武藤 雅幸、
森川 百合亜、吉村 晴香

＜歯科研修医＞

二神 聡

■ 概要

初期臨床研修医 1年目 12名、2年目 11名、歯科研修医 1名の計 24名で構成されています。当院の臨床研修プログラムに沿って各科をローテーションしながら、第一線の臨床医を目指し、必要な基本的臨床能力を身につけるため日々研修を行っています。

■ 活動内容

当院の臨床研修プログラムに則り、1年次は内科 6ヶ月、救急治療科 2ヶ月、麻酔科 2ヶ月、外科系選択 1ヶ月、自由選択 1ヶ月、2年次は産婦人科 1ヶ月、小児科 0.5ヶ月、精神科 1ヶ月、地域医療 1ヶ月、健康管理センター 0.5ヶ月、残り 8ヶ月を自由選択科で研修を行っています。当院にない精神科は草津病院とメープルヒル病院、または瀬野川病院で、地域医療は廿日市記念病院、吉和診療所、コールメディカルクリニック、南相馬市立総合病院で研修をさせていただいています。

日々の診療では、上級医の指導の下で急患対応や病棟業務などに携わらせていただいています。外科系の科では手術に入らせていただくこともあります。

知識や技術などまだまだ未熟な点も多いですが、その分患者さんに近い立場で、患者さんのことを考えて日々勉強に励んでいます。

日々の業務に加え、月に 4～5 回夜間・休日の当直も行っています。研修医 1年目・2年目 1人ずつと、

救急当直・一般当直の 2 人の上級医と 4 人体制で急患対応を行っています。研修医は救急車で搬送された患者さんや、近医からの紹介で来られた患者さんの初期対応を行います。救急搬送される患者さんには緊急度の高い人も多く緊張感のある時間になりますが、幅広い疾患を経験することができ、非常に勉強になります。

また毎週火曜日の早朝には、Early Bird Lecture と呼ばれる勉強会を設け、研修医の症例報告や上級医の先生からのレクチャーを行っています。自分自身の経験した症例を他者に伝えることで、その症例をより深く考え勉強する機会となり、またスライド作成や発表の練習にもなっています。

その他休日を利用して、BLS・ACLS、JPTEC、JATEC、FCCS、TNT など様々な講習を受講し、資格を取得したり有名な先生の講義を聴講したりと日々スキルアップできるよう励んでいます。また各科の学会にも積極的に参加し、上級医の指導の下全国学会で発表させていただく機会もあり、研修医ながら優秀演題に選ばれた人もいます。

各科の熱心な上級医の先生方やスタッフの皆さんに恵まれ、非常に充実した研修生活を送っています。



看護科

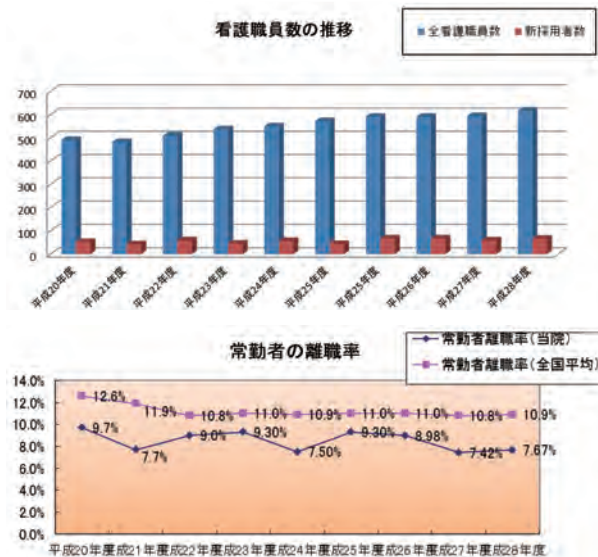
■看護科の理念

病院基本理念に則り地域の中核病院として看護の果たすべき役割を自覚して実践し、患者の安全と生活の質を守り地域社会から信頼される看護を目指します。

■2016年看護科目標

心と心の通い合うハートふるナースィング
—看護の質を語り・つなぎ・広がる看護—

■2016年度の動向



■2016年度の看護科の取り組み

1. 看護職の人材確保と定着推進活動

職場復帰支援策である「るんるん広場」を2回、開催しました。育児休暇中の24名の看護職員と可愛い子供達が参加しました。子育てと仕事の両立を先輩看護師から聴いて職場復帰への意欲に繋げることができました。



2. 看護の質向上に関する活動

看護実践能力の開発支援としてクリニカルラダー認定制度を2012年度より取り入れています。日々の努力を認め励ますキャリアナビ会（認定のための面接）は、モチベーションアップにつながると好評です。

これまでにラダーⅠ（新人レベル）は242人が認定されました。またラダーⅡ（一人前レベル）は197人、ラダーⅢ（ベテランレベル）は43人になりました。



3. 看護の普及啓発に関する活動

看護の日が制定されて25年を迎えました。地域の高校生たちが「ふれあい看護体験」の行事を通して看護や医療について考えていくきっかけをつくり、また患者さんとのふれあいを通して看護することや命について理解と関心を深めてもらう機会となることを目的に8月5日に開催し、65名の高校生が集まりました。

感想文より一部抜粋、「仲良くなった患者さんから頂いた句です。『指で○してうなずくや白衣のひと』これはめまいで入院したとき患者さんが詠まれた句で、眼の動きの検査が終わった時「オッケーです」と指で○を作って看護師さんが微笑んでくれたのが嬉しくてつくったそうです。この句からも看護師さんの優しさや思いやりを感じました。私も思いやりのあふれた現場で看護師として働きたいと思いました。」などふれあい看護体験から看護師になりたいという思いが強くなった1日でした。



外来

■スタッフ

科 長 中 元 美 恵

(内科、糖尿病センター)

藤 本 七津美

泌尿器科、耳鼻科、皮膚科、眼科、外科、
心臓血管外科・呼吸器外科、脳神経外科、
形成外科・整形外科、緩和ケア科、入退院センター

松 下 理 恵

中央採血室、内視鏡センター、中央検査処置室

主 任 山口 瑞穂、平外 仁美、平野 有紀

藤村 雅子、実平 明美、廣瀬 敏子

尾崎 直美、上本 枝美、岡田 恵美子

他 看護師 87 名 看護補助者 5 名

■外来の概要

2016 年度の 1 日平均外来患者数は、過去 5 年間で最高となり 1,074.8 人で、年度合計患者数は 262,093 人です。地域の住民の皆様当院を選んで受診していただいています。

私たち外来看護師は、これからも多くの患者さんの受診をサポートし、患者さんに選んでいただけるよう、質の高い看護を安心して提供できるように努力していきます。そして看護師だけでなく他職種連携のチーム医療を提供していきます。

■看護

患者さんのプライバシー保護

整形外科では、少しでも患者さんのプライバシーに配慮するため、神経根ブロックの検査時に、普段着で検査ができるようにしました。検査室に移動する際に、目立ちにくいため好評です。そのため、患者さんに検査に適した服装の案内を作成しました。

耳鼻科では、患者さんの受診時のプライバシーに配慮するため、各々の診察室のカーテンをこれまでの倍に長くして、入り口から全く隣を見えなくしました。さらに吸入のケア時にも、パーテーションで区切り、他者から見えない工夫をしました。



外来各科では、患者さんが少しでも「この病院、〇〇外来に来てよかった」と思ってもらえるように丁寧に笑顔で接するように心がけています。小さなことでも患者さんのために、よりよい看護に向けて工夫をしています。

■教育

泌尿器科、耳鼻科は専門的処置の習得のため、救急外来看護師の研修を受け入れています。また、内科では新人ローテーション研修の受け入れを行っています。

今後も外来、病棟との連携を取りながら、ジェネラルナースを目指します。

■院外活動

内科外来：第 13 回市民公開講座の中で「不摂生は災いのもと～気をつけよう心臓病～」の DVD を上映しました。内容は不摂生な生活を送っていた主人公が心臓病で倒れ、入院を経験し、生活を改めるというドラマです。このドラマの企画・作成・出演をしました。生活習慣について参加者に意識付けができました。



■トピックス

2016 年 5 月に開設された「患者入院センター」を紹介させていただきます。「患者入院センター」は、検査・治療を受けるために入院される患者さんが、入院に関わる不安を少しでも軽くしていただけるように、入院前に患者さん・ご家族へ入院説明をさせていただく部署です。

今後は、当院を利用される患者さんと支えるご家族が、入院から退院後の生活を安心して送っていただけるように、多職種との連携を強化し、サポートしていきたいと思っています。



外来治療センター

■スタッフ

科 長 野 村 昌 代

【化学療法治療室】	4名
がん化学療法看護認定看護師	2名
【放射線治療科】	1名
がん放射線看護認定看護師	1名
【透析室】	6名

主 任 実 平 明 美

透析療養指導員	1名
フットケア指導員	1名

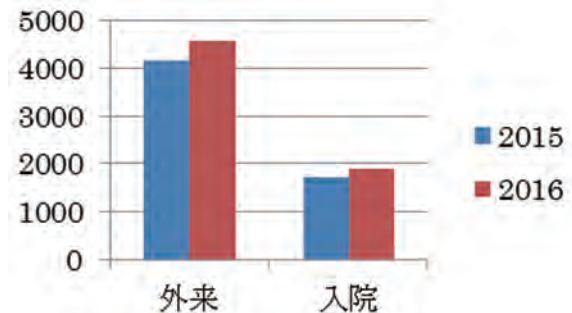
■概要

2016年4月より7対1の看護体制確立のために透析室が病棟から切り離されたことにより、化学療法治療室・放射線治療科・透析室の外来治療3部門を併せて外来治療センターとしての看護管理体制になりました。透析室は、外来透析6床と入院透析9床の15床を月水金は2クール・火木土は1クール。外来化学療法治療室は、10床をフル稼働させて、地域基幹急性期病院としての役割遂行に努めています。

■看護

当院では、がん化学療法初回導入時は入院で行うことを原則とし2回目以降は通院で可能な治療は外来にシフトしています。2008年に外来化学療法治療室を7階病棟に開設以降年々がん患者の治療件数は下がることなく、入院・外来共に上昇しており、2016年度の外来治療のべ件数は4,570件1日平均18.7人。入院による治療述べ件数も1897件でした。また、化学療法及び放射線療法の新規導入時オリエンテーション実施件数もがん化学療法が年間210件、がん放射線治療が年間240件と増加傾向にあり、がん治療を受ける患者家族の意思決定支援やセルフケアの実践指導など安全・確実な投与の専門的な関わりから信頼のおける治療提供に努めています。透析室においては、87.5%のベッド稼働率を占めています。毎月フットケア週間を定め、足の観察・ケアの実践指導や腎臓内科を主科にした外来患者18名の日常生活管理指導および他科における治療に準じた透析患者の安全で安楽な管理ケアと指導を実践

しています。



【がん化学療法治療実績】

■教育

がん化学療法投与においては、入院で携わるスタッフの経験が少ないことから、病棟ラウンドを行い直接臨床現場指導することで曝露問題の対応や過敏症・血管外漏出時対策について実践指導を行っています。また、がん看護教育の一環として、リンクナースの育成に院内におけるがん看護質向上委員会を通して、専門分野との連携を図っています。院内におけるラダー研修に参画し、がんに関わる次なる認定看護師の教育にも力を注いでいます。

他にもがん治療や透析に関わる新人ローテーション研修の受け入れによる実践指導教育に力を注いでいます。看護師だけでなく、院外からの薬剤師・栄養士・臨床工学士など多岐に渡って、他職種の研修にも合同参加しています。地域基幹病院として、近年増加傾向にあるCVポート管理について地域医療従事者を対象に教育指導を積極的に実施することで、地域医療従事者の方との連携と情報交換にも努力をしています。

地域救命救急センター

■ スタッフ

科 長 水 村 めぐみ
主 任 阿 部 伸 也
他 看護師 38 名 看護助手 1 名

■ 概要

当地域救命救急センターは、2011 年 4 月に開設し、6 年目を迎えます。

1 階の救急外来では救急医療を必要とする患者の救急車の受け入れや他院からの紹介など全科の救急患者の対応を行っています。2 階には 8 床(個室 1 床)のベッドを有し、小児・産科を除く全科にわたる救急患者が入院可能であり、夜間入院を主に受け入れています。

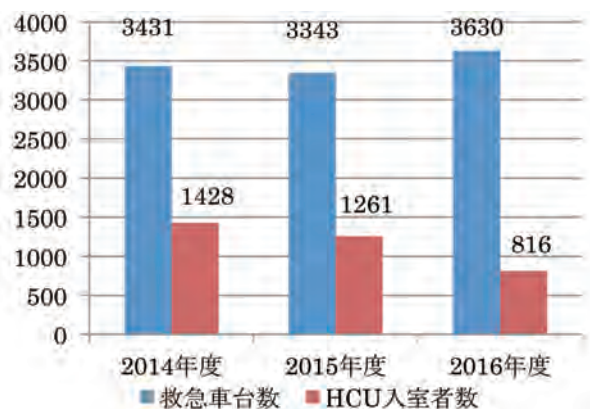


図 救急車台数と HCU 入室者数

■ 看護

救命救急センター開設 6 年目となり、救急看護の質の向上に向けて、看護チーム体制をとり、業務・マニュアルの改定や知識技術の向上に向けた勉強会を開催しています。

- ・呼吸器チーム
- ・循環器チーム
- ・初療チーム
- ・家族看護チーム
- ・災害チーム
- ・医療安全チーム
- ・創傷チーム

救急患者の受け入れの際は、日勤、夜勤ともに、外来リーダーと病棟リーダーが連携をとり、スムー

ズな受け入れができるよう心がけています。

救急外来では、他部門との連携を密にし、重症患者や急変時に素早く的確な対応を心がけています。HCU では、挿管患者の VAP 予防に向けたケア方法の統一を行い早期抜管に向けたケアの充実を行っています。

また外来、HCU とともに救命センターに来院される患者さんの家族は不安と緊張により、危機的状況にある事が多くあります。救急の看護師として「家族への看護の充実」を目標に問題提起や症例検討を行い、患者・家族ともに満足度の高い看護が提供できるよう日々努力をしています。

■ 教育

- ・各自の教育課題に応じ、BLS、ICLS、ACLS、JPTEC、JNTEC、FCCS などに参加し、集中治療・救急領域のスキルアップを図り、年々増加する患者に対応できるよう励んでいます。
- ・救急集中治療という厳しい環境のなかで新人看護師が萎縮することなく成長していけるような教育体制、教育支援の環境を整えています。
- ・医療、看護の質の向上のために、救急医からの勉強会、看護チームの勉強会を月 1 回以上行っています。

■ 院内における研究・発表

なし

ICU・西 3 階病棟

■スタッフ

科 長 丸 澤 葉志子
主 任 竹 野 香 織・辻 幸 枝
益 田 尚 恵・岡 崎 祐 也
他 看護師 22 名・看護補助者 1 名

■病棟の概要

定床 8 床で、重症集中治療を必要とする患者を受け入れています。2016 年度の実績は、入室人数 519 名。

入室患者の診療科（図 1）は、脳神経外科・心臓血管外科・循環器内科の血管系の疾患が約 8 割を占めています。その他の内訳は、呼吸器内科・腎臓内科・耳鼻科・歯科・乳腺外科です。

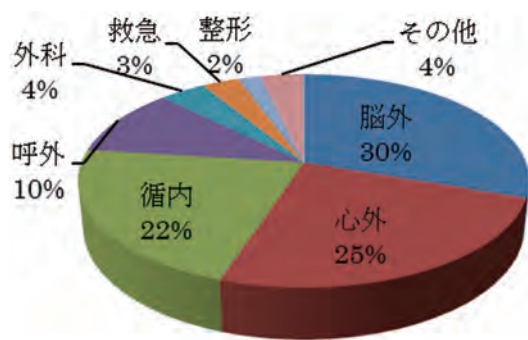


図 1 ICU 入室患者の診療科

■看護

病棟目標に「看護の質の底上げができる」とかかげ、他職種連携をはかり、新しい取り組みを始めました。

10 月～呼吸器外科術後患者の運動療法介入を開始しました。ICU で立位保持までのリハビリ介入後、一般病棟に転床しています。言語聴覚士（ST）と医師の協力を得、看護師による挿管チューブ抜管後の飲水テストの実施を開始しました。休日もタイムリーに飲水テストを実施することで、早期からの経口摂取への移行も可能となりました。また、誤嚥の危険性の早期発見にもつながり、誤嚥性肺炎の予防も可能となりました。前年度に引き続き、看護師が日々せん妄評価をすることで、最低限の抑制と苦痛緩和に努めました。

長期化する患者に対しては、他職種との合同カン

ファレンスを行い、癌患者に対しては緩和認定看護師の参加を依頼しました。

■教育

2016 年度より新人看護師を継続的に受け入れる体制となりました。今年度はスタッフ一丸となり、教育体制を見直し、新卒看護師の離職はありませんでした。さらに、リーダー育成にも力を注ぎました。

■院内における研究・発表

院内看護研究発表会

ICU におけるせん妄ケアに対するスタッフの意識及び行動の変化

ーせん妄アセスメントツールを使用してー

○山崎沙世 宮田明子

院外発表

第 44 回日本集中治療医学会学術集会

ICU での抜管後の看護師による嚥下機能評価の導入ー導入前後でのスタッフの意識変化と課題ー

○大野真由美 五百川典子 辻幸枝

第 18 回日本救急看護学会学術集会

救急・集中治療において予期しない身内の死を経験する家族の看護

○石橋采佳

西 4 階病棟

■ スタッフ

科 長 田 尾 由美子

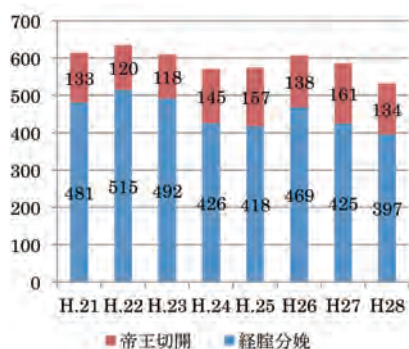
主 任 植 野 祐 子、杉 中 知 子、
横 山 祐 加 子

他：助産師 19 名 看護師 13 名 看護助手 3 名

■ 病棟の概要

診療科は産婦人科・外科系混合病棟で、病床数は 41 床、病棟稼働率は 77.4% です。平均在院日数は 7.7 日です。

2016 年度の分娩件数は 531 件で帝王切開率は 25.2% でした。近隣の有床施設からのハイリスク妊娠の母体搬送を積極的に受け入れています。



年度別分娩件数

婦人科では良性・悪性腫瘍手術、化学療法、異常妊娠、切迫流早産などの治療を行っています。

■ 看護

産科では外来保健指導を 2010 年 10 月から開始し、現在では全例妊婦を対象に行っています。2016 年にハイリスク妊婦のスクリーニング基準をマニュアル化し、より充実した指導を行っています。

また、妊娠中から支援が必要な特定妊婦を早期にピックアップし、市区町村の母子保健担当部署である、保健所・保健センター・女性健康支援センター・児童相談所・福祉事務所等と情報提供し、連携を深め、病院内でカンファレンスを行い、分娩後も健全に育児ができるよう支援しています。

婦人科では周手術期の看護や悪性腫瘍の化学療法・放射線療法の看護、終末期患者に対して同じ女

性としての目線で患者さん・ご家族に寄り添った看護を提供しています。

■ 院外活動

2016 年度も廿日市健康祭りでベビーマッサージを行いました。助産師 1 名が広島県看護協会の助産師職能委員として活動しています。

■ 教育

日本看護協会主催の助産師クリニカルラダー CLoCMiP レベルⅢ 認証制度で、6 名の助産師が認証を受けることができ、昨年度取得した 2 名を合わせると、現在 8 名がアドバンス助産師として活躍しています。



2016 年度は助産師出向システムを利用し、1 名の若手助産師が 2 ヶ月間、藤東産婦人科医院に出向し、キャリアアップを図りました。持ち帰った他院の助産技術を伝達し、共有できました。

月 1 回医師を含めた胎児心拍数モニタリングの勉強会を行い、知識の習得とスタッフ育成に取り組んでいます。

■ 院内における研究・発表

院内研究発表会

外来保健指導が妊婦の体重増加に与えた影響
～先行研究との比較により明らかになったこと～
研究者：春木優香 川上佳苗 大西千晴

西 5 階病棟

■スタッフ

科 長 西 村 留 美
主 任 龍 敬 子
主 任 岩 崎 文 江
他看護師 33 名 看護助手 3 名

■病棟の概要

診療科は整形外科で主に脊椎疾患患者の看護、急性期の外傷患者の看護を行っています。病棟スタッフは、看護師 36 名、看護助手 3 名で構成されており、勤務体制は 2 交代勤務です。

2016 年度の整形外科手術件数：1868 件 病床稼働率：85.8% 平均在院日数：11.8 日です。

■看護

当科では固定チームナーシング+受け持ち制を行っており、入院時に患者さんへ受け持ち看護師が挨拶し、入院から退院まで責任を持って継続した看護を提供することに努めています。

「患者参画型看護」を実施しており、患者さんご家族が看護問題の解決に参画することで個性が活かされ、相互の情報共有が、より安心して安全な看護の提供につながっています。今後も患者さんと共に考え、共に協力しあえる関係性を大切にして、信頼される質の高い看護が提供できるよう努力していきたいと考えています。

以下 7 つのチームに分かれ、業務改善や看護技術向上を目指して活動を行っています。

看護必要度チーム、シミュレーションチーム、クリニカルパスチーム、安全対策チーム、病棟勉強会チーム、在宅支援チーム、コンプライアンス・倫理チーム・接遇チーム

当病棟では、申し送り短縮のため、夜勤のリーダー看護師が申し送りに必要な患者情報を紙に記載し、その紙を各勤務の看護師が参照することで、情報共有を行っていました。しかし、患者情報の記載は夜勤リーダーの負担になっており、電子カルテの中で申し送りに必要な情報の一覧を作成し参照するシステム（看護申し送り簿システム）を情報企画課と協同で作成しました。看護申し送り簿システムによって、各勤務者が同時にいつでも情報を参照でき、申し送りや情報収集時間の短縮化、効率化、夜勤の業務負担軽減につながりました。



月号（メディカ出版）に掲載されました。

学会認定運動器看護師、美濃智子さんが中心となり開発的な看護を実践しています。西 5 階病棟で実践している頸椎前方手術後の嚥下障害に対応した食事開始までの手順や軸性疼痛の緩和、退院指導等、頸椎手術後の看護が整形外科看護 2016 年 7



■教育

個人の興味、関心に基づき、研修会に参加しています。年間計画を立てて研修会に参加し、研修会参加後は病棟内で伝達講習を行い、病棟看護師全体のレベルアップをはかっています。また、様々なシミュレーション教育を実施し、看護技術の習得を支援しています。

一年生のローテーション研修後は、他病棟での学びを病棟内で発表します。一年生の成長を形にすることで新人看護師のモチベーションを高めるとともに、一緒に喜ぶ機会としています。

スタッフ全員のキャリアラダー認定合格を目指すとともに、リーダーや実習指導者を育成し、スタッフがさらに成長できるように支援を続けています。

■院内における研究・発表

ドレーン・チューブ自己抜去予防のために手術前の患者情報で重視する視点

～整形外科病棟の看護師ヘインタビュー調査を行って～

○城谷ゆりな 林あかね 兼本友莉

西 6 階病棟

■ スタッフ

科 長 槌 谷 滋 乃

主 任 島 津 加奈子

竹 村 美 鈴

他看護師：31 名 看護助手：3 名

■ 病棟の概要

【診療科】消化器外科

【病床数】54 床

(個室 6 室…うち重症個室 1 室 4 人部屋 12 室)

2016 年度、平均病床稼働率は 84.4%、平均在院日数 15.7 日となっています。

■ 看護

「外科看護に特化した病棟」を目標としており、周術期看護の充実した取り組みを行っています。看護スタッフの専門性を強化するためにチーム編成を行い、クリニカルパスを使用した周術期医療・看護を行うチームと、癌患者の症状緩和と抗がん剤治療を中心とした非観血的治療を行うチームに分けています。その他にも他部署の協力を得ながら術後の合併症予防、特に早期離床に力を入れています。

2016 年度の看護目標は、

＊入院時、外来～病棟までの流れがスムーズにでき、また地域との連携を図り、生活者としての QOL を重視した医療を提供する。

＊いつでも安心して入院生活を過ごせるよう、安全な医療を提供する。

とし、日々の看護に励んでいます。

【ストーマ外来】

開設日：週 1 回（月曜日）

時 間：9 時～17 時

受 付：外科外来

場 所：西 6 階病棟

担当者：皮膚・創傷ケア認定看護師

中国ストーマリハビリテーション講習会受講者

■ 教育

毎月 1 回テーマを決め、勉強会を実施しています。

2016 年度に実施した勉強会を表 1 にまとめました。広範囲に専門的知識を習得するためコメディカル、認定看護師の協力を得て、勉強会を開催しました。

表 1：毎月勉強会

対象	研修内容
全スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ・ NIPP について（臨床工学科） ・ 薬剤血中濃度について（薬剤師） ・ 痛み止めについて（薬剤師） ・ 弾性ストッキングについて ・ 終末期患者の精神的ケア、エンゼルケアについて（認定看護師） ・ ストーマ管理について（認定看護師） ・ 廿日市の施設の特徴（地域連携室相談員）
新人スタッフ	疾患別外科看護（1 回／月）



■ 院内における研究・発表

術後患者の栄養管理カンファレンスの効果
～栄養管理に対する病棟看護師の意識変化～

西 7 階病棟

■ スタッフ

科 長 村 中 ひろみ
主 任 上 田 美 紀
山 本 時生子
他 看護師 32 名 看護助手 3 名

■ 病棟の概要

当病棟の病床数は 55 床、個室 7 室（うち特別室 1 室、重症個室 1 室）、4 人部屋 12 室を有する消化器内科病棟です。入院患者は内視鏡検査・治療や肝疾患治療が多く、クリニカルパスに沿って医療・看護を提供しています。

2016 年度の平均病床稼働率は 84.9% 平均在院日数は 13.5 日です。

■ 看護

看護体制は、固定チームナースング制をとっており、2 チーム二交代制で行なっています。検査当日の入院や緊急入院の患者さんも多く、限られた時間のなかでの情報収集や対応を心掛けています。毎朝チームカンファレンスを行い、患者情報の共有につとめ、協力して看護を行っています。患者さんが安心して治療を受けられるように、パンフレット（内視鏡的経鼻胆道ドレナージチューブ留置患者に対するオリエンテーションブック）やクリニカルパスを活用しながら、説明や指導を行っています。

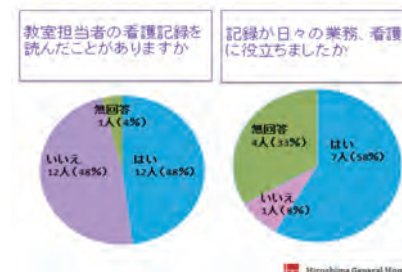
また、癌患者さんに対しては「膵がん・胆道がん教室」への参加を呼びかけ、多職種でサポートし、寄り添う看護に努めています。今年度から、教室の担当者を決め計画的な介入を開始しました。



患者からの“言葉”を生かした
看護が必要

教室担当看護師

教室に参加した患者の想いを、病棟看護師がどの程度理解しているのか調査する研究を行いました。



患者さんの想いや要望をチームで受け止め、看護に活かせるよう日々努力していきたいと思います。

■ 教育

新人看護師が専門的治療についての知識と技術を習得出来るようプリセプターが中心となり、プログラムに沿って勉強会を行なっています。「腹水再静注時の介助方法」「急変時の看護」についてはシミュレーションを行い、実践力を養っています。また、新人看護師一人一人にファイルを作成し、日々の指導看護師が、勤務中の気づきや課題などを記録しています。このファイルを活用しながら、新人看護師の成長をスタッフ全員で支え、見守っています。

その他、毎月開催している「消化器内科懇話会」では、病棟看護師や医師だけでなく、内視鏡センター看護師や他職種のスタッフも参加し、共に消化器疾患や治療について学んでいます。また、懇話会は、他職種との顔の見える関係作りができ、日々の業務連携をスムーズに行うためにも役立っています。

■ 研究発表

院内研究発表会

膵がん・胆道がん教室の現状と病棟での取り組み

○村中 由布子 村上 優子 川本 理恵

西 8 階病棟

■ スタッフ

科 長 鶴 谷 理 恵

主 任 高 原さおり・久 保 洋 子

他 看護師 32 名 看護補助者 4 名

■ 病棟の概要

西 8 階病棟は、病床数 56 床の呼吸器内科、放射線治療科、緩和ケア科、消化器内科の混合病棟です。2016 年度の平均在院日数は 17.0 日、病床稼働率は平均 82% でした。入院患者は間質性肺炎、細菌性肺炎、急性呼吸不全、気管支喘息、肺癌などの悪性腫瘍が主病名です。

緩和ケア科は各科より依頼のあった患者さんが転床、入院してきます。2016 年度は 40 名が入院し 30 名の患者さんを看取りました。緩和ケア科以外でも重症者や終末期の患者が多く 142 名の患者さんを看取りました。

西 8 階の病棟理念は、①急性期から慢性期へ切れ目のないケアを提供します。②苦痛なく療養できるケアを提供します。として、スタッフ一同、他職種と協働しています。

2017 年 2 月に病院機能評価のラウンド対象病棟として評価を受けました。

■ 看護

看護は固定チームナースングを取り入れ、チームリーダーを中心に質の高い看護の提供に務めています。病棟看護師は、毎朝ミニカンファレンスを実施し患者・家族の情報をスタッフ間で共有しています。また、緩和ケアのカンファレンスを毎日、呼吸器カンファレンスと退院支援カンファレンスを週 1 回他職種と行い、情報の共有と必要なケアが提供できるようにしています。



入院中に誕生日を迎えられる方にはスタッフのメッセージ入り色紙を渡したり、遺族の方のグリーフケアとしてお手紙をお渡ししたりしています。

看護師は患者さんやご家族が安心して納得して転院できるように MSW と協力して退院支援を行っています。在宅を希望される方には医師や多職種、開業医や地域の介護職の方々と退院前カンファレンスを行っています。今年度は 12 名の患者さんのカンファレンスを実施しました。



在宅酸素療法を行う患者さんへのパンフレットを多職種と協力して作成し、RCT チーム活動の立ち上げと普及に努めています。

毎年開催されるオープンホスピタルにポスターを出展し地域の方々にも西 8 階病棟の特徴をアピールしています。

■ 教育

看護の質を向上させるために新人教育担当と 2 年目以上のスタッフ教育とを分け、主任が中心となり年間勉強会の内容を企画し実施しました。講師は看護師だけでなく臨床工学士、医事課事務、管理栄養士、言語聴覚士など他職種の方にも協力をいただいています。

今年度の研修会参加率は 88.2% で知識・技術の伝達講習も行っています。

日本赤十字広島看護大学の実習を受け入れて、学生指導にも力を入れています。

■ 院内における研究・発表

2016 年度院内研究発表会

終末期患者に対する積極的口腔ケア介入が与える患者への効果

研究者：○熊谷由香 加島遙佳

東 3 階病棟

■スタッフ

科 長 野 田 明 美
主 任 畝 小百合、宮 本 英 美
他 看護師 30 名 看護助手 3 名

■病棟の概要

東 3 階病棟は、循環器内科・心臓血管外科を主とする混合病棟です。病床数は 44 床で、個室 12 室（うち重症個室 2 室）、4 人部屋 8 室あります。

循環器内科では、主に心筋梗塞・狭心症によるカテーテル治療や心不全・不整脈など、心臓血管外科では心臓弁膜症・心臓血管バイパス・胸部大動脈瘤などの関心術後やステントグラフト内挿術後などの患者さんが入院されます。

■看護

看護体制は固定チームナースング（2 チーム）を行っています。日々、チームカンファレンスを行い、意見を出し合いながら患者情報の共有に努めています。

心不全・心筋梗塞の患者さんに対しては、指導用のパンフレットを使用して、入院中および退院後の生活に向けて支援を行っています。

2015 年度より広島県心臓いきいき推進事業に参画しており、2016 年度は地域の医療従事者を対象とした研修会（心臓いきいきキャラバン）を 2 回開催し、心疾患を抱える患者さんやご家族を対象とした勉強会（心臓病教室）を毎月 1 回開催しました。

また、外来心臓リハビリテーションでは他職種と連携し、問診・モニタリング・指導等を行っています。



■教育

プリセプターが中心となり、スタッフと情報共有しながら病棟全体で新人看護師の教育・支援を行っています。

看護の質・向上に向けて計画を立案し、勉強会を開催しています。

また、個人の興味関心に基づき、院内外の研修会にも参加し、知識・技術の向上に努めています。

当病棟は山陽看護専門学校などの実習を受け入れており、実習指導者を中心に学生の実習目標が達成できるように支援しています。

■院内における研究・発表

第 22 回 日本心臓リハビリテーション学会学術集会心不全患者が入院する要因とは

～日常生活アンケートから～



東 4 階病棟

■ スタッフ

看護科長 川 村 洋 子
主 任 秦 真規子
主 任 辻 由利恵
他 31 名

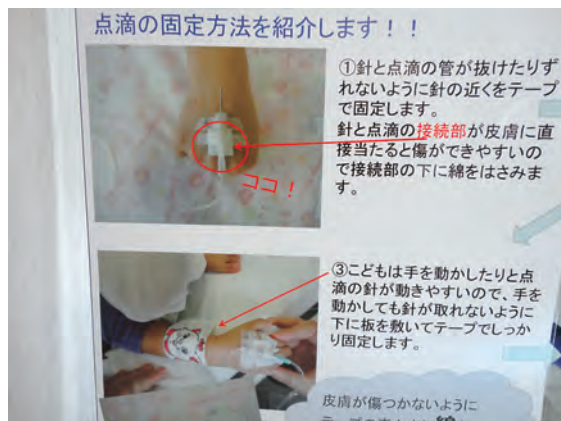
■ 病棟の概要

当病棟は小児科・眼科・耳鼻咽喉科を主と、ほか 14 歳以下の整形外科・形成外科など多くの診療科の患者を受け入れています。病床数は 43 床です。

入院患者の多くは廿日市市、広島市佐伯区、大竹市の方です。広島県西部地区における小児の入院の受け入れ可能施設は当院のみのため、小児の入院は多方面より受け入れています。

■ 看護

小児科入院中の患児は、治療のために末梢静脈血管確保をし、点滴を持続的に投与していることがほとんどです。安全で確実な点滴投与のためにも、患児の発達段階に応じた説明を行い、患児とご家族へ了解のもと、体動などで点滴針が抜けないようにシーネ（添え木）をあて、皮膚や循環障害がおきないように密に観察をし、看護します。2016 年度は、小児科の点滴もれ防止の強化をはかるため、小児科の点滴管理の手順と観察項目を見直し、点滴固定法の改善に取り組みました。また、ご家族への説明も工夫し、点滴刺入部の発赤や腫脹、固定テープの緩みなどの観察を協力依頼しました。その結果、小児科点滴もれ件数が減少しました。



■ 教育

スタッフのキャリアアップを目指して、病棟内で月 1 回以上の勉強会を行っています。

当病棟は、様々な診療科患者の受け入れをしており、勉強会のテーマも幅広く設定しています。

講師には、病棟看護師、医師、管理栄養士など多くの職種の方に協力をいただいています。

2016 年度 勉強会 内容

- ・ドレーン管理について
- ・尿路感染症
- ・腰椎圧迫骨折
- ・食物負荷試験
- ・災害対応
- ・咽頭癌と喉頭癌
- ・気管切開管理
- ・てんかん発作 等

11 月に開催されるオープンホスピタルでは、新人職員が子ども達とふれあい、小児看護へ活かすことを目的に参加し、練習したバルンアートを披露しています。



■ 院内における研究・発表

2016 年度院内研究発表会

「小児科での初回入院において学生の関わりが母親に及ぼす影響」

発表者 田邊 敦子

東 5 階病棟

■スタッフ

科 長 吾 郷 志津枝
主 任 坂 本 真由子・宮 崎 有 紀
中 満 美 幸
他 看護師 35 名・看護助手 2 名・介護士 2 名

■病棟の概要

定床 51 床で、一般病室（4 人部屋）7 部屋と混合病室（観察室 4 人部屋）3 部屋、一般個室 9 床、重症個室 2 床の病棟です。脳神経外科・口腔外科・消化器内科の検査入院の患者さんが入院される混合病棟です。

脳卒中（脳出血・脳梗塞・脳塞栓・くも膜下出血）の患者さんは、地域連携パスを使用して、地域の回復期リハビリテーション病院（廿日市記念病院・アマノリハビリテーション病院・大野浦病院・西広島リハビリテーション病院・五日市記念病院）への転院をサポートして切れ目のないリハビリを行える環境を提供しています。

■看護

看護師の勤務形態は、2 交代制、A チーム・B チームの 2 チーム制を取っています。

今年は、5 つのチームを編成しテーマごとに活動しました。

1. 退院時指導チーム

スタッフ指導を行い、スタッフが患者さん家族へパンフレット（脳卒中にかかられた患者様とそ
のご家族の方へ・脳卒中の後遺症）指導をしていくように力を入れました。



2. 問診表チーム

介護保険についての情報など、脳外科病棟が必要な情報が漏れなくとれるように病棟専用の問診

票を作成しました。

3. 急変シミュレーションチーム

講義・シミュレーター人形を使用し、シナリオを作成してのシミュレーション研修を行いました。今後も定期的実施していく予定です。

4. 勉強会企画チーム

臨床工学技士、リハビリスタッフ、管理栄養士を講師に勉強会を企画・運営し東 5 病棟の看護に必要な知識を身につけました。

新人看護師のための勉強会は担当を振り分け、病棟看護師全員で新人を育てています。

■教育

ラダーⅠに 6 名、ラダーⅡに 3 名の看護師が認定されました。ラダー認定もスタッフに定着し、来年度の受審のため計画的に研修に参加しています。今後はラダーⅢ取得に向けて頑張っていきます。

■院内における研究・発表

急性期脳神経外科病棟における遊びリテーションの有効性に関する検討～FIM 改善率と退院時 mRS に焦点を当てて～

◎山根伽奈・山崎克仁他

■生き生きとした職場作り

今年度は、スタッフ同士のレクリエーションに重きを置き 2 ヶ月に 1 度の昼の食事会、アルカディアビレッジでのバーベキューを行いました。病棟スタッフ全員参加は難しいですが、いろいろな行事を順番に参加できるようみんなで協力し合っています。



東 6 階病棟

■ スタッフ

科 長 古 井 良 子
主 任 前 田 智 子
主 任 手 島 未 貴
他 看護師 26 名 看護助手 2 名

■ 病棟の概要

東 6 階病棟は、病床数 49 床の泌尿器科・乳腺外科・皮膚科、他科診療科の受け入れを行っている混合病棟です。急性期の患者から終末期の患者まで幅広く看護を行っています。2016 年度に実践した周術期看護は、604 件で前年を維持しています。入退院も多く、総入院患者数 1441 名、総退院患者数 1480 名となっています。

手術、入退院数、在宅復帰率を 2015 年度と比較し、【表 1】に示します。前年度に比べ全体的に増加傾向となっています。今後も維持・増加を目指し病棟運営を行っていきます。

【表 1】2016 年度病棟概要

	2015 年度	2016 年度
年間入院患者	1303 名	1441 名
退院患者数	1387 名	1480 名
年間手術件数	604 件	604 件
在院日数	12.5 日	10.0 日
在宅復帰率	94.80%	93.10%
平均看護必要度	25.00%	29.40%

■ 看護

看護体制は、固定チームナースング制をとっており、2 チーム 2 交代制で行っています。

2016 年度は以下の病棟目標を立案しました。

1. 安全な環境を作りインシデントの件数の減少を目指す。

インシデント件数は転倒 21 件（目標 30 件）、薬剤関連 14 件（目標 30 件）でした。病棟内目標は達成しました。今後もより安全な医療、入院時から患者の状況に合わせた介入を実践し、質の高い看護を提供できるよう取り組み課題としていきます。

2. 各自が体調管理を行い健康に勤務する。
3. 専門チームが役割を果たし、質の高い看護ケア

を提供する。

専門性を高めるためにチーム編成（泌尿器科看護、アロマ認知症看護、乳腺外科看護、リスク管理、スキンケア）を行い活動しました。年間目標による計画立案のもと病棟内での勉強会や院外研修への参加を行い、病棟内のレベルアップに努めています。

■ 教育

- ・新人看護師教育はアソシエートナース、プリセプターナースを中心に年間教育プログラムを立案し、勉強会の開催、定期的に面談を行い、精神的なサポートと共にスタッフ育成を病棟全体で行っています。
- ・2016 年度のラダーⅡは 1 人 ラダーⅠは 3 人認定申請しました。
- ・重症度医療看護必要度評価者研修の受講者は 3 人となりました。病棟スタッフが適正な必要度の評価ができるように勉強会を行っています。
- ・2016 年度は病棟内の事例に基づき、BLS 研修会を行い急変対応のレベルアップをはかっています。

■ 院内における研究・発表

【院内】

- 急性期病院における「認知症集団ケア」の効果
～認知症患者が安心して療養できる環境をめざして

【ポスター展発表】

- 帯状疱疹について

東 7 階病棟

■ スタッフ

科 長 本 山 敏 恵
主 任 伊 藤 昭 範
主 任 上 本 枝 美
他 看護師 24 名 看護助手 2 名

■ 病棟の概要

【診療科】呼吸器外科 心臓血管外科

【病床数】43 床

個室 11 室（重症個室 2 室）

4 人部屋 8 室

【病床稼働率】82.08%

【平均在院日数】20.18 日

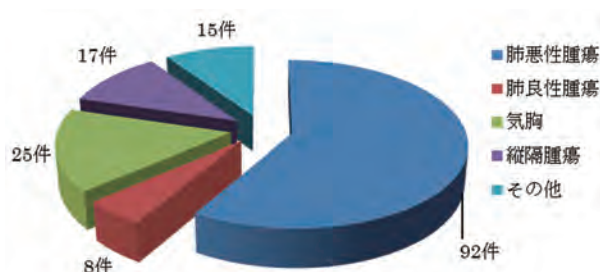
【1 日患者数】35.3 人

【主な疾患】

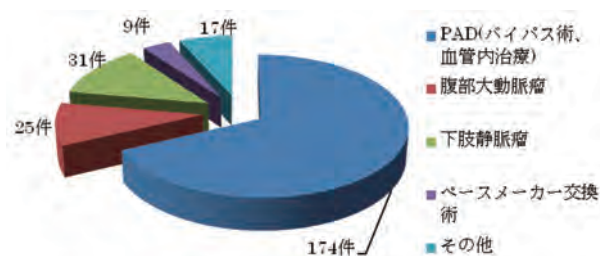
呼吸器外科：肺がん、気胸、膿胸、縦隔腫瘍

心臓血管外科：末梢動脈疾患、腹部大動脈瘤、
下肢静脈瘤

【手術件数】



(図 1) 呼吸器外科手術件数 (総数 157 件)



(図 2) 心臓血管外科手術件数 (総数 256 件)

■ 看護

看護体制は、固定チームナースング制＋受け持ち制をとっており、入院時より患者さんとの関わりを深めるとともに、情報共有を行いより良い看護が提供できるように努めています。病棟目標に掲げた小チーム活動として、認知症チーム、口腔ケアチーム、

転倒予防チーム、がん看護ケアチームの 4 チームを作成し、日々の看護について取り組みました。

また、入院時の術前より多職種で関わり、術後の早期離床、回復が出来るよう呼吸器外科と心臓血管外科それぞれカンファレンスを毎週金曜日に行っています。



そして、下肢血管チーム（心臓血管外科医師、形成外科医師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士、看護師）によるフットケア回診を行い、治療経過や方針を共有しています。

■ 教育

専門知識を習得し、スタッフのキャリアアップを目指して、病棟勉強会を月 1 回行いました。また、院外の勉強会にも積極的に参加し、日々のケアの向上に努めています。

看護学生の実習も受け入れており、日本赤十字広島看護大学の学生指導にも力を入れています。

〈2016 年に実施した病棟勉強会〉

- ・高脂血症に対応する内服薬について（薬剤師）
- ・サルコペニアについて（理学療法士）
- ・分子標的薬について（薬剤師）
- ・食事療法について（管理栄養士）
- ・皮膚に優しいテープの貼り方、はがし方（認定看護師）
- ・看護必要度について（委員会）

■ 院内における研究・発表

PAD 患者に対するフットケアの重要性
— 運動療法を継続するために —

○ 福本裕平

東 8 階病棟

■ スタッフ

科 長 新 田 克 己

主 任 加賀美 昌 美・松 浦 美由紀

他 看護師 27 名 看護助手 3 名

■ 病棟の概要

東 8 階病棟は、腎臓内科・糖尿病代謝内科の混合病棟です。

病床数は、個室 11 室および 4 人部屋 6 室の 35 床です。

看護体制は、固定チームナースングとパートナーシップ・ナースングシステム（PNS）の混合で行っています。

■ 看護

2 チームの固定チームの中で PNS を取り入れ、患者の情報をお互い共有し、また双方の経験値や知識・技術を共有し対等な立場で協力しあいながら看護を提供しています。

ケアの前に二人でアセスメント



腎臓リハビリテーションを取り入れた腎臓病教育入院（保存期腎不全）を導入し、医師・コ・メディカルの連携やスタッフへの指導を行い専門性の高い看護の提供に努めています。

糖尿病看護認定看護師（糖尿病療養指導士も取得）が 1 名在籍し、外来での指導・相談および連携・継続的看護の提供を実施しています。次年度に向けて、新たに 2 名の看護師が糖尿病療養指導士に挑戦します。

毎年あいプラザ祭りに参加し、糖尿病について啓蒙を行っています。



また、腎臓チーム、CAPD チーム、糖尿病チームの 3 つのチームに分かれ、業務の見直しや質の高い看護の提供について活動を行っています。

■ 教育

腎臓病教育入院の継続のため、今年度も勉強会を実施しています。

新人看護師教育は、プリセプターを中心に年間計画を立案し、毎月振り返りを行いながら個々に合わせた教育を行っています。

研修会への参加は、各自積極的に学びを深めています。

看護学生の実習は、日赤看護大学の学生を受け入れ、スタッフ・指導者との連携を取りながら力を入れています。

■ 院内における研究・発表

2016 年度院内看護研究発表会

・腎臓リハビリテーションの有効性についての評価
～再診時の面談を通しての検証～

研究者：○堀田泰寛 平田優奈

・ポスター展：もし透析と言われたら…



手術室

■スタッフ

科 長 村 田 美智子

主 任 生 田 佑 子・加 藤 智 恵

平 本 康 昂

他 看護師 31 名 看護助手 15 名

■概要

当院手術室は 13 診療科の手術を行っており、2016 年度の年間手術件数は 5,858 件（うち麻酔科管理 4,072 件、緊急手術 816 件）でした。地域救命救急センターを有する急性期病院として役割遂行に努めています。

近年手術件数は増加し続けており、この 5 年間で 834 件（17%）増加しています。その中、限られた資源を有効活用することで手術室の効率的運用を図り、2016 年の稼働率は午前中 54%と前年より +1% 増加しました。また、業務改善により看護師の負担軽減を図り時間外勤務は前年度より減少しました。



■看護

看護師 2 名で待機制をとり、365 日 24 時間緊急手術に対応できる勤務体制をとっています。

部署目標に“安全・安心な手術室看護の提供”を掲げ、

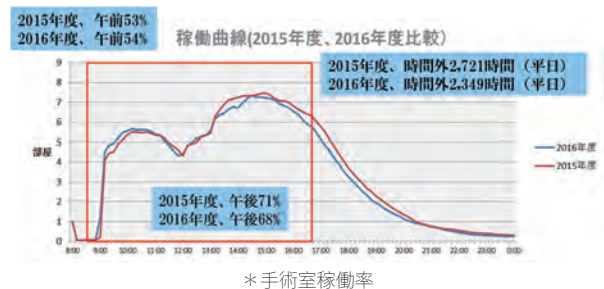
1. 予定手術では手術担当看護師による術前訪問を行い患者様・家族の緊張不安軽減に努めています。

また、手術中の皮膚トラブル・体位による弊害に細かく留意した看護の実践にも努めています。

2. 手術管理システムの修正・整理や、スタッフによる器械管理・器材物品管理、医療機器の管理・看護行為を臨床工学士と連携・協働し実施する事

で、より安全・安心な手術環境の提供に努めています。

3. マニュアル作成による看護の統一、専門分野の知識・技術の修得による看護実践力の向上に努めています。



■教育

新人看護師教育については、前年度の反省を基に改正・立案した教育計画をラダーで提示し、プリセプターを中心にチーム制指導を実施しています。2016 年度は 8 名、新人看護師を迎え、“みんなで育てよう”をスローガンにスタッフ一丸となり育成に取り組みました。

看護実習は、今年度から実習校が 1 校増え、3 校の看護学生への指導・育成にも力を注いでいます。



*ポスター展出版

居宅介護支援事業所

■ スタッフ

管理者 古本直子
緩和ケア認定看護師、介護支援専門員

矢野秀美
主任介護支援専門員、看護師

他 介護支援専門員（看護師）1名

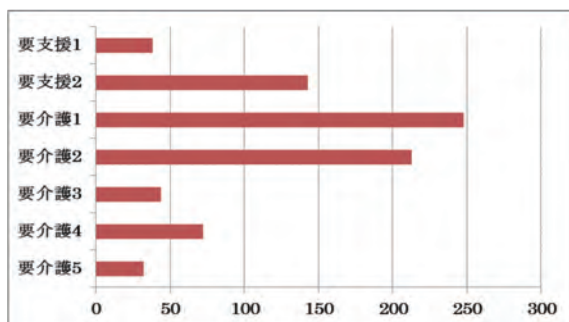
■ 概要

当事業所は、急性期病院（地域がん診療拠点病院）、訪問看護ステーションに併設し、がん終末期の方や医療依存度の高い方を中心に、看護師の視点を活かし、丁寧な観察と状況予測に努め、医療と介護の連携を図り、利用者とその家族の意向を尊重したサービス計画作成を行っています。

スタッフは、看護師資格のケアマネジャー3名です。うち1名は主任ケアマネ資格を有しています。

■ 実績

・年間介護度別利用者数（のべ人数）



■ 教育

広島県介護支援専門員協会、廿日市市介護支援専門員連絡協議会、廿日市市五師士会、院内外研修会等に参加し、伝達講習を行い自己研鑽に努めています。

2016年度は初めてふれあいポスター展に出展し、ラッキー賞を受賞しました。

また、ケアマネジメント学会でも発表しました。

＊主な支援内容数（実績）

	年間総数	月平均
利用者宅訪問	819件	68.3件
サービス担当者会議	162件	13.5件
モニタリング	697件	58.1件
代行申請	38件	3.2件
住宅改修の調整	21件	1.8件
他機関との連携	834件	69.5件
医師との連携	61件	5.1件

在宅でサービス担当者会議の一場面です。

本人（人工呼吸器装着者）・家族、主治医、MEさん、ケアマネ、訪問看護、福祉用具担当者



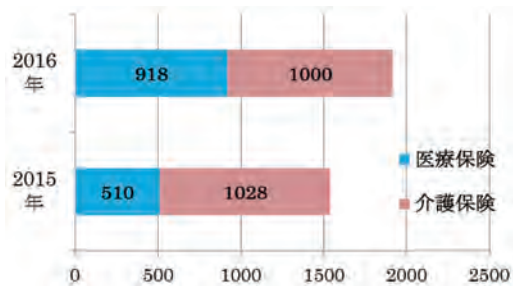
訪問看護ステーション

■スタッフ

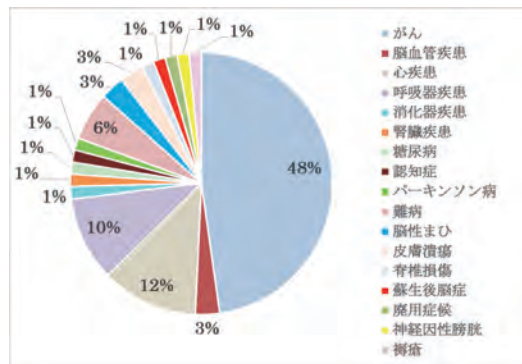
管理者 古本直子
(緩和ケア認定看護師、介護支援専門員)
主任 奥元直美
他 看護師 2名

■概要

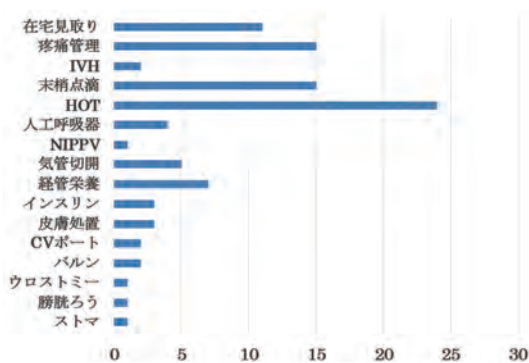
- ・利用者の年齢 3歳～104歳
- ・月間利用者数:30～35人(年間総利用者数 69人)
- ・月間のべ訪問件数 159件
- ・介護保険:医療保険=5:5(がん末期は医療保険)
- ・年間のべ訪問件数推移



- ・主な疾患 (N=69)



- ・主な医療処置(重複該当あり)



■看護

当訪問看護ステーションは、急性期病院、地域がん診療連携拠点病院に併設し、がん末期の方や医療依存度の高い方を、医療・介護の連携を図り支援しています。

看護師4名で待機体制をとり、365日24時間連絡対応しています。

■教育

部署での勉強会、院内研修会、院外研修会、在宅ケア学会、在宅医学会、がん看護学会参加。学会発表も行っています。

広島西医療圏訪問看護推進協議会事務局として、年3回研修会、年1回懇親会などの企画・運営に参画しています。



薬剤部

■スタッフ

部長 橋本佳浩
 科長補佐 磯貝明彦
 科長補佐 中島恵子
 主任 松本里恵
 主任 山崎貴司
 主任 正嶋和美
 主任 大原由希子
 主任 角井碧

薬剤師 計 37 名（役職者含む）事務 6 名

[人員配置]

西 4 階、西 5 階、西 6 階、西 7 階、西 8 階、東 3 階、東 4 階、東 5 階、東 6 階、東 7 階、東 8 階、HCU、ICU に病棟薬剤師

がん化学療法専任 3 名 ICT 専任 1 名
 NST 専任 2 名 緩和ケア専任 1 名
 DI 専従 1 名

[取得資格（認定、所属学会、世話人等）]

日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師 1 名
 日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師 3 名
 日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師 1 名
 日本病院薬剤師会
 感染制御認定薬剤師 2 名 認定指導薬剤師 2 名
 生涯研修履修認定薬剤師 16 名
 日本薬剤師研修センター
 認定実務実習指導薬剤師 3 名
 研修認定薬剤師 9 名
 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師 1 名
 糖尿病療養指導士 6 名
 日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士 2 名
 日本アンチ・ドーピング機構（JADA）
 公認スポーツファーマシスト 2 名
 日本救急医学会 ICLS インストラクター 2 名
 危険物取扱者 1 名
 NR・サプリメントアドバイザー 1 名
 日本 TDM 学会 1 名・日本化学療法学会 2 名
 日本医療薬学会 5 名・日本腎臓病薬物療法学会 3 名
 日本緩和医療学会 1 名・日本緩和医療薬学会 3 名
 日本臨床腫瘍学会 1 名・日本臨床腫瘍薬学会 3 名

日本環境感染学会 2 名・日本臨床救急医学会 1 名
 日本静脈経腸栄養学会 2 名・日本褥瘡学会 1 名
 日本心臓リハビリテーション学会 4 名
 全国厚生連病院薬剤師長会議理事 1 名
 広島県病院薬剤師会理事 1 名
 広島県病院薬剤師会委員会（医薬品情報委員 2 名、医療連携支援検討委員 2 名、専門薬剤師委員（感染）1 名、薬剤業務・プレアボイド委員 1 名）

■業務内容

調剤業務：外来 540 枚／日（院外処方箋発行率 0%）

入院 336 枚／日

注射調剤 281 件／日、院内製剤 48 品目

TDM（VCM・TEIC・ABK）15 症例／月

抗がん剤無菌調製：外来 18 件／日 入院 8 件／日

抗がん剤レジメン構築・管理

がん指導管理料 3 算定（薬剤部のみ）316 件／年

薬剤管理指導算定件数 861 件／月

持参薬鑑別 174 件／月 実務実習 8 名／年

薬品管理（採用薬：内服薬 733、注射薬 522、外用薬 309、用時購入 77）

治験 15 件／年、医薬品情報（DI）、後発医薬品選定、チーム医療（ICT、NST、医療安全管理、RST、PCT）
 糖尿病教室、膵がん教室、心臓病教室

■その他活動内容

プレアボイド：外来 222 件／年 入院 72 件／年

委員会事務局

（院内感染対策委員会、薬事委員会、治験委員会、がん化学療法運営委員会）

薬剤部定期勉強会・症例検討会 2 回／月

■管理機器一覧

錠剤分包機、散剤分包機、散剤バーコードシステム、高圧蒸気滅菌器、乾熱滅菌器、RO 純水製造装置、クリーンベンチ、安全キャビネット

全病棟に薬剤師を配置し、病棟薬剤業務加算を算定、病棟における薬物療法すべてに関わっています。また、院内における薬品管理の見直しを推進し、薬剤の安全管理と適正使用に積極的に貢献しています。

臨床研究検査科

■スタッフ

主任部長 石 田 和 史 (兼務)
 部 長 碓 井 裕 史 (兼務)
 精度管理部長 藤 井 隆
 科 長 水 野 誠 士
 科長補佐 三 舩 正 志
 科長補佐 福 岡 達 仁
 主 任 横 山 富 子
 主 任 小 松 浩 基
 主 任 長 尾 専
 主 任 山 本 加代子
 医師 (兼務を含む) 3 名
 臨床検査技師 (役職者を含む) 40 名
 助手 2 名

【資格取得】

認定管理検査技師 2 名 認定輸血検査技師 2 名
 認定臨床化学者 1 名 認定一般検査技師 1 名
 認定血液検査技師 1 名 認定心電検査技師 3 名
 細胞検査士 1 名 日本糖尿病療養指導士 1 名
 認定臨床微生物検査技師 1 名
 医療情報技師 3 名 DMAT 隊員 1 名
 超音波検査士 3 名 (消化器 2、体表臓器 1)
 血管診療技師 3 名 消化器内視鏡技師 1 名
 二級臨床検査士 16 名 (血液 7、循環器 4、脳神経 1、
 呼吸生理 1、病理 2、微生物 1、免疫血清 1)
 一般毒物劇物取扱者 5 名 危険物取扱者 1 名
 第 1 種衛生管理者 1 名 衛生工学衛生管理者 1 名
 医療環境管理士 1 名

【所属学会】

日本臨床衛生検査技師会 日本臨床検査医学会
 日本臨床化学会 日本臨床細胞学会 日本超音波医学
 学会
 日本検査血液学会 日本輸血・細胞療学会
 日本消化器内視鏡学会 日本超音波検査学会
 日本感染症学会 日本臨床微生物学会
 日本化学療法学会 日本環境感染学会
 日本結核病学会 日本心エコー図学会
 日本不整脈心電学会 日本睡眠学会
 日本乳腺甲状腺超音波医学会 日本診療情報学会

日本臨床検査自動化学会 生物試料分析学会

【施設基準】

日本臨床衛生検査技師会 認証制度保証施設
 同 標準化事業 基準基幹施設

【部門紹介】

当検査室は迅速で、安全かつ精度の高い検査を保証し、診療支援の一翼を担うことを基本に、次の行動目標をたて日々の業務に取り組んでいます。

- * 患者第一、そのサービス向上に努力しよう
- * 積極的にチーム医療に参画しよう
- * 日々、業務改善を念頭に仕事をしよう
- * 常にコスト意識を持ち、収益性を考え原価計算しよう

【部門内研修会】

- * 血液ガスの基礎と読み方
- * 聴力検査について
～知っているようで意外に知らない耳の検査～
- * 当院での膵がん早期発見のための取り組み
- * がん遺伝子検査について
- * 血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) の一症例
- * 心電図測定の際の追加誘導について
- * マイクロピペット操作のコツ
- * 急性骨髄性白血病 (APL) について
- * ファブリー病の診断と治療のポイントと遺伝カウンセリングの意義
- * 徐脈性不整脈
- * こんなときどうする? ～不規則性抗体～
- * 中毒性顆粒と炎症反応
- * 透析について
- * BNP の生化学、分子生物学、臨床的意義
高感度トロポニン I の実力と可能性

【外部精度管理調査報告】

- 1) 日本臨床衛生検査技師会 100 点 (229 / 229)
- 2) 日本医師会 98.4 点 (630 / 640)
- 3) 広島県医師会 100 点 (116 / 116)

中央放射線科

■スタッフ

主任部長 西 原 礼 介 (兼務)

科 長 山 口 裕 之

主 任 本 山 貴 志

主 任 高 畑 明

主 任 砂 田 研 二

主 任 下土居 一

診療放射線技師 (役職者含む) 24 名

【取得資格】

第 1 種放射線取扱主任者	4 名
エックス線作業主任者	4 名
ガンマ線透過写真撮影作業主任者	2 名
第一種作業環境測定士 (放射線)	1 名
検診マンモグラフィ撮影認定技師	5 名
JABTS 乳腺超音波検査認定試験 A 判定	1 名
核医学専門技師	1 名
救急撮影認定技師	1 名
X 線 CT 認定技師	3 名
医療情報技師	2 名
日本放射線技師会認定 医用画像情報管理士	1 名
日本放射線技師会認定 X 線撮影技能検定 3 級	1 名
日本放射線技師会認定 MRI 検査技能検定 3 級	3 名
日本放射線技師会認定 CT 検査技能検定 3 級	4 名
日本放射線技師会認定 臨床実習指導教員	1 名
肺がん CT 検診認定技師	1 名
Ai 認定診療放射線技師	3 名

【所属学会】

日本診療放射線技師会 日本放射線技術学会
 日本乳癌検診学会 オートプシーイメージング学会
 日本消化器集団検診学会 日本核医学技術学会
 日本医用画像管理学会 日本 CT 技術学会
 日本磁気共鳴医学会 日本乳房画像研究会

【世話人等】

公益社団法人 日本放射線技術学会代議員
 公益社団法人 日本放射線技術学会中四国部会副支部長
 公益社団法人 日本診療放射線技師会代議員
 公益社団法人 広島県診療放射線技師会副会長

公益社団法人 広島県放射線技師会西部地区理事

NPO 日本乳癌検診学会評議員

NPO 日本核医学技術学会中国・四国地方会理事

■認定施設基準

日本乳がん検診精度管理中央機構認定

マンモグラフィ検診施設画像認定施設

■部内研修会 (1 回/月)

造影剤安全性について

冠動脈疾患の血行力学的評価

頭部 MRI のみかた

もう Perfusion CT なんて怖くない!

SPECT を用いた脳血流量定量

CT における造影剤リスク管理

当院のリニアック稼働状況

研究計画を立てる—より適切な研究計画の立案のために超音波検査について

脊椎単純レントゲン撮影の意義と目的

女性骨盤の MRI 検査

How to VINCENT

■業務内容 (トピックス)

2016 年 10 月に GE 社製 256 列 Revolution CT が導入されました。256 列 CT は心臓 CT において 1 心拍で検査可能となり、64 列 CT では診断困難であった不整脈症例においても motion artifact のない画像が得られ診断能が向上しています。



臨床工学科

■スタッフ

主任部長 吉 田 研 一

科 長 瀬 尾 憲 由

主 任 荒 田 晋 二

臨床工学技士（CE）10名（科長・主任含む）助手1名

【認定資格取得】

- ・体外循環認定士：3名
- ・3学会合同呼吸療法認定士：6名
- ・透析技術認定士：2名
- ・不整脈治療専門臨床工学技士：1名
- ・呼吸治療専門臨床工学技士：1名
- ・消化器内視鏡技師：3名

【所属学会】

- ・日本臨床工学技士会・日本体外循環技術医学会
- ・日本集中治療医学会・日本呼吸療法医学会
- ・日本人工臓器学会・日本高気圧環境医学会
- ・日本呼吸ケアリハビリテーション学会
- ・日本透析医学会・日本消化器内視鏡技師学会

【部門紹介】

臨床工学技士は、医師や看護師とチームを組んで「生命維持管理装置の操作や各種医療機器の保守点検・修理」を行います。臨床工学科は現在10名でさまざまな業務と各専門性に対応するためにチームに分かれて業務を行っており、手術室・人工透析室・集中治療室・心臓カテーテル検査室・内視鏡室・一般病棟など院内のさまざまな分野で活躍しています。



【業務内容】

『手術室業務』

- ・人工心肺症例数：76例

『救急・集中治療業務』

- ・急性血液浄化療法各症例数

CHDF：161例、血漿交換：6例、血液吸着：0例、血液透析：20例



- ・補助循環装置（VA-ECMO、VV-ECMO）、IABP 各症例数

VA-ECMO、VV-ECMO：8例 IABP：17例



『循環器業務』

・ CAG、PCI、PMI 各症例数

CAG:336 例 PCI:192 例 PMI:30 件(9 件電池交換)

『血液浄化療法』

慢性透析症例数：5512 回

白血球除去療法（LCAP：GCAP）症例数：85 回



『高気圧酸素療法業務』

症例数：384 例

主な疾患：：突発性難聴：網脈動脈閉塞症など

『内視鏡業務』

ESD、ERCP、EMR 各症例数

ESD：115 例 EMR：469 例 ERCP：342 例



『慢性期・在宅医療支援業務』

人工呼吸器や NPPV（NIP、ASV）などの在宅医療支援（HST）活動としての在宅訪問：32 回



■ トピックス

2017 年 1 月からは CROSER 業務が始まりました。クロッサーシステムは末梢血管閉塞病変の貫通システムです。約 2mm のカテーテルの先端が削岩機のように毎秒何万回も振動することで石灰化などの堅い病変を破碎し、貫通させるものです。



リハビリテーション科

■スタッフ

センター長 黒 木 一 彦 (兼務)

部 長 小 林 平 (兼務)

部 長 山 田 清 貴 (兼務)

科 長 村 上 嘉 章

主 任 寺 迫 正 広

主 任 小 林 恭 子

理学療法士 11名 (役職者含む)

作業療法士 3名

言語聴覚士 4名

・取得資格

呼吸療法認定士 8名

心臓リハビリテーション指導士 2名

住環境福祉コーディネーター2級 3名

社会福祉士 1名

介護支援専門員 2名

がんリハビリテーション研修修了者 9名

認知症ケア専門士 1名

弾性ストッキングコンダクター 1名

日本語聴覚士協会 認定言語聴覚士 (摂食・嚥下領域) 1名

日本糖尿病療養指導士 1名

■部門紹介

当科では入院患者さんを中心に院内全科からの依頼を受けており、入院直後や術直後の超急性期から終末期まで、多種多様な疾患をもたれた患者さんに介入しています。全ての疾患別リハビリテーションに加え、がん患者リハビリテーション料も算定しています。昨年と同様にリハビリテーション処方件数は年々増加しています。(図1)

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が専門性を活かし、他職種と協働して患者さんに介入しています。

認定施設基準

運動器リハビリテーション料 (I)

呼吸器リハビリテーション料 (I)

脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)

心大血管疾患リハビリテーション料 (I)

がん患者リハビリテーション料

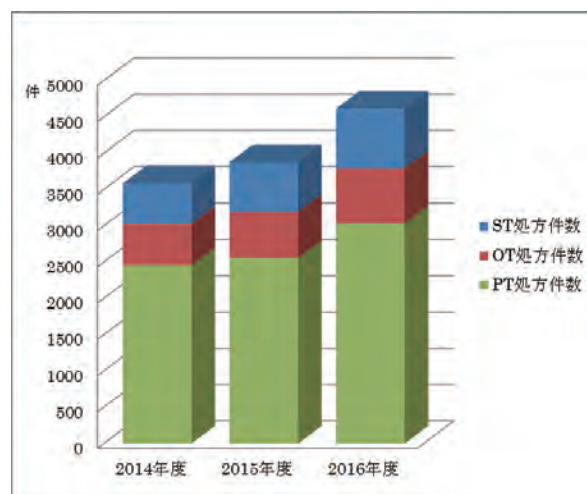


図1 リハビリテーション処方件数

所有管理機器

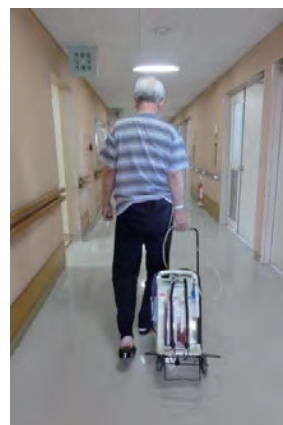
自転車エルゴメーター・トレッドミル・渦流浴・ホットパック・起立台・低周波・スパイロメーター、心リハ専用モニター (RH-1000)

■トピックス

今年度より肺癌切除術を行う全ての患者さんを対象に手術前後の包括的リハビリテーションを開始し、理学療法士と作業療法士が介入しています。

入院時より多職種が必要な検査や問診を行います。リハビリテーション科でも運動能力に関する評価を行い、術前の状態を把握します。

術後は翌日から座位や立位訓練などのリハビリテーションを開始し、早期離床を図っています。患者さんの速やかな回復のため、多職種と連携しながら退院までサポートを継続していききたいと思います。



栄養科

■スタッフ

主任部長 香山茂平 (医師)

科長 河本良美

主任 三浦満美子、要田裕子

管理栄養士 10名 (科長、主任含む)

委託 (調理部門) (株) 日米クック

[人員配置]

外来指導担当 常時 3名

病棟担当 各 1名

NST 専従 1名 (八幡 謙吾)

[取得資格]

病態栄養認定管理栄養士 5名

日本糖尿病療養指導士 4名

NST 専門療法士 4名

がん病態栄養専門管理栄養士 1名

[所属学会]

日本病態栄養学会 8名

日本静脈経腸栄養学会 6名

日本糖尿病学会 1名

心臓リハビリテーション学会 1名

■業務内容

[栄養指導]

栄養食事指導では、患者さんの食生活・食習慣などを考慮した個別指導や、集団指導を実施しています。

〈2016年度 実績〉

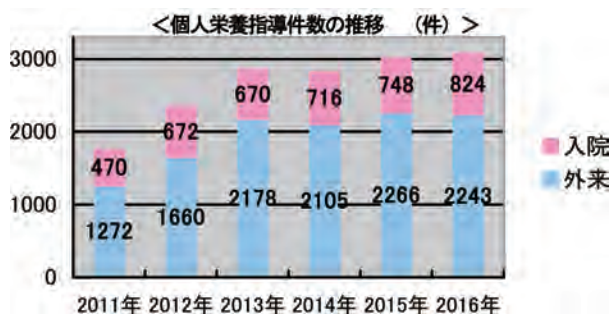
・個別指導

外来	2,243 件	入院	824 件
糖尿病	1,285 件	心血管疾患	354 件
心血管疾患	333 件	糖尿病	211 件
その他	625 件	その他	259 件

・集団指導 119 件

糖尿病昼食会 1 回／週 (毎週火曜日)

腎臓病調理実習 2 回／月 (毎月第 3、4 木曜日)



[給食]

調理部門の協力のもと、安全で美味しい食事の提供を心がけています。

〈2016年度 実績〉

一般食 13,619 食／月 特別食 20,714 食／月

■施設基準

入院時食事療養 (I)

■その他活動内容

患者サービス：行事食、退院食、全国統一献立

集団栄養教育：妊産婦教室、膵がん胆道がん教室

参加チーム活動：NST、褥瘡、緩和ケア、PEG、RST

その他：あいプラザまつり (糖尿病グループ)、腎臓病市民公開講座、心臓いきいきキャラバン、JA 広島市レディース講座

■トピックス



2016 年度より、全国厚生連統一献立の提供

を始めました。これは、様々な地域の病院で提供されている郷土料理を、同一日に全国の JA 病院でお出しする取り組みです。

出身地の料理を懐かしく感じていただいたり、名前も料理も初めてで「こんな料理がこの地域では食べられているのね」と驚いていただいたり、多くの患者さんに喜んでいただいています。

入院生活の中で、少しでもお食事が楽しみの一つとなりますように、これからも続けていきたいと思っています。



地域医療連携室

■スタッフ

室 長 藤 田 寿 賀

他 事務職 2 名

■部門紹介

当院は広島県西部二次医療圏を中心に高度な専門医療の提供を行い、かかりつけ医を支援する役割をもつ地域医療支援病院です。そのため地域住民の健康を守り、必要な医療を提供し、自立した生活を支援するために地域ぐるみの医療体制強化の体制作りに従事しています。その連携体制づくりの病院窓口として、地域の病院、診療所、住民、行政、介護連携施設などとの連携強化に継続的に力を入れています。

2016 年度も佐伯地区・大竹医師会、広島市佐伯区医師会との医師懇話会を開催しました。

当院は、地域医療支援病院として近隣の医師会・自治体・町内会などの代表者で構成される「地域医療支援病院諮問委員会」、地域の医療従事者が充実したスキルを提供する地域医従事者への啓蒙活動を目的とした「地域医療従事者研修会」を開催しています。また院内の取り組みは、院外紹介が円滑に利用していただけるよう手順の整理をしました。地域と病院の窓口として、地域との連携をさらに強化できるように取り組んでいきます。

■研修会

○佐伯地区医師会・大竹医師会との医師懇話会

日時：2016 年 7 月 29 日（水）

場所：安芸グランドホテル



○佐伯区医師懇話会

日時：2016 年 12 月 7 日（水曜日）

場所：ダイヤモンドホテル

○地域医療支援病院諮問委員会

日時：2016 年 7 月 8 日（金曜日）

JA 広島総合病院 管理棟 3 階 大会議室



○地域医療従事者研修会

（開催した研修会）

- 4 月 21 日 糖尿病患者さんの予防的フットケア
- 5 月 24 日 人工呼吸器の基本
～今更聞けない、人工呼吸器のきからお話します～
- 6 月 21 日 経管栄養と注意点とトラブル対応について
- 6 月 24 日 「膵がん・胆道がん教室」講演会
- 8 月 18 日 食中毒と夏場に気をつけたい感染症
第 1 回クイズ大会
- 8 月 31 日 「生命輝かそう JA 広島総合病院」
～医療を中心にした街づくり
Medical Based Town ～
- 10 月 20 日 第 3 回心臓いきいきキャラバン研修会
- 12 月 6 日 第 6 回チーム医療成果発表会
- 12 月 15 日 はじめてのポート
- 1 月 19 日 失敗しない胃ろうのあれこれ即実践!!
～みてふれてやってみて～
- 3 月 17 日 地域でみつめなおす心不全治療
～多職種連携におけるヒント～
- 3 月 29 日 第 4 回心臓いきいきキャラバン研修会



総合医療相談室

■スタッフ

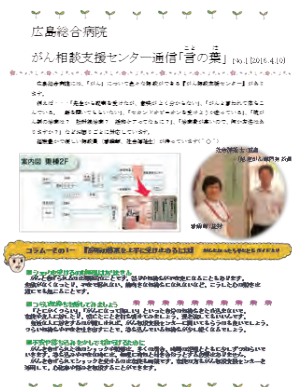
センター長 小深田 義 勝 (兼務)
 室 長 藤 田 寿 賀 (兼務)
 主 任 三 谷 法 子 (看護師)
 中 村 希 (看護師)
 桐 山 葉 子 (社会福祉士)

他：看護師 2 名 社会福祉士 3 名

■部門紹介

総合医療相談室は、患者が適切な医療を受け、住み慣れた地域で安心して療養できるように支援する役割を担っています。そのため患者・家族からの医療・福祉の多岐にわたる相談を受ける窓口になっています。

2016 年度は、退院支援看護師を 3 名配置し、退院支援に力を入れた活動をしました。また当院は、地域がん診療連携拠点病院の指定を受けており、がん患者相談窓口として、「がん相談支援センター」を設置しています。がん専従担当者 1 名・がん専任担当者 1 名を配置し、患者・家族に寄り添ったサポートを行えるような体制を整備しています。2016 年度は、がん支援サポート通信第 1 号「言の葉」を発行しました。今後は、年間 2 回の発行を継続していきます。



(専門の担当者)

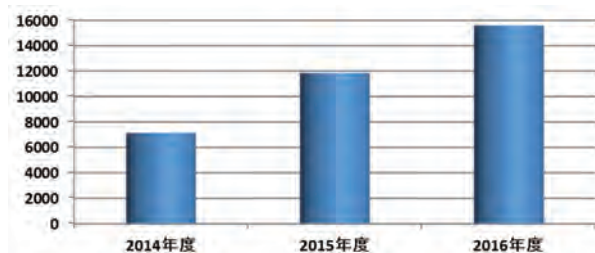
- ・退院支援看護師
- ・がん相談専従・専任担当者
- ・認知症チーム専従担当者
- ・患者サポート体制充実加算専任担当者

(診療報酬に関する項目)

- ・退院支援加算 I
- ・患者サポート体制加算

(主な相談内容)

- 転院・施設入所に関する内容
- 在宅療養に関する内容
- がん相談
- 医療費などに関する内容



年度別相談件数

■業務内容

- おしゃべりサロン (がん患者サロン)



○市民公開講座

第 13 回

「心臓は地域でみる時代～廿日市は安しんぞう～」

日時：2016 年 6 月 18 日 (土曜日)

参加者：387 名

第 14 回

「目からウロコの知って得する話」

日時：2017 年 1 月 29 日 (日曜日)

参加者：463 名



感染防止対策室

■ スタッフ

室長 渡 正 伸 (兼務)

科長 今 本 紀 生

取得資格、所属学会

〔取得資格〕

Infection Control Doctor : ICD

感染管理認定看護師

〔所属学会〕

日本環境感染学会

日本感染管理ネットワーク学会

■ 部門紹介 (概要)

感染防止対策室は患者さんや医療従事者の安全確保を第一の目標として、院内感染対策委員会や ICT、看護科感染対策委員会を中心とした各組織・部門と連携し、感染防止活動を支援する部門として機能しています。特に ICT (院内感染対策チーム) とは密に連携を図り、ラウンドや研修会など多くの業務を共同しています。

■ ICT コアメンバー紹介

渡 正 伸 (呼吸器外科医師、感染防止対策室長、ICD)

近藤 丈博 (呼吸器内科医師)

正 嶋 和美、角 井 碧 (感染制御認定薬剤師)

池 部 晃 司 (臨床検査技師)

今 本 紀 生 (感染管理認定看護師)

栗 岡 允 ※ (事務：医事課)

■ 認定施設基準

「感染防止対策加算 1」と「感染防止対策地域連携加算」を届け出ています。「感染防止対策加算 1」の算定要件である連携施設との合同カンファレンス開催は、2012 年から開始して今年で 6 年目になります。当院は、広島県内では最も多い 8 つの施設と連携しています。

連携施設 (地域)	施設数
広島市	6
廿日市市	1
大竹市	1

合同カンファレンスは年 4 回開催し、各施設の感染対策チーム (医師、看護師、薬剤師、臨床検査技

師、他) が集まります。参加者は 40 名程度で、薬剤耐性菌の検出状況や抗 MRSA 薬の使用状況の確認、現場の感染対策に関する意見交換などを行っています。



■ 院内集合研修会

日 時	テーマ	講師
2016.5.26	血液・体液曝露	今本 紀生
2016.8.9	尿路感染症	丸山 聡
2016.11.15	疥癬	森川 博文
2016.12.21	ノロ対策 インフルエンザ対策	今本 紀生 近藤 丈博

■ 主な感染症対応

2016. 12	ノロウイルス 対応
2017. 1	季節性インフルエンザ 対応

■ 2016 年度トピックス

〈自動洗浄装置 (ベッドパンウォッシャー) の更新〉

病棟および救急外来に設置されている洗浄機の老朽化に伴い、医療機器整備として計画的な更新を申請し 2 台が更新されました。(写真：左手前) また、洗浄後の器材を適切に乾燥・保管することを目的に、温風乾燥保管庫を同時に整備することができました。(写真：右奥)



医療安全対策室

■ スタッフ

室 長 徳 毛 宏 則 (兼務)
次 長 鈴 木 修 身 (兼務)
科 長 村 中 好 美 (専従)
専従リスクマネージャー (RM)、医療安全責任者
医療メディエーター

■ 部門紹介

医療安全管理室は「患者さんが医師・医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療提供できるシステム構築をめざし、患者さんと医療提供者双方の安心・安全の確保につなげる」ことを目標に、医療事故防止対策委員会や院内 RM 管理部会を中心とし、各組織・部門と連携し「安全な医療の提供」が推進されるよう取り組んでいます。

■ 活動内容

[院内 RM 管理部会]

* 毎週月曜日 16:10 ~ 17:00 開催。提出されたインシデント報告書を元に事案発生の原因、防止方法に関する提言を行います。事案によって部署対応・部門対応、病院対応とすべきかなど検討及び提案を行います。また、担当部署における職員の意識向上等、医療安全管理の推進に向け取り組んでいます。

* メンバー紹介

徳毛 宏則 (副院長・医療安全管理室室長)
鈴木 修身 (整形外科主任部長・医療安全管理室次長)
中光 篤志 (診療部長・センター長)
森井 克成 (事務:総務課長)
瀬尾 憲由 (臨床工学技師:臨床工学科科長)
藤岡 朋子 (臨床検査技師)
高畑 明 (診療放射線技師:放射線科主任)
寺迫 正広 (理学療法士:リハビリテーション科主任)
吾郷志津枝 (看護科長、医療安全研修終了)
本山 敏恵 (看護科長・看護科安全対策委員会担当)
角井 碧 (薬剤師:薬剤部主任、医療安全研修終了)
堀田 夏樹 (事務:総務課専門員、9月より)
村中 好美 (医療安全室科長・専従 RM)

[医療事故防止対策委員会]

* 毎月第3木曜日 17:00 開始。医療安全管理室からの提案事項の検討、本委員会に関連した事項の対応策の検討、医療安全研修会の計画実施、委員会の伝達を担うほか、院内ROUNDを実施しています。

* メンバーは、院内 RM 管理部会メンバーと各部門長等により構成されています。

* 活動テーマ:「防ごう誤認 なくそう確認不足 守ろう院内ルール」とし、「行動目標 1. 患者に名乗ってもらう!」「行動目標 2. 指差し呼称の徹底!」「行動目標 3. 守ろう PDA 認証」として取り組みました。

■ 認定施設基準: 医療安全対策加算 1

■ 2016 年度トピックス

* 「医療安全研修会」は年間 10 回企画し、出席率 100%を目指して行っていますが、業務の都合等あり達成できていない状況です。しかしながら、医療安全についての学びは必要であり、今年度は「e ラーニング」での聴講・レポート提出を行った場合も出席と見なし 96.3%の出席率となりました。

[年間研修のうちeラーニング対象の研修は以下の3研修]

日 時	テーマ	講 師
2016.7.12	認知症について	JA 吉田総合病院 認知症看護認定看護師:小野
2016.8.25	糖尿病インシデント対策 研修会	糖尿病センター長: 石田和史医師
2016.10.21	医療・介護における個人情報	(株)東京海上日動火災保険

* 毎年 11 月 25 日を含む一週間は「医療安全推進週間」とし、医療機関等における取り組みの推進を図り、国民の理解を深める事を目的に開催されています。当院も医療事故防止対策委員会のメンバーで院内をラウンドし安全な医療の提供につなげています。その一つとして本年度は、「糖尿病に関するインシデント発生報告ゼロ」を目指した取り組みを行いました。

以下は、達成した部署の一部、表彰の場面です。



緩和ケアチーム

■ チーム概要

緩和ケアチームは、患者・家族の QOL を向上させるために、緩和ケアに関する専門的な臨床知識・技術を用いて患者・家族への支援を行っています。また、外来患者が安心して在宅療養できるよう、がん相談にも応じています。

■ メンバー紹介

消化器内科 緩和ケア科医師：小松 弘尚
放射線治療科医師：伊東 淳
外科医師：田崎 達也
呼吸器内科医師：古玉 純子
精神科・心療内科医師：増田 慶一
看護科長：鶴谷 理恵
緩和ケア認定看護師：岡田 恵美子（チーム担当）
古本 直子、高原さおり
がん化学療法看護認定看護師：野村 昌代
がん放射線療法看護認定看護師：河野 佐代子
薬剤師：磯貝 明彦 藤原 俊輔
理学療法士：小林 恭子
言語聴覚士：後藤 優佳
臨床心理士：上田 華奈子（月木金）
佐藤 亜弥（火水木）
管理栄養士：西田 美穂
社会福祉士・がん相談員：正畠 忠貴
がん相談員：益村 勇子
以上の職種で構成しています。



緩和ケアチームカンファレンスの様子

■ 活動内容

週一回緩和ケア担当医師と薬剤師、緩和ケア認定看護師、臨床心理士、社会福祉士、言語聴覚士等で介入依頼されている患者さんの元にチーム回診に伺います。毎週木曜日カンファレンスを開催しています。

非がん患者の精神的・社会的側面に対しての依頼

も受け、心理士を中心に介入しています。

・生活のしやすさに関する質問票

がん患者への苦痛スクリーニングを行っています。



・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会開催
5 / 29 (日)・6 / 5 (日) 30 名参加

■ 各部門の主な活動紹介

【薬剤調整】

個々の患者が使用する薬剤につき主治医と連携し調節します。患者・家族の理解が得られるよう薬剤指導を行っています。

【がん患者リハビリテーション】

がんを抱える患者に対して手術前後のケア、日常生活動作の維持、気分転換等を目的として関わります。

【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者に合う食事の工夫を行います。

【がんサロン】

隔週月曜日のおしゃべりサロンに参加しています。

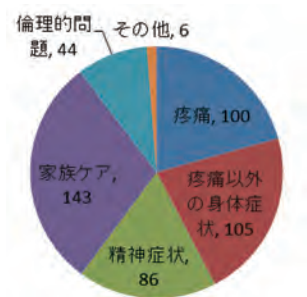
【がん相談】

療養場所の相談、在宅で受けられるサービスについて等、各種の相談に対応します。

■ 院内実績（2016 年度）

緩和ケアチーム総依頼
件数：160 件

依頼内容（延べ件数）



■ 院外活動

別紙参照

心臓リハビリテーションチーム

■設立趣旨

近年、増加する心血管疾患（狭心症、急性心筋梗塞、心臓弁膜症、胸・腹部大動脈瘤、末梢動脈疾患など）を有する患者さんに対し、包括的心臓リハビリテーション（以下、心リハ）を提供することを目的に活動しています。包括的心リハとは、心血管疾患を有する患者さんにおける社会復帰および再発予防を目的とし、運動療法や食事療法、薬物療法などの患者教育、生活指導などを包括した治療手段です。当院では2010年度よりチームアプローチを展開しています。

■メンバー紹介

医師：小林 平、久留島 秀治、長谷川 美紗
理学療法士：本間 智明*、小島 輝久*、西谷 喜子

*心臓リハビリテーション指導士

看護師：野田 明美、石川 恵子、門内 美鈴、
正木 博之、本山 敏恵、伊藤 昭範、
南部 智江、松田 沙織、福本 裕平

薬剤師：向井 一樹、無漏田 香穂、
稲田 淑江、後藤 彰仁

栄養士：上村 真由美、要田 裕子

その他：臨床検査科、義肢装具士

■活動内容

循環器内科多職種カンファレンス

毎週月・火・金曜日 9:20～

心臓血管外科（東3）多職種カンファレンス

毎週火曜日 15:00～

心臓血管外科（東7）多職種回診

毎週金曜日 14:15～

心リハに関する活動	2016年度	2015年度
開心術・大血管術後心リハ	119件	100件
急性心筋梗塞後心リハ	71件	66件
心肺運動負荷試験	100件	59件
抹消動脈疾患手術後心リハ	101件	88件
心不全心リハ	221件	138件
心リハ外来	79件	18件
日本心臓リハビリテーション学会発表	9件	7件

—心臓いきいき推進事業—

2015年度より地域における心臓疾患患者さんに対する診療・自己管理サポート体制を構築し、心臓

病患者さんを地域で診ることにより再入院抑制や今後の改善を目指しています。目的達成のため、2016年度も院内外での活動を継続しています。

「心臓いきいきキャラバン研修会」

開催日	テーマ	講師	参加者
第3回 10/20	いきいきキャラバンとは 心不全手帳の紹介 心不全とは リハビリテーション 入浴について	前田 幸治 益本 僚子 莊川 知己 小島 輝久 安楽絢矢香	57名
第4回 3/29	心不全再発防止のために ～知っておきたい減塩の話～	上村真由美	19名

「心臓病教室」

開催日	テーマ	講師	参加者
4/14	「心不全ってなんだろう」	循環器内科	莊川 知己 11名
5/12	「心筋梗塞・心不全手帳をうまく活用しよう」	看護科	大川 好美 10名
6/9	「心臓のリハビリってどこまでやっていいの？」	リハビリテーション科	小島 輝久 14名
7/14	「なるほど納得！薬剤師が教える心臓病の薬」	薬剤科	向井 一樹 16名
8/18	「コツを知ってかしこく減塩」	栄養科	上村真由美 12名
9/8	「介護保険について」	総合医療相談室	三谷 法子 9名
10/13	「長寿の秘訣！心臓リハビリ！」	循環器内科	久留島秀治 23名
11/10	「心臓病と風邪の関係～元気に冬を乗り越えよう～」	看護科	畏原 真二 15名
12/8	「心臓に優しい筋トレと日常生活の送り方」	リハビリテーション科	西谷 喜子 20名
1/12	「医療保険について」	総合医療相談室	正島 忠貴 8名
2/9	「脈がゆっくり…徐脈を治すペースメーカー」	臨床工学科	荒田 晋二 4名
3/9	「当院での心臓の検査について」	臨床研究検査科	川崎 京子 12名

「市民公開講座」



虚血性心疾患の急性期治療から心臓リハビリテーションの継続と心臓いきいき推進事業の活動について講演しました。

寸劇を交えた内容は分かりやすかったと評価頂きました。

—末梢動脈疾患手術後リハー

- ・地域の透析クリニックとの連携を強化
- ・1回／月の多職種による勉強会を開催

「膵がん・胆道がん教室」運営チーム

■はじめに.....

2012年から院内で開催しています「膵がん・胆道がん教室」も5年目を迎えました。今年度は対外的にも節目の年となりました。

■メンバー紹介（主要メンバー）.....

医師：藤本佳史、佐々木秀
 看護師：野村昌代、奥村麻美、古本直子、松下理恵、
 村中由布子、村上優子、川本理恵
 薬剤師：藪田ゆみ、埋橋賢吾、白井敦史
 管理栄養士：河本良美、長曾我部弘子、八幡謙吾
 電算：横山嘉一
 リハビリテーション科：小林恭子、後藤優佳
 社会福祉士：正島忠貴
 事務：嘉屋祥昭、藤木翔
 外部講師：木村泰博先生、小笠原英敬先生、
 長谷川健司先生、坂本真里子さん

■活動内容.....

2016年12月3日（土）に広島県JAビルにて、「第6回 膵がん教室ワークショップ」を開催しました。これは、膵臓がんの患者と家族を支えるための全国規模のワークショップです。JA広島総合病院とJA尾道総合病院、広島大学病院の3病院が共同で開催しました。また、翌日12月4日（日）には、一般市民向けのイベントとして「パープルストライド2016」を広島中央公園と広島県JAビルにて開催しました。

1日目のワークショップでは、一般演題の「膵がん教室の現状と新たな取り組み」に6題、「膵がん教室と地域連携」に2題の発表をいただきました。「地域連携」をテーマとし特別講演には重田由美先生（日本地域統合人材育成機構）に「つながる心と地域連携」について講演いただきました。また、ポスターも27題と多数で、各職種に分かれた討論会を行いました。北海道から沖縄まで37施設の総合病院や10か所の診療所等から、合計221名と過去最高の人数の皆様に参加いただきました。医師だけでなく、看護師、薬剤師、管理栄養士、MSW、臨床心理士な

ど、多くのコメディカルスタッフの皆様に参加いただき、熱心な討論が行われました。懇親会にも、会場に入りきらない程の137名の皆様に参加をいただき親睦を深めました。

2日目のパープルストライドは、チャリティウォークと県民公開講座を合わせた膵がん撲滅のためのチャリティイベントです。チャリティウォークは、途中からあいにくの悪天候でしたが、242名の一般の皆様に参加いただきました。さいねい龍二さん、サンフレッチェ広島OBの中島浩司さん、プロドラマーの酒井まるさんのご協力を得て、参加者の皆さんに楽しんでいただきました。県民公開講座では、膵臓がんに関する講演会を行い、参加者は200名を超えました。

2日間にわたる大きなイベントとなりましたが、無事、盛会に終えることができましたのも、JA厚生連およびスタッフの皆様のご協力のおかげだと思います。この場をお借りして心より御礼申し上げます。



栄養サポートチーム (NST)

■ チーム概要

栄養サポートチーム (NST) は、栄養管理における専門的な知識を持つ医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・リハビリスタッフ、歯科衛生士など多職種によって構成されるチームで、2005年4月より活動しています。

NST は栄養不良の方、胃瘻や経鼻胃管等からの経管栄養や、静脈栄養を行っている方、嚥下障害のある方など、特に栄養管理が治療上必要と考えられる患者さんに対して回診やカンファレンスを行い、専門的な立場から最善の栄養管理に向けた提案を行っています。

■ 専従・専任メンバー

- ・ 医師：香山茂平、櫻谷正明 (ICU)
- ・ 看護師：藤本七津美、藤村雅子
- ・ 薬剤師：中島恵子、山崎貴司
- ・ 管理栄養士：八幡謙吾 (専従)
- ・ 臨床検査技師：横山富子、池田光泰
- ・ 作業療法士：名井幸香、橋詰菜津美
- ・ 言語聴覚士：上田雅美、宮根舞
- ・ 歯科衛生士：梶川佐知子

■ 活動内容

- ・ NST ラウンド・カンファレンス：毎週木曜日 14：30～
- ・ 栄養管理推進委員会：毎月最終木曜日
- ・ 院内 NST 研修会

開催日	内容	講師
5 / 16	経管栄養の基本と注意点	八幡
6 / 29	安全な食事摂取を目指して～姿勢と介助方法について～	上田
7 / 22	経管栄養の合併症と対応～確認事項と対処法は？～	八幡
8 / 24	腸内細菌について	香山
10 / 26	嚥下スクリーニングの運用開始について	上田 八幡
11 / 21	栄養輸液の基本と注意点	山崎
12 / 12	褥瘡の治療と栄養管理	森川 八幡
1 / 23	栄養療法の合併症予防のために～検査データを知ろう～	横山 池田

- ・ 看護科栄養管理推進委員会：毎月1回
- ・ 新人研修：年2回、ラダーⅡ研修：年1回

■ 栄養サポートチーム・加算算定件数

・2016年度算定件数：延べ1123件 (患者数291名)



■ 栄養サポートチーム 診療科別介入件数 (患者数)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
呼吸内	99 (18)	161 (33)	179 (26)	97 (31)
腎内	47 (11)	89 (10)	138 (22)	66 (13)
糖内	4 (2)	13 (2)	34 (7)	30 (8)
消内	179 (54)	203 (61)	279 (95)	237 (80)
循環内	76 (12)	151 (25)	188 (25)	140 (35)
心血	68 (9)	45 (8)	41 (4)	101 (10)
呼吸外	30 (4)	59 (12)	135 (14)	102 (20)
外科	169 (22)	142 (27)	199 (20)	75 (23)
脳外	84 (15)	175 (36)	86 (15)	43 (13)
整形	44 (23)	32 (16)	38 (13)	26 (8)
形成	0	0	0	3 (1)
皮膚	40 (6)	34 (10)	65 (7)	88 (20)
泌尿	35 (11)	23 (9)	28 (6)	17 (3)
放射	2 (1)	7 (1)	0 (0)	16 (3)
耳鼻	27 (7)	71 (7)	70 (8)	69 (11)
小児	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0
歯科	20 (2)	10 (1)	1 (0)	9 (2)
救急	133 (19)	45 (13)	41 (25)	40 (20)
産婦	6 (2)	6 (2)	3 (2)	5 (1)
緩和	-	2 (1)	3 (1)	0
合計	1063 (218)	1268 (274)	1528 (290)	1164 (301)

※単位：件 (人) ※ NST 加算算定数 (患者数) とは異なる

■ 2016年のTopics

- ・ 2016年6月1日 下記の運用開始とマニュアル整備
 - ①経管栄養物品のディスポ化
 - ②経管栄養物品自費購入の整備
 - ③看護手順 (経管栄養法の部分) の修正
- ・ 2016年11月1日

院内共通「嚥下スクリーニングフローチャート」の作成、運用開始
- ・ 2017年3月1日

「JA 広島総合病院 褥瘡の栄養管理基準」作成 (NST、栄養管理推進委員会、褥瘡対策委員会)
- ・ 第25回 NST を本音で語る会秋季合宿 (2016.9.24 - 25)

JA 広島総合病院 NST が当番幹事

RST

■ RST とは

RST とは呼吸療法サポートチーム（Respiratory Support Team）の略称で、呼吸療法が安全で効果的に行われるようにサポートするチームのことです。

■ 設立趣旨

集中治療室・救命救命センターに入院した患者さんが呼吸の補助を必要とする際に、非侵襲的陽圧換気（NPPV）や人工呼吸器を装着することがあります。一般病棟でも呼吸の補助が必要な場合には、引き続き呼吸の補助を継続することがあります。

私たち RST は多職種からなるチームで構成されており、人工呼吸からの離脱管理や NPPV の適正使用に向けて、合併症予防や安全管理を総合的にを行い、主治医または病棟看護師へのサポートを行うことを目的として活動しています。

■ 構成メンバー

医師、臨床工学技士、看護師、理学療法士、歯科衛生士、栄養士、薬剤師、事務

■ 活動内容

1) 病棟ラウンド

1 週間に 1 度、人工呼吸器や NPPV が装着されている患者さんのベットサイドでラウンドシートをもとに、人工呼吸器のチェック項目や周辺環境を確認するだけでなく、各専門職種それぞれの目線で呼吸療法の管理について評価します。その結果を踏まえ適宜主治医や病棟看護師などの関連スタッフへの助言や提言を行います。また、人工呼吸器を離脱す



病棟ラウンドの様子

る支援や NPPV マスクフィッティング、一部の酸素療法の評価を行っています。2016 年 4 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日までに RST が介入した患者は 24 名おり、主に救急・集中治療科と脳血管外科を主科とする患者でした。RST は人工呼吸器を装着したまま ICU を退室した患者全例に介入し、人工呼吸器を安全に使用することに貢献しました。

2) 教育

RST リンクナースはラウンドに定期的に参加します。ラウンドシートをもとに呼吸器設定の確認方法や、周辺環境の点検方法を学習し、知識の向上に取り組みます。また、看護部のラダー研修にて①酸素療法、②排痰援助、③症例検討、という 3 つの内容で講習を行いました。

ラウンドの対象患者は減少傾向にありますが、これは私たちの教育活動によって酸素療法の管理が適切に行われている成果と考えています。

3) チーム内における薬剤師の活動

薬剤師はラウンドで注意が必要な耐性菌情報をチーム内で情報提供しています。また、必要な薬物治療・検査を提案することで、人工呼吸の早期離脱に貢献できるよう心がけています。薬物療法が漫然と継続されないように介入することも重要な仕事のひとつと考えています。



ラウンドで質問をうける薬剤師

■ 今後の展開

RST では人工呼吸器で管理されたまま当院から退院・転院された患者に対してのケアを行っていきたいと考えています。また、呼吸ケアに関連した機器のマニュアル整備を進めていきたいと考えています。

災害対策ワーキングチーム

■チーム概要

2012年にチーム発足後、2013年には当院組織の「集団・災害医療救護体制委員会」の下部組織に位置づけられ、活動を継続しています。災害派遣医療チーム（以下、DMAT）メンバーや看護協会登録災害支援ナースを中心として、医師・事務・薬剤師・臨床工学技士・臨床検査技師・診療放射線技師・管理栄養士・看護師など多数の専門職で構成されていることが特徴です。職種・部門を問わず、防災・減災活動に参画したいという意思がある多くの職員が参加し、意欲的に活動しています。

■活動内容；2016年度のトピックス 【防災・減災にかかわる活動】

当院が災害拠点病院であることから、院内や地域においてさまざまな防災・減災にかかわる啓発活動を行っています。院内においては、看護科に2016年度新しい委員会として立ち上がった災害・防災対策委員会の活動の中で、チームメンバーが中心となり、勉強会や災害対応シミュレーションの企画・実施に関わりました（写真1）。地域においては、他の医療機関や廿日市市社会福祉協議会主催の研修会での講演、看護基礎教育施設での講義などを行いました。またDMATの出動訓練として、広島西医療センターで開催された広島県集団災害医療救護訓練に参集DMATとして参加しました（写真2）。



写真1



写真2

防災・減災にかかわる活動の一つとして、オープンホスピタルへの参加があります。ここでは、AED体験コーナー・DMAT紹介コーナー・災害支援ナースコーナー・防災グッズ展示・ハザードマップ展示・防災啓発ポケットティッシュ配布などを行いました（写真3）。



写真3

このほか、備蓄・ライフライン確保のための検討やチーム医療報告会への参加を行いました。

【災害支援活動】

災害支援活動として、3月に発生した「八本松トンネル事故」（死者2名、負傷者71名）では、DMATを派遣すると同時に、地域救命救急センターで多数傷病者受け入れの準備を行いました。

4月に発生した「平成28年熊本地震」では、地震発生直後、速やかに院内災害対策本部を立ち上げ、DMATを派遣しました。派遣されたDMATは菊池市、玉名市、益城町のDMAT調整本部や避難所、救護所などで3日間におよぶ救護活動を行いました（写真4）。



写真4

このほか、7月のオバマ大統領来日やサミット外相会合では、広島市内や宮島における突発的なテロの発生に備え、DMATの派遣や多数傷病者受け入れを想定し、対応手順を作成し待機しました。

今後もいつどこで起こるかわからない災害に備え、日頃からの訓練やマニュアルの作成を行いながら、実災害への対応を的確に行えるようチーム活動を展開します。

教育研修課

■チーム概要

課長 砂田 朋子

他1名

■活動内容

教育研修課は、職員教育体制の充実と臨床研修に関する業務の遂行が主な業務です。

毎年4月に新採用職員を対象とした研修を行っています。例年80～90名の新入職員が参加する大人数での行事ですが、医師、看護師、コメディカル等多職種の方の協力をいただいて研修会を実施しています。

当院は臨床研修指定病院として、年間を通じて約60名の医学生の見学受入れを行っています。併せて研修医の募集活動も行っており、広島県内外で開催のされる求人説明会に参加したり、SNSで情報発信を行っています。

たすきがけ研修医の受け入れも開始し、1年次研修医が12名、2年次研修医が11名在籍しています。

また、研修医の相談窓口として、連絡や調整業務を行い、初期研修が円滑に行えるよう努めています。

院内で開催されるポスター展や論文・学会発表等学術分野での表彰も行っています。いずれも多くの出展、応募があり、院内ではアカデミック活動が活発に行われています。

教育機関等からの実習受入れや外部への講師派遣に関する手続きなども当課の業務です。中学生による職場体験や“高校生外科セミナー”の対応を医師、看護師と協力しながら行っています。中高校生に医療現場を知ってもらうことにより、医療職への関心・理解を深めてもらえるよう継続的な取り組みを行っています。

■トピックス

2016年10月14日（金）～15日（土）、広島国際会議場において「第9回厚生連病院研修医全国大会」を開催しました。

大会テーマは、「研修医の可能性∞無限大じゃ

ろ！」としました。西日本地区で初の開催でしたが、全国から202名の研修医、指導医の先生方に参加していただき、親睦を深めることができました。

当課は事務局として、指導医とともに大会の企画立案をし、スケジュール調整、プログラム作成、その他備品の手配等様々な調整業務を行いました。指導医、研修医、事務職その他多くの職員に協力いただき、盛会に終了しました。



施設資材課

■スタッフ

施設資材課長 森 藤 望
 他施設資材担当 3 名
 営繕担当 2 名
 エネルギーセンター
 係 長 石 原 忠
 他 6 名（内、4 名派遣）
 洗濯場 3 名委託
 リネン庫 1 名
 中央材料室 3 名委託

■業務概要

施設資材課は、病院の運営に必要な機器や物品等の購入、保守管理、廃棄を行う窓口を主な業務としています。

必要な機器の購入は、毎年、病院の投資計画に基づき、各診療科等の長から整備申請を受け、病院長等とヒアリングを行いながら、年間の整備品目を定めます。整備予定となった医療機器等は順次整備（購入）手続きをしています。

医療機器の他に、病院運営に必要な消耗品も各部署からの要望をとりまとめ、調達しています。アイテム数は概ね 900 品目にのびります。

中央材料室には、SPD（材料物流管理）システムが導入されており、520 品目の医療材料の入出庫を管理しています。



〈SPD センター〉

物品の保守管理部門として 2 名の営繕担当者がおり、病院内のあらゆる施設の立付けから小物、備品を修理しています。プロ顔負けの技量でなんでも直

してしまう頼もしい担当者です。

洗濯場、リネン庫の運営も施設資材課が担当しています。洗濯場では週に約 4,000 枚の手術着やタオル等を大型洗濯機で洗濯します。

リネン庫では病棟で使われる布団やシーツを管理しており、毎日 130 組のシーツ、パット、枕を各病棟へ配っています。また、新採用看護職員の白衣の準備やミシンによる修繕を行っています。

エネルギーセンターは、病院の心臓部で、電気系統の制御、ボイラー、中央管理の冷温水発生機（冷房、暖房）を 24 時間体制で見守っています。

地震等発生時は、真っ先に駆けつけ、病院全体の保全に万全を帰しています。

■トピックス

2016 年度は CT 撮影装置、高圧蒸気滅菌器、麻酔ガスモジュール他 25 品目で、合計 3 億 5 千万円の整備を行いました。

また、老朽化しておりました看護師寮および医師住宅を 7 月から解体・整地し、11 月より病院第一駐車場として運用を開始しました。



〈解体前〉



〈解体・整地後〉

診療情報管理科

■スタッフ

科 長 井 本 真 美

他 7 名

【資格取得】

診療情報管理士 7 名（科長含む）

院内がん登録実務中級認定者 2 名

院内がん登録実務初級認定者 4 名

医療情報技師 1 名

DPC コース認定 1 名

腫瘍学分類コース認定 1 名

【所属学会】

日本診療情報管理士会

日本診療情報管理学会

日本医療情報学会

■活動報告

〈ふれあいポスター展〉

年に一度開催される「オープンホスピタル」への出展。当科の業務を患者さんに知っていただくため、親しみやすい内容になるよう心がけました。



紙の同意書が電子カルテに取り込まれるまでの「同意書の流れ」を説明しました。

〈統計用病名登録〉

2016 年度 病名トップ 15（退院患者）

総件数：14,929 件（転科も含む）

順位	病名（中分類）	件数
1	C15-C26：消化器の悪性新生物	1013
2	D10-D36：良性新生物	721
3	I30-I52：その他の型の心疾患	600
4	I60-I69：脳血管疾患	581
5	O80-O84：分娩	507
6	K80-K87：胆のう<嚢>	490
7	J10-J18：インフルエンザ及び肺炎	431
8	C30-C39：呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	427
9	I20-I25：虚血性心疾患	396
10	H25-H28：水晶体の障害	393
11	C64-C68：尿路の悪性新生物	351
12	K55-K63：腸のその他の疾患	335
13	M45-M49：脊椎障害	321
14	I70-I79：動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	317
15	M50-M54：その他の脊柱障害	224

〈がん登録〉

地域がん診療連携拠点病院として「院内がん登録は国へ」、「地域がん登録は県へ」データ提出を行っています。



各種委員会

治験審査委員会

委員長 徳毛宏則

A. 設立主旨

1) 治験委員会の責務

- (1) 治験委員会は、「治験の原則」に従って、全ての被験者の人権の保護、安全性の保持及び福祉の向上を図ることを目的としています。また社会的に弱い立場にある者を被験者とする可能性のある治験には特に注意を払っています。
- (2) 治験審査委員会は、倫理的、科学的及び医学的・薬学的観点から治験の実施及び継続等について審査を行っています。

2) 治験審査委員会名簿

委員長：徳毛宏則、副委員長：小深田義勝

委員：碓井裕史、黒木一彦、橋本佳浩、横山富子、佐藤澄香、嘉屋祥昭、森井克成、金本英己、向井恵子（外部委員）、松本明子（外部委員）

書記：磯貝明彦

オブザーバー：藤本吉範、森原義雄

B. 活動内容

1) 治験審査委員会の開催

治験審査委員会は原則として1ヶ月に1回開催します。

2) 2016年度治験審査委員会開催概要

- ・第1回（2016/ 4/22）
審議事項 10 件（継続審査 6 件）
報告事項 4 件
- ・第2回（2016/ 5/13）
審議事項 6 件（継続審査 5 件）
報告事項 1 件
- ・第3回（2016/ 6/24）
審議事項 7 件（継続審査 6 件）
報告事項 1 件
- ・第4回（2016/ 7/15）
審議事項 8 件（継続審査 7 件）
報告事項 1 件
- ・第5回（2016/ 8/18）

審議事項 8 件（新規案件 1 件、継続審査 6 件）

報告事項 1 件

- ・第6回（2016/ 9/23）
審議事項 9 件（継続審査 8 件）
報告事項 1 件
 - ・第7回（2016/10/21）
審議事項 9 件（（新規案件 3 件、継続審査 5 件））
報告事項 1 件
 - ・第8回（2016/11/25）
審議事項 9 件（継続審査 8 件）
報告事項 1 件
 - ・第9回（2017/ 1/13）
審議事項 11 件（（新規案件 3 件、継続審査 7 件））
報告事項 1 件
 - ・第10回（2017/ 2/24）
審議事項 9 件（継続審査 8 件）
報告事項 1 件
 - ・第11回（2017/ 3/24）
審議事項 13 件（継続審査 12 件）
報告事項 1 件
- 3) 2016 年度の実施治験総件数：15 件
- (1) 前年度からの継続治験（6 件）
 - ① hsCRP 高値を示す、心筋梗塞後の安定した患者を対象とした canakinumab の event-driven 試験（ACZ885）（ノバルティス）
 - ② 冠動脈疾患を合併した慢性心不全患者を対象としたリバーロキサバンの有効性及び安全性を検討する二重盲検試験国内Ⅲ相（バイエル薬品）
 - ③ 左室駆出率が保持された心不全患者を対象とした国内Ⅲ相（LCZ696）（ノバルティス）
 - ④ 下肢血行再建術施行後の症候性末梢動脈疾患患者を対象としたリバーロキサバンの国際共同第Ⅲ相試験（バイエル）
 - ⑤ 帯状疱疹後神経痛患者を対象とした前期第Ⅱ相試験（TRK-700）（東レ）
 - ⑥ 潰瘍性大腸炎・クローン病の治療における MLN0002（300mg）の第Ⅲ相臨床試験（武田薬品）

(2) 2016 年度からの新規治験 (7 件)

- ① 帯状疱疹後神経痛に対する NZ-687 の第Ⅲ相試験 (日本臓器製薬)
- ② MR11A8 を中等度又は重度の急性呼吸窮迫症候群患者へ静脈内投与した際の有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相臨床試験 (丸石製薬)
- ③ 左室駆出率が低下した心不全患者を対象に、vericiguat の有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相、臨床アウトカム試験 (MK-1242) (バイエル薬品)
- ④ 保存期慢性腎臓病に伴う腎性貧血患者を対象としたダルベポエチンアルファを対照とする比較試験 (切替え試験) (ASP1517) (アステラス製薬)
- ⑤ 保存期慢性腎臓病に伴う腎性貧血患者を対象とした第Ⅲ相試験 (貧血改善・改善維持試験) (ASP1517) (アステラス製薬)
- ⑥ MT-3995 の非アルコール性脂肪肝炎を対象とした探索的試験 (田辺三菱製薬)
- ⑦ 慢性血栓塞栓性高血圧症患者を対象とした NS-304 (セレキシパグ) の第Ⅲ相試験 (日本新薬)

(3) 2016 年度の終了治験 (2 件)

- ① DS-5565 第Ⅲ相国際共同試験 (PHN) (第一三共)
- ② 慢性心不全 (HFpEF) Ⅲ相 (LCZ696D) (ノバルティス)

4) 医薬品情報の衆知活動

5) その他の医薬品に関する事項

3. 委員

委員長及び委員は病院長が任命した者であり、病院幹部 (病院長代行、副院長)、各診療科代表 (センター長・主任部長)、看護部副部長、院内リスクマネージャー、医事課課長及び薬剤部長等で構成されています。

4. 委員会の開催

委員会の開催は、原則として月 1 回となっています。(但し、8 月と 12 月は委員会を休会しています。)

5. 新規医薬品

- 1) 医薬品の採用は、a) 一般採用医薬品 b) 用時購入医薬品 c) 患者限定医薬品に分類され、a) b) は委員会の審議が必要となります。
- 2) a) b) に関して、採用を希望する場合は、所属長の承認の元、「新規医薬品購入申請書」に必要事項を記入し、事務局 (薬剤部) に提出していただき、当委員会で審議することとなります。
- 3) c) は「患者限定使用許可申請書」を事務局に提出、迅速審議の上、委員長が許可し、次の委員会にて薬剤部長より報告されます。
- 4) 薬事委員会は、採用の可否を審議決定しますが、1 増 1 減を原則とし、適正な在庫数になるよう努めています。

6. 医薬品安全性情報が新規に発布された場合、全医師に連絡、注意喚起し、必要な対策を講じています。

また、2016 年度より、高額新規薬剤適正使用のため、使用状況を当委員会にて毎回報告し、情報共有に努めています。

7. ジェネリック医薬品

当委員会では、当院の病院環境や薬剤使用状況を十分に考慮した上でジェネリック医薬品の採用を検討、実施しています。

2016 年度は 20 件を採用し収益効果をあげ、後

薬事委員会

委員長 徳 毛 宏 則

1. 目的

当委員会は、院内で使用する全ての医薬品に関わる諸問題について検討協議を行い、薬事全般にわたる病院長の諮問事項を審議、報告する機能と義務を負い、医薬品の安全かつ効率的な使用をはかることを目的としています。

2. 任務

- 1) 新規採用申請薬品の審議
- 2) 薬品の適切な使用方法の協議と啓発
- 3) 在庫薬品の適切な管理と運用

発医薬品係数取得に貢献しています。

8. 医薬品管理

2016年度は、病棟定数配置薬の見直しのため、現状の問題点と改善策の提言を行いました。院内全体の薬剤の適正使用と安全管理のために、引き続き監視と是正に努めていきます。

9. 2016年度実績

2016年3月31日現在の当院採用数

一般採用		特定患者限定	90
内服薬	733		
注射薬	522		
外用薬	309		
その他	10		
一般採用 計	1,574		
用時購入 保険適応	77	RI 医薬品	113
その他（ワクチン類）	14		
採用品数合計			1,779
ジェネリック医薬品			267

10. 2016年度 医薬品の総新規採用件数・総削除件数

医薬品総新規採用件数	63
医薬品総削除件数	64

倫理委員会

委員長 碓井裕史

1. 設立主旨

1) 倫理委員会の責務

当院の職員が行う人間を対象とした医学研究および医療行為について、職員の申請に基づき、研究や実施計画について審査を行います。

また、関連する医療機関が当院職員・患者に対して実施する医学研究について、その申請に基づき、研究や実施計画について審査を行います。

2) 構成メンバー（2016年度）

委員長：碓井裕史、副委員長：徳毛宏則

委員：病院長代行、副院長、診療部長、事務長、看護部長、薬剤部長、臨床研究検査科長、看護部副部長、地域医療連携室長、事務次長（書記兼務）

外部委員 3名（有識者、内1名は弁護士）

2. 活動内容

1) 標準業務手順書の改訂

当院で制定していた“臨床研究等における標準業務手順書”を“人を対象とする医学系研究に関する倫理指針”に沿うよう改訂しました。

2) 個人情報保護法等改定への対応

上記改正が2017年度に予定されています。これに対応する研究倫理指針の改定もあるため、文部科学省および厚生労働省による説明会がありました。委員長、看護部長および事務局が参加しました。

3) 倫理委員会の開催

研究申請書が提出された場合、委員会を招集して開催します。2016年度は11回開催しました。

委員会の中で、外部委員（弁護士）による“人を対象とする医学系研究に関する倫理指針”に関するミニレクチャーを随時、行いました。

4) 2016年度委員会開催概要

- ・第1回（2016/ 4/22）
審査件数 6件（承認 6件）
- ・第2回（2016/ 5/13）
審査件数 4件（承認 4件）
- ・第3回（2016/ 6/24）
審査件数 2件（承認 2件）
- ・第4回（2016/ 7/15）
審査件数 2件（承認 2件）
- ・第5回（2016/ 8/18）
審査件数 11件（承認 11件）
- ・第6回（2016/ 9/23）
審査件数 9件（承認 9件）
- ・第7回（2016/10/21）
審査件数 4件（承認 4件）
- ・第8回（2016/11/25）
審査件数 8件（承認 8件）
- ・第9回（2017/ 1/13）
審査件数 7件（承認 7件）
- ・第10回（2017/ 2/24）
審査件数 11件（承認 11件）

- ・第11回（2017/ 3/24）
- 審査件数 7 件（承認 7 件）

5) 2016 年度承認された研究の申請部署別内訳

・医局	49 件
・看護科	14 件
・薬剤部	5 件
・リハビリテーション科	3 件
合計	71 件

臨床検査適正化委員会

委員長 藤 井 隆

1. 設立趣旨

臨床検査に関する問題と、併せてその適正な運用に関する問題を審議し、臨床検査業務を円滑に行なうことを目的としています。

そのために以下の事項について審議します。

- ＊臨床検査に関する調査、情報収集に関すること
- ＊臨床検査部門内外で発生した臨床検査に関すること
- ＊臨床検査の適正な使用に関すること
- ＊その他必要と思われる事項

1) 構成メンバー

医師 6 名、看護師 2 名、
臨床検査技師 6 名、事務部門 2 名

2. 活動内容

- 1) クレアチニン eGFR を自動表示できるようにしました。
- 2) 初回値報告の必要性和運用を周知しました。
WEB 画面（時系列標示）を改善しました。
- 3) 正確な検査値を得るため、採血時の条件（30 分安静など）を周知しました。
- 4) HbA1c キャリブレーションの表示値の変更、NEFA 検査の中止、PTH-intact、抗 Tg 抗体及び抗 TPO 抗体の外注への移行について周知しました。
- 5) 身長体重の検査値への影響について審議し、電子カルテの身長体重のデータについて出来る限り最新にするよう周知しました。

- 6) HBV 核酸定量検査の報告単位について、日本肝臓学会よりの提言を受けて単位を LIU / ml に変更しました。

- 7) 薬物療法ガイドライン（日本化学療法学会、日本腎臓病薬物療法学会）を受けて eGFR 未補正值を表示できるようにしました。

- 8) 検査コスト削減のため測定機器を変更します。
対象項目（IgG、IgA、IgM、C3、C4、TTR）

- 9) 生化学検査項目の試薬を変更します。
対象項目（CHE、Ca、フェリチン）

- 10) リウマトイド因子の略号を変更します。
（RA の表示を RF と変更する）

3. 外部精度管理調査報告

- 1) 日本臨床衛生検査技師会
100 点（229 / 229）
- 2) 日本医師会
98.4 点（630 / 640）
- 3) 広島県医師会
100 点（116 / 116）

診療録管理委員会

委員長 石 田 和 史

1. 設立主旨

診療情報管理業務の円滑な運営のため、診療情報管理および診療記録に関する事項を検討、討議することを目的として、診療録管理委員会が設立されました。

【診療録管理委員会の構成】

委員長：医師

委員：医師 6 名、薬剤師 1 名、看護師 7 名

事務部門 2 名、診療情報管理士 3 名（計 21 名）

オブザーバー：病院長、事務長

2. 主な活動内容

〈退院時サマリー 2 週間以内記載率〉

診療録管理体制加算 1 を取得しており、要件の 1 つである退院後 2 週間以内のサマリー記載率 90%以上を維持するため、毎週医師への記載依頼を行って

います。

また、委員会・医局会・院内 HP への掲載など、記載を意識してもらうための積極的な活動を行っています。

- ・2015 年度：96.0%
- ・2016 年度：96.9%

診療科別 退院時サマリー 2 週間以内記載率

2016 年 4 月～2017 年 3 月退院分 14,929 人（転科を含む）

診療科	2 週間以内 記載率	診療科	2 週間以内 記載率
呼吸器内科	92.9%	呼吸器外科	100.0%
循環器科	86.0%	心臓血管外科	98.7%
腎臓内科	98.5%	皮膚科	98.7%
糖尿病代謝内科	99.1%	泌尿器科	99.6%
消化器内科	94.4%	産婦人科	98.0%
小児科	98.3%	眼科	99.8%
外科	99.4%	耳鼻咽喉科	99.3%
整形外科	94.8%	放射線治療科	100.0%
形成外科	97.2%	歯科口腔外科	91.2%
乳腺外科	100.0%	緩和ケア	100.0%
脳神経外科	98.2%	救急・集中治療科	100.0%
平均科別 2 週間以内記載率		96.9%	

〈質的（同僚）監査・量的点検〉

質的監査では、医師同士で「日々の診療の判断材料の根拠となる診療情報」が正しく記載されているか、量的点検では、必要な記載・書類が揃っているかを目的に監査を行い、その結果を関係部署へ報告を行い、診療録の改善に努めています。

2016 年度からは、退院時サマリーの記載内容の充実を図る目的で、退院時サマリーに特化した監査も開始しました。

科別質的監査件数

※ 特定の医師を除く

監査対象科		オーデイト担当回数	
呼吸器内科	5	呼吸器内科	4
循環器科	7	循環器科	8
腎臓内科	5	腎臓内科	1
糖尿病代謝内科	4	糖尿病代謝内科	4
消化器内科	12	消化器内科	10
小児科	4	小児科	5
外科	13	外科	13
乳腺外科	2	乳腺外科	4
整形外科	8	整形外科	6
形成外科	1	形成外科	2
脳神経外科	5	脳神経外科	3
呼吸器外科	3	呼吸器外科	3
心臓血管外科	6	心臓血管外科	5
皮膚科	5	皮膚科	1
泌尿器科	4	泌尿器科	3
産婦人科	7	産婦人科	7
眼科	2	眼科	4
耳鼻咽喉科	5	耳鼻咽喉科	3
放射線治療科	3	放射線治療科	3
歯科・口腔外科	3	画像診断部	5
救急・集中治療科	4	麻酔科	8
		歯科・口腔外科	1
		救急・集中治療科	5
総計	108	総計	108

〈その他の業務改善の内容〉

現行の運用で生じる問題点を委員会で検討し、業務の改善を図っています。

- ・院内共有の略語検索の掲載
- ・委譲者オーダと研修医カルテ承認の問題点
- ・入院診療計画書の問題点
- ・同意書の承認 など

地域医療連携推進委員会

委員長 小深田 義 勝

1. 設立趣旨

当院が、地域の中核病院としての役割を発揮するために、院内の診療体制整備、強化を行うことを目的としています。また、委員会の活動により円滑な地域医療連携を推進し、地域から信頼され選ばれる病院を目指しています。

2. 活動内容

- ①地域医療連携に係わる活動実績に関すること
(紹介・逆紹介、退院支援、地域連携クリニカルパスなど)。
- ②地域医療連携に係わる院内の体制に関すること。
- ③地域医師会、関係機関との連携に関すること。
- ④地域医療連携に係わる地域住民への広報活動に関すること。
- ⑤その他、地域医療連携に関すること。

3. 2016 年度 構成員

委員長：病院長代行

委員：医師 13 名、薬剤師 1 名、保健師 1 名、看護師 8 名、事務部門 5 名、診療情報管理士 1 名
オブザーバー：病院長、事務長、看護部長

4. 活動報告

2016 年度は 8 月に委員会を開催しました。廿日市市役所の担当職員にも参加していただき第 14 回市民公開講座のテーマや内容について協議しました。また、近隣医療機関への挨拶回りや初診紹介・救急患者、未返書状況等についての報告を行い、改善方法等について話し合いました。紹介患者診療申込や返書管理においては、連携医療機関との速やかな情報のやりとりができるよう新たに院内でのルールを作成したため、委員会内で説明を行いました。

地域がん診療連携拠点病院運営委員会

委員長 今 村 祐 司

1. 設立主旨

当院は 2007 年 3 月に、国指定の地域がん診療連携拠点病院に指定されましたが、当委員会はこれにさきがけ、2006 年 11 月第 1 回目の会議を開き、5 つのワーキンググループ（院内がん登録・緩和ケア・化学療法・がん相談・学術研修と広報）を結成し、病院挙げての体制作りを支援する委員会として発足しました。2015 年 3 月に、診療体制・診療実績・組織作りに関する新指定要件を満たす地域がん診療連携拠点病院として指定更新されています。

2. 活動内容

- 1) 年 2 - 4 回の委員会の本会議
- 2) 随時開催する担当者会議

3. 本委員会のこれまでと、今後

この 10 年間でがん医療に関する地域住民の方々の要望もより明確化しています。高齢化に伴い、がん罹患率も減ずることはなく、当院でがんの診断を受けて治療をうけるがん患者も右肩上がりで見られ、1,500 名を超えています。

これまでは指定要件をクリアすべく、チーム医療を基本にした院内の診療体制づくりを活動目標としてきました。発足当初は、がん専門病院であれば必要とされる病院機能をそれぞれ名付けたワーキンググループでしたが、今では立派に成長し、①診療情報管理課専門員によるがん登録部門、②緩和ケア外来・病床を持ち、緩和ケアチームによる診療体制を提供する緩和ケアチーム、③専門性を高めたスタッフで院内の化学療法を支援するがん化学療法チーム、④がん医療専門の相談員・ケースワーカーが地域連携のネットワークを活用して活動するがん相談支援センターなど、十分な体制が整ってまいりました。そして今年度は、地域がん診療連携拠点病院が果たすべき役割—『質の高いがん医療を提供する医療機関として、専門的ながん医療の提供、地域での連携協力体制の構築、がん患者に対する相談支援・

情報提供などを行なう』一をさらに主体的に行なうことをテーマにワーキンググループを一部編成し、活動しています。

各々の活動状況は各部門の活動報告に委ねることに致します。本委員会が、専門性高い各ワーキングチームの活動を有機的に展開されるように支援するという役割を果たし、当院が自らの歩みで、広島西医療圏のがん医療を担う病院として成長することを願っています。

体制は以下の通りです。

委員長 今村

副委員長 小松・伊東・藤田委員

6つのワーキンググループ（担当責任者）

①院内がん登録

今村委員長・渡委員・井本委員

②緩和ケア

小松副委員長・伊東副委員長・鶴谷委員

③がん相談

近藤委員・藤本（佳）委員・正嶋委員・藤本（七）

委員

④化学療法

今村委員長・野村委員・中島委員

直轄する委員会 がん化学療法運営委員会

今村委員・野村委員・中島委員

⑤学術・研修・広報

藤田副委員長・森井委員・上村委員

⑥がんパス推進

川淵委員・杉山委員・槌谷委員（西6）・古井委

員（東6）・（総合医療相談室）

①②③ 広島県がん診療連携協議会部分にも参加し活動

輸血療法委員会

委員長 香山茂平

本年度も、輸血療法に関し安全性の確保ならびに適正使用の促進に向けた取り組みを行いました。

（6回開催）

月別の診療科別輸血製剤使用単位数・アルブミン使用量報告、院内輸血マニュアルや輸血関連業務の運用の見直しについて継続的に審議しました。輸血療法に伴うインシデント事例は昨年同様、医療安全管理室と連携し、内容・発生要因・改善策について検討を行いました。また今年度より、輸血製剤・特定生物由来製品が適正に使用されているかを報告し検討を行いました。

輸血後感染症検査については、実施率は1割未満でした。

【今年度の主な取り組み】

- ・製剤使用状況・廃棄報告
- ・輸血副作用報告
- ・アルブミン製剤使用分析
- ・輸血製剤・特定生物由来製品が適正使用検討
- ・輸血後感染症検査の案内・実施状況について
- ・輸血関連インシデント
- ・ICU 保管血液製剤の運用手順について
- ・輸血同意書改訂

【院内合同研修会】

開催日 2016年10月27日

演題 輸血血液製剤の取り扱いから副作用まで

講師 広島県赤十字血液センター

学術情報科

昨年度に引き続き、アルブミン使用状況より集計分析等で適正使用に向け取り組み、輸血管理料・輸血適正使用加算の値を満たすことができました。

来年度も、輸血製剤・特定生物由来製品が適正に使用されているかを検討し、各診療科へフィードバックしていきます。また、廃棄血の削減および輸血後感染症検査の実施率向上にむけて取り組みます。

2016 年度 輸血用製剤 使用単位数・廃棄単位数・廃棄率

製剤名	使用単位数	廃棄単位数		使用単位数合計	廃棄率
Ir-RBC-LR2	3186	122	RBC	3186	3.7%
Ir-WRC-LR2	0	0			
FFP-LR240	1114	44	FFP	1318	4.0%
FFP-LR480	204	12			
Ir-PC-LR10	2770	40	PC	2770	1.4%
Ir-PC-LR20	0	0			

2016 年度 自己血使用数・廃棄数

科別	貯血単位数	使用単位数	廃棄単位数
整形外科	43	43	0
脳外科	4	4	0
泌尿器科	20	16	4
産婦人科	38	8	30
合 計	105	71	34

2016 年度 特定生物由来製品使用状況

製 品	本 数
20%アルブミン	710
グロベニンI 2.5g	18
グロベニンI 5g	299
10%日赤ポリグロビン N 5g	0
テタノブリン筋注 250 国際単位	15
ハプトグロビン静注	2
抗 D 人免疫グロブリン筋注	6
乾燥 HB グロブリン筋注	6
献血ノンスロン	20
フィブロガミン P	15
タコシール 3 × 2.5cm	109
タコシール 9.5 × 4.8cm	100
ベリプラスト P 組織接着用 1ml	49
ベリプラスト P 組織接着用 3ml	139
ベリプラスト P 組織接着用 5ml	79
アブラキサン点滴静注 100mg	492
5%アルブミン 250ml	455

臨床研修医支援委員会

委員長 西 原 礼 介

初期臨床研修医の充実した研修を実現するため、基本的臨床能力の獲得・向上の支援、学術活動や生活面・精神面のサポートなど行っています。

〈昨年度より引き続きの活動〉

- ・ Early Bird Lecture：毎週火曜日午前7時から、製薬会社MRによる薬剤の説明、研修医による症例プレゼンテーション、上級医によるレクチャー
- ・ オープンカンファレンス：毎月第3水曜に開催され、研修医が症例報告している

- ・ イブニングセミナー：外部講師を招聘しての講演
第1回（2016/ 8/ 5）水戸協同病院 矢野晴美先生
第2回（2016/12/ 5）板倉病院 古川力丸先生
第3回（2017/ 3/ 2）静内病院 井齋偉矢先生
- ・ ERアップデート参加
沖縄（2016/ 7/ 1）、大阪（2017/ 2）
- ・ ハワイ大学SimTiki研修（2016/ 7/11）
- ・ 基本的臨床能力評価試験（2017/ 1/30）
- ・ 第3回わかりやすい先進医療セミナー（2017/ 2/ 7）
講師：野島内科医院 野島崇樹先生、
脳神経外科 阿美古将先生
- ・ 外部施設研修報告会（2017/ 2/14）：2年次が地域医療で研修した内容を発表（廿日市記念病院、吉和診療所、コールメディカルクリニック、南相馬市立総合病院、草津病院、メープルヒル病院、瀬野川病院）
- ・ メンター・メンティー送別会（2017/ 2/ 14）
- ・ 西原委員長と研修医全員との面接（2017/ 2）
- ・ 臨床研修科フェイスブックにて、研修医の活動を広く世界に公開。
- ・ メンター制度：研修医1人につき、原則として上級医／指導医1人をメンターとして指名し、研修医へのアドバイスやサポートを行う。

〈今年度行ったこと〉

- ・ 第9回厚生連病院研修医全国大会 in 広島（写真2）
（2016/10/14-15）全国のJA病院の研修医約130名が参加し、臨床問題のケータイゴングやハンズオン実習、マツダ(株)人見光夫先生、広島大学学長越智光夫先生の講演など行った。
- ・ ERアップデート報告会（2016/ 7/19）
- ・ 臨床心理士との面接
- ・ 佐伯医学会総会（2016/11/ 3）で研修医が発表（内田由紀先生、岡本直通先生、田中芳樹先生、田中友理佳先生、武藤雅幸先生、）
- 〈表彰〉
- ・ アカデミー学術賞研修医部門：安田珠里先生「ロクロニウム投与時のTOF刺激」

- ・基本的臨床能力評価試験
優秀賞 2年次：難波剛史先生、1年次：竹野典子先生、森川百合亜先生
- ・研修医が選ぶベストオブ指導医：救急・集中治療科 櫻谷正明先生
〈西原委員長の活動〉
- ・第12回広島卒後臨床研修ネットワーク指導医養成講習会（2017/ 2/13-14、広島）にタスクフォースとして参加。



(写真1) 研修修了証授与式 (2017/ 3/17)



(写真2) 第9回厚生連病院研修医全国大会

広報委員会

委員長 藤 井 隆

◆設立の目的

院内における各部署の活動を院外に広く知っていただくことを目的として設立されました。各部署についての詳細な広報としては年報がありますが、タイムリーな話題の広報も必要です。そのための手段の一つがホームページであり、もう一つが広報誌「せと」です。この二つを作成・管理するのが本委員会です。

◆委員会活動

委員会は年3回、広報誌「せと」の発行時期に合わせて開催し、ホームページについても検討を行っています。

1. 広報誌「せと」

病院広報誌である「せと」は年3回（新年号・春夏号・秋号）発行しています。短時間で気軽に目を通すことが出来るような小冊子で、新年号は年始の病院長挨拶に始まり、春夏号は新任医師の紹介、秋号は院内のトピックス等を掲載しています。その他に診療科やメディカルスタッフ、チーム医療の紹介、看護科や医療福祉支援センターからのお知らせ、病院行事の案内や院内での出来事等をコンパクトにまとめて構成しています。

2016年度は、春夏号で患者入院センター、中央検査処置室、秋号で放射線治療科、外科、DMAT、新年号で泌尿器科、皮膚科、放射線科を紹介しました。

2. ホームページ

ホームページについては年に1回アクセスの解析を行い、有益なサイトと相互リンクを増やすことによりアクセス数の増加に努めています。医療ニュースアクセスランキングと閲覧者数及び閲覧方法の経年的比較を後掲します。

また、診療科及びスタッフによって作成された最新の話やイベント情報などを盛り込んだトピックスを定期的に更新するように努めています。

さらに2016年度は自病院の「医療の質」の分析情報をホームページ上に公開することで病院への理解を深めていただくように活動を行ないました。

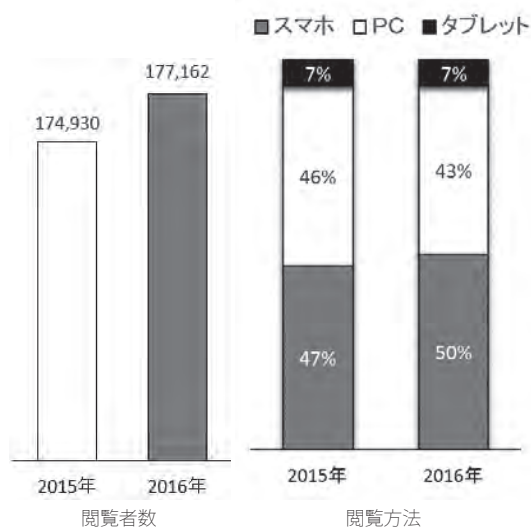
○医療ニュースアクセス数（2016/4/1～2017/3/31）

【診療部門】

1. 心臓血管外科：近年の大動脈瘤の治療について
2. 歯科口腔外科
多発するビスホスホネート製剤による顎骨壊死の情報
3. 麻酔科：気管挿管とビデオ喉頭鏡の導入
4. 循環器内科：心筋梗塞とPCI／ステント治療
5. 緩和ケア科：がん告知について
6. 整形外科：腰椎椎間板ヘルニアに対する新しい治療法

7. 循環器内科：超悪玉コレステロールに関して
8. 小児科：食物アレルギーの問題点とトピックス
9. 脳神経外科：当科の手術内容について
10. 外科：おなかのヘルニア専門外来のお知らせ【診療支援部門】
1. 中央放射線科：心臓 CT 検査について
2. 看護部：腹膜透析におけるトラブルの対応について
3. 臨床工学科：非侵襲的人工呼吸器専用機の増設
4. NST：栄養サポートチーム（NST）の紹介について
5. 薬剤部：外来患者さんへの服薬指導について
6. 看護部：今年もたくさんのフレッシュャーズが加わりました
7. 中央放射線科：最新 256 列 CT を導入しました

○ホームページの閲覧者数と閲覧方法の比較



アカデミック委員会

委員長 徳毛 宏 則

1. 設立趣旨

当院の医療および医療学術活動の質をレベルアップし、院外研修や学会発表の奨励を行う目的で 2010 年に設立されました。

2. 活動内容

①学術奨励賞の設定 ②病院年報の充実 ③国内・国際学会発表、論文作成等、学術活動の活性化および支援活動 ④他施設との情報交換、人的交流の促進と支援です。

今年度は委員会を 4 回開催し、下記の事項について協議しました。

(1) 第 7 回ふれあいポスター展

2016 年 11 月 7 日～12 月 29 日、各部署が趣向を凝らして作成したポスター 51 作品を院内に展示し、地域住民等から選出された 6 作品を表彰しました。

(2) 第 7 回アカデミー学術賞

学会・研究等において優れた論文を発表した職員を表彰しました。

◆表彰作品

賞	部 門	部 署
最優秀賞		臨床研究検査科
優秀賞	医 局 部 門	小児科
	看 護 部 門	内視鏡センター
	コメディカル部門	栄養科
	チーム活動部門	災害対策ワーキングチーム
	住 民 投 票 部 門	内視鏡センター

◆最優秀賞受賞者

部 門	診 療 科	氏 名
内 科 系	糖尿病・代謝内科	石田 和史
外 科 系	整 形 外 科	山田 清貴
コメディカル	薬 剤 部	吉廣 尚大
研 修 医	臨 床 研 修 科	安田 珠里

(3) 国内・国際学会発表等の支援活動

学会への参加者等に「アカデミック研修費」を支給し、学術活動の支援を行っています。

◆各診療科への支援状況

部 署	件数	部 署	件数
呼 吸 器 内 科	1	乳 腺 外 科	1
腎 臓 内 科	1	呼 吸 器 外 科	6
糖尿病・代謝内科	2	脳 神 経 外 科	2
消 化 器 内 科	7	泌 尿 器 科	1
循 環 器 内 科	1	産 婦 人 科	1
小 児 科	1	麻 酔 科	3
外 科	16	救急・集中治療科	6
整 形 外 科	17	臨 床 研 修 医	10

(4) ハワイ大学研修について

医学教育で有名なハワイ大学で医師としてのレベルアップを目指し、英語環境にも触れ、また、日頃

の忙しい日常業務から開放され、鋭気を養ってもらうことを目的に、2012年度より短期海外研修を実施しています。

対象者は、初期研修から引き続き当院で3年目の勤務を続けた医師で、今年度は4名が参加しました。



禁煙推進委員会

委員長 渡 正 伸

A. 設立主旨

1) 病院における禁煙推進

当院を利用する患者および家族等関係者、並びに当院職員の禁煙を推進する。

当院の施設内および敷地内での喫煙を無くし、敷地内禁煙を実行していく。

2) 構成メンバー（2016年度）

委員長：渡正伸、副委員長：伊東淳

委員：8名

B. 活動内容

1) 院内（敷地内）の喫煙状況の把握と防止

- ・病院安全管理室職員による定期的な巡回、声かけ。
- ・禁煙のお願いについて院内一斉放送を毎日繰り返して実施。

2) 新規入職者に対する、オリエンテーション（毎年4月初旬に実施）

- ・医療スタッフとしての喫煙の健康被害、禁煙の必要性敷地内禁煙についての理解を深めてもらう。

3) 入院患者の喫煙に対する対応

- ・喫煙を繰り返す入院患者に対して、作成したマニユ

アルに沿った対応を実施して行く。

4) 2016年度委員会開催概要

第1回（2017 / 3 / 29）議事内容の抜粋

入院時禁煙指導の徹底

①入院センター新設によりパンフレットによる入院時禁煙の推進を図る。

②パンフレットの刷新を予定する。

③入院患者の喫煙状況を病棟可聴責任で把握し報告してゆく。

院内喫煙状況について

①昨年と比較して敷地内のポイ捨てされた吸い殻を数えているが、敷地内の禁煙はほぼ守られている模様だが、広電駅や国道などの敷地外での喫煙目立つ

②職員喫煙状況では全体で6.9%と減少傾向である。職員の敷地外喫煙は休憩時間でのものと見なせるが私服に着替えていただきたい。

次年度に向けて

①委員数を増員していきたい、放射線科や検査科からの医院や、禁煙外来の看護師も委員として構成していきたい。

【今後の課題】

- ・電子タバコの問題が出てきているがさしあたっては、タバコと同様の対応をしていくこととなる。
- ・敷地外に出て喫煙する入院患者に対する有効な対策を建てていく必要があるが、困難な問題である。



著書・論文

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
患者さんにとって Happy な経口血糖降下薬の使い方は？	石田和史	広島医学・広島医学会	69・2・120-127	2016 年
糖尿病神経障害の早期診断と薬物療法 IV-1. ニューロメーター	石田和史	医学出版	8・8・29-37	2016 年

消化器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
高齢者の腸閉塞・イレウスの特徴と治療	徳毛宏則	臨床老年看護	23：37-46.	2016 年
腸閉塞・イレウス高齢患者の観察とケア	松下理恵	臨床老年看護	23：47-52.	2016 年
NAFLD / NASH- 病態に基づいた診断、治療戦略ー アルコール飲酒・喫煙と NAFLD / NASH	兵庫秀幸	CURRENT THERAPY	34 (7) ; 78	2016 年
Comparison of Outcome of Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy and Sorafenib in Patients with Hepatocellular Carcinoma Refractory to Transcatheter Arterial Chemoembolization.	Hatooka M, Kawaoka T, Aikata H, Morio K, Kobayashi T, Hiramatsu A, Imamura M, Kawakami Y, Murakami E, Waki K, Honda Y, Mori N, Takaki S, Tsuji K, Kohno H, Kohno H, Moriya T, Nonaka M, Hyogo H, Aisaka Y, Chayama K.	Anticancer Res.	36 (7) : 3523-9.	2016 年
Interleukin-34 as a fibroblast-derived marker of liver fibrosis in patients with non-alcoholic fatty liver disease.	Shoji H, Yoshio S, Mano Y, Kumagai E, Sugiyama M, Korenaga M, Arai T, Itokawa N, Atsukawa M, Aikata H, Hyogo H, Chayama K, Ohashi T, Ito K, Yoneda M, Nozaki Y, Kawaguchi T, Torimura T, Abe M, Hiasa Y, Fukai M, Kamiyama T, Taketomi A, Mizokami M, Kanto T.	Sci Rep.	6 : 28814.	2016 年
Choline Deficiency Causes Colonic Type II Natural Killer T (NKT) Cell Loss and Alleviates Murine Colitis under Type I NKT Cell Deficiency.	Sagami S, Ueno Y, Tanaka S, Fujita A, Niitsu H, Hayashi R, Hyogo H, Hinoi T, Kitadai Y, Chayama K.	PLoS One.	Jan 17 ; 12 (1) : e0169681.	2017 年
「上級医を目指すキミへ！消化器内視鏡基本手技のすべて」	藤本佳史（共著）	南江堂		2017 年
経口抗ウイルス療法にて治癒し得た高齢者、C 型急性肝炎の 1 例	相坂康之 野中裕広 兵庫秀幸 徳毛宏則	肝臓	58：197-201	2017 年
NAFLD / NASH の予後と肝発癌	兵庫秀幸	Gastroenterology & Hepatology 消化器・肝臓内科	1 (2) 207-211	2017 年
私の治療法 非アルコール性脂肪性肝疾患／非アルコール性脂肪肝炎（NAFLD / NASH）の取り扱い方	兵庫秀幸	広島市内科医会報	80：41-55	2017 年

外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
放射線被曝と甲状腺癌発生に関するこれ迄のわれわれの経験に基づいた被曝者甲状腺癌の手術法について：広島原爆被曝 70 周年を迎えて	武市宣雄 土肥雪彦 野宗義博 土石川勝司 奥道恒夫 杉野圭三 田崎達也 平岡敬生 伊藤利夫 森 雅弘 松本治夫 岡本英樹 春田るみ 木村厚雄 大成亮次	広島医学	69 (4) : 311-317	2016 年
腹腔鏡所見から得られた中高齢成人女性鼠径部ヘルニアの特徴	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 中村浩之 黒尾優太 馬場健太 亀田靖子 田妻 昌 今村祐司 中光篤志	広島医学	69 (6) 484-487	2016 年
外科切除および術後補助療法 FOLFOX6 にて完全緩解が得られたリンパ節転移を伴う原発性十二指腸癌の 1 例	今村祐司 佐々木秀 香山茂平 田崎達也 杉山陽一 中村浩之 黒尾優太 中光篤志 台丸 裕 藪田ゆみ 白井敦史 埋橋賢吾	癌と化学療法	43 (5) : 629-631	2016 年
再発を繰り返した膀胱ヘルニアに対し、腹腔鏡下に修復した 1 例	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 中村浩之 上神慎之介 馬場健太 亀田靖子 田妻 昌 中光篤志	日本ヘルニア学会誌	3 (1) : 29-36	2016 年

著書・論文

膿瘍穿刺ドレナージ 経皮的、経肝的（PFA／PAD）	佐々木秀	術後ケアとドレナージ管理のすべて。竹末芳生 藤野智子編集 照林社	320-3	2016 年
----------------------------	------	----------------------------------	-------	--------

整形外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Targeted Therapy for Low Back Pain in Elderly Degenerative Lumbar Scoliosis : A Cohort Study	Kiyotaka Yamada	Spine	41 (10) 872-879	2016 年
アスリートの腰椎椎間板ヘルニアに対する percutaneous endoscopic discectomy (PED) の治療成績	中前稔生	関節外科	35 (5) 30-36	2016 年
Bone Marrow Edema and Low Back Pain in Elderly Degenerative Lumbar Scoliosis : A Cross-sectional Study	Nakamae T	Spine	41 (10) 885-892	2016 年
Relationship between clinical symptoms of osteoporotic vertebral fracture with intravertebral cleft and radiographic findings	Nakamae T	J Orthop Sci	22 (2) 201-6	2017 年

心臓血管外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Treatment of porcine bioprosthetic mitral valve thrombosis with anticoagulation	Masaki Hamamoto, Taira Kobayashi, Masamichi Ozawa and Kosuke Yoshimura	Cardiovascular and Thoracic Open	2 : 1-3	2016 年

麻酔科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
100.BIS モニターは術中どの程度に保つべきか	中尾正和	新麻酔科研修の素朴な疑問に答えます 編集 稲田英一 メディカルサイエンスインターナショナル	319-321	2016 年
ビデオ喉頭鏡と直接視型喉頭鏡との比較 習熟すれば患者にも麻酔科医にもやさしい	中尾正和	LiSA	23 (12) : 1140-45	2016 年

救急・集中治療科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
挿管を望まない患者に対する NPPV の限界	高場章宏 蛇名正智 櫻谷正明	日本救急医学会雑誌	28・2・64-70	2017 年

薬剤部

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
集中治療室の病棟業務における臓器系統別患者評価法導入の効果	吉廣尚大 富田隆志 橋本佳浩	医療薬学	42 (6) ; 445-452	2016 年

臨床研究検査科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
末梢血液鏡検を契機として早期診断に至った Capnocytophaga canimorsus による掻傷感染症の一例	梶川裕子 池田光泰 山川理奈 外丸香織 池部晃司 山本加代子 笹谷真奈美 水野誠士 藤井 隆 櫻谷正明 吉田研一	日本農村医学会	Vol65. No4, 843 ~ 849	2016 年
尿沈渣のマルベリー小体検出によりファブリー病と診断された 1 症例	猪丸祐美子 本田 愛 荒瀬美幸 三舛正志 水野誠士 藤井 隆 藤野 修 荒川哲次	広島県臨床検査技師会	5, 24 ~ 29	2016 年
便潜血自動分析装置 2 機種と比較検討	鉛山かおり 長谷川文香 本田 愛 荒瀬美幸 三舛正志 水野誠士 藤井 隆	広島県臨床検査技師会	5, 42 ~ 48	2016 年

書籍・雑誌編集

消化器内科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
徳毛宏則	在宅医療と内視鏡治療（井上信之論文）	③学術雑誌の査読者		PEG・在宅医療学会
徳毛宏則	在宅医療と内視鏡治療（大野一将論文）	③学術雑誌の査読者 （再査読）		PEG・在宅医療学会
兵庫秀幸	Hepatology Research	③学術雑誌の査読者	HEPRES-16-0827	
兵庫秀幸	Hepatology Research	③学術雑誌の査読者 （再査読）	HEPRES-16-0827R1	
兵庫秀幸	Pharmacological Reports	③学術雑誌の査読者	Phar Repr 2016 年	
兵庫秀幸	Hepatology Research	③学術雑誌の査読者	HEPRES-17-0185	
兵庫秀幸	Hepatology Research	③学術雑誌の査読者	HEPRES-17-0221	
兵庫秀幸	Oxidative Medicine and Cellular Longevity	③学術雑誌の査読者	OMCL2017 1846854. v1	

心臓血管外科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
濱本正樹	Indian Journal of Medical Research	査読者		Indian Council of Medical Research
濱本正樹	Annals of Vascular Diseases	査読者		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	Clinics in Surgery（Open Access）	査読者		Remedy Publications LLC
濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	査読者		株式会社メディカルトリビューン
濱本正樹	Sky Journal of Medicine and Medical Sciences	査読者		Sky Journal Publishers
濱本正樹	Annals of Vascular Diseases	査読者		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	Journal of Clinical Trials in Cardiology	査読者		Symbiosis
濱本正樹	Journal of Clinical Trials in Cardiology	査読者		Symbiosis

麻酔科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
中尾正和	Journal of Anesthesia	学術雑誌の査読者		日本麻酔科学会
中尾正和	日本臨床麻酔学会誌	学術雑誌の査読者		日本臨床麻酔学会
中尾正和	麻酔と蘇生	学術雑誌の査読者		麻酔と蘇生編集部

救急・集中治療科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
Masaki SAKURAYA	Journal of Intensive Care	reviewer	4, 56	JSICM

学会発表

呼吸器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
ARDS を合併した有癭性膿胸に対し W-ECMO 管理下に EWS による気管支充填術を行い救命できた一例	近藤丈博 黒住悟之 棚橋弘貴 河野秀和	日本呼吸器学会	2016 年 4 月 8 ～ 10 日	京都府
間質性肺炎に合併した難治性気胸に対し、人工呼吸管理下に EWS による気管支充填術を施行した 1 例	近藤丈博	日本集中治療医学会	2017 年 3 月 9 ～ 11 日	札幌市

循環器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
静脈血栓症の診断・治療における可溶性フィブリン (soluble fibrin : SF) の有用性	赤澤良太 藤井 隆	第 39 回農村医学研究会	2017 年 2 月 18 日	広島市

腎臓内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
多発性嚢胞腎に合併した巨大肝嚢胞が原因で肝性脳症をきたした腹膜透析患者の 1 例	中山慎也 森本啓介 大谷真帆子 荒川哲次	第 46 回日本腎臓学会西部学術大会	2016 年 10 月 14 ～ 15 日	宮崎市
腎臓リハビリテーション導入後、腎教育入院患者の指導における看護師の役割	平田優奈 岡崎裕美 堀田泰寛 高見賢次 新田克己 中山慎也 荒川哲次 三浦満美子 得能千晶 井場和敏 小林 平	第 7 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	2017 年 2 月 18 ～ 19 日	つくば市
腎教育入院の包括的指導の重要性～外来調査からわかったこと～	堀田泰寛 岡崎裕美 高見賢次 平田優奈 新田克己 中山慎也 荒川哲次 三浦満美子 得能千晶 井場和敏 小林 平	第 7 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	2017 年 2 月 18 ～ 19 日	つくば市

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
電流知覚閾値検査 (CPT) と高感度 CRP を用いた、血中 1,5 ! AG の差異が神経障害の発症・進展に与える影響の検証	石田和史 江草玄太郎 三玉康幸 木ノ原周平	第 59 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2016 年 5 月 19 ～ 21 日	京都市
インスリン投与患者へのリラグルチド併用効果の検討 (第 3 報)	三玉康幸 黒田麻実 廣澤裕代 山辺瑞穂 木下麻依 前濱梨絵 川上志帆	第 59 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2016 年 5 月 19 ～ 21 日	京都市
2 型糖尿病患者におけるインスリン治療法の差異が患者 QOL に与える影響を iPad アプリを用いて可視化する	木ノ原周平 江草玄太郎 三玉康幸 石田和史	第 59 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2016 年 5 月 19 ～ 21 日	京都市
1 ～ 5 年間の血糖コントロールの差異が CAVI の変化に与える影響～ CAVI 測定の意義とその結果が物語るものは何か？～	江草玄太郎 木ノ原周平 三玉康幸 石田和史	第 59 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2016 年 5 月 19 ～ 21 日	京都市
2 型糖尿病の血糖コントロールに及ぼす心理・社会的要因の検討 (第 6 報) : 介護者からみた家族機能による血糖コントロールの予測	高石美樹 佐伯俊成 石田和史 河面智之 山脇成人	第 59 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2016 年 5 月 19 ～ 21 日	京都市
18 年間のデータ蓄積を用いた糖尿病神経障害に対する CPT の有用性の再検証	石田和史 古森佑美 三玉康幸 木ノ原周平 尾川 恵 嶋田恵美 藤岡朋子 小松浩基 水野誠士	第 54 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2016 年 11 月 11 ～ 12 日	高知市
Low mix インスリン製剤から IDeg-Asp への切り替え例における臨床効果の検討	三玉康幸 古森佑美 木ノ原周平 石田和史	第 54 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2016 年 11 月 11 ～ 12 日	高知市
年代別に見た 2 型糖尿病インスリン治療者における血糖コントロール改善と患者 QOL の関連	木ノ原周平 古森佑美 三玉康幸 石田和史 加賀美昌美 中元美恵	第 54 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2016 年 11 月 11 ～ 12 日	高知市
造影剤検査前後のピグアナイド薬休薬は本当に必要か？	古森佑美 木ノ原周平 三玉康幸 石田和史	第 54 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2016 年 11 月 11 ～ 12 日	高知市
当院における SGLT2 阻害薬使用患者に対する指導内容理解度調査	井上沙緒里 得能千晶 瀧口幸子 永田佳子 角井 碧 中島恵子 橋本佳浩 三玉康幸 古森佑美 木ノ原周平 石田和史	第 54 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2016 年 11 月 11 ～ 12 日	高知市
視力障害がある 2 型糖尿病患者の嗅覚への働きかけで、フットケアが行動変容につながった一例	加賀美昌美 中元美恵 三玉康幸 石田和史	第 54 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2016 年 11 月 11 ～ 12 日	高知市

学会発表

糖尿病神経障害早期診断における簡易神経伝導測定機器（DPN チェック）の有用性	尾川 恵 藤岡朋子 石田和史	本堂夏実 小松浩基	嶋田恵美 水野誠士	第 54 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2016 年 11 月 11 ～ 12 日	高知市
体組成変化からみた糖尿病地域連携パス患者への効果的食事介入に関する考察	河本良美 森田菜津美 三玉康幸	三浦満美子 古森佑美 石田和史	上村真由美 木ノ原周平	第 54 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2016 年 11 月 11 ～ 12 日	高知市
ACTH 単独欠損症治療中に劇症 1 型糖尿病を発症した 1 例	竹野典子 三玉康幸	古森佑美 石田和史	木ノ原周平	第 115 回日本内科学会中 国地方会	2016 年 11 月 26 日	岡山市

消化器内科

演題	発表者・協同研究者名			学会名	開催期間	開催都市
膵がん・胆道がん患者さんの栄養サポート～当院での新たな取り組み～	八幡謙吾 藤本佳史			第 47 回日本膵臓学会大会	2016 年 8 月 5 日	仙台市
A case of squamous cell carcinoma arising from gallbladder producing granulocyte colony stimulating factor (G-CSF)	Yoshifumi Fujimoto, Hirronori Tokumo			World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists 2016	2016 年 9 月 8 日	Seoul, South Korea
胆嚢管原発神経鞘腫の 1 例	村田 愛 徳毛宏則	藤本佳史 佐々木秀	野中裕広 中光篤志	第 52 回日本胆道学会学術集会	2016 年 9 月 29 日	横浜市
内視鏡的経鼻胆道ドレーナージュチューブ留置に関する患者の理解度～治療前にオリエンテーションブックを使用して～	森田範子 松下理恵	南浦美樹 藤本佳史	本山敏恵	第 52 回日本胆道学会学術集会	2016 年 9 月 29 日	横浜市
呼吸成分解析による肝がんと歯周病の特徴抽出	作村諭一 應原一久 兵庫秀幸 佐藤一雄	徳竹宏明 栗原英見 申ウソク	宮内睦美 高田 隆 田中明子	第 8 回日本安定同位体・生体ガス医学応用学会	2016 年 10 月 15 日	東京
当院における大腸 ESD 治療の現況	末廣洋介 隅岡昭彦 兵庫秀幸 徳毛宏則	古土井明 野中裕広 相坂康之	村田 愛 藤本佳史 小松弘尚	第 92 回日本消化器内視鏡学会総会	2016 年 11 月 3 日	神戸市
高齢者セログループ 2 群症例におけるソホスブビル＋リパビリン減量療法の有効性と安全性についての検討	相坂康之	野中裕広	兵庫秀幸	第 20 回日本肝臓学会大会	2016 年 11 月 4 日	神戸市
医療従事者の脂肪肝・生活習慣病罹患率と職種別から見た検討	野中裕広 小松弘尚	兵庫秀幸 徳毛宏則	相坂康之	第 106 回日本消化器病学会中国支部例会	2016 年 11 月 13 日	岡山市
造影 CT での早期濃染が診断に有用であった Fitz-Hugh-Curtis 症候群の一例	小島啓史 村田 愛 藤本佳史 小松弘尚	古土井明 隅岡昭彦 兵庫秀幸 徳毛宏則	末廣洋介 野中裕広 相坂康之	第 115 回日本内科学会中国地方会	2016 年 11 月 26 日	岡山市

小児科

演題	発表者・協同研究者名			学会名	開催期間	開催都市
病診連携による喘息児の検査、フォローの試み	岡島宏易 辻 徹郎	青木真奈美	吉野修司	第 65 回日本アレルギー学会学術大会	2016 年 6 月 17 日～ 19 日	東京都
遷延性咳嗽、慢性咳嗽児における気道アレルギー疾患について	岡島宏易 吉野修司	小野早織 辻 徹郎	青木真奈美 中島千恵子	第 53 回日本小児アレルギー学会	2016 年 10 月 8 日～ 9 日	群馬県

外科

演題	発表者・協同研究者名			学会名	開催期間	開催都市
成人女性鼠径部ヘルニアに対する腹腔鏡下修復術の有用性	田崎達也 杉山陽一 馬場健太 今村祐司	佐々木秀 中村浩之 亀田靖子 中光篤志	香山茂平 黒尾優太 田妻 昌	第 116 回日本外科学会定期学術集会	2016 年 4 月 14 ～ 16 日	大阪市
完全内臓逆位を伴う膵頭部癌に対する門脈合併膵頭十二指腸切除／Pancreaticoduodenectomy and Portal Vein Reconstruction for Pancreas Cancer with Situs Inversus	佐々木秀 香山茂平 中村浩之 亀田靖子	中光篤志 田崎達也 上神慎之介 田妻 昌	今村祐司 杉山陽一 馬場健太 新原健介	第 28 回日本肝胆膵外科学会学術集会	2016 年 6 月 2 ～ 4 日	大阪市
TAPP の困難症例	田崎達也 杉山陽一 馬場健太 新原健介	佐々木秀 中村浩之 亀田靖子 今村祐司	香山茂平 上神慎之介 田妻 昌 中光篤志	第 13 回中国四国ヘルニア手術研究会	2016 年 7 月 2 日	岡山市

学会発表

実績

績

Clinicopathological characteristics, especially lymph node metastasis of remnant gastric cancer	Yoichi S, Kensuke S, Sho T, Kenta B, Yasuko K, Shinnosuke U, Hiroyuki N, Tatsuya T, Mohei K, Masaru S, Yuji I, Atsushi N	第 71 回日本消化器外科学会総会	2016 年 7 月 14 ~ 16 日	徳島市
重症度分類および術中所見に基づいた急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の検討	黒尾優太 馬場健太 亀田靖子 田妻 昌 佐々木秀 香山茂平 田崎達也 杉山陽一 中村浩之 中光篤志	第 71 回日本消化器外科学会総会	2016 年 7 月 14 ~ 16 日	徳島市
複雑性虫垂炎術後に発生した腹腔内膿瘍のリスクファクターに関する検討	馬場健太 田妻 昌 亀田靖子 黒尾優太 中村浩之 杉山陽一 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 中光篤志	第 71 回日本消化器外科学会総会	2016 年 7 月 14 ~ 16 日	徳島市
膵頭十二指腸切除後膵液瘻発生予測因子の検討／Predictive factors for postoperative pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy	佐々木秀 中光篤志 今村祐司 香山茂平 田崎達也 杉山陽一 中村浩之 上神慎之介 馬場健太 亀田靖子 田妻 昌 新原健介	第 71 回日本消化器外科学会総会	2016 年 7 月 14 ~ 16 日	徳島市
当院における Incidental Gallbladder Cancer の検討	田妻 昌 田崎達也 新原健介 馬場健太 亀田靖子 上神慎之助 中村浩之 杉山陽一 香山茂平 佐々木秀 中光篤志	第 91 回中国四国外科学会総会、第 21 回中国四国内視鏡外科研究会	2016 年 9 月 1 ~ 2 日	高松市
Clinical outcome and clinicopathological characteristics for remnant gastric cancer	Yoichi S, Kensuke S, Sho T, Kenta B, Yasuko K, Shinnosuke U, Hiroyuki N, Tatsuya T, Mohei K, Masaru S, Yuji I, Atsushi N	26th World Congress of the international Association of Surgeons, Gastroenterologist and Oncologist	2016 年 9 月 8 ~ 10 日	Seoul
A case of locally advanced Gastrointestinal Stromal Tumor resected after preoperative administration of imatinib	Shinbara K, Sugiyama Y, Tazuma S, Baba K, Kameda Y, Uegami S, Nakamura H, Tazaki T, Kohyama M, Sasaki M, Imamura Y, Nakamitsu A	26th World Congress of the international Association of Surgeons, Gastroenterologist and Oncologist	2016 年 9 月 8 ~ 10 日	Seoul
当院における進行大腸がんに対するロンサーフ投与症例の検討	中村浩之 今村祐司 香山茂平 田崎達也 杉山陽一 上神慎之介 佐々木秀 中光篤志 馬場健太 亀田靖子 田妻 昌 数田ゆみ 白井敦史 堀橋賢吾	第 54 回日本癌治療学会学術集会	2016 年 10 月 22 日	横浜市
TAPP : Difficult Case	Tazaki T, Sasaki M, Kohyama M, Sugiyama Y, Nakamura H, Uegami S, Baba K, Kameda Y, Tazuma S, Shinbara K, Imamura Y and Nakamitsu A	Hernia Week 2016	2016 年 10 月 27 ~ 29 日	東京都
Pitfalls and Solutions for TAPP in Long-term JHS I-3 type Cases	Tazaki T, Sasaki M, Kohyama M, Sugiyama Y, Nakamura H, Uegami S, Baba K, Kameda Y, Tazuma S, Shinbara K, Imamura Y and Nakamitsu A	Hernia Week 2016	2016 年 10 月 27 ~ 29 日	東京都
鼠径部ヘルニア診療ガイドライン 2015 に基づいた男女別治療指針	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 中村浩之 上神慎之介 馬場健太 亀田靖子 田妻 昌 新原健介 今村祐司 中光篤志	第 27 回佐伯医学会総会	2016 年 11 月 3 日	廿日市市
大腸ステント留置後に待機的手術を行った閉塞性大腸癌症例の検討	上神慎之介 香山茂平 中光篤志 今村祐司 佐々木秀 杉山陽一 田崎達也 中村浩之 馬場健太 亀田靖子 田妻 昌 神原健介	第 71 回日本大腸肛門病学会学術集会	2016 年 11 月 18 ~ 19 日	伊勢市
内視鏡用クリップの迷入による虫垂炎の 1 例	亀田靖子 新原健介 田妻 昌 馬場健太 上神慎之介 中村浩之 杉山陽一 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	第 71 回日本大腸肛門病学会学術集会	2016 年 11 月 18 ~ 19 日	伊勢市
私のこだわりの手術手技（腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 TAPP）	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 中村浩之 上神慎之介 馬場健太 亀田靖子 田妻 昌 新原健介 今村祐司 中光篤志	第 78 回日本臨床外科学会総会	2016 年 11 月 24 ~ 26 日	東京都
残胃癌における至適リンパ節郭清の検討	杉山陽一 新原健介 田妻 昌 馬場健太 亀田靖子 中村浩之 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	第 78 回日本臨床外科学会総会	2016 年 11 月 24 ~ 26 日	東京都
術前診断に苦慮した胆嚢管原発神経鞘腫の 1 例	馬場健太 佐々木秀 新原健介 田妻 昌 亀田靖子 上神慎之介 中村浩之 杉山陽一 香山茂平 田崎達也 今村祐司 台丸 裕 中光篤志	第 78 回日本臨床外科学会総会	2016 年 11 月 24 ~ 26 日	東京都

学会発表

間質性肺炎発症後に Imatinib 再投与が可能であった腹腔内巨大 GIST の 1 例	松本丈雄 田妻 昌 上神慎之介 香山茂平 中光篤志	杉山陽一 馬場健太 中村浩之 佐々木秀 今村祐司	新原健介 亀田靖子 田崎達也 今村祐司	第 78 回日本臨床外科学会総会	2016 年 11 月 24 ～ 26 日	東京都
外傷性十二指腸穿孔の一例	新原健介 馬場健太 杉山陽一 今村祐司	田崎達也 亀田靖子 香山茂平 中光篤志	田妻 昌 中村浩之 佐々木 秀	第 78 回日本臨床外科学会総会	2016 年 11 月 24 ～ 26 日	東京都
腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術は限定条件下で標準術式となり得る	田崎達也 杉山陽一	佐々木秀 上神慎之介 中光篤志	香山茂平	第 29 回日本内視鏡外科学会総会	2016 年 12 月 8 ～ 10 日	横浜市
出血させない腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 (TAPP)	田崎達也 杉山陽一	佐々木秀 上神慎之介 中光篤志	香山茂平	第 29 回日本内視鏡外科学会総会	2016 年 12 月 8 ～ 10 日	横浜市
複雑性虫垂炎術後における術後合併症のリスクファクターに関する検討	馬場健太 田妻 昌 中村浩之 佐々木秀	杉山陽一 亀田靖子 田崎達也 今村祐司	新原健介 上神慎之介 香山茂平 中光篤志	第 182 回広島外科会ならびに総会 第 38 回日本臨床外科学会広島県支部学術集会プログラム	2017 年 3 月 4 日	広島市
FDG-PET で集積を認めた胆嚢管原発神経鞘腫の 1 例	田妻 昌 馬場健太 中村浩之 香山茂平	佐々木秀 亀田靖子 杉山陽一 今村祐司	新原健介 上神慎之介 田崎達也 中光篤志	第 182 回広島外科会ならびに総会 第 38 回日本臨床外科学会広島県支部学術集会プログラム	2017 年 3 月 4 日	広島市
Clinicopathological and surgical outcome of remnant gastric cancer	Yoichi S, Kensuke S, Sho T, Kenta B, Yasuko K, Shinnosuke U, Hiroyuki N, Tatsuya T, Mohei K, Masaru S, Yuji I, Atsushi N			第 89 回日本胃癌学会総会	2017 年 3 月 8 ～ 10 日	広島市
A case of gastric cancer with liver metastasis that became pathological CR by preoperative HER + XP	Shinbara K, Sugiyama Y, Tazuma S, Baba K, Kameda Y, Uegami S, Nakamura H, Tazaki T, Kohyama M, Sasaki M, Imamura Y, Nakamitsu A			第 89 回日本胃癌学会総会	2017 年 3 月 8 ～ 10 日	広島市

乳腺外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
診断に苦慮した肺 micropapillary carcinoma 乳房転移の 1 例.	板垣友子 川淵義治 安井大介	第 24 回日本乳癌学会学術集会	2016 年 6 月 16 ～ 18 日	東京都
乳がん補助療法としてのレトロゾール投与に伴う骨量減少に対するリセドロネート予防投与の有効性に関する多施設共同ランダム化第 II 相比較試験.	川淵義治 重松英朗 角舎学行 舩本法生 恵美純子 梶谷桂子 小林美恵 船越真人 大原正裕 松浦一生 野間翠 佐々木達成 岡田守人	第 24 回日本乳癌学会学術集会	2016 年 6 月 16 ～ 18 日	東京都
当院における Luminal 乳癌再発の検討.	板垣友子 川淵義治	第 54 回日本癌治療学会学術集会	2016 年 10 月 20 ～ 22 日	神奈川県
原発性乳癌術後局所再発症例の検討.	板垣友子 川淵義治 安井大介	第 78 回日本臨床外科学会総会	2016 年 11 月 24 ～ 26 日	東京都

整形外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的後弯矯正術の治療成績	山田清貴 藤本吉範 中前稔生 橋本貴士 平松 武 鈴木修身 土川雄司	中部日本整形外科災害外科学会	2016 年 4 月 8 ～ 9 日	浜松市
骨粗鬆症性椎体骨折に対する骨セメントを用いた経皮的椎体形成術の治療効果と成績不良例の検討	中前稔生 山田清貴 平松 武 橋本貴士 鈴木修身 土川雄司 藤本吉範	中部日本整形外科災害外科学会	2016 年 4 月 8 ～ 9 日	浜松市
硬膜内脱出椎間板ヘルニアの治療経験	土川雄司 山田清貴 橋本貴士 中前稔生 平松 武 鈴木修身 藤本吉範	中部日本整形外科災害外科学会	2016 年 4 月 8 ～ 9 日	浜松市
骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的後弯矯正術の治療成績	山田清貴 藤本吉範 中前稔生 橋本貴士 平松 武 鈴木修身 土川雄司	日本脊椎椎髓病学会	2016 年 4 月 14 ～ 16 日	幕張市
経皮的後弯矯正術適応外症例の特徴－経皮的後弯矯正術と脊椎固定術施行例の比較検討－	山田清貴 藤本吉範 中前稔生 橋本貴士 平松 武 鈴木修身 土川雄司	日本脊椎椎髓病学会	2016 年 4 月 14 ～ 16 日	幕張市
骨粗鬆症性椎体骨折に対する骨セメントを用いた経皮的椎体形成術の治療成績－成績不良因子の検討－	中前稔生 藤本吉範 山田清貴 平松 武 橋本貴士 鈴木修身 土川雄司	日本脊椎椎髓病学会	2016 年 4 月 14 ～ 16 日	幕張市

学会発表

実績

実績

骨粗鬆症性椎体骨折における臨床症状と画像所見の関連性	中前稔生 平松 武 土川雄司	藤本吉範 橋本貴士	山田清貴 鈴木修身	日本脊椎脊髄病学会	2016 年 4 月 14 ~ 16 日	幕張市
中下位腰椎の骨粗鬆症性椎体骨折に対する BKP の治療成績	平松 武 中前稔生 土川雄司	藤本吉範 橋本貴士	山田清貴 鈴木修身	日本脊椎脊髄病学会	2016 年 4 月 14 ~ 16 日	幕張市
Cross-fire 皮膚欠損の治療	鈴木修身			日本手外科学会	2016 年 4 月 21 ~ 22 日	広島市
Surgical outcome of balloon kyphoplasty for painful osteoporotic vertebral fracture	Kiyotaka Yamada, Yoshinori Fujimoto, Osami Suzuki, Takashi Hashimoto, Toshio Nakamae, Takeshi Hiramatsu, Yuji Tsuchikawa			SpineWeek 2016	2016 年 5 月 16 ~ 20 日	Singapore
Percutaneous vertebroplasty for osteoporotic vertebral fracture with intravertebral cleft: analysis of poor clinical outcome	Nakamae Toshio, Yoshinori Fujimoto, Kiyotaka Yamada, Osami Suzuki, Takashi Hashimoto, Takeshi Hiramatsu, Yuji Tsuchikawa			Asia Pacific Spine Society	2016 年 5 月 16 ~ 20 日	Singapore
Relationship between clinical symptoms of osteoporotic vertebral fracture with intravertebral cleft and radiographic findings	Nakamae Toshio, Yoshinori Fujimoto, Kiyotaka Yamada, Osami Suzuki, Takashi Hashimoto, Takeshi Hiramatsu, Yuji Tsuchikawa			ISSLS (International Society for the Study of the Lumbar Spine)	2016 年 5 月 16 ~ 20 日	Singapore
高齢者腰椎変性側弯症の腰痛に対するターゲット療法	山田清貴 橋本貴士 土川雄司	藤本吉範 平松 武	中前稔生 鈴木修身	西日本脊椎研究会	2016 年 6 月 3 日	福岡市
高齢者腰椎変性側弯症に伴う腰痛と骨髄浮腫の関連性	中前稔生 平松 武 土川雄司	藤本吉範 橋本貴士	山田清貴 鈴木修身	西日本脊椎研究会	2016 年 6 月 3 日	福岡市
椎体終板障害高位に限定した腰椎後方椎体間固定術の治療成績	平松 武 中前稔生 土川雄司	藤本吉範 橋本貴士	山田清貴 鈴木修身	西日本脊椎研究会	2016 年 6 月 3 日	福岡市
高齢者腰椎変性側弯症の腰痛に対するターゲット療法	山田清貴 橋本貴士 土川雄司	藤本吉範 平松 武	中前稔生 鈴木修身	日本腰痛学会	2016 年 9 月 2 ~ 3 日	甲府市
高齢者腰椎変性側弯症に伴う腰痛と骨髄浮腫の関連性	中前稔生 平松 武 土川雄司	藤本吉範 橋本貴士	山田清貴 鈴木修身	日本腰痛学会	2016 年 9 月 2 ~ 3 日	甲府市
非リウマチ性外側環軸関節症の治療経験	土川雄司 中前稔生 藤本吉範	山田清貴 平松 武	橋本貴士 鈴木修身	広島整形外科研究会	2016 年 9 月 10 日	広島市
頸椎部 flexion myelopathy の診断と治療	中前稔生 平松 武 土川雄司	藤本吉範 橋本貴士	山田清貴 鈴木修身	広島脊椎・脊髄セミナー	2016 年 9 月 17 日	広島市
手術時特異的な形態が認められた指神経障害の 1 例	鈴木修身			日本末梢神経学会	2016 年 9 月 18 ~ 19 日	大阪市
血管柄付き骨移植で治療した明らかな外傷歴のない頭骨壊死の 1 例	鈴木修身 中前稔生 藤本吉範	山田清貴 平松 武	橋本貴士 土川雄司	中部日本整形外科・災害外科学会	2016 年 9 月 30 日 ~ 10 月 1 日	松本市
高齢者腰椎変性側弯症に伴う腰痛に対する新しい低侵襲手術	中前稔生 平松 武 土川雄司	藤本吉範 橋本貴士	山田清貴 鈴木修身	中国・四国整形外科学会	2016 年 10 月 22 ~ 23 日	徳島市
成人脊柱後弯変形に対し二期的前方・後方矯正固定術を施行した 1 例	山田清貴 橋本貴士 土川雄司	藤本吉範 平松 武	中前稔生 鈴木修身	西日本脊椎研究会	2016 年 11 月 12 日	福岡市
胸腰椎移行部における骨粗鬆症性椎体骨折に伴う遅発性神経障害に対する経皮的椎体形成術	中前稔生 平松 武 土川雄司	藤本吉範 橋本貴士	山田清貴 鈴木修身	西日本脊椎研究会	2016 年 11 月 12 日	広島市
足舟状骨無腐性壊死（ケーラー病）による病的骨折に対して血管柄付き骨移植で治療した 1 例（第 2 報）	鈴木修身 中前稔生 藤本吉範	山田清貴 平松 武	橋本貴士 土川雄司	日本マイクロサージャリー学会	2016 年 11 月 17 ~ 18 日	広島市
SAPHO 症候群に伴う腰椎椎体骨折	中前稔生 平松 武 土川雄司	藤本吉範 橋本貴士	山田清貴 鈴木修身	広島脊椎カンファレンス	2016 年 12 月 3 日	広島市
有痛性指神経損傷に対する人工神経移植術	鈴木修身			中部手外科研究会	2017 年 1 月 28 日	高知市
頸髄症の歩行障害の病態	平松 武 中前稔生 亀井直輔	藤本吉範 田中信弘 古高慎司	山田清貴 中西一義 安達伸生	脊髄機能診断研究会	2017 年 2 月 4 日	東京都

学会発表

仙骨腫瘍の1例	平松 武 藤本吉範 山田清貴 中前稔生	中国地区脊椎症例検討会	2017年2月 18日	山口県
Targeted therapy of low back pain in elderly de novo degenerative lumbar scoliosis	Kiyotaka Yamada, Yoshinori Fujimoto, Osami Suzuki, Takashi Hashimoto, Toshio Nakamae, Takeshi Hiramatsu, Yuji Tsuchikawa	広島脊椎脊髄セミナー Cervical Spine Symposium	2017年3月 12日	広島市
Surgical Outcomes of Microscopic Posterior Cervical Discectomy	Kiyotaka Yamada, Yoshinori Fujimoto, Osami Suzuki, Takashi Hashimoto, Toshio Nakamae, Takeshi Hiramatsu, Yuji Tsuchikawa	SPINE SOCIETY OF HCM CITY, VIET NAM & THE 8TH KHANH HOA INTERNATIONAL SPINE MEETING	2017年3月 22～24日	Nha Trang, Viet Nam
Pathophysiology and treatment for cervical flexion myelopathy	Nakamae Toshio, Yoshinori Fujimoto, Kiyotaka Yamada, Osami Suzuki, Takashi Hashimoto, Takeshi Hiramatsu, Yuji Tsuchikawa	SPINE SOCIETY OF HCM CITY, VIET NAM & THE 8TH KHANH HOA INTERNATIONAL SPINE MEETING	2017年3月 22～24日	Nha Trang, Viet Nam
Association of vertebral bone marrow edema with low back pain in degenerative lumbar scoliosis in the elderly: A cross-sectional observational study	Nakamae Toshio, Yoshinori Fujimoto, Kiyotaka Yamada, Osami Suzuki, Takashi Hashimoto, Takeshi Hiramatsu, Yuji Tsuchikawa	SPINE SOCIETY OF HCM CITY, VIET NAM & THE 8TH KHANH HOA INTERNATIONAL SPINE MEETING	2017年3月 22～24日	Nha Trang, Viet Nam
Partial Ulnar Nerve Transfer to Restore Elbow Flexion for C5-6 Brachial Plexus Injury	Osami Suzuki, Yoshinori Fujimoto, Kiyotaka Yamada, Takashi Hashimoto, Toshio Nakamae, Takeshi Hiramatsu, Yuji Tsuchikawa	SPINE SOCIETY OF HCM CITY, VIET NAM & THE 8TH KHANH HOA INTERNATIONAL SPINE MEETING	2017年3月 22～24日	Nha Trang, Viet Nam
Vascularized Tissue Graft and its Application	Osami Suzuki, Yoshinori Fujimoto, Kiyotaka Yamada, Takashi Hashimoto, Toshio Nakamae, Takeshi Hiramatsu, Yuji Tsuchikawa	SPINE SOCIETY OF HCM CITY, VIET NAM & THE 8TH KHANH HOA INTERNATIONAL SPINE MEETING	2017年3月 22～24日	Nha Trang, Viet Nam

脳神経外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
脳動脈瘤 clipping における術中破裂についての検討	黒木一彦 阿美古将 山田直人 落合淳一郎	第42回日本脳卒中学会	2016年3月 16日	大阪市
内頸動脈と遺残三叉神経動脈に瘦孔が存在し、血管内治療にて治癒し得た外傷性内頸動脈海綿静脈洞瘻の一例	阿美古将 黒木一彦 山田直人 落合淳一郎	第45回日本脳卒中の外科学会	2016年4月 14～16日	札幌市

呼吸器外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
術前肺機能外来開設後3年間の実績ー術前肺機能検査による潜在 COPD の診断ー	渡 正伸 熊田高志 井上 聡 嶋田恵美 長尾 尊	第56回日本呼吸器学会	2016年4月 8～10日	京都
肺癌術後フォローアップCTで認めた肺静脈断端血栓の2例	渡 正伸 熊田高志 井上 聡	第116回日本外科学会	2016年4月 14～16日	大阪
術前呼吸リハ後に根治術を施行した COPD-II 期以上合併肺癌の検討	渡 正伸 熊田高志 井上 聡	第33回日本呼吸器外科学会	2016年5月 12～13日	京都
有癭性膿胸における術前 EWS 気管支充填術の有効性と盲点	渡 正伸 熊田高志 井上 聡	第33回日本呼吸器外科学会	2016年5月 12～13日	京都
術後補助化学療法剤のテガフル・ウラシル配合剤 (UFT) による可逆性白質脳症が疑われた1例	熊田高志 渡 正伸 井上 聡	第33回日本呼吸器外科学会	2016年5月 12～13日	京都
Retrospective Analysis of Treatment Strategies for Traumatic Hemothorax	井上 聡 渡 正伸 熊田高志	第69回日本胸部外科学会	2016年9月 28～10月1日	岡山
肺癌根治術後に遠隔期再発した2症例の検討ー適正な肺癌術後フォローアップとはー	渡 正伸 熊田高志 井上 聡	第65回日本農村医学会	2016年10月 27～28日	志摩市
高分化胎児型肺腺癌の1手術例	熊田高志 渡 正伸 井上 聡	第78回日本臨床外科学会	2016年11月 24～26日	東京
気道損傷による縦隔気腫から気腫性心タンポナーデを来した1例	井上 聡 渡 正伸 熊田高志	第78回日本臨床外科学会	2016年11月 24～26日	東京
胸骨後面に接する病変のために Clamshell 開胸により拡大胸腺摘除を施行した浸潤性胸腺腫の1例	平井裕也 渡 正伸 熊田高志 井上 聡	第78回日本臨床外科学会	2016年11月 24～26日	東京

学会発表

自然退縮を認めた肺大細胞神経内分泌癌の1例	熊田高志 渡 正伸 井上 聡	第78回日本臨床外科学会	2016年12月19～21日	福岡
-----------------------	----------------	--------------	----------------	----

心臓血管外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
開心術後の維持期運動療法継続は患者予後を改善するのか？	小林 平 本間智明 小島輝久 上田雅美 上野忠活	第1回心臓リハビリテーション学会中国地方会	2016年4月23日	岡山県
重症虚血肢に対するチーム医療の意義—救肢だけでなく、下肢機能の温存を目標に—	小林 平 濱本正樹 小澤優道 吉村幸祐	第8回日本下肢救済学会学術集会	2016年5月27～28日	東京都
Long-term outcomes of infrapopliteal bypass surgery for critical limb ischemia	Taira Kobayashi, Masaki Hamamoto, Masamichi Ozawa, Kosuke Yoshimura	9th Conference of the German-Japanese Society of Vascular Surgery	2016年8月18～20日	Hiroshima
Distal bypass グラフトのびまん性狭窄病変に対する血管内治療の有用性	小林 平 濱本正樹 小澤優道 吉村幸祐	第57回日本脈管学会総会	2016年10月13～15日	奈良県
本態性血小板血症患者の重症下肢虚血に対する下肢血行再建術の一例	吉村幸祐 小林 平 濱本正樹 小澤優道	第57回日本脈管学会総会	2016年10月13～15日	奈良県
開心術後の維持期運動療法継続は患者予後を改善するのか？	小林 平 本間智明 西谷喜子 上田雅美 上野忠活	第2回心臓リハビリテーション学会中国地方会	2017年2月4日	広島市

泌尿器科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院における腹腔鏡下膀胱全摘除術の初期経験	増本弘史 宮本俊輔 丸山 聡 小深田義勝	広島泌尿器内視鏡研究会	2016年9月25日	広島市
同側に2個の副腎腺腫を認めた原発性アルドステロン症の1例	増本弘史 宮本俊輔 丸山 聡 小深田義勝	日本泌尿器科学会中部総会	2016年10月30日	四日市市
腹腔鏡下前立腺全摘除術の多施設における導入時ラーニングカーブの変遷	増本弘史 宮本俊輔 丸山 聡 小深田義勝	日本泌尿器内視鏡学会総会	2016年11月19日	大阪市

産婦人科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
最近経験した Trousseau 症候群 3 例について	藤本悦子 大下孝史 佐々木美砂 中西慶喜	第58回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	2016年7月8～10日	米子市
壁に結節中に高悪性度腫瘍が認められた卵巣粘液性腫瘍の2例	大下孝史 上田明子 藤本悦子 佐々木美砂 中前里香子 中西慶喜	第58回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	2016年7月8～10日	米子市
妊娠29週でくも膜下出血を発症した1例	仙波恵樹 中西慶喜 数佐淑恵 佐々木美砂 中前里香子 大下孝史	第67回広島産科婦人科学会総会	2016年8月28日	広島市
円錐切除後頸管狭窄症に対する処置について～マレコット型カテーテルの利用～	数佐淑恵 大下孝史 仙波恵樹 佐々木美砂 中前里香子 中西慶喜	第69回中国四国産科婦人科学会総会ならびに学術講演会	2016年9月24～25日	高松市
術前に悪性の診断に至らなかった子宮体癌の1例	中前里香子 大下孝史 中西慶喜 永田郁子 井町海太 上國 愛 岡本淳子 薮丸 裕	第42回広島県臨床細胞学会総会	2017年3月18日	広島市

眼科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
ラタノプロスト点眼液からタフルプロスト・チモロールマレイン酸塩点眼液への切替効果	奥道秀明 二井宏紀 末岡千絵 ほか	第120回日本眼科学会総会	2016年4月7～10日	仙台市
低年齢時に視能訓練を行った間欠性外斜視2症例	川地里佳 守田真澄 末岡千絵 二井宏紀	第24回広島小児眼科懇話会	2016年9月11日	広島市
水晶体囊外摘出術後著明に角膜内皮が減少した1例	二井宏紀	第277回広島眼科症例検討会	2016年10月13日	広島市
低年齢時に視能訓練を行った間欠性外斜視2症例	川地里佳 守田真澄 末岡千絵 二井宏紀	第57回日本視能矯正学会	2016年10月15～16日	大阪市
ラタノプロストからタフルプロスト・チモロールへの切替え時の有効性と安全性	奥道秀明 二井宏紀 末岡千絵 ほか	第70回日本臨床眼科学会	2016年11月3～6日	京都市
ラタノプロストからタフルプロスト・チモロールマレイン酸塩の自覚症状、治療満足度	末岡千絵 木内良明 二井宏紀 ほか	第70回日本臨床眼科学会	2016年11月3～6日	京都市

学会発表

画像診断部

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
椎茸丸飲みによる食餌性イレウスの1例	岡本直道 西原礼介	第126回日本医学放射線学会 中国・四国地方会	2016年6月17～18日	広島

麻酔科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
新型パルスオキシメータPM1000Nの指尖脈波から得られる呼吸数(RRoxi)検出への体位、発語の影響と無呼吸の検出(優秀演題賞)	中尾正和 河本佐誓子 佐々木幹子 古賀知道 梅田絢子 片岡宏子	日本麻酔科学会学術集会	2016年5月26～8日	博多
ロクロニウム投与時のTOF刺激でのtwitch回復過程と薬物動態シミュレーション濃度の再現性の検討—TOFモニターは必要である(優秀演題賞)	安田珠里 中尾正和 大月幸子 河本佐誓子 本多亮子 藤野友里	日本麻酔科学会学術集会	2016年5月26～8日	博多
患者家族・親族による患者の身長・体重の正確度	古賀知道 中尾正和 本多亮子 河本佐誓子 藤野友里 佐々木幹子	日本麻酔科学会学術集会	2016年5月26～8日	博多
男性親族・女性親族による患者体重の報告精度の違い	森川百合亜 古賀知道 中尾正和 本多亮子	日本臨床麻酔学会	2016年11月3～5日	高知

救急・集中治療科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
VA-ECMOとHFOV	櫻谷正明 荘川知己 河村夏生 筒井 徹 吉田研一	第38回日本呼吸療法医学会学術集会	2016年7月17～18日	名古屋
Fluid management for ARDS	Masaaki SAKURAYA, Natsuki KAWAMURA, Toru TSUTSUI, Kenichi, YOSHIDA	第38回日本呼吸療法医学会学術集会	2016年7月17～18日	名古屋
HFOV使用の現状報告	櫻谷正明 近藤丈博 河村夏生 筒井 徹 吉田研一	第38回日本呼吸療法医学会学術集会 HFOVフォーラム	2016年7月17～18日	名古屋
Recombinant human soluble thrombomodulin in severe sepsis and septic shock patients with severe respiratory failure: post hoc analysis from JSEPTIC DIC registry	Shodai YOSHIIHIRO, Masaaki SAKURAYA	29th ESICM LIVES 2016	2016年10月1～5日	ミラノ
当院における休日・夜間帯のER受診患者のCTの見逃し防止のための取り組みとその検討	河村夏生 櫻谷正明 筒井 徹 吉田研一	第44回日本救急医学会総会	2016年11月17～19日	東京都
緊急開腹術を要した消化管異物5例の報告	小島啓史 田中友理佳 吉田研一	第44回日本救急医学会総会	2016年11月17～19日	東京都
挿管チューブのカフ過注入によって気管損傷をきたした症例	松本丈雄 井上 聡 吉田研一	第44回日本救急医学会総会	2016年11月17～19日	東京都
中耳炎に続発した多発性脳膿瘍および化膿性血栓性静脈炎の一例	石橋一樹 櫻谷正明 河村夏生 筒井 徹 吉田研一	日本集中治療医学会第1回中国・四国支部学術集会	2017年2月18日	高松
ICUにおける抜管後の嚥下プロトコルの作成と運用	上田雅美 後藤優佳 小原明日香 宮根 舞 大野真由美 五百川典子 辻 幸枝 櫻谷正明	日本集中治療医学会第1回中国・四国支部学術集会	2017年2月18日	高松
リアルタイム超音波ガイド下中心静脈穿刺トレーニングにおける穿刺針の違い	石橋一樹 森川百合亜 櫻谷正明 吉田研一 河村夏生 筒井 徹	第45回日本集中治療医学会総会・学術集会	2017年3月9～11日	札幌市
IABPを用いて管理した敗血症性ショックの1例	京田尚子 筒井 徹 櫻谷正明 河村夏生 吉田研一	第45回日本集中治療医学会総会・学術集会	2017年3月9～11日	札幌市
ICUにおける睡眠プロトコル導入前後の調査	吉廣尚大 櫻谷正明 河村夏生 筒井 徹 吉田研一	第45回日本集中治療医学会総会・学術集会	2017年3月9～11日	札幌市
心臓手術患者における退院後の睡眠導入薬に対する依存	岡本直通 櫻谷正明 吉田研一 河村夏生 筒井 徹 吉廣尚大	第45回日本集中治療医学会総会・学術集会	2017年3月9～11日	札幌市
輸液反応性のモニターの限界	櫻谷正明	第45回日本集中治療医学会総会・学術集会	2017年3月9～11日	札幌市
未来はミルクの中にある(乳酸クリアランスを使いましょう)	櫻谷正明	第45回日本集中治療医学会総会・学術集会	2017年3月9～11日	札幌市

学会発表

看護科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
平成 28 年熊本地震における先遣隊第 3 班の活動報告	寺田英子	日本災害看護学会 第 18 回年次大会	2016 年 8 月 26 ～ 27 日	久留米市
発災時における専門・認定看護師としての役割と協働の可能性ー災害専門看護師の役割ー	寺田英子	日本災害看護学会 第 18 回年次大会	2016 年 8 月 26 ～ 27 日	久留米市
広島県厚生連クリニカルラダー実施 3 年間の評価	西丸照美 (JA 吉田総合病院) 内海元美 (JA 尾道総合病院) 畠ゆかり (厚生連尾道看護専門学校) 寺田英子	第 47 回日本看護学会ー看護管理ー学術集会	2016 年 9 月 27 ～ 28 日	金沢市
DMAT 活動における後方支援活動の重要性と役割分担ー平成 28 年熊本地震における活動を通じてー	阿部伸也 寺田英子	第 22 回日本集団災害医学会総会・学術集会	2017 年 2 月 13 ～ 15 日	名古屋市

外来

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
独自の防護パットを追加した X 線防護用カーテンの有効性の検討	坂手友子 米田直美 石崎淳子 松下理恵 下土居一 横田 径 山口裕之 藤本 佳史 徳毛宏則	第 77 回日本消化器内視鏡技師学会	2016 年 11 月 4 日	京都市

西 7 階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
内視鏡的経鼻胆道ドレーナージュチューブ留置に関する患者の理解度ー治療前にオリエンテーションブックを使用してー	森田範子 南浦美樹 本山敏子 松下理恵 藤本佳史	第 52 回日本胆道学会学術集会	2017 年 9 月 29 ～ 30 日	神奈川県
膵がん・胆道がん教室の現状と病棟での取り組み	村中由布子 川本理恵 村上優子 山本時生子	膵がん教室ワークショップ 2016 in 広島	2017 年 12 月 3 日	広島県

東 3 階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
心不全患者が入院する要因とはー日常生活アンケートからー	門内美鈴 正木博之 大川好美 益本僚子 宮本英美 野田明美 本間智明 久留島秀治	第 22 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2016 年 7 月 17 日	東京都
心不全患者の再入院を予防するために看護師ができることは？	大川好美 正木博之 門内美鈴 益本僚子 宮本英美 野田明美 本間智明 久留島秀治	第 2 回日本心臓リハビリテーション学会 中国地方会	2016 年 7 月 17 日	広島県

東 4 階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
緩和ケアを必要とする頭頸部がん患者への看護における困難感	木戸真悠子 柴崎ひとみ 下前敦子	第 47 回日本看護学会慢性期看護学術集会	2016 年 11 月 11 日	鳥取県
セラピューティックケアの心理的効果について	橋本弓子	第 47 回日本看護学会慢性期看護学術集会	2016 年 11 月 11 日	鳥取県

東 7 階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
PAD 患者に対するフットケアの重要性ー運動療法を継続するためにー	福本裕平 松田沙織 伊藤昭範 村中ひろみ 本間智明 小林平	第 22 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2016 年 7 月 16 日	東京都

東 8 階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
腎臓リハビリテーション導入後、腎教育入院患者の指導における看護師の役割	平田優奈 岡崎裕美 堀田泰寛 高見賢次 新田克己 中山慎也 荒川哲治 三浦満美子 得能千晶 井場和俊 小林 平	第 7 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	2016 年 2 月 18 ～ 19 日	つくば市

学会発表

腎教育入院時の包括的指導の重要性～外来調査からわかったこと～	堀田泰寛 岡崎裕美 高見賢次 平田優奈 新田克己 中山慎也 荒川哲治 三浦満美子 得能千晶 井場和俊 小林 平	第7回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	2016年2月 18～19日	つくば市
--------------------------------	--	------------------------	-------------------	------

居宅介護支援事業所

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
一人暮らしでも医療・介護の連携で在宅看取りができた事例	矢野秀美 古本直子	一般社団法人日本ケアマネジメント学会 第15回研究大会 in 北九州	2016年6月 18・19日	北九州市

訪問看護ステーション

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
在宅緩和ケアにおける地域連携一併がん胆道がん教室参加後の事例より	古本直子 藤本佳史 網本達也 奥元直美 小田真紀子 白崎純子 正島忠貴 松尾留美子	第47回日本脾臓学会大会	2016年8月 4日～8月7日	仙台市

薬剤部

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
末梢動脈疾患患者の服薬コンプライアンス不良に対する対策	稲田淑江 角井 碧 辻山有希 橋本佳浩 渡壁史那 松田沙織 本間智明 小林 平	第22回日本心臓リハビリテーション学会学術総会	2016年7月 16日	東京都
心臓リハビリテーション外来での薬剤師の取り組み	向井一樹 大原由希子 橋本佳浩	第47回全国厚生連病院薬剤師長会議学術総会	2016年9月 16日	京都市
重症呼吸不全の杯血症患者における遺伝子組み換え型ヒトトロンボモジュリン (rhTM) の効果：J-SPTIC DIC study のサブ解析	吉廣尚大 櫻谷正明 早川峰司 平田 旭 河村夏生 筒井 徹 吉田研一 橋本佳浩	第26回日本医療薬学会年会	2016年9月 17～19日	京都市
Recombinant human soluble thrombomodulin (rhTM) in septic patients with severe respiratory failure: sub-analysis from J-septic DIC study	吉廣尚大 櫻谷正明 早川峰司 平田 旭 河村夏生 筒井 徹 吉田研一 橋本佳浩	European Society of Intensive Care Medicine 29TH Annual Congress	2016年10月 3～5日	Milan
レジパスビル/ソホブビル配合錠 (C型肝炎治療薬) における薬剤師の介入について	吉田 玲 角井 碧 小川智恵子 中島恵子 相坂康之 橋本佳浩	第55回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会	2016年11月 5～6日	岡山市
当院における SGLT2 阻害薬使用患者に対する指導内容理解度調査	井上沙緒里 瀧口幸子 得能千晶 角井 碧 永田佳子 中島恵子 橋本佳浩 木ノ原周平 三玉康幸 古森佑美 石田和史	日本糖尿病学会中国四国地方会第54回総会	2016年11月 11～12日	高知市
ICUにおける睡眠プロトコル導入前後の調査	吉廣尚大 櫻谷正明 平田 旭 河村夏生 筒井 徹 吉田研一 橋本佳浩	第44回日本集中治療医学会学術集会	2017年3月 8～11日	札幌市

臨床研究検査科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
所見用紙の書き方	三木知佐 板垣友子 小濱千幸	第36回広島乳房超音波診断カンファレンス	2016年5月 3日	県立広島病院
僧帽弁再置換術後に生じた左室仮性瘤の診断に心臓超音波検査が有用であった一例	北村紀恵 原千花子 霜津宏典 川崎京子 小松浩基 水野誠士 濱本正樹 藤井 隆	第65回日本農村医学会	2016年10月 28日	三重県志摩市
糖尿病神経障害早期診断における簡易神経伝導測定機器 (DPN チェック) の有用性	尾川 恵 本堂夏実 嶋田恵美 藤岡朋子 小松浩基 水野誠士 石田和史	日本糖尿病学会中国四国地方会第54回総会	2016年11月 11日	高知県立県民文化ホール
広島県における ESBL 産生菌サーベイランス (第7期調査)	池田光泰	第64回日本化学療法学会西日本支部総会	2016年11月 24日	沖縄コンベンションセンター
経過観察症例の提示	三木知佐 板垣友子	第39回広島乳房超音波診断カンファレンス	2016年11月 29日	県立広島病院
第45回精度管理調査結果の評価・解説 血液	三舛正志	第36回広島県臨床検査精度管理向上研修会	2017年2月 19日	広島市

学会発表

後発性血栓性血小板減少性紫斑病の一例	長谷川文香 関 未来 鉛山かおり 猪丸祐美子 本田 愛 荒瀬美幸 三舛正志 水野誠士	第 34 回広島県医学検査学会	2017 年 2 月 25 日	十日市コ ミュニ ティセン ター
--------------------	--	-----------------	--------------------	---------------------------

中央放射線科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
¹¹¹ In-DTPA を用いた脳脊髄漏出症について	高畑 明	日本放射線技術学会 中 国・四国支部	2016 年 7 月 2 日	宮城県

臨床工学科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
診療記録～カルテ記載とコミュニケーション～	荒田晋二	第 26 回日本臨床工学技 士学会	2016 年 5 月 14～15 日	京都市
臨床工学技士としての在宅ケアへの取り組み	田中恵子	第 38 回日本呼吸療法医 学会	2016 年 5 月 14～15 日	名古屋市
呼吸療法における臨床工学技士の役割	荒田晋二	第 8 回広島県臨床工学技 士会学術集会	2016 年 6 月 28 日	広島市
臨床工学技士として何ができるか？～人工呼吸管 管理中	田中智子	日本心臓リハビリテー ション学会 中国地方会	2017 年 2 月 4 日	広島市
人工呼吸器の初期設定～臨床工学技士が関与する こと	荒田晋二	第 45 回日本集中治療医 学会学術集会	2017 年 3 月 9～11 日	札幌市

リハビリテーション科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
開心術後嚥下障害の発症要因の検討と言語聴覚士 の介入について	上田雅美 後藤優佳 塚本明日香 宮根 舞 上野忠活 小林 平	第 1 回日本心臓リハビリ テーション学会中国地方 会	2016 年 4 月 23 日	岡山市
保存的療法を行う stanford B 型急性大動脈解離に 対する心臓リハビリテーションの問題点	小島輝久 本間智明 上野忠活 西谷喜子 小林 平	第 1 回日本心臓リハビリ テーション学会中国地方 会	2016 年 4 月 23 日	岡山市
重症虚血肢の救肢と歩行について	本間智明 小林 平 上野忠活 小島輝久 西谷喜子	第 22 回日本心臓リハビ リテーション学会学術集 会	2016 年 7 月 16～17 日	東京都
開心術後維持期の心臓リハビリテーション状況調 査	本間智明 小林 平 上野忠活	第 22 回日本心臓リハビ リテーション学会学術集 会	2016 年 7 月 16～17 日	東京都
心臓リハビリテーションチームメンバーとしての 言語聴覚士の役割	上田雅美 後藤優佳 塚本明日香 宮根 舞 本間智明 上野忠活 小林 平	第 22 回日本心臓リハビ リテーション学会学術集 会	2016 年 7 月 16～17 日	東京都
末梢動脈疾患患者における維持期の活動量と身体 機能	本間智明 小林 平 村上嘉章 小島輝久 西谷喜子	第 2 回日本心臓リハビ リテーション学会中国地方 会	2017 年 2 月 4 日	広島市
心臓リハビリテーション外来導入と今後の課題	西谷喜子 本間智明 小島輝久 村上嘉章 小林 平	第 2 回日本心臓リハビ リテーション学会中国地方 会	2017 年 2 月 4 日	広島市
ICU における抜管後の嚥下プロトコルの作成と運用	上田雅美 後藤優佳 小原明日香 宮根 舞 大野真由美 五百川典子 辻 幸枝 櫻谷正明	日本集中治療医学会 第 1 回中国四国支部学術集 会	2017 年 2 月 18 日	高松市

栄養科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
開心術後の早期栄養摂取の重要性と栄養介入が及 ぼす影響に関する検討	上村真由美 渡壁史那 河本良美 本間智明 小林 平	第 22 回心臓リハビリ テーション学会学術集会	2016 年 7 月 16～17 日	東京
周術期末梢動脈疾患患者の栄養状態と栄養介入方 法の検討	渡壁史那 河本良美 稲田淑江 本間智明 小林 平	第 65 回日本農村医学会 学術総会	2016 年 10 月 27～28 日	三重
体組成変化からみた糖尿病地域連携パス患者への 効果的食事介入に関する考察	河本良美	日本糖尿病学会中国四国 地方会第 54 回総会	2016 年 11 月 11～12 日	高知

学会発表

感染防止対策室（ICT）

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
急性期病院における疥癬アウトブレイクの報告	今本紀生	日本感染管理ネットワーク学会	2016 年 5 月 20 ～ 21 日	別府市

学会での座長

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会	石田和史	神経障害 4	2016 年 5 月 20 日	京都市
第 54 回日本糖尿病学会中国四国地方会第 54 回総会	石田和史	慢性合併症 3	2016 年 11 月 12 日	高知市

外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 29 回日本内視鏡外科学会総会	田崎達也	ヘルニア困難症例	2016 年 12 月 8 ～ 10 日	横浜市
第 182 回広島外科会ならびに総会 第 38 回日本臨床外科学会広島県支部学術集会プログラム	田崎達也	ヘルニア	2017 年 3 月 4 日	広島市
第 13 回中国四国ヘルニア手術研究会	田崎達也	腹腔鏡下腹壁癒着ヘルニア修復術	2016 年 7 月 2 日	岡山市

緩和ケア科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本集中治療医学会第 1 回中国・四国支部学術集会	櫻谷正明	若手集中治療医セッション 2	2017 年 2 月 18 日	高松
第 44 回日本救急医学会総会	筒井 徹	救急疾患 4	2016 年 11 月 17 ～ 19 日	品川

西 5 階病棟

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本運動器看護学会 地区研修会	美濃智子	理学療法	2016 年 9 月 10 日	広島市

薬剤部

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 47 回全国厚生連病院薬剤科長会議学術総会	橋本佳浩	一般演題	2016 年 9 月 16 日	京都市

中央放射線科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 32 回日本診療放射線技師学術大会	山口裕之	ランチョンセミナー	2016 年 9 月 18 日	岐阜市

栄養科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 9 回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会	八幡謙吾	一般口演	2016 年 12 月 3 日	松江市
第 32 回日本静脈経腸栄養学会学術集会	八幡謙吾	一般演題（ポスター）排泄ケアと栄養	2017 年 2 月 23 ～ 24 日	岡山市

感染防止対策室（ICT）

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 5 回日本感染管理ネットワーク学会各術集会	今本紀生	一般演題	2016 年 5 月 20 ～ 21 日	別府市

研究会講演・発表

循環器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第49回 ROTA College	症例提示	赤澤良太	2016年4月1日 宮崎市群医師会病院	ボストンサイエンティフィック
社内研修会	抗凝固療法について	辻山修司	2016年5月25日 日本ベーリンガーインゲルハイム広島事業所	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
Rotablator セミナー福岡	症例提示	赤澤良太	2016年6月21日 福岡徳洲会病院	ボストンサイエンティフィック
社内研修会	抗凝固療法について	辻山修司	2016年6月24日 日本ベーリンガーインゲルハイム広島事業所	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
慢性心不全セミナー	慢性心不全の診断と治療～日常診療で大事なこと～	久留島秀治	2016年7月19日 佐伯地区医師会館	武田薬品工業株式会社
広島動脈硬化治療を考える会	開会挨拶	辻山修司	2016年7月19日 ANA クラウンプラザホテル広島	興和創薬株式会社
佐伯クリニシャンズグループ講演会	DOAC 時代の心房細動治療再考～DOAC の先～	辻山修司	2016年11月16日 佐伯区民文化センター	第一三共株式会社
社内研修会	心房細動と抗凝固療法について	荘川知己	2016年11月28日 日本ベーリンガーインゲルハイム広島事業所	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
営業所内研修会	PAH と治療薬について	荘川知己	2017年1月19日 日本新薬株式会社中国支店会議室	日本新薬株式会社
慢性心不全セミナー	慢性心不全の診断と治療～日常診療で大事なこと～	久留島秀治	2017年1月24日 佐伯区民文化センター	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
医療従事者研修会	地域でみつめなおす心不全治療～多職種連携におけるヒント～	赤澤良太	2017年3月17日 広島総合病院	
社内研修会	高血圧診療におけるβブロッカーの位置づけについて	辻山修司	2017年3月24日 トーアエイヨー株式会社広島支店	トーアエイヨー株式会社 広島支店

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
Insulin therapy UPDATE	患者満足度の高いインスリン治療への挑戦～多彩になったインスリン製剤の違いを実臨床に活かす工夫～	石田和史	2016年4月8日 城山観光ホテル（鹿児島県鹿児島市）	日本イーライリリー
インスリンセミナー IN 福井	患者満足度の高いインスリン治療への挑戦～多彩になったインスリン製剤の違いを実臨床に活かす工夫～	石田和史	2016年6月3日 ハビリンホール（福井県福井市）	福井県病院薬剤師会・福井県薬剤師会・日本イーライリリー
第12回宮城県糖尿病看護研究会	患者満足度の高いインスリン治療への挑戦～多彩になったインスリン製剤の違いを実臨床に活かす工夫～	石田和史	2016年6月5日 仙台市情報・産業プラザ（宮城県仙台市）	宮城県糖尿病看護研究会・日本糖尿病教育看護学会・宮城県糖尿病対策推進会議・日本イーライリリー
糖尿病治療の今と未来を考える会	患者さんを満足させる経口血糖降下薬使用のコツを探る～臨床試験の結果だけでは見えない日常臨床からの提言～	石田和史	2016年6月17日 ANA クラウンプラザホテル京都（京都府京都市）	日本イーライリリー・日本ベーリンガーインゲルハイム
第25回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	アドヒアランス向上を意識した糖尿病治療薬の使い方	石田和史	2016年8月10日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・協和発酵キリン
糖尿病重症化予防（フットケア）研修会	糖尿病の病態・生理と治療	石田和史	2016年8月26日 広島県看護協会（広島市中区）	広島県看護協会
糖尿病学術講演会 in 大川	患者満足度の高いインスリン治療への挑戦～多彩になったインスリン製剤の違いを実臨床に活かす工夫～	石田和史	2016年9月2日 大川リバーサイドホテル（福岡県大川市）	日本イーライリリー
第6回栃木県糖尿病臨床カンファレンス	患者満足度の高いインスリン治療への挑戦～多彩になったインスリン製剤の違いを実臨床に活かす工夫～	石田和史	2016年9月9日 ホテルマイステイズ宇都宮（栃木県宇都宮市）	日本イーライリリー・日本ベーリンガーインゲルハイム

研究会講演・発表

これからの糖尿病治療を考える会 in 香川	患者満足度の高いインスリン治療への挑戦～多彩になったインスリン製剤の違いを実臨床に活かす工夫～	石田和史	2016年9月16日 高松国際ホテル（香川県高松市）	日本イーライリリー・日本ベーリンガーインゲルハイム
県南地区インスリン療法講演会	患者満足度の高いインスリン治療への挑戦～多彩になったインスリン製剤の違いを実臨床に活かす工夫～	石田和史	2016年11月25日 小山グランドホテル（栃木県小山市）	日本イーライリリー
県南地区インスリン療法講演会	患者満足度の高いインスリン治療への挑戦～多彩になったインスリン製剤の違いを実臨床に活かす工夫～	石田和史	2016年11月26日 ホワイトイン高崎（群馬県高崎市）	日本イーライリリー
インスリン治療の未来を考える会	ライゾデグ その特徴と可能性を探る	石田和史	2016年12月2日 グランドプリンスホテル広島（広島市南区）	ノボノルディスクファーマ
インスリン治療を考える会～インスリン治療の幅広い選択～	患者満足度の高いインスリン治療への挑戦～多彩になったインスリン製剤の違いを実臨床に活かす工夫～	石田和史	2016年12月9日 長野第一ホテル（長野県長野市）	日本イーライリリー
第26回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	広島総合病院における透析予防指導の取り組み	石田和史	2016年12月14日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・サノフィ
第12回明日から実践！広島南・安芸地区 糖尿病療養指導セミナー	糖尿病神経障害の臨床～当院における可視化の工夫～	石田和史	2017年1月19日 安芸区民文化センター（広島市安芸区）	安芸地区医師会・明日から実践！広島南・安芸地区糖尿病療養指導セミナー・武田薬品工業
志太・榛原地区 糖尿病チーム医療 Know-How 講演会 Vol. 2	患者満足度の高いインスリン治療への挑戦～多彩になったインスリン製剤の違いを実臨床に活かす工夫～	石田和史	2017年1月20日 ベルディ ロワレーヌ（静岡県藤枝市）	日本イーライリリー
インスリン治療の未来を考える会 in 福山	ライゾデグ、その特徴と可能性を探る	石田和史	2017年2月23日 ホーリーザイオンズパーク（広島県福山市）	ノボノルディスクファーマ
Insulin Conference 2017	患者満足度の高いインスリン治療への挑戦～多彩になったインスリン製剤の違いを実臨床に活かす工夫～	石田和史	2017年3月3日 ホテルオークラ新潟（新潟県新潟市）	日本イーライリリー

消化器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第118回広島消化器病研究会	胆嚢管原発神経鞘腫の1例	最上文子 藤本佳史 末廣洋介 若井雅貴 野中裕広 古土井明 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則 馬場健太 佐々木秀 中光篤志	2016年4月9日 広島市	広島消化器病研究会
第118回広島消化器病研究会	「膵がん・胆道がん教室」と地域連携	村田 愛 藤本佳史 末廣洋介 野中裕広 古土井明 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則	2016年4月9日 広島市	広島消化器病研究会
第7回 Journal of Gastroenterology high citation award	Prevalence and associated metabolic factors of nonalcoholic fatty liver disease in the general population from 2009 to 2010 in Japan : a multicenter large retrospective study.	Eguchi Y, Hyogo H, Ono M, Mizuta T, Ono N, Fujimoto K, Chayama K, Saibara T; JSG-NAFLD.	2016年4月21日	
糖尿病と肝疾患～その密接な関係～	脂肪肝マネジメントの現状と SGLT2 阻害薬の可能性について	兵庫秀幸	2016年7月4日 広島市	アストラゼネカ・小野薬品
第2回広島肝臓疾患フォーラム	重度腎障害のC型肝炎治療を実施した2例	村田 愛	2016年7月6日 廿日市市	第一三共・広島肝臓疾患フォーラム
第2回広島肝臓疾患フォーラム	経口抗 HCV 療法の現状	相坂康之	2016年7月6日 廿日市市	第一三共・広島肝臓疾患フォーラム
第15回岩国・広島西部地区消化器疾患懇話会	膵癌の2例（早期診断の試み）	小島啓史 藤本佳史	2016年8月2日 大竹市	岩国・広島西部地区消化器疾患懇話会・アストラゼネカ
西部地区がん診療オープンカンファレンス	疼痛コントロールに苦慮した膵・胆道癌症例	隅岡昭彦 藤本佳史	2016年8月26日 廿日市市	塩野義製薬

研究会講演・発表

第 21 回 PEG・在宅医療研究会学術集会	PEG 知識の普及啓発活動ー院内・院外での活動ー	石崎淳子 松下理恵 藤本七津美 八幡謙吾 徳毛宏則	2016 年 9 月 3 日 高松市	PEG・在宅医療研究会
Diabetes-Hepatitis Conference	NASH に潜む糖代謝異常の実態	兵庫秀幸	2016 年 9 月 21 日 広島市	広島日赤病院
第 6 回広島県中央脂質懇話会	NASH を中心としたトータルケア	兵庫秀幸	2016 年 10 月 18 日 東広島市	広島県中央脂質懇話会
第 3 回広島西部地域食道胃腸疾患研究会	造影 CT での早期濃染診断が有用であった Fitz-Hugh-Curtis 症候群の一例	隅岡昭彦	2016 年 10 月 24 日 廿日市市	JA 広島総合病院消化器内科・アステラス・ゼリア・佐伯地区医師会
第 3 回広島西部地域食道胃腸疾患研究会	機能性ディスペプシアの問題点と非機能性ディスペプシアに対するアコファイドの使用経験	小松弘尚	2016 年 10 月 24 日 廿日市市	JA 広島総合病院消化器内科・アステラス・ゼリア・佐伯地区医師会
第 3 回広島西部地域食道胃腸疾患研究会	大腸がん手術のための金属ステント治療の実際	古土井明	2016 年 10 月 24 日 廿日市市	JA 広島総合病院消化器内科・アステラス・ゼリア・佐伯地区医師会
第 27 回佐伯医学会総会	当院での肝癌の現状と「肝癌教室」の役割	藤本佳史 隅岡昭彦 村田 愛 末廣洋介 野中裕広 古土井明 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則 JA 広島総合病院 肝癌教室運営チーム	2016 年 11 月 3 日 廿日市市	佐伯地区医師会
第 27 回佐伯医学会総会	経口抗ウイルス薬にて治癒した、高度腎機能低下の C 型慢性肝炎 3 症例	村田 愛 相坂康之 隅岡昭彦 末廣洋介 野中裕広 藤本佳史 古土井明 兵庫秀幸 小松弘尚 徳毛宏則	2016 年 11 月 3 日 廿日市市	佐伯地区医師会
第 27 回佐伯医学会総会	悪性腹膜中皮腫の一例	武藤雅幸 杉山陽一 田妻 昌 中光篤志 古土井明 徳毛宏則 西原礼介	2016 年 11 月 3 日 廿日市市	佐伯地区医師会
第 27 回佐伯医学会総会	南相馬市立総合病院での研修を終えて	田中芳樹 西原礼介 中尾正和 徳毛宏則 藤本吉範	2016 年 11 月 3 日 廿日市市	佐伯地区医師会
第 27 回佐伯医学会総会	造影 CT での早期濃染が診断に有用であった Fitz-Hugh-Curtis 症候群の一例	内田由紀 古土井明 末廣洋介 村田 愛 隅岡昭彦 野中裕広 藤本佳史 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則	2016 年 11 月 3 日 廿日市市	佐伯地区医師会
第 233 回広島大学第一内科開業医部会火曜会	脂肪肝から見たトータルケア	兵庫秀幸	2016 年 11 月 15 日 広島市	火曜会
佐伯地区医師会学術講演会	NAFLD からみた脂質管理	兵庫秀幸	2016 年 11 月 22 日 廿日市市	佐伯地区医師会・佐伯地区内科会・武田薬品工業
佐伯クリニシャンズグループ講演会	緩和ケアにおける便秘治療	小松弘尚	2016 年 11 月 30 日 広島市	佐伯クリニシャンズグループ・マイラン EPD 合同会社
第 6 回肝癌教室ワークショップ in 広島	肝癌教室参加と地域連携	正島忠貴 林理 恵 藤本佳史 坂本真理子	2016 年 12 月 3 日 広島市	JA 広島厚生連・パンキャンジャパン
第 7 回肝癌教室ワークショップ in 広島	住み慣れた在宅で過ごすために～肝癌・胆道がん教室参加者の事例より～	木村泰弘 藤本佳史 古本直子 奥元直美 小田真基子 白寄純子 正島忠貴 松尾留美子 徳毛宏則	2016 年 12 月 3 日 広島市	JA 広島厚生連・パンキャンジャパン
第 8 回肝癌教室ワークショップ in 広島	在宅緩和ケアにおける地域連携ー肝癌・胆道がん教室参加者の事例より	網本達也 藤本佳史 古本直子 奥元直美 小田真基子 白寄純子 正島忠貴 松尾留美子 徳毛宏則	2016 年 12 月 3 日 広島市	JA 広島厚生連・パンキャンジャパン
佐伯地区医師会学術講演会	NASH における血圧・糖代謝・脂質管理の重要性とその薬剤選択	兵庫秀幸	2016 年 12 月 27 日 廿日市市	佐伯地区医師会・佐伯地区内科会・アステラス製薬
第 3 回広島肝臓疾患フォーラム	高齢者、急性 C 型肝炎の 1 例	隅岡昭彦	2017 年 1 月 25 日 廿日市市	第一三共・広島肝臓疾患フォーラム

研究会講演・発表

第 58 回広島肝疾患セミナー	B 型肝炎ウイルス genotypeD による急性肝炎を発症した 1 例	末廣洋介 村田 愛 古土井明 兵庫秀幸 小松弘尚	隅岡昭彦 野中裕広 藤本佳史 相坂康之 徳毛宏則	2017 年 2 月 11 日 広島市	広島肝疾患セミナー・第一三共
第 19 回 Regional Interactive G. I. Doctors' Network	：大腸腫瘍治療に対する内視鏡治療の棲みわけ～EMR or ESD～	古土井明		2017 年 2 月 22 日 廿日市市	Regional Interactive G. I. Doctors' Network・佐伯地区医師会・第一三共・アストラゼネカ
第 1 回広島胆膵カンファレンス	膵頭部腫瘍の 1 例	末廣洋介		2017 年 3 月 9 日 広島市	株式会社ヤクルト本社
尾道 EUS ライブ 2017	内視鏡ライブセミナー：コメンテーター	藤本佳史		2017 年 3 月 11 日 尾道市	オリンパス

外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 36 回広島 GIS クラブ	当科での周術期管理と SSI サーベイランスの現状	田崎達也 香山茂平 中村浩之 馬場健太 田妻 昌 今村祐司 今本紀生 佐々木秀 杉山陽一 上神慎之介 亀田靖子 新原健介 中光篤志	2016 年 7 月 22 日 広島市	
第 3 回広島食道手術手技研究会	当院における腹臥位上縦隔リンパ節郭清の手術手技	杉山陽一	2016 年 9 月 13 日 広島市	
第 46 回胃外科・術後紹介研究会	超高齢者胃癌に対する周術期合併症と予後についての検討	杉山陽一 新原健介 田妻 昌 馬場健太 亀田靖子 中村浩之 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	2016 年 10 月 27-28 日 米子市	
第 46 回広島内視鏡手術手技研究会	脾弯曲授動を伴う大腸癌手術症例の検討	上神慎之介 香山茂平 新原健介 田妻 昌 亀田靖子 馬場健太 中村浩之 田崎達也 杉山陽一 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	2017 年 2 月 24 日 広島市	
第 4 回広島 Lap ヘルニアセミナー	TAPP 法の基本	田崎達也	2017 年 2 月 25 日 広島市	
第 4 回広島 Lap ヘルニアセミナー	腹腔鏡下腹壁ヘルニア修復術	田妻 昌	2017 年 2 月 25 日 広島市	
第 1 回広島胆膵カンファレンス	切除可能性膵頭部癌の 1 切除例ー標準的手術とは？	佐々木秀	2017 年 3 月 9 日 広島市	

乳腺外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 46 回広島乳腺疾患研究会	当院乳癌初回再発症例のサブタイプ別検討	板垣友子	2016 年 4 月 9 日 広島市	広島乳腺疾患研究会・アストラゼネカ
大竹市医師会月例会	乳がん検診のこれまでとこれから	川淵義治	2016 年 4 月 15 日 大竹市	大竹市医師会・ヤクルト
広島乳がん認定医専門医育成研修	乳癌治療 手術療法	川淵義治	2016 年 5 月 24 日 広島市	広島大学・ノバルティスファーマ
広島乳癌カンファレンス 2016	再発乳癌チーム医療の現状	川淵義治	2016 年 5 月 28 日 広島市	ノバルティスファーマ
広島 ABC 講演会	当院におけるアフィニトールの使用経験	川淵義治	2017 年 2 月 23 日 広島市	ノバルティスファーマ
広仁会佐伯支部総会	広島西医療圏 乳がん検診診療の現状と展望	川淵義治	2017 年 3 月 2 日 廿日市市	広仁会佐伯支部

研究会講演・発表

整形外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第19回厚生連医療経営を考える研究会	地域医療構想、地域包括ケアの中での急性期病院の実践 ～診療報酬改定への対応も含めて～	藤本吉範	2016年5月25日	
サインバルタ「慢性腰痛症」適応追加記念学術講演会 in 広島	椎体終板障害を伴う慢性腰痛の治療	山田清貴	2016年6月3日 広島市	
日本運動器看護学会地区研修会 in 広島	高齢者の脊椎疾患と手術	山田清貴	2016年9月10日 広島市	
熊本整形外科勤務医会学術講演会	骨粗鬆症性椎体骨折の病診連携と治療成績	山田清貴	2016年11月4日 熊本市	
TOMO 友の会	脊椎単純レントゲン撮影の意義と目的	山田清貴	2016年11月27日 広島市	
かかりつけ医のための腰痛診療セミナー in 廿日市	腰痛診療の実際	山田清貴	2016年11月28日 廿日市市	
佐伯クリニシャンズグループ かかりつけ医のための腰痛診療セミナー	腰痛診療の実際	山田清貴	2017年3月15日 広島市	
腰痛シンポジウム	椎体不安定性に伴う腰痛への考察と低侵襲手術	中前稔生	2017年3月4日 東京	
Study Group of Nerve and Spine (SGNS)	Chronic Low Back Pain in the Elderly : Osteoporotic Vertebral Fracture and Degenerative Lumbar Scoliosis	中前稔生	2017年3月11～12日 東京	

脳神経外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第30回中国四国脳腫瘍研究会	小脳 gliosarcoma の一例	落合淳一郎	2016年9月2日	

呼吸器外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
2016年世界禁煙デー市民公開講座 in 東広島	私が地域や院内で行っている副業？のお話	渡正 伸	2016年5月28日 東広島	東広島市医師会
GSK Webinar	オペの前に要チェック！ COPD の併存に要注意	渡正 伸	2016年5月31日 広島	GSK
広島山口呼吸器手術手技ビデオフォーラム	肺部分切除におけるほんの少しの工夫	渡正 伸	2016年12月17日 広島	広島山口呼吸器手術手技研究会

心臓血管外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第11回広島大動脈ステントグラフトカンファレンス	EVAR 反省症例（Endurant カフ）と TEVAR レア症例（double chimney）	小澤優道	2016年5月19日 広島市	
第57回広島循環器病研究会	慢性総大動脈閉塞性病変に対する内膜摘除術の中期遠隔成績	小林 平	2016年6月4日 広島市	広島循環器病研究会・興和創薬株式会社
佐伯地区医師会学術講演会～循環器診療の病診連携	心臓腫瘍について～内科・外科学目線で考える	濱本正樹	2016年6月17日 JA 広島総合病院	佐伯地区医師会・アステラス製薬株式会社
心不全と心臓弁膜症セミナー	当院の弁膜症外科治療～自己弁温存、抗凝固療法回避、降圧治療の重要性	濱本正樹	2016年9月20日 広島市	塩野義製薬株式会社
静脈血栓症を診る	下肢の深部静脈血栓症（DVT）右総腸骨動脈瘤の左総腸骨静脈圧排による DVT・手術症例	小澤優道	2016年9月29日 広島市	
Next Generation Endovascular Conference	追加治療を行う予定の PETTICOAT 症例	小澤優道	2016年11月5日 広島市	日本ゴア株式会社
第16回広島心臓血管外科フォーラム	Calcified annular disease of mitral valve ～ decalcify or do nothing ?	濱本正樹	2016年11月16日 広島市	

研究会講演・発表

第19回倉敷心臓疾患最先端治療研究会	バイパスだけではだめなんですー血管外科医に必要な EVT を考えるー	小林 平	2016年12月3日 岡山県	倉敷心臓疾患最先端治療研究会・日本メドトロニック株式会社
第58回広島循環器病研究会	MEMO 3D RECHORD を用いた僧帽弁形成術の2例	濱本正樹	2016年12月10日 広島市	エーザイ株式会社
第5回広島循環器ケア・リハビリテーション研究会	チーム医療としての心臓リハビリテーション	小林 平	2016年12月17日 広島市	広島循環器ケア・リハビリテーション研究会・帝人在宅医療株式会社・帝人ファーマ株式会社
心不全と心臓弁膜症セミナー	当院の弁膜症外科治療～自己弁温存、抗凝固療法回避、降圧治療の重要性	濱本正樹	2017年3月14日 廿日市市商工保健会館	第一三共株式会社

皮膚科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
社内研修会	皮膚科領域の治療についての講演	森川博文	2016年7月14日 大鵬薬品広島支店	大鵬薬品工業株式会社
社員研修会	乾癬疾患に関する最新の医学的知見	森川博文	2016年10月21日 協和発酵キリン株式会社 中国支店	協和発酵キリン株式会社

耳鼻咽喉科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第22回広島県めまい研究会	当院救急外来を受診される「めまい症状」疾患の内訳について	高本宗男	2016年12月7日 広島市	広島県めまい研究会・興和創薬株式会社

画像診断部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第229回広島放射線診断カンファレンス	椎茸丸飲みによる食餌性イレウスの1例	岡本直通	2016年6月2日 広島大学	
広島西圏域メディカルコントロール協議会	頭部救急疾患の画像診断の基礎	西原礼介	2016年9月30日 廿日市市消防本部	
第241回広島放射線診断カンファレンス	不正性器出血の一例	石崎宏美	2016年10月6日 広島大学	
第9回厚生連病院研修医全国大会	腹痛の1例	西原礼介	2016年10月14日 広島国際会議場	
第32回広島臨床画像研修会	悪性腫瘍と鑑別困難であった腎門部の毛細血管腫の1例	京田尚子	2016年10月29日 広島	バイエル薬品
第3回中国・四国 GUR 研究会	腎門部腫瘍の1例	京田尚子	2016年11月12日 岡山	
CTテクノロジー第52回勉強会	コメンテーター	西原礼介	2017年1月20日 エーザイ株式会社	エーザイ株式会社
第254回広島放射線診断カンファレンス	縦隔悪性胚細胞腫の一例	難波剛史	2017年2月2日 広島大学	

麻酔科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
ビデオ喉頭鏡 The McGrathTM MAC でのビデオ録画方法の考案	中尾正和 梅田絢子 片岡宏子 河本佐瑠子 本多亮子 村上俊介 佐々木幹子 古賀知道	日本麻酔・集中治療テクノロジー学会	2016年11月26日 東京	日本麻酔・集中治療テクノロジー学会

救急・集中治療科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
心肺蘇生ガイドライン2015勉強会	成人の二次救命処置 ALS (前半)	櫻谷正明	2016年4月28日 広島大学	NPO あなたが救う・救命救急広島
第7回滋賀集中治療懇話会	当院の PAD 管理	櫻谷正明	2016年6月18日 琵琶湖ホテル	旭化成

研究会講演・発表

クリティカルケアヤングアカデミー	診療ガイドラインの正しい使い方	櫻谷正明	2016年9月9日 広島大学	
ひろしま呼吸管理セミナー	酸素化と換気：評価と目標	櫻谷正明	2017年1月28日 グランドプリンスホテル 広島	日本コヴィディエン
香川急性肺障害セミナー	NPPV って非侵襲ですか？		2017年2月17日 ホテルパールガーデン	フィリップス

健康管理センター

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
農村医学に関する調査研究報告会	血中 PCSK9 濃度と血中 LDL - コレステロール値、冠動脈疾患との関連の検討	碓井裕史	2016年12月12日 JA 全厚連（東京）	

形成外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 62 回西中国形成外科研究会	診断に難渋した高齢者の頭部隆起性病変	長谷川美紗	2016年8月7日 広島市中区	

病理診断科・病理研究検査科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
病理細胞領域研修会 第3回「技」	実際に起こったヒヤリハット・インシデント事例報告&対応策の紹介	永田郁子	2016年8月27～28日 呉医療センター中国がんセンター技術研修センター	広島県臨床検査技師会

外来治療センター

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
サイラムザ オープンカンファ	胃がん薬物療法症例及び看護職介入事例について	野村昌代	2016年5月20日 ホテルグランピア	イーライリリー株式会社
広島西部地区腎不全研修会		池部輝美	2016年7月14日 安芸グランドホテル	広島西部地区腎不全研修会
第 25 回中国腎不全学会研修会	若年透析患者に対する専門職の有効な支援方法の検討	平木一枝	2016年10月15～16日 広島国際会議場	
化学療法マネジメントセミナー	療養コントロールを得るための患者教育	野村昌代	2016年11月1日 広島大学病院広仁会館	サノフィ株式会社
腎リハビリテーション学会	若年透析患者に腎臓リハビリテーションを導入した心理的効果の検討	平木一枝	2017年2月18～19日 つくば国際会議場	日本腎リハビリテーション学会

東 7 階病棟

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
地域看護	在宅・施設につなぐストーマケア	南部智江	2016年6月17日 広島県看護協会	広島県看護協会
メディカルケアサポートセミナー in 広島	予防概論：コツをつかんで看護の力を発揮しよう	南部智江	2016年7月23日 広島市西区民文化センター	モルテン
第 27 回中国ストーマリハビリテーション講演会	実習	南部智江	2016年10月22日 地方独立行政法人広島市立病院機構広島市民病院	地方独立行政法人広島市立病院機構広島市民病院
平成 28 年度院内褥瘡対策研修会	DESIGN-R に沿ったケア方法について	南部智江	2016年12月12日 広島グリーンヒル病院	広島グリーンヒル病院
基礎看護学診療補助技術	創傷管理一年生	南部智江	2017年2月20日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校

研究会講演・発表

居宅介護支援事業所

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 27 回佐伯医学総会	経口摂取量の減少した在宅療養者の意思決定支援に関する考察～ Jonsrn の 4 分割法を使い倫理的観点から～	矢野秀美	2016 年 11 月 3 日 廿日市市商工保健会館	廿日市市五師士会

薬剤部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
中区 Oncology Forum	当院における高齢者がん化学療法の現状と薬剤師の関わり	藪田ゆみ	2016 年 6 月 14 日 広島 YMCA 国際文化センター	中区 Oncology Forum 中外製薬
NPPV セミナー	スキルステーション担当 NPPV の鎮静	吉廣尚大	2016 年 7 月 30 日 JA 広島ビル	コビディエン
第 22 回広島腎と薬剤研究会	当院における CKD 教育入院の取り組みと課題	得能千晶	2016 年 8 月 2 日 TKP ガーデンシティ広島ダイヤモンドホール	広島腎と薬剤研究会・広島県病院薬剤師会など
第 25 回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	いつ飲むの？今でしょ！服用忘れを防ぐための工夫	瀧口幸子	2016 年 8 月 10 日 廿日市市症候保険会館	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議
広島県西部地区薬剤師会研修会	「処方感作の時に役立つ情報って何？～プレアボイドから副作用のために必要な情報を考える～」	埋橋賢吾	2016 年 8 月 24 日 廿日市市総合健康福祉センター	広島県病院薬剤師会・廿日市市薬剤師会・大鵬薬品
広島院内感染対策研究会	インフルエンザの施設内蔓延防止とアウトブレイクの対応について	角井 碧	2016 年 9 月 10 日 アステールプラザ	広島院内対策研究会・大日本住友製薬
JA 広島総合病院 CKD 連携の会	「JA 広島総合病院の CKD 教育入院パスについて」薬剤師の関わりについて	得能千晶	2016 年 10 月 6 日 JA 広島総合病院大会議室	中外製薬
DIC フォーラム広島	徹底討論	吉廣尚大	2016 年 10 月 18 日 広島大学広仁会館	
平成 28 年度院内集合研修第 8 回医療安全研修会	「安全な抗がん剤投与」について	橋本佳浩	2016 年 11 月 15 日 JA 広島総合病院大会議室	
第 23 年 注射剤・輸液に関する懇話会	「当院の栄養管理の現状と薬剤師としての今後の課題」	中島恵子	2016 年 11 月 18 日 広島大学医学部広仁会館	注射・輸液に関する懇話会・広島県病院薬剤師会・薬剤業務・専門薬剤委員会・テルモ
2016 年度 院内集合研修第 5 回 NST 研修会	「栄養輸液の基本と注意点」	山崎貴司	2016 年 11 月 21 日 JA 広島総合病院大会議室	
感染防止委員会	「薬剤耐性菌を発生させないために」	角井 碧	2016 年 11 月 29 日 原田病院大会議室	原田病院・感染防止委員会
2016 年度秋季 広島西部呼吸器カンファレンス	COPD 実地診療「吸入薬指導時に薬剤師が心掛けていること～各吸入デバイスの特徴を含め～」	中島恵子	2016 年 11 月 30 日 佐伯地区医師会大会議室	佐伯地区医師会・ノバルティスファーマ
第 6 回舘がん教室ワークショップ 2016in 広島	当院における医療用麻薬の使い方～当院で看取った患者を中心に～	藤原俊輔	2016 年 12 月 3 日 JA 広島ビル	JA 広島厚生連・日本臓臓学会
第 6 回チーム医療成果発表会	目指せ、セブ一の下肢血管チーム！！	後藤彰仁	2016 年 12 月 6 日 JA 広島総合病院大会議室	
第 29 回広島救急初療研究会学術講演会	「薬剤師から見た DIC 治療」	吉廣尚大	2017 年 1 月 29 日 三井ガーデンホテル広島	広島救急初療研究会・旭化成ファーマ
第 6 回 OHP セミナー	薬剤師としてどう鎮静管理にかかわるか	吉廣尚大	2017 年 2 月 5 日 大阪市	大阪病院薬剤師会
第 39 回広島県農村医学研究会	「新システムを活かしたプレアボイド増加への取り組みとその評価～より安全な薬物療法を目指して～」	埋橋賢吾	2017 年 2 月 16 日 JA 広島ビル	
時短職員等対象 医療安全研修会	誤薬について	角井 碧	2017 年 3 月 22 日 JA 広島総合病院大会議室	

臨床研究検査科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島地区 Core member meeting	『左心耳を斬る！』～形態と左心耳壁収縮速度に関して～	藤井 隆	2016 年 5 月 19 日 オリエンタルホテル広島	日本ペーリンガーインゲルハイム

研究会講演・発表

第 57 回広島循環器病研究会	経胸壁左心耳壁収縮速度 (TTE-LAA-WW) 測定の意義	原千花子	2016 年 6 月 4 日 エソール広島	広島循環器病研究会・興和創薬株式会社
第 31 回佐伯地区医師会学術講演会	LDL-C 管理の重要性～家族性高コレステロール血症を含めて～	藤井 隆	2016 年 6 月 17 日 JA 広島総合病院	JA 広島総合病院・アステラス製薬・佐伯地区医師会
広島県臨床検査技師会心電図研修会	心電図判読 不整脈編	嶋田恵美	2016 年 7 月 31 日 広島県医師会館	広島県臨床検査技師会
広島県臨床検査技師会心電図研修会	『MDCT から心筋虚血に迫る』～動脈硬化を含めて～	藤井 隆	2016 年 7 月 31 日 広島県医師会館	広島県臨床検査技師会
第 28 年度 良質な医師を育てる研修	冠動脈 CT	藤井 隆	2016 年 8 月 26 日 岡山医療センター	独立行政法人機構国立病院機構
第 63 回日本臨床検査医学会学術集会・第 65 回日本医学検査学会	ランチョンセミナー『心臓 CT 画像から診た冠動脈プラークとその抑制』～small dense LDL-c を主体に残余リスクを考える～	藤井 隆	2016 年 9 月 3 日 神戸ポートピアホテル	日本臨床検査技師会
第 28 回広島循環器フォーラム 21	『左心耳に関する耳寄りな話』～左心耳形態と収縮速度 (WW) に関して～	藤井 隆	2016 年 10 月 6 日 ホテルグランヴィア広島	その他
広島西部地区 病病・病診連携の会 ファブリー病セミナー	ファブリー病の心症状について～症例を含めて～	北村紀恵	2016 年 10 月 20 日 医療法人一陽会原田病院	大日本住友製薬株式会社
日臨技中四国支部 生物化学分析部門研修会	当院での sdLDL 使用経験について	丸山恭平	2016 年 10 月 30 日 愛媛大学医学部付属病院	日臨技中四国支部生物化学分析部門
プラレエント発売記念講演	心臓 CT 画像から診た冠動脈プラークとその抑制～small dense LDL-c を主体に～	藤井 隆	2016 年 11 月 1 日 ホテルグランヴィア広島	サノフィ株式会社
第 17 回 MICROBE 学術講演会	自動血液培養装置 Versa TREK 導入後の血液培養検査状況	池田光泰	2016 年 11 月 12 日 広島インテリジェントホテル	ベックマン・コールター株式会社
広島県臨床検査技師会染色体・遺伝子部門研修会	当院における POT キットを活用した感染管理	池部晃司	2017 年 1 月 28 日 広島赤十字・原爆病院	広島県臨床検査技師会
加古川・高砂医師会 循環器地域連携の会	虚血性心疾患を考慮した脂質異常症治療～市民公開講座を含めて～	藤井 隆	2017 年 2 月 16 日 加古川プラザホテル	加古川・高砂医師会
第 36 回広島県臨床検査精度管理向上研修会	生理検査 (フォトサーベイ)	霜津宏典	2017 年 2 月 19 日 広島県医師会館	広島県医師会・広島県臨床検査技師会
第 19 回検査部長・技師長連絡会議	チーム医療の新たな展開「術前肺機能チーム」	嶋田恵美	2017 年 2 月 19 日 広島県医師会館	広島県医師会・広島県臨床検査技師会
集まれ！広島臨技	臨床検査技師に関する法律改正～検体採取業務について～	水野誠士	2017 年 2 月 25 日 三次市	広島県臨床検査技師会
ファブリー病ーシンポジウム	古典型 Fabry 病の心病変に対 ERT が有効と考えられた 1 例	藤井 隆	2017 年 3 月 4 日 東京コンファレンスセンター	大日本住友製薬・ファブリー病研究会
2016 年度心臓病教室	当院での心臓の検査について	川崎京子	2017 年 3 月 9 日 広島総合病院	心臓いきいき事業・JA 広島総合病院
第十一回中国四国 ICMT を育てる会	平成 28 年度認定臨床微生物検査技師試験を受験して	池田光泰	2017 年 3 月 25 日 岡山市	岡山県臨床検査技師会

中央放射線科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島 GEMR ユーザーズミーティング第 41 回初級者コース	GRE について	田丸隆行	2016 年 4 月 27 日 広島大学病院	GE ヘルスケアジャパン
第 35 回愛媛心臓核医学談話会	放射線医薬品届け日変更における影響 心筋シンチの対応	高畑 明	2016 年 6 月 4 日 ひめぎんホール	富士 RI ファーマ
広島県診療放射線技師会 平成 28 年度第 1 回研修会	脊椎 MRI の検査方法とピットホール	本山貴志	2016 年 6 月 19 日 広島がん高精度治療センター	広島県診療放射線技師会
診療放射線技師のためのフレッシュアップセミナー	当直で役立つ救急 CT を学ぼう	山口裕之	2016 年 8 月 28 日 広島がん高精度治療センター	(公社) 広島県診療放射線技師会
日本放射線技術学会 平成 28 年度市民公開講座		小濱千幸	2016 年 11 月 21 日 インテリジェントビル	日本放射線技術学会

研究会講演・発表

第 41 回広島県 MRI 勉強会	婦人科の MRI	都築晋治	2016 年 12 月 10 日 県立広島病院	
金沢大学医学部保健学科 特別講義	診療放射線技師のためのマンモグラフィ	小濱千幸	2017 年 1 月 12 日 金沢大学医学部保健学科	
せとうち心臓 CT/MR 勉強会	256 列心臓 CT における 3 次元動態ベクトル解析の有効性の検討	秋里恭平	2017 年 3 月 11 日 えひめ共済会館	バイエル薬品・富士製薬工業
第 33 回安芸 RI 倶楽部勉強会	当院の心筋核医学検査	貝原雄也	2017 年 10 月 19 日 県立広島病院	富士 RI ファーマ

臨床工学科

RST-JAPAN カンファレンス	ラウンドによる異常の発見〜ベッドサイドで何を見る？	荒田晋二	2016 年 5 月 15 日 京都市	主催・共催・後援団体・会社
地域医療連携勉強会	今さら聞けない人工呼吸器の基礎	荒田晋二	2016 年 5 月 24 日 広島市	
第 13 回中国内視鏡技師研究会	当院における高周波手術装置の設定変更	村上直己	2016 年 9 月 11 日 松江市	
第 10 回広島人工呼吸療法セミナー	急性期における呼吸療法	荒田晋二	2017 年 1 月 15 日 広島市	

リハビリテーション科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島循環器ケアリハビリテーション研究会	心臓リハビリテーション外来の導入これまでの取り組みと課題	本間智明	2016 年 5 月 14 日 広島大学病院	
心臓いきいきキャラバン研修会	心不全の心臓リハビリテーションー運動療法についてー	小島輝久	2016 年 10 月 20 日 JA 広島総合病院	

栄養科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 3 回廿日市市栄養士会総会	サルコペニア、フレイルティの栄養管理について	八幡謙吾	2016 年 4 月 21 日 広島総合病院	廿日市市栄養士会
第 5 回福山 DM 研究会	「食事療法のポイント」を患者さんに実践するには	河本良美	2016 年 6 月 15 日 リッチモンドホテル福山駅前	株式会社三和化学研究所
在宅訪問栄養ケア研修会	栄養管理③（糖尿病・糖尿病腎症）	河本良美	2016 年 9 月 3 日 広島市南区役所別館	広島県栄養士会
JA 広島総合病院 CKD 連携の会	栄養指導について	三浦満美子	2016 年 10 月 6 日 広島総合病院	中外製薬株式会社
第 46 回胃外科・術後障害研究会	胃癌術後の外来栄養指導による体重減少抑制効果の検討	河本良美 杉山陽一 田妻 昌 中村浩之 今村祐司 中光篤志	2016 年 10 月 27～28 日 米子コンベンションセンター	
第 6 回膵がん教室ワークショップ 2016in 広島	膵がん・胆道がん教室における栄養士の役割とは〜アンケートからの振り返り〜	長曽我部弘子	2016 年 12 月 3 日 JA ビル	NPO 法人パンキャンジャパン・JA 広島厚生連
第 39 回広島県農村医学研究会	入院時栄養食事指導 当院の傾向を探る	松本裕子	2017 年 2 月 18 日 JA ビル	JA 広島厚生連

研究会座長

循環器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 15 回広島肺高血圧症研究会	荘川知己	北海道大学病院内科 I における肺高血圧診療	大平 洋	2016 年 9 月 13 日 ホテルグランヴィア 広島	アクテリオンファーマシューティカルズ ジャパン株式会社

腎臓内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 55 回広島血液浄化カンファレンス	荒川哲次	医療安全対策	新宅究典	2017 年 3 月 2 日 広島市	鳥居薬品株式会社・東レ・メディカル株式会社・中外製薬株式会社・バクスター株式会社・協和発酵キリン株式会社・株式会社ジェイ・エム・エス

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
インスリン治療を考える会	石田和史	患者さんの目線から今日のインスリン治療を考える	坂出市立病院糖尿病内科部長 大工原裕之先生	2016 年 5 月 27 日 ホテルグランヴィア 広島	日本イーライリリー
インスリン強化療法治療座談会	石田和史	もう一步踏み込んだインスリン治療を考える	坂出市立病院糖尿病内科部長 大工原裕之先生	2016 年 6 月 9 日 広島イーストビル	サノフィ
GLP-1 アナログ製剤を考える会	石田和史	リラグルチドの使用経験	土谷総合病院内分泌内科医長 渡邊浩先生	2016 年 6 月 28 日 オリエンタルホテル 広島	ノボノルディスクファーマ
Basal Insulin Seminar	石田和史	CGM からみる新しい基礎インスリン製剤の特徴	社団陣内会陣内病院 陣内秀昭先生	2016 年 11 月 18 日 広島イーストビル	サノフィ
Insulin Seminar in Hiroshima	石田和史	IUSULIN ReBORN ～患者さん目線で考える強化インスリン療法～	愛知医科大学医学部内科学講座糖尿病内科准教授 加藤義郎先生	2016 年 12 月 8 日 リーガロイヤルホテル広島	日本イーライリリー
第 1 回糖尿病療養支援スキルアップセミナーチーム in Hiroshima	石田和史	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話～コーチング／共感的傾聴～	佐世保中央病院糖尿病センター長 松本一成先生	2017 年 2 月 25 日 広島市文化交流会館	糖尿病療養支援スキルアップセミナーチーム in Hiroshima・日本イーライリリー・広島県医師会糖尿病対策推進会議

消化器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
佐伯地区医師会学術講演会	相坂康之	「C 型肝炎の最新治療」	茶山一彰	2016 年 4 月 26 日 廿日市市	佐伯地区医師会・佐伯地区内科会・ギリアドサイエンス
佐伯地区医師会学術講演会	徳毛宏則	「GERD 治療の新展開」	島谷智彦	2016 年 5 月 24 日 廿日市市	佐伯地区医師会・佐伯地区内科会・武田薬品・大塚製薬
第 17 回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	徳毛宏則	「地対協アドバンスケアプランニング（ACP）モデル事業に参加して」	小松弘尚	2016 年 6 月 22 日 廿日市市	Rigid Net・佐伯地区医師会・アストラ・第一三共
第 17 回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	小松弘尚	「地域緩和ケアにおける「顔の見える関係」について」	本家好文	2016 年 6 月 22 日 廿日市市	Rigid Net, 佐伯地区医師会・アストラ・第一三共
膵がん胆道がん教室 3 周年記念講演会	徳毛宏則	「膵がん教室とパープルウォーク in 津」	岸和田昌之	2016 年 6 月 24 日 廿日市市	広島総合病院消化器内科・大塚薬品
佐伯地区医師会学術講演会	徳毛宏則	「Weekly DPP4 阻害薬の可能性を求めて」	廣田則彦	2016 年 6 月 28 日 廿日市市	佐伯地区医師会・佐伯地区内科会・MSD

研究会座長

第12回広島肝臓プロジェクト研究センターシンポジウム	兵庫秀幸	session III NAFLD		2016年6月25日 広島市	AMED
第2回広島肝臓疾患フォーラム	徳毛宏則	「重度腎障害のC型肝炎治療を実施した2例」	村田 愛	2016年7月6日 廿日市市	広島肝臓疾患フォーラム・第一三共
第2回広島肝臓疾患フォーラム	兵庫秀幸	「経口抗HCV療法の現状」	相坂康之	2016年7月6日 廿日市市	広島肝臓疾患フォーラム・第一三共
西部地区がん診療オープンカンファレンス	藤本佳史	「膵癌：最難治療への挑戦」	伊佐山浩通	2016年8月26日 廿日市市	塩野義製薬・西部地区がん診療オープンカンファレンス
第21回PEG・在宅医療研究会学術集会	徳毛宏則	一般演題14「胃瘻ケア・管理3」		2016年9月3日 高松市	PEG・在宅医療研究会
第3回広島西部地域食道胃腸疾患研究会	古土井明	「造影CTでの早期濃染診断が有用であったFitz-Hugh-Curtis症候群の一例」	隅岡昭彦	2016年10月24日 廿日市市	JA広島総合病院消化器内科・アステラス・ゼリア・佐伯地区医師会
第3回広島西部地域食道胃腸疾患研究会	古土井明	「機能性ディスペプシアの問題点と非機能性ディスペプシアに対するアコファイドの使用経験」	小松弘尚	2016年10月24日 廿日市市	JA広島総合病院消化器内科・アステラス・ゼリア・佐伯地区医師会
第3回広島西部地域食道胃腸疾患研究会	小松弘尚	「大腸がん手術のための金属ステント治療の実際」	古土井明	2016年10月24日 廿日市市	JA広島総合病院消化器内科・アステラス・ゼリア・佐伯地区医師会
佐伯地区医師会学術講演会	徳毛宏則	「口腔ケアでいのち輝く明日へ」	迫田綾子	2016年10月25日 廿日市市	佐伯地区医師会
第18回Regional Interactive G.I. Doctors' Network	小松弘尚	「酸関連疾患に対する新たな治療戦略～酸分泌抑制薬の最適な選択肢は？～」	石村典久	2016年10月26日 廿日市市	Rigid Net, 佐伯地区医師会・アストラ・第一三共
第27回佐伯医学会総会	徳毛宏則	「東日本大震災、原発事故後の南相馬市、当院の状況」	金澤幸夫	2016年11月3日 廿日市市	佐伯地区医師会
第6回生活習慣病と肝疾患を考える平卒の会	兵庫秀幸	総合ディスカッション「これからの生活習慣病と肝疾患について」		2016年11月4日 神戸市	生活習慣病と肝疾患を考える平卒の会
第16回岩国・広島西地区消化器疾患懇話会	藤本佳史	「膵臓癌の診断と内科的治療」	芹川正浩	2016年11月17日 大竹市	岩国・広島西地区消化器疾患懇話会
第6回膵がん教室ワークショップ2016 in 広島	藤本佳史	ワークショップ		2016年12月3日 広島市	膵がん教室研究会 膵がん教室ワークショップ2016実行委員会・NPO法人パンキャンジャパン・JA広島厚生連・広島パープルリボン
佐伯地区医師会学術講演会	徳毛宏則	「NASHにおける血圧・糖代謝・脂質管理の重要性とその薬剤選択」	兵庫秀幸	2016年12月27日 廿日市市	佐伯地区医師会・佐伯地区内科会・アステラス製薬
第3回広島肝臓疾患フォーラム	兵庫秀幸	「NASH・NAFLDの診断と治療～最近の話題～」	中島 淳	2017年1月25日 廿日市市	第一三共・広島肝臓疾患フォーラム
消化器内科講演会スペシャル	相坂康之	「肝硬変における腹水評価～ガイドラインから診る腹水治療戦略～」	平松 憲	2017年2月17日 廿日市市	佐伯地区医師会・JA広島総合病院消化器内科・大塚製薬
第19回Regional Interactive G.I. Doctors' Network	小松弘尚	「大腸腫瘍治療に対する内視鏡治療の棲みわけ～EMR or ESD～」	古土井明	2017年2月22日 廿日市市	Rigid Net, 佐伯地区医師会・アストラ・第一三共
尾道EUSライブ2017	藤本佳史	内視鏡ライブセミナーの司会とコメンテーター	藤本佳史	2017年3月11日 尾道市	オリンパス

外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第2回中国四国腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究会	田崎達也	剥離からメッシュ固定まで	松本純夫 佐藤浩明 河合 央	16年6月25日 岡山市	
第4回広島Lapヘルニアセミナー	田崎達也	ビデオカンファレンス		17年2月25日 広島市	

研究会座長

乳腺外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島 ABC seminar	川渕義治	当院におけるエペロリムス治療戦略	佐々田達成	2016 年 6 月 24 日 広島市	ノバルティス

心臓血管外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島動脈硬化治療を考える会	小林平	頸動脈血管病変に対する血管内治療	渋谷正顕	2016 年 7 月 19 日 広島市	広島動脈硬化治療を考える会・興和創薬株式会社
第 58 回広島循環器病研究会	濱本正樹	一般演題セッション 2 (外科系疾患・大血管)	循環器内科医師、 心臓血管外科医師	2016 年 12 月 10 日 広島市	広島循環器病研究会・エーザイ株式会社
第 19 回倉敷心臓疾患最先端治療研究会	小林平	一般演題 第 2 部	理学療法士	2016 年 12 月 3 日 倉敷市	倉敷心臓疾患最先端治療研究会・日本メドトロニック株式会社
広島動脈硬化治療を考える会	小林平	治療的観点でみるフットケア	長谷川美紗	2017 年 1 月 25 日 広島市	広島動脈硬化治療を考える会・興和創薬株式会社

産婦人科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
西部地区産婦人科医会学術講演会	中西慶喜	子宮筋腫の取り扱い	工藤美樹	2016 年 5 月 26 日 広島サンプラザ	日本新薬株式会社
西部地区産婦人科医会学術講演会	中西慶喜	女性のトータルヘルスケアのためのホルモン療法ー OC・LEP のガイドラインを中心にー	若槻明彦	2016 年 7 月 7 日 広島サンプラザ	バイエル薬品株式会社
西部地区産婦人科医会学術講演会	中西慶喜	周産期女性のうつや不安の見立てと治療	山本 修	2016 年 9 月 15 日 広島サンプラザ	持田製薬株式会社
西部地区産婦人科医会学術講演会	中西慶喜	生殖補助医療 (ART) の現状とその最新技術〜広島 HART クリニックのアプローチを中心に〜	向田哲規	2017 年 3 月 9 日 広島サンプラザ	あすか製薬株式会社

耳鼻咽喉科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
佐伯地区医師会講演会	高本宗男	特別講演「鼻アレルギーの病態と治療」	広島大学病院 耳鼻咽喉科 准教授 竹野幸夫	2017 年 1 月 24 日 廿日市市	共催 佐伯地区医師会 大鵬薬品工業株式会社

画像診断部

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 32 回広島臨床画像研修会	西原礼介	悪性腫瘍と鑑別困難であった腎門部の毛細血管腫の 1 例	京田尚子	2016 年 10 月 29 日 広島	バイエル薬品

薬剤部

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
膵がん・胆道がん教室 講演会	橋本佳浩	膵がん・胆道がん教室と病棟看護 JA 尾道での膵がん・胆道がん教室	本山敏恵 花田敬士	2016 年 6 月 24 日 JA 広島総合病院大会議室	広島総合病院・大鵬薬品
広島県西部地区 薬剤師研修会	橋本佳浩	特別講演「在宅中のできる、抗がん剤の副作用管理」	鈴木賢一	2016 年 8 月 24 日 廿日市市	広島県病院薬剤師会 廿日市市薬剤師会 大鵬薬品
広島感染制御薬剤師セミナーアドバンスコース	角井 碧	「全身状態不良で救急搬送された腰痛医術後の患者」「抗菌薬不応の肺膿瘍患者」	久保有子 安原昌宏	2016 年 10 月 1 日 広島大学病院・タンポポ保育園カンファレンスルーム	広島県病院薬剤師会 専門薬剤師委員会 会・感染グループ

研究会座長

広島県病院薬剤師会研修会	橋本佳浩	講演 1「地域医療連携推進のために求められる病院薬剤師の役割」 講演 2「家で過ごしたい気持ちに寄り添う支援から在宅緩和ケアの現状と薬剤師に求められる役割～」 講演 3「地域包括ケアシステムにおける薬剤師間の連携と役割」	荒川隆之 鉄穴口麻里子 小森山雅士	2017年3月11日 広島大学病院・タンポポ保育園カンファレンスルーム	広島県病院薬剤師会 医療連携支援検討委員会 広島県病院薬剤師会北支部 中外製薬
--------------	------	--	-------------------------	--	---

臨床研究検査科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
生理機能検査部門研修会（認定心電技師更新指定研修会）	霜津宏典		水田 陽 山崎絢子 嶋田恵美 鳥本愛弓 藤井 隆	2016年7月31日 広島県医師会館	
第65回日本医学検査学会	池部晃司	（医）微生物 17	河村佳江 森 修治 濱野京子 小松由明 小林沙織	2016年9月3日 神戸国際会議場	
『広島西部地区ファブリー病セミナー』	藤井 隆	尿検査が診断の契機となったファブリー病の一例	JA 広島総合病院 森本啓介 JA 広島総合病院 北村紀恵	2016年10月22日 廿日市市商工保健会館	
シスメックス免疫セミナー	水野誠士	疫学的視点からみたC型肝炎撲滅への展望	伊藤孝芳 田中純子	2016年11月18日 広島市シスメックス株式会社	
佐伯地区医師会講演会	藤井 隆		JA 広島総合病院 兵庫秀幸 横浜栄共済病院 野末剛	2016年11月22日 廿日市市商工保健会館	
平成28年度日本臨床衛生検査技師会中四国支部医学検査学会（第49回）	霜津宏典		平田有紀奈 藤山 香 谷本泰三 上田彩未	2016年11月27日 高知市文化プラザかるぽーと	
生理機能検査・総合管理部門合同研修会	霜津宏典		中川裕美 永松将吾	2017年2月4日 広島市立広島市民病院	
第19回検査部長・技師長連絡会議	水野誠士	チーム医療の新たな展開	大谷佳子 嶋田恵美 尾田三世	2017年2月19日 広島県医師会	
第34回広島県医学検査学会	嶋田恵美		マツダ病院 中川愛衣 広島大学病院 沖西由衣	2017年2月26日 十日市コミュニティセンター	
循環器地域連携の会	藤井 隆		三浦史晴	2017年2月28日 廿日市市商工保健会館	
第9回シーメンスセミナー広島	水野誠士		萩原貴裕 仲 優彦 西宮達也	2017年3月11日 広島市	

中央放射線科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第31回安芸 RI 倶楽部	高畑 明			2016年4月16日	
第32回安芸 RI 倶楽部	高畑 明			2016年7月21日	
第23回広島 GEMRI ユーザーズミーティング	本山貴志	PROPELLER—再考—	五月女康作	2016年6月4日 東区民文化センター	GE ヘルスケア
第14回広島国際フォーラム	田丸隆行	前立腺癌の診断のための MRI、最適なスキャンプロトコル、解釈、および新しいアプリケーション	秋田隆司	2016年8月6日 広島インテス	バイエル薬品株式会社
第14回広島国際フォーラム	山口裕之	末梢動脈性疾患に対する画像診断	小林 平	2016年8月6日 広島インテス	バイエル薬品株式会社
第17回瀬戸内 CT サイエンスセミナー	山口裕之	大腸 CT 検査 臨床でどのように使うか？	松本啓志	2016年9月3日 エソール広島	第一三共株式会社
第24回広島 GEMRI ユーザーズミーティング	本山貴志	各施設での造影 Dynamic Sequence	錦織 瞭 長谷川俊輔	2016年9月3日 西区民文化センター	GE ヘルスケア
第33回安芸 RI 倶楽部	高畑 明			2016年10月19日	

研究会座長

広島県診療放射線技師会市民公開講座	山口裕之	進化する乳がん画像検査・乳がんの早期発見と治療	新藤陽子 大谷彰一郎	2017 年 1 月 4 日 エソール広島	（公社）広島県診療放射線技師会
第 34 回安芸 RI 倶楽部	高畑 明			2017 年 1 月 20 日	

地域活動

循環器内科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
介護支援専門員資質向上勉強会『心不全の地域医療の体制強化について』	辻山修司	介護支援専門員	6月4日 廿日市市総合健康福祉センターあいづらぎ	居宅介護支援事業所あすか	

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第7回広島いちがたの会（コーディネーター）	石田和史	1型糖尿病患者&家族、糖尿病医療従事者	2016年6月25日 広島市文化交流会館（広島市中区）	広島県糖尿病協会・広島VOX・日本イーライリリー	144人
広島県糖尿病性腎症重症化予防プログラム講習会（ファシリテーター）	石田和史	広島県糖尿病療養指導士	2016年8月7日 広島県庁（広島市中区）	広島県糖尿病療養指導士認定機構	144人
あいプラザまつり「あなたの糖尿病なりやすさを占います～測って比べて占って」	糖尿病診療に関わるスタッフ全員	一般市民	2016年11月6日 あいプラザ（広島県廿日市市）	廿日市市	197人

消化器内科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
パープルストライド東京2016～日比谷公園ウォーク&ラン～	辟癌教室運営チーム	医療者、一般	2017年11月13日 日比谷公園	国際医療福祉大学三田病院・NPO法人パンキャンジャパン	
JA広島総合病院オープンホスピタル市民公開講座「すい臓ってなあに？」～すい臓の病気にならないための生活の工夫～	藤本佳史	一般	2017年11月23日 JA広島総合病院	JA広島総合病院	50人

小児科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
食物アレルギーについての講演“食物アレルギー～基礎から最新の話まで～”	辻 徹郎	園、学校、療育施設関係者	2017年3月1日 広島県	広島県	200人

乳腺外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
化学療法と副作用対策	川淵義治	乳がん患者	2016年4月2日 広島市	NPO法人まちなかピンクリボンプロジェクト	65人
広島乳がんアカデミア	川淵義治	一般市民	2016年10月16日 広島市	NPO法人まちなかピンクリボンプロジェクト	500人
第18回きらら乳がんフォーラム	川淵義治	一般市民	2016年10月30日 廿日市市	NPO法人乳がん患者友の会きらら	250人

皮膚科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
市民公開講座 皮膚のできもの～あなたは大丈夫でしょうか？～	森川博文	住民	2017年1月29日 廿日市文化ホールさくらびあ	JA広島総合病院地域医療連携室	463人

歯科口腔外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
市民公開講座 その痛み、おくちが原因かも？！	原田 直 大井尚志	住民	2017年1月29日 廿日市文化ホールさくらびあ	広島総合病院地域医療連携室	463人

地域活動

健康管理センター

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
健康について	森川裕子	JA 組合員	2016 年 4 月 25 日 JA 広島市落合支店	JA 広島市経済事業部ふれあい課	30 人
脳みそ活性化認知症予防トレーニングについて	東 千穂	JA 組合員	2016 年 5 月 16 日 JA 広島市観音支店	JA 広島市経済事業部ふれあい課	16 人
認知症について	林 直子	広島県農林年金受給者連盟 会員	2016 年 5 月 17 日 西区民文化センター	JA 広島市総務課	24 人
適度に動いてイキイキ暮らす	長田恵美子	JA 組合員	2016 年 5 月 31 日 JA 佐伯中央地御前支店	JA 佐伯中央ふれあい課	35 人
脂質異常について	碓井裕史	廿日市市民	2016 年 9 月 4 日 あいプラザ	健康推進課健康づくりグループ	80 人
適度に動いてイキイキ暮らす	長田恵美子	廿日市市民	2016 年 12 月 11 日 佐方 4 丁目集会所	廿日市市佐方町内会	30 人
産業保健分野における保健師業務の実際	久保知子	看護学生	2017 年 1 月 13 日 日本赤十字広島看護大学	日本赤十字広島看護大学	40 人
身体よろこぶ 3 つのよいこと	東 千穂	JA 組合員	2017 年 3 月 7 日 JA 佐伯中央玖島支店	JA 佐伯中央ふれあい課	9 人
今日から始めるロコモ体操	林 直子	JA 組合員	2017 年 3 月 23 日 JA 広島市五日市中央支店	JA 広島市経済事業部ふれあい課	168 人

看護科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
災害支援ナースの基礎知識（インターネット配信研修）講師	寺田英子	看護職	2016 年 7 月 7 日 日本看護協会神戸研修センター	日本看護協会	約 3,000 人
災害時の危機管理研修 講師	寺田英子	JA 吉田総合病院職員	2016 年 9 月 23 日 JA 吉田総合病院	JA 吉田総合病院	68 人
廿日市社会福祉協議会「誰もが安心して暮らせる廿日市を考えるつどい」はいかい SOS ネットワーク講演会 講師	寺田英子	一般市民	2016 年 10 月 15 日 日本赤十字広島看護大学	廿日市市社会福祉協議会	64 人
安全管理研修（災害時の危機管理）講師	寺田英子	廿日市野村病院職員	2016 年 12 月 2 日 廿日市野村病院	廿日市野村病院	120 人
災害支援ナース育成研修 企画・指導者研修 講師	寺田英子	看護職	2016 年 12 月 15 ～ 16 日 日本看護協会神戸研修センター	日本看護協会	74 人
広島県看護協会災害支援ナース育成研修 講師	寺田英子	看護職	2017 年 2 月 22 ～ 23 日 広島県看護協会	広島県看護協会事業部	81 人
広島県看護協会災害支援ナースフォローアップ研修 講師	寺田英子	看護職	2017 年 2 月 24 日 広島県看護協会	広島県看護協会事業部	46 人

外来治療センター

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
膵がん教室ワークショップ	野村昌代 奥村麻美	全国膵臓癌教室実施施設および地域医療従事者	2016 年 12 月 3 日 広島県 JA ビル	JA 尾道総合病院・広島総合病院	
初めてのポート講演・演習	野村昌代	地域医療従事者	2016 年 12 月 15 日 3 階大会議室	地域医療連携	37 人
癌患者会の集い「免疫療法研究会」	野村昌代	免疫療法研究会会員	2016 年 12 月 27 日 廿日市総合福祉センター	免疫療法研究会	15 人
院内 おしゃべりサロン	野村昌代	がん患者と家族	2017 年 2 月 22 日 がん相談支援センター	地域がん相談支援	6 人

地域活動

訪問看護ステーション

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
広島西医療圏訪問看護推進協議会事務局 研修会の企画・開催・評価	奥元直美 古本直子	広島西医療圏 訪問看護ス テーションの 訪問看護師 ＋ケアマネ ジャー	2016年5月7日 2016年10月1日 2017年3月18日 JA 広島総合病院・3階 大会議室	広島西医療圏訪問看護推進 協議会	52人 41人 42人

薬剤部

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
ICLS コース インストラクション	吉廣尚大	メディカルス タッフ	2016年4月9日 JA 広島総合病院	ICLS	10人
救急認定薬剤師コース インストラクション	吉廣尚大	薬剤師	2016年5月14日 福島パレット	臨床救急医学会	50～60人
第13回市民公開講座	向井一樹	廿日市市民	2016年6月18日 廿日市文化ホール	JA 広島総合病院・廿日市 市	
心臓病教室	向井一樹	患者	2016年7月14日 広島総合病院	JA 広島総合病院	
FCCS 広島 インストラクション	吉廣尚大	メディカルス タッフ	2016年7月23～24日 広島大学病院	JSEPTIC	60人
FCCS 九州 インストラクション	吉廣尚大	メディカルス タッフ	2016年10月15～16 日 九州大学病院	JSEPTIC	60人
ICLS コース インストラクション	吉廣尚大	メディカルス タッフ	2016年11月6日 JA 広島総合病院	ICLS	10人
救急認定薬剤師コース インストラクション	吉廣尚大	薬剤師	2016年12月4日 横浜済生会東部病院	臨床救急医学会	50～60人
救急認定薬剤師コース インストラクション	吉廣尚大	薬剤師	2017年2月19日 大阪医療センター	臨床救急医学会	50～60人
Be an intensivist ハンズオンセミナー アシスタント	吉廣尚大	メディカルス タッフ	2017年3月8日 集中治療医学会併設 コース	集中治療医学会	30人

中央放射線科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
広島県診療放射線技師会市民公開講座	山口裕之	一般市民	2016年1月10日 エソール広島	(公社) 広島県診療放射線 技師会	150人
山陽女子短期大学臨床検査講義	高畑 明	学生	山陽女子短期大学	山陽女子短期大学	40人
広島国際大学臨床実習前講義	本山貴志	学生	2016年4月20日 広島国際大学	広島国際大学	81人
広島国際大学臨床実習前講義	高畑 明	学生	2016年4月27日 広島国際大学	広島国際大学	80人
レントゲン週間イベント	本山貴志	市民	2017年2月19日 シャレオ中央広場	広島県診療放射線技師会	500人
レントゲン週間イベント	中河聖司	市民	2017年2月19日 シャレオ中央広場	広島県診療放射線技師会	500人

臨床工学科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
広島国際大学 オープンキャンパス講演	田中智子	学生・婦警	2016年8月20日 黒瀬町	広島国際大学	300人

地域活動

リハビリテーション科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
市民公開講座	本間智明	一般市民	2016年6月18日 廿日市市	JA 広島総合病院	

栄養科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第13回広島総合病院市民公開講座	上村真由美	一般市民	2016年6月18日 はつかいち文化ホール	JA 広島総合病院・廿日市市	387人
地域医療従事者研修会『経管栄養の注意点とトラブルの対応』	八幡謙吾	地域医療従事者	2016年6月21日 大会議室	地域医療連携室	44人
がんサロン 講師「飲料水に関する豆知識…」	河本良美	がん患者・医療従事者	2016年7月25日 地域連携室	地域医療連携室・がん相談支援センター	12人
平成28年度生活習慣病予防教室	要田裕子	生活習慣予防教室～よくわかる脂質異常症～	2016年9月4日 あいプラザ	廿日市市	80人
ちょっと一息医療とふくしの相談室	上村真由美	廿日市市住民	2017年3月22日 串戸市民センター	廿日市市五師士会	20人
がんサロン 講師「免疫高める？試食会」	河本良美	がん患者・医療従事者	2017年3月27日 地域連携室	地域医療連携室・がん相談支援センター	13人
第4回心臓いきいきキャラバン研修会	上村真由美	地域医療従事者	2017年3月29日 大会議室	JA 広島総合病院	19人

感染防止対策室（ICT）

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
広島県西部呼吸器カンファレンス（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2016年4月27日 佐伯地区医師会館	アステラス製薬・アストラゼネカ	30人
ハクゾウ感染対策セミナー（講演）	今本紀生	社員	2016年7月2日 広島医師会	ハクゾウメディカル	100人
広島県内視鏡技師会 意見交換会（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2016年7月3日 2016年7月10日 広島 JR 病院・JA 尾道総合病院	広島県消化器内視鏡技師会	30人
テルモ株式会社 社内研修会（講演）	今本紀生	社員	2016年7月22日 広島アンデルセン	テルモ	15人
阿品土谷病院 施設内研修会（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2016年7月25日 阿品土谷病院	阿品土谷病院	60人
地域医療従事者研修会（講師）	今本紀生	メディカルスタッフ	2016年8月18日 JA 広島総合病院	JA 広島総合病院	30人
佐伯区医師会 MRM 講演会（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2016年9月15日 広島市佐伯区地域福祉センター	佐伯区医師会	60人
広島感染制御セミナー（講師）	今本紀生	メディカルスタッフ	2016年10月15日 TKP ガーデンシティ広島駅前	シスメックス	50人
阿品土谷病院 施設内研修会（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2016年10月17日 阿品土谷病院	阿品土谷病院	60人
広島県看護協会 感染管理研修（講演）	今本紀生	看護師	2016年10月26日 広島県看護協会	広島県看護協会	70人
高齢者福祉施設職員等結核予防講習会（講演）	今本紀生	高齢者福祉施設職員	2016年11月8日 広島県西部保健所	広島県西部保健所	25人
アマンリハビリテーション病院 施設内研修（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2016年11月10日 アマンリハビリテーション病院	アマンリハビリテーション病院	80人
特別養護老人ホーム清鈴園 施設内研修（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2016年11月21日 特別養護老人ホーム清鈴園	特別養護老人ホーム清鈴園	30人

地域活動

広島県社会福祉協議会 感染症予防研修会（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2016年12月6日 2016年12月22日 広島県健康福祉センター・福山市生涯学習プラザ	広島県社会福祉協議会	100人 80人
広島グリーンヒル病院 施設内研修（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2017年1月11日 広島グリーンヒル病院	広島グリーンヒル病院	60人
佐伯区医師会 MRM 講演会（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2017年1月19日 広島市佐伯区地域福祉センター	佐伯区医師会	60人
JA 佐伯中央訪問介護事業所 施設内研修（講演）	今本紀生	介護ヘルパー	2017年3月16日 JA 佐伯中央	JA 佐伯中央	15人

緩和ケアチーム

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
広島西医療圏訪問看護推進協議会研修会「緩和ケアで使用する薬剤について」「がんの療養におけるリハビリテーション」	磯貝明彦 小林恭子		2016年5月7日 広島総合病院大会議室		
利用者の立場につつま連携を図るための知識について	正嶋忠貴	ケアマネジャー	2016年11月28日		

雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
石田和史	地域特性に応じた糖尿病医療連携の ありかた	座談会（一新社、大阪 市）	ノバルティス ファーマ	2016年7月3日
石田和史	糖尿病の最新の治療について	FM はつかいち	佐伯地区医師会	2016年8月17～ 24日
石田和史	患者満足度の高いインスリン治療への 挑戦～多彩になったインスリン製 剤を実臨床に活かす工夫～	ヒューマログ NWeb ストリーミング講演会 （インターネット配信）	日本イーライリ リー	2016年12月20日

消化器内科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
徳毛宏則	JA 広島総合病院での IBD 治療	CCIAPAN	三雲社	2017年2月26日
藤本佳史	1. 膵がんについて2. 膵がん教室ワーク ショップ、パープルストライドの ご案内	RCC ラジオ「おひル ム」	RCC	2016年11月2日
藤本佳史	膵臓がん 早期発見 開業医も一役	中国新聞 朝刊	中国新聞	2016年11月30日
藤本佳史	1. パープルストライド 2. オープ ンホスピタルのご案内	「地元でがんばる jin」	FM はつかいち	2016年11月4日
藤本佳史	第6回膵がん教室ワークショップ、 ならびにパープルストライド 2016 in 広島を開催して	広島大学第一内科同門 会だより	第一内科同門会	2017年2月1日

健康管理センター

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
東 千穂	目覚めよ！！女性の底力～骨盤底筋 をきたよう～	こいぶみ	JA 広島市	2016年4月号
東 千穂	目覚めよ！！女性の底力～骨盤底筋 をきたえよう～	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2016年4月号
長田恵美子	心地よい眠りで、健康になろう	こいぶみ	JA 広島市	2016年5月号
長田恵美子	心地よい眠りで、健康になろう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2016年5月号
森川裕子	腰痛予防で快適生活	こいぶみ	JA 広島市	2016年6月号
森川裕子	腰痛予防で快適生活	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2016年6月号
尾茂田彩	あせもに気をつけよう	こいぶみ	JA 広島市	2016年7月号
尾茂田彩	あせもに気をつけよう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2016年7月号
林 直子	熱中症の予防・対処法をご紹介します	こいぶみ	JA 広島市	2016年8月号
林 直子	熱中症の予防・対処法をご紹介します	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2016年8月号
東 千穂	アレルギー性鼻炎について	こいぶみ	JA 広島市	2016年9月号
東 千穂	アレルギー性鼻炎について	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2016年9月号
長田恵美子	やってみよう、乳がんのセルフチェッ ク	こいぶみ	JA 広島市	2016年10月号
長田恵美子	やってみよう、乳がんのセルフチェッ ク	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2016年10月号
森川裕子	ノロウイルスによる胃腸炎を予防し ましょう	こいぶみ	JA 広島市	2016年11月号
森川裕子	ノロウイルスによる胃腸炎を予防し ましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2016年11月号
尾茂田彩	健康にお酒を飲みましょう	こいぶみ	JA 広島市	2016年12月号
尾茂田彩	健康にお酒を飲みましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2016年12月号
林 直子	インフルエンザを予防しよう	こいぶみ	JA 広島市	2017年1月号
林 直子	インフルエンザを予防しよう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2017年1月号
東 千穂	寒い冬！！ヒートショックにご用心	こいぶみ	JA 広島市	2017年2月号
東 千穂	寒い冬！！ヒートショックにご用心	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2017年2月号
長田恵美子	知っていますか？サルコペニア	こいぶみ	JA 広島市	2017年3月号
長田恵美子	知っていますか？サルコペニア	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2017年3月号

雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

形成外科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
長谷川美紗	ご存じですか？小児の「粘膜下口蓋裂」	Dr. ヨコバンの「ホンマでっか症例帳」	日経メディカル	2016年3月2日

西 5 階病棟

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
美濃智子	頸椎手術後の患者の看護		メディカ出版社	2016年7月号

薬剤部

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
吉廣尚大	不穏・疼痛・せん妄	月刊薬事 8月号	じほう	2016年8月1日
得能千晶	当院におけるCKD 教育入院パスの見直し後の取り組みと課題について	広島県病院薬剤師会誌	広島県病院薬剤師会	2017年2月27日

栄養科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
河本良美	患者さんの素朴なギモンにちゃーんと答える！糖尿病のなぜ？なに？ Q & A100	糖尿病ケア 2017年 春季増刊 P142-147	メディカ出版	2017年3月

実績

合同カンファレンス

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第 24 回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	2016 年 4 月 13 日 広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル（120 名）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・三和化学
第 25 回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	2016 年 8 月 10 日 広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル（119 名）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・協和発酵キリン
第 26 回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	2016 年 12 月 14 日 広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル（92 名）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・サノフィ
第 1 回糖尿病療養支援スキルアップセミナーチーム in Hiroshima	大久保雅通	広島市文化交流会館（広島市中区）	2017 年 2 月 25 日 広島県糖尿病診療に関わるコメディカル（58 名）	糖尿病療養支援スキルアップセミナーチーム in Hiroshima・日本イーライリリー・広島県医師会糖尿病対策推進会議

耳鼻咽喉科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
大野浦病院 ST との合同カンファレンス	上田雅美	大野浦病院 ST 当院 ST	2016 年 4 月 22 日 広島総合病院リハビリ室	
広島西地区 ST 勉強会	上田雅美	広島西地区 ST	2016 年 9 月 16 日 広島総合病院リハビリ室	

放射線治療科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
（医師を対象にした）緩和ケア講習会	伊東 淳 小松弘尚	医師	2016 年 5 月 29・6 月 5 日 広島総合病院	広島総合病院

健康管理センター

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
廿日市市健診判定委員会	碓井裕史	佐伯地区医師会医師 当院健康管理課	2016 年 8 月 1 日・10 月 3 日・10 月 24 日・12 月 19 日 JA 広島総合病院	

感染防止対策室（ICT）

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡正 伸	連携施設 ICT（7 施設）	2016 年 6 月 16 日 2016 年 8 月 3 日 2016 年 10 月 7 日 2016 年 12 月 7 日 広島総合病院	

華道部

■ クラブ概要

- ・ 部員数：24 名
- ・ 職種：医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、事務、MS

■ 活動内容

- ・ 生花（池坊）
活動日：毎月第3月曜日（1月、8月休み）
場所：中棟3階従業員休憩室
時間：17：30～
- ・ プリザーブドフラワー
活動日：月2回
場所：中棟3階従業員休憩室・薬局
時間：17：30～



華道部は、生花とプリザーブドフラワーの二つに分かれて活動しています。プリザーブドフラワーは薬局と中棟3階従業員休憩室で月1回ずつ行っています。

毎月のアレンジメントは、お正月や母の日、ハロウィン、クリスマスなど季節の行事に合わせたものや、行事以外でも季節に合った色合いの作品を作ります。



いつも先生が分かりやすく丁寧に教えて下さるので、初心者の方でも楽しく活動することが出来ます。

活動の魅力は、お花の色合いや位置、バランスなどを自分で考えて一つの作品を作り上げることです。そうすることで、普段の生活ではなかなか使わない思考を使うため、良い気分転換になります。

材料は同じですが出来上がった作品は様々で、最後に皆で見せ合うことも楽しみの一つです。

プリザーブドフラワーは、贈り物としても大変喜ばれるため、母の日など季節の行事の際は自分で作った作品をプレゼントとして贈る部員もいます。もちろん、自宅に持ち帰り、玄関などに飾り毎月違った雰囲気を楽しむ方もあります。お花を見ると、それだけで癒やされますが、自分で作ったということで更に愛着が湧いてくるので作り甲斐があります。



部員は随時募集中です。一回のみの参加も可能ですので、興味のある方は近くの華道部部員までお気軽にお声かけ下さい。

野球部

■クラブ概要

- ・部員数：30名（男性24名 女性6名）
- ・メンバー（職種）：
医師2名、看護師6名、薬剤師3名、管理栄養士1名、臨床検査技師7名、臨床工学技士1名、社会福祉士1名、事務7名、研修医1名

■活動内容

- ・練習場所：阿品台球場、宮園球場、昭北グラウンド等
- ・日時：不定期（月2回程度）



■2016年度実施行事等

- 5月：新入部員歓迎会
- 11月：近隣病院とのソフトボール交流戦
（大野浦病院、広島西医療センター）
- 2月：新年会



※他に不定期で練習や対外試合あり

（2016年11月 大野浦晴海臨海公園にて）

■クラブアピール

野球やソフトボール、懇親会を通じて、部員同士、近隣病院と交流を深めています。2014年にユニフォームを新調し、新メンバーも増加傾向で、定期練習や練習試合の充実を検討中です。もちろん打ち上げは盛大にやります。

未経験者も大歓迎で応援だけでもかまいません。是非のぞきにきて、そして参加してみてください。同時に練習試合の相手も募集中ですので、試合してみたい方もぜひ声をおかけください！



興味をもたれた方は、
お近くの野球部員もしくは
栄養科 八幡（PHS：5521）
薬剤部 埋橋（PHS：3064）
人事課 乃美（PHS：3814）
までご連絡ください！！



テニス部

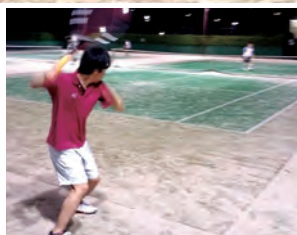
■クラブ概要

- 部員数：32名
- メンバー（職種）：医師・薬剤師・看護師・社会福祉士・事務職など

■活動内容

- 練習場所：佐伯運動公園（佐伯区五日市町）
- 日時：隔週水曜日 or 木曜日 19:00～21:00
- 時期：3月～11月 冬は休部

やりたいという人が揃った時に不定期で活動します。



（練習風景）

○試合

第32回広島県医療メイト杯

広島県全土より、医療従事者、家族が参加し試合を行います。今年も2チームエントリーしました。

2016年8月27日（日）

ブロック	県医療	JRI広島	尾道総合	広島総合	健康センター	勝敗	順位
① 県医療	★	4-6 1-6 6-0	6-2 3-6 4-6	1-6 5-6 2-6	6-3 3-6 2-6	0-4	5
② JRI広島	6-4 6-1 0-6	★	1-6 0-6 1-6	1-6 6-1 6-2	4-6 6-0 3-6	2-2	3
③ 尾道総合	2-6 6-3 6-4	6-1 6-0 6-1	★	5-6 6-3 6-1	6-5 6-0 4-6	4-0	1
④ 広島総合	6-1 6-5 6-2	6-1 1-6 2-6	6-5 3-6 1-6	★	1-6 4-6 6-5	1-3	4
⑤ 健康センター	3-6 6-3 6-2	6-4 0-6 6-2	5-6 0-6 6-4	6-1 6-4 5-6	★	3-1	2

ブロック	県病院	広島総合B	広島放科	尾道市民	吉田総合	勝敗	順位
① 県病院	★	6-0 3-6 6-1	6-5 3-6 5-6	6-4 6-1 3-6	6-3 6-0 6-4	3-1	2
② 広島総合B	0-6 1-6 1-6	★	6-3 2-6 3-6	0-6 2-6 2-6	6-3 0-6 3-6	0-4	5
③ 広島放科	5-6 6-3 6-5	3-6 6-2 6-3	★	0-6 6-2 6-3	4-6 5-2 6-0	4-0	1
④ 尾道市民	4-6 1-6 6-3	6-0 6-2 3-6	6-0 2-6 3-6	★	6-2 6-1 6-4	2-2	3
⑤ 吉田総合	3-6 0-6 4-6	6-5 6-0 6-3	6-4 2-6 0-6	2-6 1-6 4-6	★	1-3	4

【結果】

広島総合病院 A チーム 4 位

広島総合病院 B チーム 5 位

厚生連親睦球技大会がなくなってしまい、公式試合は医療メイトのみになってしまいました。

しかし暑さに負けず、怪我をしないように日頃から練習をしないといけないと、毎年試合が終わるたびにみんなで思っています。



（医療メイト終了後）

今年もみんな怪我をせず、無事終了しました。

■交流会

医療メイト杯の打ち上げと歓送迎会、忘年会を行っています。

■クラブアピール

テニスをやっていた人、やってみたい人、テニスが好きなお人、どんな方でも大歓迎です。男女問わずいつでも部員募集中です。気軽に遊びにきてもらってもいいですよ。楽しく練習、試合をしましょう！

ゴルフ部（伯友会）

■活動報告

伯友会は1970年に活動を開始しています。大変歴史の長いゴルフ同好会です。年に3回の定期コンペと前夜の親睦会と翌日のコンペを行う1泊2日の地御前オープンが年間定例活動です。他には地域の医師会、歯科医師や薬剤師ともゴルフコンペを通じて交流を図っています。

■2016年度の活動

第169回伯友会コンペ

2016年6月12日

広島西カントリークラブ 26名参加

優勝 村上啓一郎（事務）

準優勝 中光 篤志（外科）

3位 渡 正伸（呼吸器外科）

4位 奥田 晃章（OB、奥田整形外科）

5位 熊田 高志（呼吸器外科）

第170回伯友会コンペ

2016年9月25日

広島西カントリークラブ 21名参加

優勝 川上 恭司（OB、アマノ病院）

準優勝 中光 篤志（外科）

3位 村上啓一郎（事務）

4位 福田 康彦（OB、尾鍋外科）

5位 小深田義勝（泌尿器科）

第41回地御前オープン

2016年11月13日

リージャスクレスト G 18名参加

優勝 川上 恭司（OB、アマノ病院）

準優勝 片山 浩一（中外製薬）

3位 宮本 俊輔（泌尿器科）

4位 碓井 裕史（健康管理課）

5位 丸山 聡（泌尿器科）

第171回伯友会コンペ

2017年3月26日

広島西カントリークラブ 20名参加

優勝 村上啓一郎（事務）

準優勝 正畠 忠貴（地域連携室）

3位 藤本 英夫（OB、JR病院）

4位 栗岡 允（事務）

5位 金本 英己（事務）

地域医師会行事参加（ゴルフ部門）

グリーン会コンペ（医師）

2016年5月22日 鷹の巣カントリー

小深田義勝（泌尿器科）

中光 篤志（外科）

渡 正伸（呼吸器外科）

丸山 聡（泌尿器科）

三師会コンペ（医師、歯科医師、薬剤師）

2016年11月23日 芸南カントリー

碓井 裕史（健康管理課）

小深田義勝（泌尿器科）

中光 篤志（外科）

渡 正伸（呼吸器外科）

丸山 聡（泌尿器科）

熊田 高志（呼吸器外科）

宮本 俊輔（泌尿器科）

院内のゴルフコンペに留まらず、地域の医師会関連のゴルフコンペにもゴルフの腕前など気にせず、積極的に参加して地域の医療関係者と交流しています。

うまくいかないけどゴルフにはまっている人、一緒に楽しみましょう。大歓迎です。

また2016年度で幹事を卒業された小深田義勝先生、大変ご苦労様でした。今後は競技に専念してスコアアップを目指してください。

文責 渡 正伸

サッカー部



(試合後のさわやかな風景)

■クラブ概要

通称：広総ラツィオ

創設：19〇〇年

部員数：約 15 名

メンバー（職種）：

医師、研修医、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、臨床工学技士、理学療法士、事務など

■活動内容・報告

練習

毎月第 2、第 4 木曜日 20：00 ～ 21：30

場所：廿日市グリーンフィールド



(練習風景)

練習は職員だけでは人数が足りないことがあるので廿日市 F.C さん主催の練習に参加させていただく形で行っていますので、地域の方々と一緒に楽しんでいます。

■エンジョイエイトリーグ

廿日市サッカー協会が主体となっていて行われている社会人リーグに年間を通して参加しています。

だんだん年齢が上がってきて体力的に厳しくなっていますが、一戦一戦楽しくやっています。

■クラブアピール

サッカーがやりたい方、運動がしたい方いつでも大歓迎ですので一緒に楽しみましょう。



フットサル部

■クラブ概要

- ・創 立：2014 年 8 月
- 代 表：栄養科 八幡 謙吾
- 副代表：臨床工学科 藤田 雄樹
- 会 計：臨床研究検査科 丸山 恭平
- ・部員数：約 60 名
- ※参加したことある方全てが部員です。
- ※部費は徴収していません。
- ・メンバー：
- 医師、研修医、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士、放射線技師、事務など当院職員、委託職員、元職員、元委託職員、又はその家族



(2016.04.17 撮影)

■活動内容

- ・定期練習：毎月 2 回 19：30 ～ 21：30
- 活動場所：ミズノフットサルプラザ広島（観音）
- 参加費：1,000 ～ 2,000 円
- （参加人数次第。女子は絶対 1000 円！）
- ・その他、不定期で近隣病院や医療機器メーカーのチームと交流戦も行っています。



■クラブアピール

当院フットサル部は、職員の心身における健康増進、多職種間交流を目的とし、2014 年 8 月より活動を開始しました。

フットサルはサッカーと違って接触プレーが少ないため、女性も一緒にプレーしやすいのが特徴です。男女混合で楽しく行っています。

その他にも、新年会や忘年会、夏には毎年 BBQ も開催し、日頃の業務から離れたところで、フットサル以外での交流も大切にしています。



(2016.08.31 撮影)



(2016.10.17 撮影)

★フットサル部に惹かれた方は、藤田、丸山、八幡など写真に写っている人まで気軽にどうぞ！



バスケットボール部

■クラブ概要

- ・部員（職種）
医師、臨床研修医、看護師、放射線技師、社会福祉士、事務
- ・部員数：15 名程度

■活動内容

- ・練習場所：阿品台中学校 体育館
- ・日時：毎週木曜日
- ・時間：19 時 30 分～ 21 時 30 分

■年間行事

- 4 月：歓迎会
- 8 月：レクリエーション
(2015 年は宮島で BBQ)
- 12 月：忘年会
- 3 月：送別会

■クラブアピール

当初、「バスケットがやりたい!」という経験者や「体を動かしたい!」、「何か運動がしたい!」という職員が集まり、同好会というような形で始め、徐々に部員が増えていきました。5 年前に部として発足し、最初はシュート練習を主に、経験者と未経験者も一緒になって練習をし、ときには真剣に、ときには笑いを交えながら活動をしてきました。

毎年、部員の顔ぶれは変わりますが、バスケットを通じてみんな仲良く、楽しい雰囲気の中で活動しています。現在は、試合形式でのミニゲームなどはもちろん、ちょっとした罰ゲーム付きのシュート練習など、初心者の部員も一緒に楽しみながら和気あいあいとした中でバスケットをしています。2016 年度は、活動場所の体育館工事などもあり、活動ができた回数は少なくなりましたが、バスケットの練習のあとにみんなで食事をしたり、年に数回飲み会を開催して、交流を深めることは怠りません!

野球などに比べて、バスケットボールはなじみが

ない方が多いと思います。昨年、カープはリーグ優勝しました。近年話題になっているバスケットのプロリーグ「B. LEAGUE」では、広島ドラゴンフライズが、B1 昇格にかけて戦うファイナルまで進みました。バスケットは主に冬がシーズンになるので、野球のシーズンオフには B リーグに注目してみてもいいかがですか? バスケ部の練習に来ていただければ、広島ドラゴンフライズの最新情報も仕入れることができるかもしれません。まずは見学からでも大歓迎なので、足を運んでみてください。

また、男子は職員家族のバスケット経験者や、これまで在籍していた元部員と一緒にチームをつくっており、広島市内の試合に出場することもあります。

現在も経験・未経験、男女問わず部員を募集しています。最近運動不足だからちょっと運動してみよう、体を動かしてストレスを発散しよう、ダイエットをしたい、なんていうきっかけからの参加・入部も大歓迎です。一緒にバスケットをしているうちに、きっとバスケットが好きになることは間違いありません。

また、女子は部員数が少ないので、特に募集中です! 興味のある方はぜひ、遊びに来てみてください。バスケット以外の「交流会」という名の飲み会も年に数回ありますので、ぜひ一緒に楽しみましょう!



■ Annual Report 2016 2016年(平成28年)度 年 報 ■

資 料

診療科別外来患者数

平成 28 年度 月別外来患者数 (4～7 月)

科 別	4 月 (診療日数 21 日)				5 月 (診療日数 18 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	4,984	674	5,658	282.9	4,676	722	5,398	284.1
（呼 吸 器 内 科）	606	97	703	35.2	631	118	749	39.4
（循 環 器 内 科）	997	169	1,166	58.3	941	182	1,123	59.1
（腎 臓 内 科）	725	43	768	38.4	669	44	713	37.5
（糖 尿 病 内 科）	1,173	110	1,283	64.2	1,017	78	1,095	57.6
（消 化 器 内 科）	1,407	226	1,633	81.7	1,350	265	1,615	85.0
（神 経 内 科）	48	11	59	3.0	48	13	61	3.2
（緩 和 ケ ア 科）	18	0	18	0.9	13	0	13	0.7
（総 合 診 療 科）	10	18	28	1.4	7	22	29	1.5
精 神 科 ・ 心 療 内 科	41	12	53	2.7	22	11	33	1.7
小 児 科	890	125	1,015	50.8	800	104	904	47.6
外 科	1,257	72	1,329	66.5	1,156	72	1,228	64.6
乳 腺 外 科	532	45	577	28.9	514	41	555	29.2
整 形 外 科	1,509	230	1,739	87.0	1,430	225	1,655	87.1
形 成 外 科	134	30	164	8.2	160	23	183	9.6
脳 神 経 外 科	1,023	146	1,169	58.5	1,083	168	1,251	65.8
呼 吸 器 外 科	209	29	238	11.9	207	31	238	12.5
心 臓 ・ 血 管 外 科	426	47	473	23.7	472	42	514	27.1
皮 膚 科	1,541	222	1,763	88.2	1,486	234	1,720	90.5
泌 尿 器 科	1,793	85	1,878	93.9	1,710	98	1,808	95.2
産 婦 人 科	975	126	1,101	55.1	1,033	123	1,156	60.8
眼 科	904	76	980	49.0	863	46	909	47.8
耳 鼻 咽 喉 科	629	202	831	41.6	567	192	759	39.9
放 射 線 治 療 科	741	23	764	38.2	706	24	730	38.4
麻 酔 科	50	320	370	18.5	41	276	317	16.7
救 急 科	52	196	248	12.4	64	217	281	14.8
画 像 診 断 部	32	73	105	5.3	25	73	98	5.2
歯 科 口 腔 外 科	712	155	867	43.4	707	139	846	44.5
計	18,434	2,888	21,322	1,066.1	17,722	2,861	20,583	1,083.3
栗 谷 診 療 所	57	2	59	3.0	66	1	67	3.5
合 計	18,491	2,890	21,381	1,069.1	17,788	2,862	20,650	1,086.8

科 別	6 月 (診療日数 22 日)				7 月 (診療日数 22 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	5,453	750	6,203	282.0	4,843	702	5,545	277.3
（呼 吸 器 内 科）	715	105	820	37.3	617	89	706	35.3
（循 環 器 内 科）	1,139	174	1,313	59.7	928	162	1,090	54.5
（腎 臓 内 科）	687	57	744	33.8	651	48	699	35.0
（糖 尿 病 内 科）	1,300	96	1,396	63.5	1,130	86	1,216	60.8
（消 化 器 内 科）	1,524	276	1,800	81.8	1,455	292	1,747	87.4
（神 経 内 科）	47	15	62	2.8	47	9	56	2.8
（緩 和 ケ ア 科）	23	0	23	1.0	7	0	7	0.4
（総 合 診 療 科）	18	27	45	2.0	8	16	24	1.2
精 神 科 ・ 心 療 内 科	23	20	43	2.0	22	15	37	1.9
小 児 科	899	121	1,020	46.4	930	129	1,059	53.0
外 科	1,457	97	1,554	70.6	1,262	76	1,338	66.9
乳 腺 外 科	559	54	613	27.9	569	58	627	31.4
整 形 外 科	1,696	295	1,991	90.5	1,514	228	1,742	87.1
形 成 外 科	160	18	178	8.1	167	34	201	10.1
脳 神 経 外 科	1,173	161	1,334	60.6	1,103	171	1,274	63.7
呼 吸 器 外 科	210	35	245	11.1	262	36	298	14.9
心 臓 ・ 血 管 外 科	429	46	475	21.6	434	49	483	24.2
皮 膚 科	1,543	299	1,842	83.7	1,542	270	1,812	90.6
泌 尿 器 科	1,964	108	2,072	94.2	1,795	103	1,898	94.9
産 婦 人 科	1,144	134	1,278	58.1	1,120	124	1,244	62.2
眼 科	934	67	1,001	45.5	852	57	909	45.5
耳 鼻 咽 喉 科	559	216	775	35.2	525	206	731	36.6
放 射 線 治 療 科	832	25	857	39.0	777	17	794	39.7
麻 酔 科	58	366	424	19.3	48	340	388	19.4
救 急 科	41	140	181	8.2	56	231	287	14.4
画 像 診 断 部	31	87	118	5.4	31	84	115	5.8
歯 科 口 腔 外 科	664	204	868	39.5	688	148	836	41.8
計	19,829	3,243	23,072	1,048.7	18,540	3,078	21,618	1,080.9
栗 谷 診 療 所	49	1	50	2.3	59	2	61	3.1
合 計	19,878	3,244	23,122	1,051.0	18,599	3,080	21,679	1,084.0

平成 28 年度 月別外来患者数 (8～11月)

科 別	8月(診療日数 21日)				9月(診療日数 19日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,316	734	6,050	275.0	5,052	722	5,774	288.7
（呼吸器内科）	710	106	816	37.1	611	101	712	35.6
（循環器内科）	1,042	139	1,181	53.7	1,029	148	1,177	58.9
（腎臓内科）	662	57	719	32.7	652	67	719	36.0
（糖尿病内科）	1,290	87	1,377	62.6	1,207	81	1,288	64.4
（消化器内科）	1,532	306	1,838	83.5	1,466	291	1,757	87.9
（神経内科）	59	13	72	3.3	49	9	58	2.9
（緩和ケア科）	11	0	11	0.5	19	0	19	1.0
（総合診療科）	10	26	36	1.6	19	25	44	2.2
精神科・心療内科	11	7	18	0.8	17	11	28	1.4
小児科	1,041	163	1,204	54.7	904	102	1,006	50.3
外科	1,258	107	1,365	62.0	1,286	96	1,382	69.1
乳腺外科	498	74	572	26.0	625	64	689	34.5
整形外科	1,438	226	1,664	75.6	1,388	215	1,603	80.2
形成外科	146	33	179	8.1	181	31	212	10.6
脳神経外科	1,115	167	1,282	58.3	1,038	167	1,205	60.3
呼吸器外科	241	39	280	12.7	225	27	252	12.6
心臓・血管外科	415	56	471	21.4	434	42	476	23.8
皮膚科	1,751	277	2,028	92.2	1,602	234	1,836	91.8
泌尿器科	1,828	119	1,947	88.5	1,892	120	2,012	100.6
産婦人科	1,168	155	1,323	60.1	1,243	125	1,368	68.4
眼科	959	57	1,016	46.2	903	57	960	48.0
耳鼻咽喉科	536	237	773	35.1	535	216	751	37.6
放射線治療科	736	13	749	34.0	577	18	595	29.8
麻酔科	53	289	342	15.5	45	303	348	17.4
救急科	81	207	288	13.1	45	210	255	12.8
画像診断部	28	84	112	5.1	25	69	94	4.7
歯科口腔外科	672	168	840	38.2	575	135	710	35.5
計	19,291	3,212	22,503	1,022.9	18,592	2,964	21,556	1,077.8
栗谷診療所	56	1	57	2.6	66	2	68	3.4
合計	19,347	3,213	22,560	1,025.5	18,658	2,966	21,624	1,081.2

科 別	10月(診療日数 21日)				11月(診療日数 19日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,092	695	5,787	289.4	5,041	699	5,740	287.0
（呼吸器内科）	622	95	717	35.9	666	95	761	38.1
（循環器内科）	1,038	136	1,174	58.7	957	160	1,117	55.9
（腎臓内科）	678	57	735	36.8	689	52	741	37.1
（糖尿病内科）	1,237	86	1,323	66.2	1,095	69	1,164	58.2
（消化器内科）	1,432	294	1,726	86.3	1,554	292	1,846	92.3
（神経内科）	41	9	50	2.5	39	13	52	2.6
（緩和ケア科）	16	0	16	0.8	22	0	22	1.1
（総合診療科）	28	18	46	2.3	19	18	37	1.9
精神科・心療内科	27	12	39	2.0	33	15	48	2.4
小児科	926	101	1,027	51.4	946	103	1,049	52.5
外科	1,308	84	1,392	69.6	1,250	74	1,324	66.2
乳腺外科	679	61	740	37.0	583	56	639	32.0
整形外科	1,524	274	1,798	89.9	1,365	200	1,565	78.3
形成外科	156	25	181	9.1	167	24	191	9.6
脳神経外科	904	154	1,058	52.9	960	184	1,144	57.2
呼吸器外科	260	39	299	15.0	245	45	290	14.5
心臓・血管外科	389	34	423	21.2	462	40	502	25.1
皮膚科	1,552	250	1,802	90.1	1,674	226	1,900	95.0
泌尿器科	1,779	126	1,905	95.3	1,790	115	1,905	95.3
産婦人科	1,014	120	1,134	56.7	1,136	134	1,270	63.5
眼科	868	49	917	45.9	866	65	931	46.6
耳鼻咽喉科	518	211	729	36.5	522	302	824	41.2
放射線治療科	650	20	670	33.5	757	33	790	39.5
麻酔科	44	302	346	17.3	51	295	346	17.3
救急科	62	238	300	15.0	50	191	241	12.1
画像診断部	32	78	110	5.5	28	83	111	5.6
歯科口腔外科	574	135	709	35.5	572	176	748	37.4
計	18,358	3,008	21,366	1,068.3	18,498	3,060	21,558	1,077.9
栗谷診療所	57	2	59	3.0	58	5	63	3.2
合計	18,415	3,010	21,425	1,071.3	18,556	3,065	21,621	1,081.1

平成 28 年度 月別外来患者数 (12～3月)

科 別	12 月 (診療日数 20 日)				1 月 (診療日数 19 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	5,170	702	5,872	293.6	4,888	715	5,603	294.9
（呼 吸 器 内 科）	693	108	801	40.1	632	133	765	40.3
（循 環 器 内 科）	1,022	148	1,170	58.5	954	174	1,128	59.4
（腎 臓 内 科）	677	38	715	35.8	657	43	700	36.8
（糖 尿 病 内 科）	1,240	89	1,329	66.5	1,172	79	1,251	65.8
（消 化 器 内 科）	1,447	274	1,721	86.1	1,398	257	1,655	87.1
（神 経 内 科）	64	14	78	3.9	51	8	59	3.1
（緩 和 ケ ア 科）	10	0	10	0.5	10	0	10	0.5
（総 合 診 療 科）	17	31	48	2.4	14	21	35	1.8
精 神 科 ・ 心 療 内 科	33	10	43	2.2	26	5	31	1.6
小 児 科	1,031	87	1,118	55.9	903	120	1,023	53.8
外 科	1,292	84	1,376	68.8	1,139	92	1,231	64.8
乳 腺 外 科	620	76	696	34.8	535	42	577	30.4
整 形 外 科	1,491	235	1,726	86.3	1,321	214	1,535	80.8
形 成 外 科	188	28	216	10.8	171	27	198	10.4
脳 神 経 外 科	1,060	161	1,221	61.1	994	184	1,178	62.0
呼 吸 器 外 科	271	30	301	15.1	217	35	252	13.3
心 臓 ・ 血 管 外 科	435	40	475	23.8	402	44	446	23.5
皮 膚 科	1,611	228	1,839	92.0	1,538	225	1,763	92.8
泌 尿 器 科	2,033	118	2,151	107.6	1,752	94	1,846	97.2
産 婦 人 科	1,111	102	1,213	60.7	961	99	1,060	55.8
眼 科	896	47	943	47.2	895	50	945	49.7
耳 鼻 咽 喉 科	584	217	801	40.1	547	169	716	37.7
放 射 線 治 療 科	773	20	793	39.7	646	34	680	35.8
麻 酔 科	41	301	342	17.1	33	322	355	18.7
救 急 科	68	248	316	15.8	85	272	357	18.8
画 像 診 断 部	33	61	94	4.7	31	68	99	5.2
歯 科 口 腔 外 科	595	123	718	35.9	581	157	738	38.8
計	19,336	2,918	22,254	1,112.7	17,665	2,968	20,633	1,085.9
栗 谷 診 療 所	60	0	60	3.0	51	2	53	2.8
合 計	19,396	2,918	22,314	1,115.7	17,716	2,970	20,686	1,088.7

科 別	2 月 (診療日数 20 日)				3 月 (診療日数 22 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	4,917	693	5,610	280.5	5,441	776	6,217	282.6
（呼 吸 器 内 科）	661	96	757	37.9	726	109	835	38.0
（循 環 器 内 科）	1,006	167	1,173	58.7	1,068	195	1,263	57.4
（腎 臓 内 科）	594	52	646	32.3	718	52	770	35.0
（糖 尿 病 内 科）	1,115	95	1,210	60.5	1,333	121	1,454	66.1
（消 化 器 内 科）	1,457	255	1,712	85.6	1,514	269	1,783	81.0
（神 経 内 科）	50	12	62	3.1	45	8	53	2.4
（緩 和 ケ ア 科）	14	0	14	0.7	14	0	14	0.6
（総 合 診 療 科）	20	16	36	1.8	23	22	45	2.0
精 神 科 ・ 心 療 内 科	36	15	51	2.6	32	11	43	2.0
小 児 科	868	107	975	48.8	1,107	115	1,222	55.5
外 科	1,186	74	1,260	63.0	1,335	100	1,435	65.2
乳 腺 外 科	525	49	574	28.7	614	58	672	30.5
整 形 外 科	1,440	247	1,687	84.4	1,685	228	1,913	87.0
形 成 外 科	213	38	251	12.6	283	35	318	14.5
脳 神 経 外 科	1,082	184	1,266	63.3	1,002	185	1,187	54.0
呼 吸 器 外 科	237	26	263	13.2	297	36	333	15.1
心 臓 ・ 血 管 外 科	399	32	431	21.6	525	32	557	25.3
皮 膚 科	1,551	210	1,761	88.1	1,724	211	1,935	88.0
泌 尿 器 科	1,721	110	1,831	91.6	2,152	112	2,264	102.9
産 婦 人 科	948	97	1,045	52.3	1,087	126	1,213	55.1
眼 科	840	44	884	44.2	955	71	1,026	46.6
耳 鼻 咽 喉 科	502	212	714	35.7	626	213	839	38.1
放 射 線 治 療 科	889	59	948	47.4	915	18	933	42.4
麻 酔 科	56	331	387	19.4	49	328	377	17.1
救 急 科	79	165	244	12.2	75	198	273	12.4
画 像 診 断 部	29	82	111	5.6	42	82	124	5.6
歯 科 口 腔 外 科	676	146	822	41.1	753	173	926	42.1
計	18,194	2,921	21,115	1,055.8	20,699	3,108	23,807	1,082.1
栗 谷 診 療 所	54	1	55	2.8	52	2	54	2.5
合 計	18,248	2,922	21,170	1,058.5	20,751	3,110	23,861	1,084.6

診療科別入院患者数

平成 28 年度 月別入院患者数 (4～7 月)

科 別	4 月 (診療日数 30 日)				5 月 (診療日数 31 日)			
	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	296	331	4,587	152.9	269	310	4,655	150.2
（呼吸器内科）	49	57	847	28.2	50	59	955	30.8
（循環器内科）	59	71	1,158	38.6	56	71	1,057	34.1
（腎臓内科）	19	25	510	17.0	21	28	483	15.6
（糖尿病内科）	16	19	280	9.3	18	16	283	9.1
（消化器内科）	151	152	1,709	57.0	123	132	1,815	58.5
（神経内科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（緩和ケア科）	2	7	83	2.8	1	4	62	2.0
（総合診療科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	59	58	335	11.2	78	80	440	14.2
外 科	96	99	1,500	50.0	97	109	1,509	48.7
乳 腺 外 科	13	14	94	3.1	14	14	93	3.0
整 形 外 科	119	131	1,417	47.2	112	124	1,424	45.9
形 成 外 科	2	4	86	2.9	2	3	77	2.5
脳 神 経 外 科	52	66	1,245	41.5	66	86	1,340	43.2
呼 吸 器 外 科	21	24	459	15.3	22	23	442	14.3
心 臓 ・ 血 管 外 科	31	28	926	30.9	31	35	934	30.1
皮 膚 外 科	12	10	294	9.8	18	15	370	11.9
泌 尿 器 科	64	75	624	20.8	78	71	644	20.8
産 婦 人 科	76	87	735	24.5	90	91	699	22.5
眼 科	37	46	98	3.3	33	29	86	2.8
耳 鼻 咽 喉 科	40	53	417	13.9	38	36	315	10.2
放 射 線 治 療 科	7	5	237	7.9	4	8	164	5.3
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 断 科	121	40	300	10.0	136	35	279	9.0
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	11	13	136	4.5	12	11	126	4.1
合 計	1,057	1,084	13,490	449.7	1,100	1,080	13,597	438.6

科 別	6 月 (診療日数 30 日)				7 月 (診療日数 31 日)			
	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	281	335	4,249	141.6	260	333	4,203	135.6
（呼吸器内科）	48	59	777	25.9	49	64	768	24.8
（循環器内科）	67	72	946	31.5	55	65	868	28.0
（腎臓内科）	19	21	341	11.4	19	22	439	14.2
（糖尿病内科）	11	17	232	7.7	11	15	223	7.2
（消化器内科）	134	164	1,872	62.4	125	160	1,870	60.3
（神経内科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（緩和ケア科）	2	2	81	2.7	1	7	35	1.1
（総合診療科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	63	61	306	10.2	87	85	431	13.9
外 科	112	116	1,554	51.8	92	100	1,465	47.3
乳 腺 外 科	15	13	119	4.0	15	19	130	4.2
整 形 外 科	147	144	1,478	49.3	119	149	1,740	56.1
形 成 外 科	9	9	48	1.6	9	8	51	1.6
脳 神 経 外 科	56	60	989	33.0	51	65	1,253	40.4
呼 吸 器 外 科	27	28	425	14.2	27	26	529	17.1
心 臓 ・ 血 管 外 科	26	34	955	31.8	20	27	860	27.7
皮 膚 外 科	22	22	502	16.7	16	31	384	12.4
泌 尿 器 科	81	77	758	25.3	77	87	781	25.2
産 婦 人 科	91	80	825	27.5	113	119	947	30.5
眼 科	49	49	148	4.9	41	44	95	3.1
耳 鼻 咽 喉 科	39	42	351	11.7	35	35	326	10.5
放 射 線 治 療 科	5	5	94	3.1	9	2	317	10.2
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 断 科	108	40	216	7.2	165	46	358	11.5
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	12	12	75	2.5	12	11	149	4.8
合 計	1,143	1,127	13,092	436.4	1,148	1,187	14,019	452.2

資料

平成 28 年度 月別入院患者数 (8～11月)

科 別	8月(診療日数 31日)				9月(診療日数 30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	309	332	4,545	146.6	283	369	4,414	147.1
(呼吸器内科)	49	60	788	25.4	50	56	885	29.5
(循環器内科)	64	70	1,046	33.7	67	76	1,075	35.8
(腎臓内科)	26	16	500	16.1	25	37	438	14.6
(糖尿病内科)	24	24	235	7.6	17	25	250	8.3
(消化器内科)	146	159	1,945	62.7	123	170	1,721	57.4
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	3	31	1.0	1	5	45	1.5
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	67	71	370	11.9	66	63	357	11.9
外 科	108	117	1,560	50.3	104	111	1,486	49.5
乳 腺 外 科	17	14	131	4.2	17	19	119	4.0
整 形 外 科	117	123	1,372	44.3	104	127	1,307	43.6
形 成 外 科	4	5	31	1.0	9	9	37	1.2
脳 神 経 外 科	57	71	1,195	38.5	47	63	972	32.4
呼 吸 器 外 科	28	34	503	16.2	15	24	347	11.6
心 臓・血 管 外 科	27	29	693	22.4	28	26	762	25.4
皮 膚 科	11	14	157	5.1	16	14	273	9.1
泌 尿 器 科	60	76	698	22.5	73	76	574	19.1
産 婦 人 科	93	98	701	22.6	89	85	728	24.3
眼 科	46	40	100	3.2	37	38	96	3.2
耳 鼻 咽 喉 科	37	45	320	10.3	40	40	294	9.8
放 射 線 治 療 科	2	8	240	7.7	1	2	142	4.7
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	162	64	368	11.9	176	62	400	13.3
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	7	7	80	2.6	9	8	105	3.5
合 計	1,152	1,148	13,064	421.4	1,114	1,136	12,413	413.8

科 別	10月(診療日数 31日)				11月(診療日数 30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	293	313	4,272	137.8	292	349	4,093	136.4
(呼吸器内科)	38	47	737	23.8	41	51	722	24.1
(循環器内科)	52	63	907	29.3	58	68	781	26.0
(腎臓内科)	20	23	423	13.6	26	29	423	14.1
(糖尿病内科)	21	12	285	9.2	8	17	236	7.9
(消化器内科)	161	164	1,904	61.4	157	182	1,902	63.4
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	1	4	16	0.5	2	2	29	1.0
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	66	66	359	11.6	59	64	338	11.3
外 科	96	112	1,485	47.9	91	102	1,372	45.7
乳 腺 外 科	21	22	134	4.3	21	19	130	4.3
整 形 外 科	123	124	1,437	46.4	112	131	1,537	51.2
形 成 外 科	8	6	52	1.7	4	7	39	1.3
脳 神 経 外 科	46	50	910	29.4	65	64	1,078	35.9
呼 吸 器 外 科	24	18	394	12.7	17	18	357	11.9
心 臓・血 管 外 科	25	28	992	32.0	32	37	936	31.2
皮 膚 科	19	21	352	11.4	18	20	340	11.3
泌 尿 器 科	72	83	605	19.5	77	79	600	20.0
産 婦 人 科	96	101	755	24.4	97	86	627	20.9
眼 科	45	45	121	3.9	38	40	96	3.2
耳 鼻 咽 喉 科	37	41	325	10.5	44	41	352	11.7
放 射 線 治 療 科	2	5	70	2.3	3	3	81	2.7
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	159	57	323	10.4	141	43	334	11.1
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	8	8	121	3.9	7	8	135	4.5
合 計	1,140	1,100	12,707	409.9	1,118	1,111	12,445	414.8

平成 28 年度 月別入院患者数 (12 ~ 3 月)

科 別	12 月 (診療日数 31 日)				1 月 (診療日数 31 日)			
	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	261	353	4,253	137.2	311	295	4,857	156.7
（呼吸器内科）	40	63	812	26.2	52	64	986	31.8
（循環器内科）	60	69	1,070	34.5	76	65	1,349	43.5
（腎臓内科）	21	28	400	12.9	23	18	486	15.7
（糖尿病内科）	13	16	183	5.9	21	17	290	9.4
（消化器内科）	127	175	1,765	56.9	139	131	1,719	55.5
（神経内科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（緩和ケア科）	0	2	23	0.7	0	0	27	0.9
（総合診療科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	74	66	427	13.8	62	66	306	9.9
外 科	97	114	1,368	44.1	105	96	1,417	45.7
乳 腺 外 科	20	23	192	6.2	20	19	128	4.1
整 形 外 科	120	150	1,563	50.4	118	118	1,530	49.4
形 成 外 科	7	6	50	1.6	4	6	32	1.0
脳 神 経 外 科	54	76	1,125	36.3	69	65	1,318	42.5
呼 吸 器 外 科	22	30	488	15.7	26	21	347	11.2
心 臓 ・ 血 管 外 科	24	34	1,000	32.3	32	31	952	30.7
皮 膚 科	13	22	210	6.8	20	13	268	8.6
泌 尿 器 科	80	102	839	27.1	72	65	749	24.2
産 婦 人 科	97	104	729	23.5	75	78	633	20.4
眼 科	26	30	85	2.7	35	32	97	3.1
耳 鼻 咽 喉 科	40	53	402	13.0	26	26	266	8.6
放 射 線 治 療 科	6	6	172	5.5	5	4	140	4.5
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	173	58	390	12.6	177	56	451	14.5
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	8	11	112	3.6	8	5	77	2.5
合 計	1,122	1,238	13,405	432.4	1,165	996	13,568	437.7

科 別	2 月 (診療日数 28 日)				3 月 (診療日数 31 日)			
	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	291	343	4,621	165.0	282	371	4,611	148.7
（呼吸器内科）	43	60	987	35.3	53	71	995	32.1
（循環器内科）	68	88	1,180	42.1	64	80	1,146	37.0
（腎臓内科）	28	29	548	19.6	23	33	599	19.3
（糖尿病内科）	12	16	191	6.8	14	15	153	4.9
（消化器内科）	139	147	1,711	61.1	128	172	1,699	54.8
（神経内科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（緩和ケア科）	1	3	4	0.1	0	0	19	0.6
（総合診療科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	62	60	345	12.3	56	60	297	9.6
外 科	82	102	1,261	45.0	85	94	1,304	42.1
乳 腺 外 科	15	15	169	6.0	24	27	184	5.9
整 形 外 科	128	137	1,542	55.1	119	136	1,536	49.5
形 成 外 科	7	5	69	2.5	9	9	51	1.6
脳 神 経 外 科	62	71	1,172	41.9	48	56	1,395	45.0
呼 吸 器 外 科	21	25	448	16.0	26	27	391	12.6
心 臓 ・ 血 管 外 科	30	38	714	25.5	35	22	986	31.8
皮 膚 科	22	24	290	10.4	16	20	216	7.0
泌 尿 器 科	83	88	739	26.4	67	73	685	22.1
産 婦 人 科	83	80	693	24.8	90	95	722	23.3
眼 科	38	38	109	3.9	47	43	145	4.7
耳 鼻 咽 喉 科	31	35	330	11.8	41	42	423	13.6
放 射 線 治 療 科	4	5	161	5.8	3	6	131	4.2
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	138	60	432	15.4	146	59	468	15.1
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	16	14	112	4.0	14	15	183	5.9
合 計	1,113	1,140	13,207	471.7	1,108	1,155	13,728	442.8

患者数の推移

年度別外来患者数

年 度	平成 25 年度（診療日数 243 日）				平成 26 年度（診療日数 243 日）				平成 27 年度（診療日数 244 日）				平成 28 年度（診療日数 244 日）			
科 別	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	61,915	7,617	69,532	286.1	59,301	8,058	67,359	276.1	59,942	8,715	68,657	281.4	60,873	8,584	69,457	284.7
精神科・心療内科	455	194	649	2.7	492	174	666	2.7	497	141	638	2.6	323	144	467	1.9
小 児 科	9,734	1,510	11,244	46.3	9,662	1,477	11,139	45.8	10,871	1,550	12,421	50.9	11,245	1,377	12,622	51.7
外科・乳腺外科	17,685	1,824	19,509	80.3	14,201	1,052	15,253	62.8	21,137	1,800	22,937	94.0	15,186	1,028	16,214	66.5
整 形 外 科	14,461	2,543	17,004	70.0	16,765	2,814	19,579	80.6	17,983	2,954	20,937	85.8	17,801	2,817	20,618	84.5
形 成 外 科	1,346	292	1,638	6.7	1,228	240	1,468	6.0	1,475	261	1,736	7.1	2,126	346	2,472	10.1
脳 神 経 外 科	17,531	2,113	19,644	80.8	14,291	2,110	16,401	67.5	11,465	2,018	13,483	55.3	12,537	2,032	14,569	59.7
呼 吸 器 外 科	2,514	378	2,892	11.9	2,230	479	2,709	11.1	2,523	417	2,940	12.0	2,881	408	3,289	13.5
心臓・血管外科	4,468	464	4,932	20.3	4,293	518	4,811	19.8	4,920	599	5,519	22.6	5,222	504	5,726	23.5
皮 膚 科	18,261	3,267	21,528	88.6	18,534	2,961	21,495	88.5	19,348	2,861	22,209	91.0	19,115	2,886	22,001	90.2
泌 尿 器 科	21,192	1,451	22,643	93.2	21,051	1,461	22,512	92.6	21,848	1,412	23,260	95.3	22,209	1,308	23,517	96.4
産 婦 人 科	12,667	1,584	14,251	58.6	13,615	1,692	15,307	63.0	13,465	1,738	15,203	62.3	12,940	1,465	14,405	59.0
眼 科	9,991	1,120	11,111	45.7	10,032	1,112	11,144	45.9	10,093	999	11,092	45.5	10,735	686	11,421	46.8
耳 鼻 咽 喉 科	8,675	2,632	11,307	46.5	7,883	2,648	10,531	43.3	7,165	2,792	9,957	40.8	6,650	2,593	9,243	37.9
放射線治療科	8,968	281	9,249	38.1	8,265	347	8,612	35.4	8,591	256	8,847	36.3	8,999	304	9,303	38.1
麻 酔 科	2,309	4,459	6,768	27.9	1,092	3,600	4,692	19.3	688	3,759	4,447	18.2	569	3,773	4,342	17.8
救 急 科	130	124	254	1.0	673	1,983	2,656	10.9	691	2,347	3,038	12.5	758	2,513	3,271	13.4
画 像 診 断 部	741	877	1,618	6.7	104	1,327	1,431	5.9	345	1,053	1,398	5.7	367	924	1,291	5.3
歯科口腔外科	5,353	1,785	7,138	29.4	6,233	1,791	8,024	33.0	7,343	1,833	9,176	37.6	7,769	1,859	9,628	39.5
計	218,396	34,515	252,911	1,040.8	214,574	36,426	251,000	1,032.9	220,390	37,505	257,895	1,056.9	225,158	36,229	261,387	1,071.3
栗谷診療所	714	17	731	3.0	677	24	701	2.9	682	22	704	2.9	685	21	706	2.9
合 計	219,110	34,532	253,642	1,043.8	215,251	36,450	251,701	1,035.8	221,072	37,527	258,599	1,059.8	225,843	36,250	262,093	1,074.2

年度別入院患者数

年 度	平成 25 年度（診療日数 365 日）				平成 26 年度（診療日数 366 日）				平成 27 年度（診療日数 366 日）				平成 28 年度（診療日数 365 日）			
科 別	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	3,104	3,639	55,182	151.2	3,202	3,739	53,053	145.4	3,204	3,710	50,240	137.3	3,428	4,034	53,360	146.2
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	852	855	5,680	15.6	803	804	4,665	12.8	868	878	4,650	12.7	799	800	4,311	11.8
外科・乳腺外科	1,292	1,380	18,467	50.6	1,341	1,474	20,444	56.0	1,374	1,501	20,551	56.1	1,165	1,272	17,281	47.3
整 形 外 科	1,196	1,276	15,424	42.3	1,339	1,459	17,814	48.8	1,408	1,521	17,191	47.0	1,438	1,594	17,883	49.0
形 成 外 科	45	44	312	0.9	9	10	39	0.1	43	40	333	0.9	74	77	623	1.7
脳 神 経 外 科	581	672	14,314	39.2	568	686	15,863	43.5	629	748	15,423	42.1	673	793	13,992	38.3
呼 吸 器 外 科	246	270	4,331	11.9	235	250	4,534	12.4	272	307	5,870	16.0	276	298	5,130	14.1
心臓・血管外科	260	294	8,986	24.6	338	382	10,513	28.8	319	360	9,339	25.5	341	369	10,710	29.3
皮 膚 科	188	194	2,461	6.7	180	186	3,172	8.7	195	213	3,065	8.4	203	226	3,656	10.0
泌 尿 器 科	882	918	8,433	23.1	853	917	8,958	24.5	870	931	9,257	25.3	884	952	8,296	22.7
産 婦 人 科	1,160	1,148	9,783	26.8	1,206	1,220	10,281	28.2	1,205	1,207	10,767	29.4	1,090	1,104	8,794	24.1
眼 科	441	439	1,198	3.3	472	472	1,232	3.4	469	462	1,233	3.4	472	474	1,276	3.5
耳 鼻 咽 喉 科	473	492	5,846	16.0	461	478	4,887	13.4	492	509	5,343	14.6	448	489	4,121	11.3
放射線治療科	54	54	1,553	4.3	50	55	2,155	5.9	44	49	1,668	4.6	51	59	1,949	5.3
麻 酔 科	1,381	613	5,389	14.8	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	235	76	799	2.2	1,709	631	4,899	13.4	1,586	557	4,248	11.6	1,802	620	4,319	11.8
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	100	99	1,261	3.5	136	138	1,576	4.3	108	107	1,577	4.3	124	123	1,411	3.9
合 計	12,490	12,463	159,419	436.8	12,902	12,901	164,085	449.5	13,086	13,100	160,755	439.2	13,480	13,502	158,735	434.9

平均在院日数

平成 28 年度 月別 診療科別 平均在院日数

(単位：日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科		16.6	18.3	15.1	16.3	15.7	15	16.1	14.8	15.8	18.3	16.8	15.7
小児科		6.2	5.6	5.2	5.1	5.7	5.7	5.6	5.7	6.2	5.1	6.2	6
外科		17.1	16.6	15.6	17.3	15.8	15.4	15.6	15.1	14.4	15.8	16	16.6
整形外科		11.9	12.3	11	13.7	11.6	11.9	12.3	13.3	11.9	13.4	12	12.7
形成外科		28.7	30.8	5.3	6	6.9	4.1	7.4	7.1	7.7	6.4	11.5	5.7
脳神経外科		21.2	17.5	16.8	21.6	18.7	17.9	18.3	16.3	16	18.7	18.5	26.6
産婦人科		10	9.3	11.4	9	8.8	10	8.9	7.8	8.7	9.6	10.4	9.2
皮膚科		26.7	23.5	24	16.4	12.6	18.2	20	17	12	16.2	12.6	12
泌尿器科		12.7	11	12.4	13.2	13.1	11.2	10.7	11.3	12.4	14.9	12.3	13
眼科		7	6.5	7.1	4.7	9.3	6.7	11.8	5.4	7	9.8	13.3	8.5
耳鼻咽喉科		8.8	8.6	8.9	8.4	7.2	7.3	8.4	8.2	8.7	10.2	10.3	10.7
歯科口腔外科		11.3	10.8	6.3	13	12.3	12.7	11.3	18.4	11.8	11.8	7.2	12.4
救急科・麻酔科		3.7	3.3	2.9	3.3	3.3	3.5	3	3.6	3.2	3.6	4.5	4.5
放射線治療科		39.5	27.3	18.8	57.6	48	94.7	20	27	28.7	31.1	35	30.5
画像診断部		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
呼吸器外科		20.1	19	15.7	19.3	16.6	19.5	18.3	20.4	20.3	14.9	18.3	14.8
心臓血管外科		30.8	30	33.1	43.7	27.5	30.3	42	31.4	40.9	34	24.6	36.8
精神科・心療内科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計		14.2	13.9	13.0	13.5	12.8	12.4	12.9	12.7	12.6	14.0	13.4	13.7

平成 28 年度 月別 病棟別 平均在院日数

(単位：日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
西 病 棟	4 F	9.4	8.6	10.7	8.2	7.9	9.7	7.8	7.8	8.3	8.6	9.6	8.8
	5 F	12.5	12.9	11	14.5	11.3	11.4	12.2	13.2	11.5	13.5	12.3	13.3
	6 F	16.6	16.8	16	17.1	16.7	15.5	15.7	15.2	13.6	15.2	15	15.3
	7 F	15.8	18.1	15.4	16.6	16.8	13.5	15	15.7	14.8	18.7	17.1	14
	8 F	17.5	17.5	14.1	16.0	15.7	18.5	17.3	15.4	15.3	16.7	19.2	16.7
	3 F	18.6	10.0	20.6	17.7	13.5	14.6	20.4	16.9	13.5	21.8	10.6	17.7
	救命	2.3	2.8	2.6	3.1	2.0	2.6	3.3	2.8	2.9	3.4	3.8	3.9
東 病 棟	3 F	21.6	17.7	13.7	16.3	18.5	20.7	16.9	14.7	25.5	28.4	16.8	17.6
	4 F	7.5	6.7	6.9	6.4	6.5	5.9	6.5	6.7	7.1	7.3	7.5	7.1
	5 F	20.4	18.9	14.2	20.1	19.6	17.1	16.6	17.3	15.8	18.3	17.6	26.4
	6 F	14.4	13.6	14.5	12.6	10.7	10.6	11.1	11.4	11.3	11.8	12.8	11.1
	7 F	22.6	23	23	21.6	15.4	15.1	22.7	21.8	21.6	15.3	16.9	22.9
計	8 F	17.2	16.4	13.7	15.7	14.1	11.9	14.8	13.4	11.4	17.4	13.9	16.1
		14.2	13.9	13.0	13.5	12.8	12.4	12.9	12.7	12.6	14.0	13.4	13.7

地域医療支援病院紹介率・逆紹介率

平成 28 年度
地域医療支援病院紹介率（月別）

月別	紹介率
4月	88.5%
5月	84.9%
6月	85.0%
7月	80.3%
8月	83.7%
9月	84.7%
10月	88.5%
11月	84.3%
12月	88.5%
1月	86.7%
2月	86.7%
3月	84.7%
合 計	85.5%

平成 28 年度
地域医療支援病院逆紹介率（月別）

月別	逆紹介率
4月	86.3%
5月	84.5%
6月	76.7%
7月	77.4%
8月	82.5%
9月	87.5%
10月	79.6%
11月	81.2%
12月	85.6%
1月	81.4%
2月	90.2%
3月	89.1%
合 計	83.4%

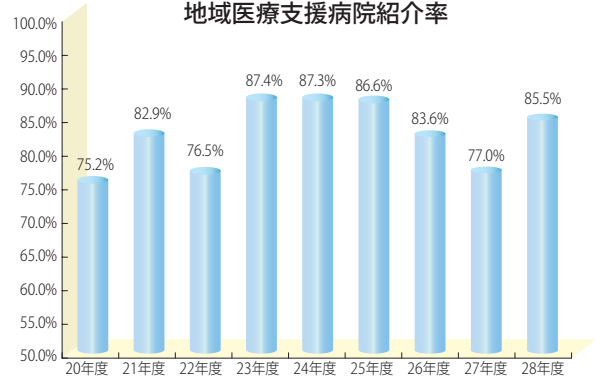
平成 28 年度
地域医療支援病院紹介率（診療科別）

科別	紹介率
内 科	84.5%
小 児 科	62.6%
外 科	106.1%
整 形 外 科	107.0%
脳 神 経 外 科	102.4%
産 婦 人 科	80.3%
皮 膚 科	78.4%
泌 尿 器 科	77.5%
眼 科	95.2%
耳 鼻 咽 喉 科	86.8%
歯 科 ・ 口 腔 外 科	44.3%
救 急 科 ・ 麻 酔 科	-1211.6%
放 射 線 治 療 科	89.7%
画 像 診 断 部	101.0%
心 臓 ・ 血 管 外 科	89.0%
精 神 科 ・ 心 療 内 科	0.0%
呼 吸 器 外 科	52.6%
形 成 外 科	87.1%
合 計	85.5%

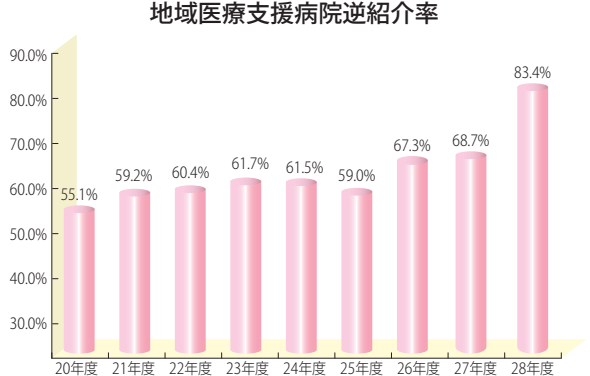
平成 28 年度
地域医療支援病院逆紹介率（診療科別）

科別	逆紹介率
内 科	130.3%
小 児 科	15.1%
外 科	143.3%
整 形 外 科	83.0%
脳 神 経 外 科	184.4%
産 婦 人 科	44.2%
皮 膚 科	15.7%
泌 尿 器 科	46.1%
眼 科	81.6%
耳 鼻 咽 喉 科	44.6%
歯 科 ・ 口 腔 外 科	69.1%
救 急 科 ・ 麻 酔 科	-834.9%
放 射 線 治 療 科	106.9%
画 像 診 断 部	127.8%
心 臓 ・ 血 管 外 科	212.6%
精 神 科 ・ 心 療 内 科	0.0%
呼 吸 器 外 科	54.4%
形 成 外 科	15.3%
合 計	83.4%

地域医療支援病院紹介率



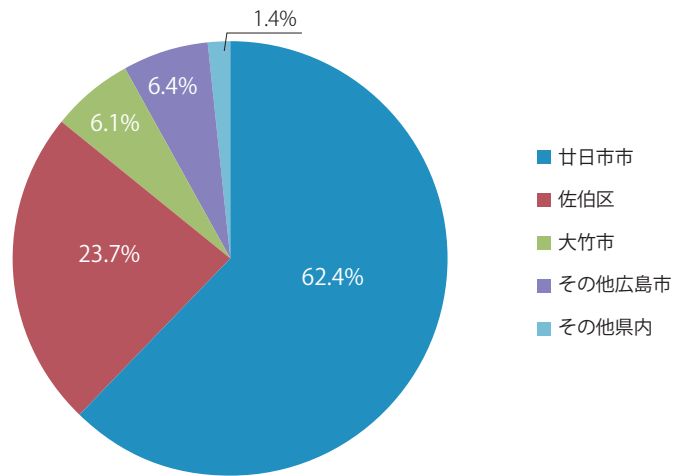
地域医療支援病院逆紹介率



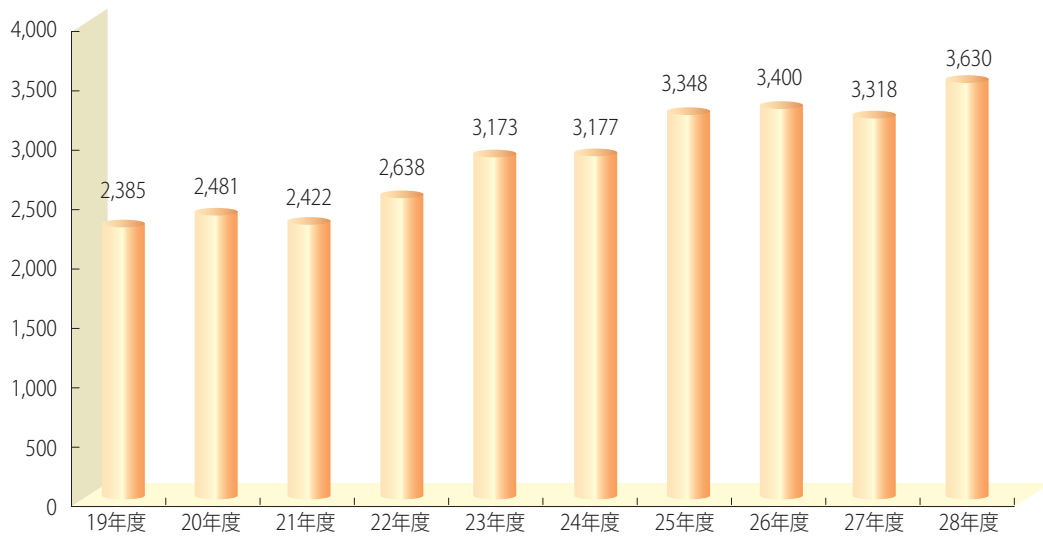
救急車来院件数

平成 28 年度
救急車来院件数（管轄別）

平成 28 年度	
廿 日 市 市	2,264
佐 伯 区	860
大 竹 市	222
そ の 他 広 島 市	232
そ の 他 県 内	52
合 計	3,630



救急車来院件数



資料

医療行為統計表

平成 28 年度 医療行為統計表

【手術件数】	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 児 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精 神 科・心 療 内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	77	84	91	87	82	84	72	76	76	75	74	80	958
整 形 外 科	137	125	158	148	124	119	135	137	135	136	149	145	1,648
形 成 外 科	13	9	16	13	11	16	18	13	12	11	15	18	165
脳 神 経 外 科	19	23	22	17	20	23	17	20	23	31	27	16	258
産 婦 人 科	44	36	40	51	44	44	41	35	42	30	34	41	482
眼 科	45	46	59	53	56	56	60	49	55	62	57	62	660
耳 鼻 咽 喉 科	22	11	24	18	19	20	17	24	20	14	17	18	224
皮 膚 科	22	29	26	19	26	24	19	21	24	22	22	18	272
泌 尿 器 科	29	32	37	30	29	32	33	28	34	29	34	29	376
歯 科 口 腔 外 科	10	9	4	7	3	7	7	5	6	6	7	5	76
救 急 科・麻 酔 科	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
放 射 線 治 療 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
画 像 診 断 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心 臓 血 管 外 科	38	32	40	30	40	36	34	36	33	34	35	40	428
呼 吸 器 外 科	15	9	15	18	13	10	10	9	14	13	12	17	155
乳 腺 外 科	12	11	14	9	12	12	14	16	15	11	13	15	154
計	484	456	546	501	479	483	477	469	489	474	496	504	5,858
手術（外来件数）（再掲）	41	59	47	40	54	46	44	44	53	58	47	49	582
（ 口 腔 外 科 ）	(69)	(59)	(57)	(50)	(62)	(52)	(48)	(58)	(45)	45	(54)	(52)	(651)
ア ン ギ オ 室 手 術	3	7	3	8	10	4	4	(7)	(6)	(9)	(9)	(4)	74
内視鏡下手術（VPP）	103	93	109	100	98	96	90	85	102	96	90	93	1,155
全 身 麻 酔 件 数	322	297	375	336	308	313	303	309	324	308	335	340	3,870

【放射線業務】	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
一 般 撮 影	3,651	3,802	4,245	4,012	4,251	4,021	4,072	3,843	4,185	4,249	3,980	4,074	48,385
パ ン ト モ	136	128	155	146	161	130	120	146	121	144	138	157	1,682
骨 密 度 測 定	57	56	75	54	71	76	72	71	72	79	66	77	826
造 影 透 視 撮 影	103	85	113	115	121	83	89	88	78	72	76	100	1,123
上 部 消 化 管	127	161	184	188	228	184	183	125	137	99	119	199	1,934
注 腸	2	1	2	4	5	2	2	2	4	3	0	3	30
血 管 連 続 撮 影	38	38	34	33	31	22	29	42	22	37	32	30	388
心臓血管連続撮影	51	49	60	39	51	64	47	48	50	54	57	45	615
C T 各 科	1,626	1,677	1,820	1,714	1,812	1,610	1,766	1,687	1,837	1,766	1,763	1,848	20,926
C T 画 診	38	36	48	46	40	29	48	46	30	40	39	45	485
M R I	634	570	696	643	667	612	615	647	607	594	616	665	7,566
R I	158	148	177	179	152	141	171	156	150	176	193	189	1,990
リニアック（件数）	546	543	591	547	522	361	422	552	554	428	729	723	6,518
リニアック（門数）	1,948	1,848	1,918	1,947	2,001	1,327	1,533	1,984	2,082	1,586	2,600	2,668	23,442

【検査業務】	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
心 電 図 検 査	1,687	1,647	1,662	1,593	1,761	1,698	1,626	1,541	1,775	1,772	1,695	1,750	20,207
ト レ ッ ド ミ ル	2	0	2	4	6	3	2	2	3	4	4	6	38
ホ ル タ ー 型	26	26	30	36	26	24	36	33	32	35	27	42	373
心 臓 エ コ ー	563	528	615	549	524	520	501	572	567	597	552	624	6,712
脳 波	48	28	37	46	68	50	49	23	44	31	42	57	523
肺 機 能 検 査	330	335	390	324	371	304	314	302	306	358	321	392	4,047
神経伝達速度・電流知覚閾値測定	231	170	201	165	184	172	205	180	175	188	169	220	2,260
重 心 動 揺 検 査	9	6	9	9	6	4	3	3	3	3	3	1	59
サーモグラフィー検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脈波図・心電図・ポリグラフ検査	270	216	250	206	266	269	237	227	251	257	287	281	3,017
体 液 量 測 定	168	126	125	111	152	143	169	124	150	158	171	184	1,781
病 理 組 織 検 査	1,136	1,097	1,321	1,160	1,241	1,293	1,209	1,192	1,479	1,078	1,169	1,197	14,572
解 剖 件 数	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	3

【薬剤業務】	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
外 来													
処 方 箋 枚 数	10,230	10,435	11,292	10,664	11,548	11,068	10,700	10,704	11,603	10,611	10,604	11,926	131,385
剤 数（件数）	30,528	30,296	33,142	30,772	33,831	31,875	31,704	31,224	34,032	31,458	31,237	35,800	385,899
延 べ 剤 数	917,587	879,963	985,613	878,845	992,628	949,504	949,628	908,646	1,029,276	916,154	888,467	1,069,735	11,366,046
入 院													
処 方 箋 枚 数	10,283	9,875	10,092	9,973	9,876	9,753	10,168	10,157	10,182	11,201	10,008	11,251	122,819
剤 数（件数）	15,856	14,906	15,465	15,016	14,940	14,505	15,685	15,530	16,289	17,721	16,510	17,747	190,170
延 べ 剤 数	74,693	66,384	64,841	61,837	64,652	60,800	76,923	71,684	79,307	83,647	77,797	81,718	864,283
服 薬 指 導 件 数	732	746	812	713	833	783	812	795	744	791	773	856	9,390
調 剤 所													
処 方 箋 枚 数	50	61	46	42	60	45	63	48	51	51	47	42	606
剤 数（件数）	236	329	236	212	351	243	321	263	289	271	232	209	3,192
延 べ 剤 数	6,728	8,767	6,058	5,666	9,131	6,157	8,441	6,684	7,207	7,233	6,294	5,243	83,609

【その他業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
在宅療法指導	60	55	56	61	67	57	80	92	90	68	86	89	861
分 娩	37	44	40	57	38	39	47	48	50	34	39	39	512
そ の 他 分 娩	2	1	0	3	2	0	2	2	3	0	4	1	20
腎尿管結石破碎	4	5	7	6	6	9	11	5	13	8	11	7	92
化学療法件数（外来）	351	377	397	390	418	408	391	370	380	363	342	383	4,570
化学療法件数（入院）	168	168	209	179	175	120	125	136	161	155	132	169	1,897
（超音波内訳）													
内 科	256	277	278	263	305	344	319	279	264	252	259	269	3,365
小 児 科	15	11	12	28	12	6	23	13	16	12	9	12	169
精神科・心療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	280	275	356	296	297	351	362	315	384	242	267	353	3,778
整 形 外 科	13	8	15	27	10	5	12	12	11	14	9	15	151
脳 神 経 外 科	13	29	19	17	27	24	10	23	18	21	30	28	259
産 婦 人 科	278	268	333	308	344	359	310	277	329	314	344	348	3,812
眼 科	5	5	1	3	3	4	4	2	5	2	4	3	41
耳 鼻 咽 喉 科	72	53	69	72	72	70	95	61	75	67	67	78	851
皮 膚 科	5	4	6	9	5	5	9	7	8	9	13	17	97
泌 尿 器 科	192	167	215	179	206	222	191	198	205	172	188	246	2,381
歯 科 口 腔 外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科・麻酔科	123	96	103	142	156	149	131	129	140	166	106	122	1,563
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
画像診断部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	25	35	34	37	40	52	34	34	29	44	34	25	423
呼吸器外科	0	3	2	4	0	1	2	2	1	1	2	4	22
健康管理課	129	179	247	247	280	265	264	256	251	232	243	109	2,702
超音波診断計	1,406	1,410	1,690	1,632	1,757	1,857	1,766	1,608	1,736	1,550	1,575	1,629	19,616

【内視鏡業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
胃ファイバー検査 内科	222	177	200	202	227	222	192	244	210	210	236	242	2,584
胃ファイバー検査 ドック	111	154	191	194	204	202	208	188	194	185	179	99	2,109
気管支ファイバー検査	15	7	11	6	10	11	5	9	4	5	12	7	102
大腸ファイバー検査	127	148	138	132	137	139	141	124	94	112	120	121	1,533
上部止血（消化管止血術）	22	12	17	9	10	4	10	15	9	21	5	18	152
EVL（食道静脈瘤血紮術）	0	2	2	0	1	3	4	1	1	2	2	0	18
PEG（胃瘻造設術）	4	3	3	2	6	1	2	5	6	7	3	3	45
上部EMR（粘膜切除）、ESD	10	6	8	8	7	8	6	9	3	8	9	7	89
下部ポリペク（ポリプ切除）	24	20	22	34	44	41	37	35	34	29	31	30	381
下部EMR（粘膜切除）	45	37	41	40	39	36	47	55	46	44	49	34	513
ERCP（膵胆管造影）、ERBD	5	2	4	3	6	7	7	2	4	7	6	6	59
EST（乳頭切開術）	20	25	22	34	34	19	34	14	13	15	27	27	284

【リハビリテーション業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
消炎鎮痛等（器具）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
運動器リハビリテーション	754	626	699	741	605	621	733	709	780	646	653	806	8,373
脳血管疾患リハビリテーション	1,579	1,600	1,732	1,904	1,867	1,711	1,300	1,452	1,484	1,541	1,651	1,770	19,591
呼吸器リハビリテーション	221	280	347	308	445	322	370	410	430	411	378	464	4,386
疾 患 対 象 外	362	402	463	389	524	377	414	475	519	535	571	638	5,669
心大血管疾患リハビリテーション	739	637	594	532	589	613	640	658	723	738	667	692	7,822
A D L 加 算													0
早 期 リ ハ 加 算	2,275	2,075	2,412	2,486	2,269	2,318	2,078	2,281	2,444	2,338	1,597	2,508	27,081
リハビリテーション総合実施計画書	34	32	46	41	44	49	25	34	56	74	62	34	531
退院時リハビリ指導	25	24	24	26	40	36	21	25	33	25	28	17	324

【給食業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
常食	4,087	4,079	4,555	4,397	4,107	3,937	3,788	3,913	4,051	3,806	3,769	4,358	48,847
全粥	8,649	9,021	7,724	8,600	8,386	7,574	8,366	8,299	8,721	8,699	9,489	9,273	102,801
五分	77	91	69	62	76	56	42	43	54	57	48	76	751
三分	80	94	74	48	135	82	82	84	140	115	30	52	1,016
重湯	205	81	106	114	147	65	67	145	182	147	178	85	1,522
特別食	22,049	21,543	21,566	22,550	20,899	20,183	20,189	19,942	22,164	22,476	20,945	22,553	257,059
計	35,147	34,909	34,094	35,771	33,750	31,897	32,534	32,426	35,312	35,300	34,459	36,397	411,996

【栄養指導業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外来栄養指導	217	161	215	193	212	203	173	192	163	151	169	171	2,220
入院栄養指導	76	53	67	58	71	88	61	75	64	70	72	61	816
集団栄養指導	13	8	9	10	6	12	15	7	9	7	10	8	114

医師科別人員／職員数の推移

平成 28 年度 医師科別人員

部署名		平成 28 年 4 月	備考
内科	呼 吸 器 内 科	4	
	腎 臓 内 科	4	
	糖尿病代謝内科	4	
	消 化 器 内 科	10	
	循 環 器 内 科	5	
合 計		27	
小 児 科		6	
外 科		14	
整 形 外 科		7	
脳 神 経 外 科		4	
心 臓 血 管 外 科		4	
産 婦 人 科		6	
眼 科		2	
耳 鼻 科		3	
皮 膚 科		4	
泌 尿 器 科		4	
歯 科		3	
放 射 線 治 療 科		2	
画 像 診 断 部		4	
麻 酔 科		8	
救 急 ・ 集 中 治 療 科		4	
精 神 科		—	
形 成 外 科		1	
呼 吸 器 外 科		3	
健 康 管 理 科		1	
臨 床 研 究 検 査 科		1	
病 理 研 究 検 査 科		1	
臨 床 専 門 研 修 医		—	
臨 床 研 修 医 2 年 次		10	
臨 床 研 修 医 1 年 次		13	
合 計		132	

職員数の推移

区 分	H27 年 4 月	H28 年 4 月
医 師	104	107
歯 科 医 師	4	4
臨 床 研 修 医	20	23
専 修 医	—	—
医 師 部 門 計	128	134
助 産 師	30	26
保 健 師	139	139
看 護 師	417	442
准 看 護 師	7	7
看 護 部 門 計	593	614
薬 剤 師	35	37
放 射 線 技 師	26	26
臨 床 検 査 技 師	43	47
臨 床 工 学 技 士	10	13
理 学 療 法 士	11	11
マ ッ サ ー ジ 師	—	—
作 業 療 法 士	3	3
管 理 栄 養 士	11	11
歯 科 衛 生 士	4	4
歯 科 技 工 士	—	—
視 能 訓 練 士	3	3
言 語 聴 覚 士	4	4
臨 床 心 理 士	—	—
社 会 福 祉 士	4	4
介 護 福 祉 士	—	—
医 療 技 術 部 門 計	154	163
事 務	88	90
事 務 部 門 計	88	90
ボ イ ラ 技 師	2	2
電 気 技 師	1	1
運 転 手	—	—
調 理 師	—	—
保 清 員	1	—
保 育 士	—	—
看 護 助 手	37	35
介 護 員	—	—
技 術 助 手	4	4
労 務 部 門 計	45	42
出 向	—	—
合 計	1008	1043

学会施設認定

認定種別
日本内科学会認定内科専門医教育関連病院
日本内科学会認定内科専門医制度研修医指導
日本呼吸器学会教育関連施設
日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本胆道学会指導施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本小児科学会認定医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本外科学会認定医制度修練施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設B
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本気管食道科学会専門医研修施設
日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
乳房再建用エキスパンダー・インプラント実施施設
日本胸部外科学会（認定医）指定施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
腹部ステントグラフト実施施設
胸部ステントグラフト実施施設
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
日本脳神経外科学会指定専門医訓練施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院

認定種別
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
日本産婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会認定病院
日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医指定研修施設
日本救急医学会認定救急科専門医指定施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本放射線腫瘍学会準認定施設
日本老年医学会認定施設
日本呼吸器外科学会指導医制度関連施設
呼吸器外科専門医制度関連施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
日本口腔外科学会専門医制度研修機関
日本病態栄養学会認定「栄養管理・NST実施施設」
日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設
日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ検診施設
日本高血圧学会専門医認定施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
PEG・在宅医療研究会専門胃瘻造設施設・管理施設
優良二日ドック施設
日本脈管学会認定研修指定施設

編集後記

2016 年度の JA 広島総合病院 “Annual Report” が完成いたしました。

2016 年度も色々な出来事がありました。広島における最大の出来事は広島東洋カープの 25 年ぶりのセ・リーグ優勝です（日本シリーズは残念な結果でしたが）。ベテランの黒田博樹、新井貴浩両選手に引っ張られる様に中堅・若手選手が活躍し掴んだ優勝であったと思います。優勝が決まった後新井選手と抱き合って男泣きする黒田投手の姿に感動を覚えました。黒田投手は引退してしまいましたが、中堅・若手の主力選手の活躍が期待され、しばらくは強いカープが見られそうです。

もう一つ広島にとって大きかった出来事は 5 月 27 日のバラク・オバマ米大統領の広島訪問です。ノーベル平和賞受賞につながった 2009 年 4 月の「プラハ演説」から反核の象徴的な場所の一つである広島訪問まで 7 年の歳月を要したことはアメリカ国内における核廃絶への抵抗感の現れなのでしょう。しかし任期終わりの訪問であったことはインパクトとしてやや弱く残念でした。

2016 年のノーベル賞は大隅良典先生が医学生理学賞を受賞されました。「オートファジーの仕組みの解明」という比較的地味な分野での受賞であり、御本人が述べられていた様に他人があまり注目しないことであっても一つのことをコツコツと継続することの大切さを改めて感じました。

2016 年も蜷川幸雄さん、永六輔さん、中村紘子さん、大橋巨泉さん、平尾誠二さん、九重親方など一時代を築きあるいは大きな業績を残した方々が亡くなり、又一時代の終わりを感じました。一方 4 月に熊本、10 月に鳥取、11 月に福島で大規模地震があり、また台風 10 号による大雨は東北北海道に多大な被害をもたらし、ジャガイモを初めとする多くの農産物の供給が問題となりました。今後南海トラフ地震の発生など天災が心配です。

社会に目を転じると三菱自動車の燃費データ改ざんは日産自動車の傘下に入るという事実上の三菱自動車消滅で決着しましたが、その後研究データを含む色々な分野でのデータ不正の序章に過ぎず、日本に“ものづくり”に対する世界の信頼失墜につながっていきました。これらのことを他山の石として、我々は地域の方々の信頼に応える様に心し、カープの様にベテランから若手まで心と一つにして日々の診療にあたり、「日本一の病院」を目指して進んでいきたいと思います。

2018 年 3 月
年報編集委員長
辻山 修司

年報編集委員会

小林 平	砂田 朋子	柳井 環	坂尻 明美
小松 浩基	上田 雅美	荒田 晋二	桑原 麻衣
吉村 晴香			

JA広島総合病院 年報 2016年度

平成 30 年 3 月 発行

発 行 広島県厚生農業協同組合連合会
広島総合病院

広島県廿日市市地御前 1-3-3

TEL 0829-36-3111

印 刷 株式会社 タカトープ rintメディア



JA 広島総合病院
JA. HIROSHIMA General Hospital